
加須市

長竹遺跡 III

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告
(第1分冊)

2018

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 北盛土出土土器（1）



2 北盛土出土土器（2）

巻頭図版 2



1 北盛土出土土器（3）



2 北盛土出土土器（4）

序

埼玉県の北東部の県境を流れる利根川は、坂東太郎の異名を持つ日本最大級の河川です。その広大な流域には肥沃な農地が広がり、約1,300万人の人々が暮らしています。

「とねかは刀祢河泊」として万葉集にも登場することからもわかるように、川と人との関わりは古く、交通路として、また、農業・生活・工業用水の供給源として、かぎりない恵みをもたらしてきました。

その一方、利根川は過去たびたび恐ろしい水害を引き起こしてきました。国土交通省ではこうした災害を未然に防ぐため、様々な対策を講じています。首都圏氾濫区域堤防強化対策事業もその一環です。

本事業地のある加須・羽生・久喜地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った加須市の長竹遺跡もその一つです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

長竹遺跡からは、縄文時代後晩期の人々が直径約190mのドーナツ状に土地を造成した環状盛土遺構が発見されました。そして、その盛土の中からは住居跡などの遺構とともに、膨大な遺物が発見されました。

特に、真っ赤な焼土が床面を覆った一辺10mを超える大型の住居跡や、多彩な副葬品を伴った集団墓地など、他に類を見ない貴重な成果を挙げることができました。

本書は、盛土の北側で発見された遺構の発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整にご尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、加須市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 塩野谷孝志

例 言

1. 本書は、加須市大字大越に所在する長竹遺跡（第3・6次調査）の発掘調査報告書である。

長竹遺跡の調査成果については以下のように卷を分け、順次報告する予定である。

- ・ A～C区古墳時代以降、B区南半～C区縄文時代（事業団報告書第413集長竹遺跡Ⅰとして刊行済み）
- ・ A区南半～B区北半縄文時代の遺構（長竹遺跡Ⅱ）（南盛土遺構編）
- ・ A区北半～D区縄文時代の遺構（長竹遺跡Ⅲ）（北盛土遺構編）
- ・ D区古墳時代以降（以下続刊）
- ・ A区南半～B区北半縄文時代の遺物包含層（南盛土盛土編）
- ・ A区北半～D区縄文時代の遺物包含層（北盛土盛土編）

2. 遺跡の代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は以下のとおりである。

第3次調査

埼玉県加須市大字大越字樋ノ口702-1他
平成24年4月20日付け 教生文第2-9号

第6次調査

埼玉県加須市大字大越字樋ノ口620-1他
平成26年5月15日付け 教生文2-7号

3. 発掘調査及び整理報告書作成事業については、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

委託事業の名称は下記のとおりである。

発掘調査事業

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須地区・羽生・久喜地区）における平成24年度埋蔵文化財発掘調査」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須地区・羽

生地区）における平成26年度埋蔵文化財発掘調査」

整理報告書作成事業

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生地区）における平成26年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生地区）における平成27年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生地区）における平成28年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成29年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」

4. 発掘調査・整理報告書作成事業はI-3に示した組織により実施した。

発掘調査は、第3次調査を平成24年4月6日から平成25年3月31日まで黒坂禎二、山本靖、青木弘、大和田瞳、高橋岳、高屋敷飛鳥が、第6次調査を平成26年4月1日から平成27年3月31日まで西井幸雄、吉田稔、古谷渉、宗像義輝、宮原正樹が担当した。

整理報告書作成事業は、平成26年度から平成29年度まで実施した。平成26年度は4月1日から平成27年3月31日まで、富田和夫、細田勝、大谷徹、的野美佐子が、平成27年度は4月9日から平成28年3月31日まで、細田、吉田、矢部瞳、松浦誠、尾田誠好が、平成28年度は4月1日から平成29年3月31日まで吉田、渡辺清志、鈴木佑太郎が、平成29年度は4月1日から平成30年3月31日まで吉田、渡辺がそれぞれ担当した。

報告書は、平成30年3月22日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第441集として印刷・発行した。

5. 発掘調査における基準点測量は、第3次調査

を中心航業株式会社、第6次調査を株式会社新日本エグザに委託した。

6. 空中写真撮影は中央航業株式会社に委託した。

7. 遺構測量図作成の一部を、株式会社サクラプロンニングに委託した。

8. 遺物の巻頭写真は合資会社池澤に、縄文土器の展開写真は小川忠博氏に委託した。

9. 発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は吉田、渡辺が行った。

10. 出土品の整理・図版作成は、富田、細田、吉田、大谷、渡辺、的野、矢部、松浦、尾田、鈴木が行った。

11. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、II-1・2、III、IVを吉田、I-2・3、V-1~3を渡辺、V-4を尾田、VIを吉田、渡辺が行った。

12. 本書の編集は吉田、渡辺が行った。

13. 本書にかかる諸資料は、平成30年4月以降埼玉県教育委員会が管理・保管する。

14. 発掘調査、報告書刊行にあたり、加須市教育委員会をはじめ、阿部芳郎、猪瀬美奈子、江原英、小倉和重、上條信彦、笹森健一、設楽博己、鈴木徳雄、鈴木正博、高橋龍三郎、関係機関の皆様から御教示・ご協力を賜った。(敬称略)

凡 例

1. 本書におけるX・Yの数値は、世界測地系、国土標準平面直角座標第IX系（原点：北緯36° 00' 00"、東経139° 50' 00"）に基づく座標値を示す。また、各挿図に示した方位は全て座標北を指す。
調査区のB-0グリッド北西杭の座標は、X = 20860.000、Y = -19790.000。北緯36° 11' 16" 1196、東経139° 36' 47" 8762である。
2. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1/50000地形図、加須市都市計画図1/2500を編集・使用した。
3. 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。
4. グリッドの名称は北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A A・A B…Z Z・A・B…）、西から東方向に数字（001・002…999・0・1…）を付し、例えばZ Z-999、A-1グリッド等と呼称した。
5. 調査区は着手年次の関係上、北西より南東方向にD、A、B、Cと地区割りしている。本書が扱う地区では縄文時代と古墳時代以降の文化層に間隙があり、それぞれ確認面が二面識別できた。その中で、縄文時代の環状盛土に関連する遺構と遺構出土遺物を取り扱う。
6. 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は以下のとおりである。

S J …住居跡

S X …不明遺構

S I …堅穴状遺構 P …ピット・柱穴
S K …土壙（墓） S D …溝跡（近世）
集中…遺物集中 S E …井戸跡（近世）

7. 本書に掲載した遺構番号は、発掘調査時に付した番号を一部振り替えた。
8. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。ただし、一部例外もある。
全体図1:700 1:600
遺構図1:60 遺構拡大図1:30
縄文土器1:4 土器拓影図1:3 1:4
石器2:3 1:3 1:4
土製品1:2 骨製品2:3
9. 遺構断面図に表記した水準数値は、海拔標高（単位m）を表す。
10. 遺構一覧表と遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。
 - ・口径・器高・底径はcm単位である。
 - ・（ ）内の数値は推定値を示す。
 - ・〔 〕内の数値は残存高を示す。
11. 遺物出土状況図における遺物の種別ごとの表記方法は以下のように使い分けている。
(例：123)
土器復元資料：123 土器破片資料：(123)
土製品 : 土123
石器 : 石123
骨製品 : 骨123
12. 第31・32表の項目のうち、
径1…耳飾り側縁の装着部の最大径、
径2…耳飾り側縁の装着部の最小径を指す。

目 次

(第1分冊)

| | |
|------------------|-----|
| 卷頭図版 | |
| 序 | |
| 例言 | |
| 凡例 | |
| 目次 | |
| I 発掘調査の概要 | 1 |
| 1. 発掘調査に至る経過 | 1 |
| 2. 発掘調査・報告書作成の経過 | 2 |
| (1) 発掘調査 | 2 |
| (2) 整理・報告書の作成 | 3 |
| 3. 発掘調査・報告書作成の組織 | 5 |
| II 遺跡の立地と環境 | 7 |
| 1. 地理的環境 | 7 |
| 2. 歴史的環境 | 7 |
| III 遺跡の概要 | 9 |
| IV 北盛土の遺構 | 27 |
| 1. 住居跡 | 27 |
| 2. 壺穴状遺構 | 154 |
| 3. 土壙墓・土壙 | 159 |
| 4. 遺物集中 | 287 |
| 5. 埋甕 | 298 |
| 6. 柱穴列 | 300 |
| 7. 焼土跡 | 302 |
| 8. 不明遺構 | 307 |
| 9. グリッドピット | 310 |

(第2分冊)

| | |
|------------------|-----|
| V 北盛土の遺物 | 335 |
| 1. 土器 | 335 |
| (1) 住居跡出土土器 | 335 |
| (2) 壺穴状遺構出土土器 | 476 |
| (3) 土壙出土土器 | 492 |
| (4) 遺物集中出土土器 | 670 |
| (5) 埋甕出土土器 | 685 |
| (6) 柱穴列出土土器 | 686 |
| (7) 焼土跡出土土器 | 687 |
| (8) 不明遺構出土土器 | 690 |
| (9) グリッドピット出土土器 | 693 |
| 2. 土製品 | 713 |
| (1) 住居跡出土土製品 | 713 |
| (2) 壺穴状遺構出土土製品 | 744 |
| (3) 土壙出土土製品 | 750 |
| (4) 遺物集中出土土製品 | 770 |
| (5) 不明遺構出土土製品 | 773 |
| (6) グリッドピット出土土製品 | 773 |
| 3. 石器 | 780 |
| 4. 骨製品 | 835 |
| VI 調査のまとめ | 836 |

(第3分冊)

| |
|------|
| 写真図版 |
|------|

| |
|----|
| 付図 |
|----|

挿図目次

(第1分冊)

| | | | |
|----------------------------|----|-------------------------------|----|
| 第1図 埼玉県の地形図 | 8 | 第34図 第104号住居跡遺物出土状況(4) | 61 |
| 第2図 遺跡位置図 | 11 | 第35図 第104号住居跡遺物出土状況(5) | 62 |
| 第3図 長竹遺跡盛土等高線図 | 12 | 第36図 第105a・b号住居跡(1) | 63 |
| 第4図 長竹遺跡北盛土等高線図 | 13 | 第37図 第105a・b号住居跡(2) | 64 |
| 第5図 長竹遺跡盛土全体図 | 14 | 第38図 第105a号住居跡(1) | 65 |
| 第6図 長竹遺跡北盛土全体図 | 15 | 第39図 第105a号住居跡(2) | 66 |
| 第7図 長竹遺跡北盛土分割図 | 16 | 第40図 第105a号住居跡(3) | 67 |
| 第8図 長竹遺跡北盛土分割図(1) | 17 | 第41図 第105b号住居跡(1) | 68 |
| 第9図 長竹遺跡北盛土分割図(2) | 18 | 第42図 第105b号住居跡(2) | 69 |
| 第10図 長竹遺跡北盛土分割図(3) | 19 | 第43図 第105a・b号住居跡 遺物出土状況(1) | 70 |
| 第11図 長竹遺跡北盛土分割図(4) | 20 | 第44図 第105a・b号住居跡 遺物出土状況(2) | 71 |
| 第12図 長竹遺跡北盛土分割図(5) | 21 | 第45図 第105a・b号住居跡 遺物出土状況(3) | 72 |
| 第13図 長竹遺跡北盛土分割図(6) | 22 | 第46図 第106号住居跡(1) | 73 |
| 第14図 長竹遺跡北盛土分割図(7) | 23 | 第47図 第106号住居跡(2) | 74 |
| 第15図 北盛土基本土層(1) | 24 | 第48図 第106号住居跡(3) | 75 |
| 第16図 北盛土基本土層(2) | 25 | 第49図 第106号住居跡遺物出土状況(1) | 76 |
| 第17図 北盛土基本土層(3) | 26 | 第50図 第106号住居跡遺物出土状況(2) | 77 |
| 第18図 第99号住居跡(1) | 45 | 第51図 第107号住居跡(1) | 78 |
| 第19図 第99号住居跡(2) | 46 | 第52図 第107号住居跡(2) | 79 |
| 第20図 第99号住居跡(3) | 47 | 第53図 第107号住居跡(3) | 80 |
| 第21図 第100号住居跡(1) | 48 | 第54図 第107号住居跡(4) | 81 |
| 第22図 第100号住居跡(2) | 49 | 第55図 第107号住居跡遺物出土状況(1) | 82 |
| 第23図 第100号住居跡遺物出土状況(1) | 50 | 第56図 第107号住居跡遺物出土状況(2) | 83 |
| 第24図 第100号住居跡遺物出土状況(2) | 51 | 第57図 第108号住居跡 | 84 |
| 第25図 第101号住居跡 | 52 | 第58図 第108号住居跡遺物出土状況 | 84 |
| 第26図 第102号住居跡 | 53 | 第59図 第109号住居跡 | 85 |
| 第27図 第103号住居跡(1) | 54 | 第60図 第109号住居跡遺物出土状況 | 85 |
| 第28図 第103号住居跡(2) 遺物出土状況 | 55 | 第61図 第111号住居跡 | 86 |
| 第29図 第104号住居跡(1) | 56 | 第62図 第111号住居跡遺物出土状況 | 87 |
| 第30図 第104号住居跡(2) | 57 | 第63図 第112号住居跡(1) | 88 |
| 第31図 第104号住居跡遺物出土状況(1) | 58 | 第64図 第112号住居跡(2) | 89 |
| 第32図 第104号住居跡遺物出土状況(2) | 59 | | |
| 第33図 第104号住居跡遺物出土状況(3) | 60 | | |

| | | | | | |
|-------|-------------------|-----|-------|-----------------------|-----|
| 第65図 | 第112号住居跡遺物出土状況 | 90 | 第102図 | 第119号住居跡（1） | 127 |
| 第66図 | 第113号住居跡（1） | 91 | 第103図 | 第119号住居跡（2） | 128 |
| 第67図 | 第113号住居跡（2） | 92 | 第104図 | 第120号住居跡（1） | 129 |
| 第68図 | 第113号住居跡遺物出土状況 | 93 | 第105図 | 第120号住居跡（2） | 130 |
| 第69図 | 第114号住居跡（1） | 94 | 第106図 | 第120号住居跡遺物出土状況 | 130 |
| 第70図 | 第114号住居跡（2） | 95 | 第107図 | 第121号住居跡（1） | 131 |
| 第71図 | 第114号住居跡（3） | 96 | 第108図 | 第121号住居跡（2） | 132 |
| 第72図 | 第114号住居跡（4） | 97 | 第109図 | 第122号住居跡 | 133 |
| 第73図 | 第114号住居跡遺物出土状況（1） | 98 | 第110図 | 第123号住居跡（1） | 134 |
| 第74図 | 第114号住居跡遺物出土状況（2） | 99 | 第111図 | 第123号住居跡（2） | 135 |
| 第75図 | 第115号住居跡（1） | 100 | 第112図 | 第124号住居跡（1） | 136 |
| 第76図 | 第115号住居跡（2） | 101 | 第113図 | 第124号住居跡（2） | 137 |
| 第77図 | 第115号住居跡（3） | 102 | 第114図 | 第126号住居跡 | 137 |
| 第78図 | 第115号住居跡（4） | 103 | 第115図 | 第128号住居跡（1） | 138 |
| 第79図 | 第115号住居跡遺物出土状況（1） | 104 | 第116図 | 第128号住居跡（2） | 139 |
| 第80図 | 第115号住居跡遺物出土状況（2） | 105 | 第117図 | 第128号住居跡（3） | 140 |
| 第81図 | 第116号住居跡（1） | 106 | 第118図 | 第128号住居跡（4） | 141 |
| 第82図 | 第116号住居跡（2） | 107 | 第119図 | 第129a号住居跡 | 142 |
| 第83図 | 第116号住居跡（3） | 108 | 第120図 | 第129b号住居跡 | 143 |
| 第84図 | 第116号住居跡遺物出土状況（1） | 109 | 第121図 | 第130号住居跡 | 144 |
| 第85図 | 第116号住居跡遺物出土状況（2） | 110 | 第122図 | 第131号住居跡（1） | 145 |
| 第86図 | 第117号住居跡（1） | 111 | 第123図 | 第131号住居跡（2） | 146 |
| 第87図 | 第117号住居跡（2） | 112 | 第124図 | 第131・132号住居跡（1） | 147 |
| 第88図 | 第117号住居跡遺物出土状況 | 113 | 第125図 | 第131・132号住居跡（2） | 148 |
| 第89図 | 第118号住居跡（1） | 114 | 第126図 | 第132号住居跡（1） | 149 |
| 第90図 | 第118号住居跡（2） | 115 | 第127図 | 第132号住居跡（2） | 150 |
| 第91図 | 第118号住居跡（3） | 116 | 第128図 | 第133号住居跡（1） | 151 |
| 第92図 | 第118号住居跡（4） | 117 | 第129図 | 第133号住居跡（2） | 152 |
| 第93図 | 第118号住居跡（5） | 118 | 第130図 | 第134・135号住居跡 | 153 |
| 第94図 | 第118号住居跡（6） | 119 | 第131図 | 第8号竪穴状遺構遺物出土状況 | 155 |
| 第95図 | 第118号住居跡遺物出土状況（1） | 120 | 第132図 | 第9号竪穴状遺構 | 156 |
| 第96図 | 第118号住居跡遺物出土状況（2） | 121 | 第133図 | 第9号竪穴状遺構 遺物出土状況（1） | 157 |
| 第97図 | 第118号住居跡遺物出土状況（3） | 122 | 第134図 | 第9号竪穴状遺構 遺物出土状況（2） | 158 |
| 第98図 | 第118号住居跡遺物出土状況（4） | 123 | 第135図 | 土壤（1） | 205 |
| 第99図 | 第118号住居跡掘り方（1） | 124 | 第136図 | 土壤（2） | 206 |
| 第100図 | 第118号住居跡掘り方（2） | 125 | | | |
| 第101図 | 第118号住居跡掘り方（3） | 126 | | | |

| | | | | | |
|-------|---------------|-----|-------|-----------------|-----|
| 第137図 | 土壤 (3) | 207 | 第174図 | 土壤 (40) | 244 |
| 第138図 | 土壤 (4) | 208 | 第175図 | 土壤 (41) | 245 |
| 第139図 | 土壤 (5) | 209 | 第176図 | 土壤 (42) | 246 |
| 第140図 | 土壤 (6) | 210 | 第177図 | 土壤 (43) | 247 |
| 第141図 | 土壤 (7) | 211 | 第178図 | 土壤 (44) | 248 |
| 第142図 | 土壤 (8) | 212 | 第179図 | 土壤 (45) | 249 |
| 第143図 | 土壤 (9) | 213 | 第180図 | 土壤 (46) | 250 |
| 第144図 | 土壤 (10) | 214 | 第181図 | 土壤 (47) | 251 |
| 第145図 | 土壤 (11) | 215 | 第182図 | 土壤 (48) | 252 |
| 第146図 | 土壤 (12) | 216 | 第183図 | 土壤 (49) | 253 |
| 第147図 | 土壤 (13) | 217 | 第184図 | 土壤 (50) | 254 |
| 第148図 | 土壤 (14) | 218 | 第185図 | 土壤 (51) | 255 |
| 第149図 | 土壤 (15) | 219 | 第186図 | 土壤 (52) | 256 |
| 第150図 | 土壤 (16) | 220 | 第187図 | 土壤 (53) | 257 |
| 第151図 | 土壤 (17) | 221 | 第188図 | 土壤 (54) | 258 |
| 第152図 | 土壤 (18) | 222 | 第189図 | 土壤 (55) | 259 |
| 第153図 | 土壤 (19) | 223 | 第190図 | 土壤 (56) | 260 |
| 第154図 | 土壤 (20) | 224 | 第191図 | 土壤 (57) | 261 |
| 第155図 | 土壤 (21) | 225 | 第192図 | 土壤 (58) | 262 |
| 第156図 | 土壤 (22) | 226 | 第193図 | 土壤 (59) | 263 |
| 第157図 | 土壤 (23) | 227 | 第194図 | 土壤 (60) | 264 |
| 第158図 | 土壤 (24) | 228 | 第195図 | 土壤 (61) | 265 |
| 第159図 | 土壤 (25) | 229 | 第196図 | 土壤 (62) | 266 |
| 第160図 | 土壤 (26) | 230 | 第197図 | 土壤 (63) | 267 |
| 第161図 | 土壤 (27) | 231 | 第198図 | 土壤 (64) | 268 |
| 第162図 | 土壤 (28) | 232 | 第199図 | 土壤 (65) | 269 |
| 第163図 | 土壤 (29) | 233 | 第200図 | 土壤 (66) | 270 |
| 第164図 | 土壤 (30) | 234 | 第201図 | 土壤 (67) | 271 |
| 第165図 | 土壤 (31) | 235 | 第202図 | 土壤 (68) | 272 |
| 第166図 | 土壤 (32) | 236 | 第203図 | 土壤 (69) | 273 |
| 第167図 | 土壤 (33) | 237 | 第204図 | 土壤 (70) | 274 |
| 第168図 | 土壤 (34) | 238 | 第205図 | 土壤 (71) | 275 |
| 第169図 | 土壤 (35) | 239 | 第206図 | 遺物集中1 (1) | 288 |
| 第170図 | 土壤 (36) | 240 | 第207図 | 遺物集中1 (2) | 289 |
| 第171図 | 土壤 (37) | 241 | 第208図 | 遺物集中1 (3) | 290 |
| 第172図 | 土壤 (38) | 242 | 第209図 | 遺物集中1 (4) | 291 |
| 第173図 | 土壤 (39) | 243 | 第210図 | 遺物集中2～6 | 292 |

| | | | |
|---------------------------|-----|----------------------------|-----|
| 第211図 遺物集中7 (1) | 293 | 第225図 グリッドピット分布図 (1) | 318 |
| 第212図 遺物集中7 (2) | 294 | 第226図 グリッドピット分布図 (2) | 319 |
| 第213図 遺物集中7 (3) | 295 | 第227図 グリッドピット分布図 (3) | 320 |
| 第214図 遺物集中7 (4) | 296 | 第228図 グリッドピット分布図 (4) | 321 |
| 第215図 遺物集中7 (5) | 297 | 第229図 グリッドピット分布図 (5) | 322 |
| 第216図 第4・5・6号埋甕 | 299 | 第230図 グリッドピット分布図 (6) | 323 |
| 第217図 第6・7号柱穴列 | 301 | 第231図 グリッドピット分布図 (7) | 324 |
| 第218図 焼土跡 (1) | 304 | 第232図 グリッドピット (1) | 325 |
| 第219図 焼土跡 (2) | 305 | 第233図 グリッドピット (2) | 326 |
| 第220図 焼土跡 (3) | 306 | 第234図 グリッドピット (3) | 327 |
| 第221図 第15・16号不明遺構 | 308 | 第235図 グリッドピット (4) | 328 |
| 第222図 第17・18号不明遺構 | 309 | 第236図 グリッドピット (5) | 329 |
| 第223図 北盛土グリッドピット全体図 | 316 | 第237図 グリッドピット (6) | 330 |
| 第224図 北盛土グリッドピット分割図 | 317 | 第238図 グリッドピット (7) | 331 |

表 目 次

(第1分冊)

| | | | |
|----------------------|-----|--------------------------|-----|
| 第1表 土壙墓一覧表 (1) | 276 | 第9表 土壙一覧表 (6) | 284 |
| 第2表 土壙墓一覧表 (2) | 277 | 第10表 土壙一覧表 (7) | 285 |
| 第3表 土壙墓一覧表 (3) | 278 | 第11表 土壙一覧表 (8) | 286 |
| 第4表 土壙一覧表 (1) | 279 | 第12表 柱穴列柱穴計測表 | 301 |
| 第5表 土壙一覧表 (2) | 280 | 第13表 グリッドピット一覧表(1) | 331 |
| 第6表 土壙一覧表 (3) | 281 | 第14表 グリッドピット一覧表(2) | 332 |
| 第7表 土壙一覧表 (4) | 282 | 第15表 グリッドピット一覧表(3) | 333 |
| 第8表 土壙一覧表 (5) | 283 | 第16表 グリッドピット一覧表(4) | 334 |

写 真 図 版 目 次

(第1分冊)

| | | | |
|---------------------|--|---------------------|--|
| 卷頭図版1 1 北盛土出土土器 (1) | | 卷頭図版2 1 北盛土出土土器 (3) | |
| 2 北盛土出土土器 (2) | | 2 北盛土出土土器 (4) | |

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取り扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについて照会がなされた。

事業予定区域内には埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所はこの回答の時点では周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、平成18年秋に事業予定地すべての現地踏査を行い、さらには明治時代の地形図等と照合し、確認調査の必要箇所の絞り込みを行った。

当該箇所については平成21年5月後半から6月にかけて確認調査を実施した。その結果、縄文時代・平安時代を中心とした遺構・遺物が確認され、この箇所は長竹遺跡（No69-038）として平成21年6月16日に遺跡台帳に登載された。

上記の埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成21年6月24日付け教生文第623-1号で工事計画上やむを得ず現状を変更する場合は、記録保

存のための発掘調査の実施が必要な旨を回答し、取り扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることになった。

本遺跡は、膨大な遺構、遺物が検出されたことから、計5か年の調査を実施したが、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（平成23年度までは財団法人）と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

なお、平成24年6月、従来の遺跡範囲外について確認調査が可能となったため、これを実施し、遺跡が北西に延伸していることが確認され、平成24年6月13日付けで長竹遺跡の範囲拡大の変更増補を行った。この箇所は平成25・26年度（第5・6次）に発掘調査を実施した。

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長から提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの勧告は下記のとおりである。

平成22年1月9日付け教生文第4-1001号

平成23年3月18日付け教生文第4-1404号

平成24年2月16日付け教生文第4-1336号

また同法第92条の規定による発掘調査届が公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりである。

3次調査 平成24年4月20日付け教生文第2-9号
4次調査 平成25年5月24日付け教生文第2-8号
6次調査 平成26年5月15日付け教生文第2-7号

(埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

本書に係る長竹遺跡の発掘調査は、平成24年度（第3次）・平成26年度（第6次）に実施した。調査対象面積は14,015.64m²である。

平成24年度（第3次調査）

長竹遺跡第3次の発掘調査は、平成24年4月6日から平成25年3月31日まで実施した。調査対象はA区の第二面、調査面積は3,161m²である。

調査は、4月から9月まで北盛土を、10月から翌年3月までは南盛土を中心に行った。

4月中旬に重機で表層土の除去を行い、第二面の遺構検出面を露出した。その後、人力による遺物包含層の掘削を行い、適宜遺構確認作業を実施し、遺構精査を行った。

5月上旬には北盛土の基準測量を実施した。これを基に遺構実測と遺物の取り上げを行い、写真撮影を行った。

遺物包含層の掘削に伴い、一部の基準杭を抜去したため、7月下旬に補足的な基準点測量を行った。

9月上旬には空中写真撮影を行い、下旬には北盛土の調査を終了した。

10月上旬に南盛土の基準点測量を実施し、その後遺物包含層の掘削と遺構調査に着手した。

1月中旬には、それまでC区の南に置いていた調査事務所をD区の北側に移設した。下旬には旧事務所および調査終了部分の囲柵を撤去した。

調査の進捗に伴い、補足的な基準点測量を1月中旬に行った。

3月下旬には発掘器材および図面・遺物を引き上げ、発掘調査事務所を閉鎖した。

その後事務手続きを行い、年度内の作業を終了した。

平成26年度（第6次調査）

長竹遺跡第6次の発掘調査は、平成26年4月1日から平成27年3月31日まで実施した。調査対象はD区の第一・二面で、調査面積は3,846.82m²である。

4月上旬に発掘調査事務所を再開し、器材と図面の搬入を行った。

4月上旬、補助員作業を開始した。作業は平成25年度の第5次調査から引き続き、D区第一面の遺構精査を行った。検出した遺構は順次断面図・平面図を作成し、遺物を取り上げて、写真撮影を行った。

5月中旬には第一面のほぼすべての遺構の精査を終了したため、空中写真撮影を行った。

その後、補足的な記録作業を行い、5月下旬には第一面の調査を終了した。

第一面の遺構検出面はほとんどが縄文時代の遺物包含層の上面と一致していたが、部分的に氾濫土に覆われていた。このため6月上旬、重機を用いて上層土の除去を行った。

その後、遺物包含層の調査を開始した。6月中旬には基準点測量を委託し、測量杭の打設を行っ

た。

検出した遺構は順次遺物を取り上げ、図面・写真撮影等の記録作業を行った。

遺物包含層の掘削に伴い、一部の基準杭を抜去したため、11月下旬に補足的な基準点測量を行った。

第二面で発見された遺物・遺構の量が膨大であったため、1月中旬から3月上旬にかけて遺構のデジタル測量を委託作業で行った。

第二面のほぼすべての遺構の調査が終了したため、2月下旬には空中写真撮影を実施した。これに併せて、縄文時代当時の地形を記録するための航空測量委託を実施した。

その後、補足的な記録作業を行い、3月上旬には第二面の調査を完了した。

3月中旬には危険防止のため重機による埋め戻し作業を行った。また、器材・記録類を搬出し、発掘調査事務所を撤去した。

3月下旬には囲柵・防塵ネットを撤去した。

その後、事務所用地の現状復旧と事務手続きを行い、6次にわたる長竹遺跡の発掘調査を終了した。

(2) 整理・報告書の作成

本書に係る長竹遺跡の整理・報告書作成作業は、平成26~29年度に実施した。

平成26年度

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで実施した。

4月上旬から遺物の水洗・注記作業を開始した。3月末までに1791箱分の遺物の水洗・注記が完了した。

10月から遺物の接合復元作業に着手した。これと並行して、報告書に掲載する遺物の抽出作業を行った。

12月からは抽出した遺物の実測を開始した。

10月から平面図と断面図を照合して第二原図を作成した。

完成した第二原図は12月からスキャナーでパソコンに取り込んだ。

その後、描画ソフトを用いて遺構ごとにトレースし、キャプションや土層注記をレイアウトして、印刷用の版下を完成させた。

平成27年度

平成27年4月9日から平成28年3月31日まで実施した。

4月上旬から遺物の接合作業を再開し、10月末までに接合作業を終了した。接合した遺物は順次石膏復元を行い、3月末までに8割程度を終了した。

復元した遺物は3スペース、オルソイメジャー等の遺物実測支援システムを使用して素図を作成し、これをもとに遺物の実測図を作成した。

完成した実測図はトレースして、スキャナーでパソコンに取り込み、遺物版下図の作成に備えた。

また、これと並行して抽出した土器片の拓本を採取し、断面実測を行った。断面実測図は順次トレースを行った。完成した拓本・断面トレースはやはりスキャナーでパソコンに取り込んだ。

遺構図については昨年度に引き続き第二原図の作成と電子トレースを行い、遺構版下図を作成していった。

平成28年度

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで実施した。

4月上旬から前年度に引き続き各種の作業を再開した。

遺物の復元作業は12月までに終了した。

復元した遺物は3スペース、オルソイメジャー等の遺物実測支援システムを使用して素図を作成し、これをもとに遺物の実測図を作成した。

完成した実測図はトレースして、スキャナーでパソコンに取り込んだ。

また、これと並行して抽出した土器片の拓本を採取し、断面実測を行った。

断面実測図は順次トレースを行った。完成した拓本・断面トレースはやはりスキャナーでパソコンに取り込んだ。

その後、画像処理ソフトでごみ取りを行い、遺物図版の作成に備えた。

遺構図については昨年度に引き続き第二原図の作成と電子トレースを行い、遺構版下図を作成していった。

遺物・遺構ともに計測して観察表を作成し、原稿執筆に備えた。

12月には巻頭写真および縄文土器展開写真の委託撮影を実施した。

3月末には年度内に予定していた作業を終了した。

平成29年度

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで実

施した。

4月上旬から前年度に引き続き各種の作業を再開した。

遺物の実測は6月までにほぼ終了した。

6月上旬から遺物の写真撮影を開始した。遺物の量が膨大であったため、数度に分けて実施した。

7月末には遺物のトレースおよび拓本の採取、それらのスキャニングをすべて終了した。8月上旬からはそれらの画像を描画ソフト上でレイアウトしてキャプションやスケールを貼り込み、遺物版下図を作成していった。

8月上旬から文字原稿の執筆を開始した。

10月下旬、遺物図版および遺構図版の版下がほぼ完成した。その後、12月下旬まで修正作業を行った。

12月下旬には写真図版が完成した。

1月上旬にすべての文字原稿と版下が完成し、印刷業者に入稿した。その後3回の校正を経て、平成30年3月22日に報告書を刊行した。図面や写真等の記録類や遺物は3月末に整理・分類のうえ、

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成 24 年度 (発掘調査)

理 事 長 中 村 英 樹
常務理事兼総務部長 根 本 勝
総務部
総務部副部長 富 田 和 夫
総務課 長 矢 島 将 和

| | | |
|----------|-----|-----|
| 調査部 | 孝和禎 | 志夫二 |
| 調査部 | 持坂本 | 靖弘 |
| 主幹兼調査第二課 | 木田橋 | 瞳 |
| 主 | 和高 | 岳島 |
| 主 | 高 | 高 |
| 主 | 事 | 事 |
| 主 | 事 | 事 |
| 主 | 事 | 事 |

平成 26 年度 (発掘調査)

| | | |
|-----|-----|----|
| 調査部 | 孝和幸 | 志夫 |
| 調査部 | 富田 | 雄穂 |
| 調査部 | 西吉 | 穎涉 |
| 主 | 田谷 | 輝樹 |
| 主 | 像原 | 宮 |
| 主 | 長 | 宮 |
| 主 | 幹 | 宮 |
| 主 | 査 | 宮 |
| 主 | 任 | 宮 |
| 主 | 事 | 宮 |

平成 26 年度 (報告書作成)

志夫勝徹 美佐子
孝和 佐野
間田 谷野
昼富 細大的
長監 長事
長副 部
長查 部
調理 第二課
調查部
調査部
調整主

平成 27 年度 (報告書作成)

理 事 長 桶 田 明 男
常務理事兼総務部長 木 村 博 昭
総務部
総務部副部長 瀧瀬 芳 之
総務課 長 安 田 孝 之

調査部
調査部
調査部
主幹兼整理
主
主
長
長
長
事
事
事
金
細
吉
矢
松
尾
子
田
田
部
浦
田
直
行
勝
稔
瞳
誠
好
識

平成 28 年度（報告書作成）

| | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| 理 事 長 | 塩野谷 孝志 | 調査部 | 金 子 直 行 |
| 常務理事兼総務部長 | 木 村 博 昭 | 調査部 副部長 | 細 田 勝 |
| 総務部 | | 調査部 第一課長 | 吉 田 稔 |
| 総務部 副部長 | 黒 坂 祐 二 | 主幹兼整理第一課長 | 渡 辺 清 志 |
| 総務課 長 | 曾 川 浩 二 | 主 査 | 鈴 木 佑太郎 |
| | | 事 | |

平成 29 年度（報告書作成）

| | | | |
|-----------|---------|----------------|---------|
| 理 事 長 | 塩野谷 孝志 | 調査部 | 赤 熊 浩 一 |
| 常務理事兼総務部長 | 川 目 晴 久 | 調査部 副部長 | 吉 田 稔 |
| 総務部 | | 調査部 副部長兼調査第二課長 | 渡 辺 清 志 |
| 総務部 副部長 | 黒 坂 祐 二 | 主 査 | |
| 総務課 長 | 曾 川 浩 二 | 事 | |

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

長竹遺跡は埼玉県の北東部に位置し、東武伊勢崎線加須駅から7km北方の加須市大越に所在する。遺跡の脇には利根川が東流する。

現在、遺跡周辺の地形分類は加須低地とされておりが、これは基盤の台地を氾濫土が覆った、いわば見かけの低地といえる。

そもそも加須市を含む旧北埼玉郡域の大半は現在の大宮台地から群馬県東毛地域へと連なる大

宮・館林台地の一部であったが、「関東造盆地運動」が進行し利根川が流れを東に変えた結果、この一帯に氾濫土が被覆し、河畔砂丘や自然堤防が点在する現況へと変化したとされる。

長竹遺跡を巡る地理的環境の詳細は、第440集『長竹遺跡II』（本書と同時刊行）に掲載したので参照されたい。

2. 歴史的環境

長竹遺跡を巡る歴史的環境の詳細および周辺遺跡との位置関係図は、第440集『長竹遺跡II』（本書と同時刊行）に掲載したので参照されたい。ここでは加須市内を中心とした通時代的でありかたについて概観する。

旧石器時代

旧石器の遺跡は埋没ローム台地が検出されている久喜市（旧騎西町）萩原遺跡や中郷遺跡、道上遺跡、羽生市大道遺跡等が知られている。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、加須市内でも埋没度が少ない桶遺川地区を中心に縄文時代中期を主体とする遺跡が知られているが、六十軒東遺跡のように前期から晩期までの長期間に及ぶ遺物が発見された遺跡もある。

長竹遺跡の西側に隣接する桶ノ口遺跡では早期炉穴が検出された。

長竹遺跡から3kmほど上流側の発戸遺跡では、土取工事で出土した完形の土面をはじめ多量の後・晩期遺物が発見された。

大道遺跡では後・晩期遺物が発見され、南西約6kmに所在する羽生市町屋本村遺跡でも、調整池

掘削の際に多量の後・晩期遺物が発見されている。

弥生時代

縄文時代に対し、弥生時代の遺跡は周知の遺跡が極端に少ないが、2kmほど上流の羽生市屋敷裏遺跡では中期後半の住居跡1軒と、方形周溝墓1基、土壙が検出されている。

古墳時代

古墳時代に入ると徐々に遺跡が増加していく。前期では、加須市内の米の宮遺跡1軒の住居跡が検出されている。屋敷裏遺跡では多数の住居跡が検出され、北陸系や、近江系、山陰系といった異系統の土器が出土している。

古墳時代中・後期に入ると自然堤防上に集落跡や古墳、古墳群などが増加していく。屋敷裏遺跡では、多くの住居跡が検出され、住居跡内からは脚付の須恵器長頸壺や短頸壺が出土した。天王遺跡では、東毛地域の関係が窺われる須恵器が出土している。

埋没台地上にある村君古墳群内には、永明寺古墳、御廟塚古墳の2基の前方後円墳が所在し、この地域の名主墳と考えられている。

古代

古代に入ると自然堤防を残し地形の平坦化が進行する。長竹遺跡でも、該期の住居跡と畠跡が検出されている。東側に隣接する宮西遺跡、宮東遺跡でも同様の集落跡が検出されている。上流側の羽生市茂手木遺跡、屋敷裏遺跡でも該期の集落跡が発見されている。

中世

長竹遺跡では、14世紀代の板碑が溝跡から出土している。また、利根川旧堤防跡からは、人骨を伴う土壙墓群が発見され、井戸跡から15世紀から16世紀代の板碑や宝篋印塔が纏まって出土している。東に隣接する宮西遺跡でも井戸跡内から、14世紀から15世紀代の板碑が出土している。

西側上流部に所在する羽生市東畠遺跡では、戦国時代から江戸時代にかけての掘立柱建物跡、道路跡、井戸跡などが検出され、さらに上流の米の宮遺跡では、室町時代の大規模な区画溝、大形掘

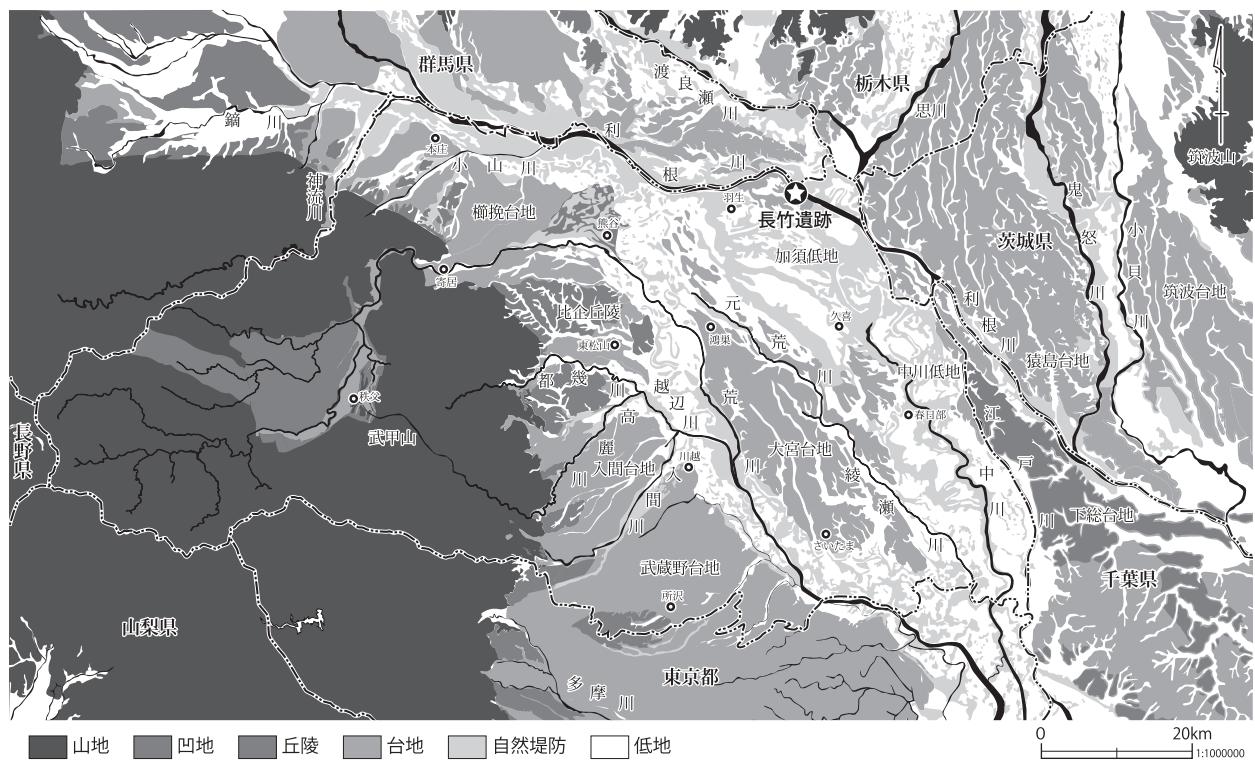
立柱建物跡、豊穴状遺構、井戸跡が検出されている。

近世

合計3回にわたる大規模な利根川東遷事業が行われ、天保9（1838）年には合の川と浅間川が完全に締め切られ現在の流路が確定した。このうち浅間川を締め切った堰堤跡が加須市外野地区に残り、利根川旧堤防跡や長竹遺跡の調査で堤防の建設や改修、増設工事の状況が明らかとなっている。

利根川東遷と江戸川の開削工事により両毛・常総、そして武藏の舟運が発達した。宮東遺跡の直近には大越河岸が設けられ、武藏北東部有数の物流拠点として栄えた。

だが、1902年の東武鉄道延伸や陸上交通の発達により、河岸場は次第に衰え、1910年の関東大水害を境に大越に航う船は激減した。1972年には利根大橋が開通し、大越の繁栄は幕を閉じた。



第1図 埼玉県の地形図

III 遺跡の概要

長竹遺跡の調査範囲は、利根川の堤防に沿って細長いため、調査区を上流から下流に向かってD・A・B・C区と区分した。縄文時代後・晩期の環状盛土遺構は、B区西側の一部とそれに続くA区、さらに西側に接続するD区にまたがっている。

本遺跡における縄文時代以降の堆積土は、地盤の沈降と利根川の氾濫の影響で、最大で厚さ3～4mにも及んでいる。その堆積過程に當まれた縄文時代、古墳時代から古代、中・近世などの文化層は、間層を挟んで重なり合っている。そこで、古墳時代から近世にかけての文化層を第一面として調査し、終了後、さらに約1m掘り下げた縄文時代の文化層を第二面として調査した。

長竹遺跡の調査面積は11,914m²（表面積）で、このうち環状盛土遺構の調査面積は約8,318m²である。

環状盛土遺構は、小さな窪地状の地形の一部を含み調査区を横断する形で検出された。調査区周辺部の地形及び遺物の分布から、推定外径約190m、幅20m以上で、盛土の厚さは平均1.5m、最大1.8mで、周辺地を含めて環状に廻るものと想定される。

環状盛土遺構のうちA区の谷を挟んだ南半部及びB区の北側一部を便宜上南盛土と呼称し、小さな窪地を挟んでA区の北半部とD区北側の低地を除く盛土部分を北盛土と呼称した。なお、A区とD区の境には一部浅い窪地が貫入しており、北盛土の土壌群の一部は分割されていた。

盛土は縄文時代後期後葉から晩期中葉に形成され、帯状の高まりが環状に廻っていた。

北盛土上層（古代、中・近世の文化層）は調査の結果、地盤の沈降とその後の氾濫堆積によって奈良・平安時代にはほぼ埋没したことが判明している。A区については南盛土と同様に後世の開発等による破壊から免れ、きわめて良好な遺存状態

で検出された。一方、D区については古代以降の整地、洪水等による流失、現代の個人住宅による削平を受け盛土上部が失われていた。

北盛土の等高線の分布は調査区の中央が最も高く標高14.50mで、ここを頂点とし調査区北側（盛土外縁）と南側（盛土内縁）に向かって傾斜していた。外縁側は北西よりの傾斜であった。内縁側の窪地に向かってはD区では南側に傾斜していたがA区では南西側に緩やかに傾斜していた。

調査区北壁に沿う土層断面を北盛土の基本土層とし、全体の状況を把握した。

盛土等高線と同様に中央が最も高く、南盛土基本土層第Ⅰ・Ⅱ層のローム質土は、北盛土において後世の整地・搅乱等により削平されていた。

北盛土第Ⅱ層は南盛土第Ⅲ層と対応し縄文時代晩期中葉を主体とする遺物包含層であった。下位の第Ⅲ層は南盛土第Ⅳ層と対応し、縄文時代晩期前葉を主体とする遺物包含層が形成されていた。これらの層中及び層位を切って、晩期中葉の遺構が構築されていた。

下層には第Ⅳ層として南盛土第Ⅴ層と対応し、縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺物を主体とする包含層、第Ⅴ層として南盛土第Ⅵ層と対応する縄文時代後期前葉以前の遺物を主体とし、一部ソフトロームとの混土を伴う包含層が形成されていた。さらに下層には、基盤土壤である第Ⅵ層のソフトローム層が堆積していた。

北盛土で検出された縄文時代の遺構は、住居跡34軒、竪穴状遺構2基、土壙294基、土壙墓67基、遺物集中7箇所、埋甕3基、柱穴列2基、焼土跡12基、不明遺構4基、グリッドピット626基であった。

北盛土の遺構では、新たに竪穴状遺構と不明遺構が検出された。これに対し、南盛土では「大形建物址」、掘立柱建物跡などが検出された。また、

盛土内縁側は南盛土において土壙墓を含む土壙が北盛土に比べて少なく、代わりに内縁側緩傾斜面から多数の小穴が検出された。

住居跡は盛土の最も標高の高い範囲から集中して検出された。開始期は後期前葉の第128号住居跡で、南盛土の第59号住居跡とほぼ同期となる。後期中葉は第120・122号住居跡など円形プランが基調で、環の内側に位置しているが、検出軒数は少なかった。

後期後葉に入ると環のやや外側に広がり、盛土の形成と共に、住居跡間の重複が著しくなった。方形プランを基調とし、入り口方向を南側窪地方向に向けた住居跡が多く検出された。規模も大形化し、第114・131号住居跡は85mを超える北盛土最大規模の住居跡であった。但し、南盛土最大規模の第43号住居跡のように12m級の特大規模且つ、長期間継続して営まれる住居跡は検出されなかった。

晩期の住居跡は、盛土の外側と内側に分かれて検出された。第99・105号住居跡を除き大半が規模を縮小している。また方形プランが崩れ不整形の浅い掘り込みの住居跡が多く検出された。

中葉以降は、住居跡は検出されず、焼土跡が同期の包含層と共に検出されている。

竪穴状遺構は、調査区D区北壁際から2基検出された。環状盛土遺構の中央から1基と、外縁側傾斜面から1基検出された。

第8号竪穴状遺構は晩期の第108号住居跡を除き重複したいずれの住居跡も切っていた。第9号竪穴状遺構は、外縁側傾斜面に形成された土壙群中から検出された。両遺構とも炉跡、入り口部が検出されなかったため住居跡として認定できなかった。

土壙は、D区の標高の高い盛土中央部にはやや少なく、内縁側に偏ってやや密に検出された。時期は後期前葉をはじめとし、後期中葉までの広範囲にわたる。

D区南際からA区北半部の盛土内縁側窪地にかけて、土壙墓群が規則的配置をもって纏まって検出された。土壙墓は大きく3グループに分かれるものと推察された。

配置は内縁側緩傾斜面の等高線にほぼ平行して検出された土壙墓と、直交して検出された土壙墓の2種類があった。土壙墓はグループごとに纏まって検出されており、多くが重複していた。

重複の状況は同軸で連接して検出された土壙墓と、軸が直交し土壙墓同士の一辺が接して検出された土壙墓があった。また、単独で検出された土壙墓も各グループの周辺部から検出された。

形状は長方形及び、橢円形が多く、少数ではあるが、方形や円形の土壙墓も検出された。

土壙墓群の北西側限界は、D区B-1グリッドで南西側から貫入する浅い窪地でとどまっていた。南東側限界は、A区F-4・5グリッドで西側から貫入し、北東側に突き抜けるやや深い窪地でとどまっていた。但し、土壙墓群のうち、等高線に並行して検出された一群の南東側延長方向に南盛土の第310・311号土壙墓が所在していた。

円形の土壙は墓壙群の中にセンターピットを付設する後期の貯蔵穴と推察される土壙が散在して検出されたが、多くはD区の住居跡群の南側で盛土内縁側緩傾斜面から検出された。時期は後期前葉から後期後葉までであった。

遺物集中は、盛土内縁側緩傾斜面で検出された。集中箇所は、A・D区北盛土土壙墓の上層及び、周囲で検出され、これらの土壙と有機的な関係が窺われた。土壙墓の埋没後（埋め立て後）にほとんど間層を挟まないで形成されていることから、墓壙の年代の下限を区切る指標となりうる。また墓壙上に纏まりをもって遺物が出土していた。南盛土においても、同様に墓壙群の上層や周囲から検出された。

埋甕は、調査区南東寄りA-1グリッドで盛土のやや内縁側に1基と、北西寄りZY-999グリッド

ドで盛土の外縁側から2基の合計3基が単独で検出された。埋設された土器は後期前葉から晩期中葉にかけての瓢形土器、深鉢形土器であった。南東側の1基は、時期的に東隣りから検出された第129号住居跡との関連が想定された。

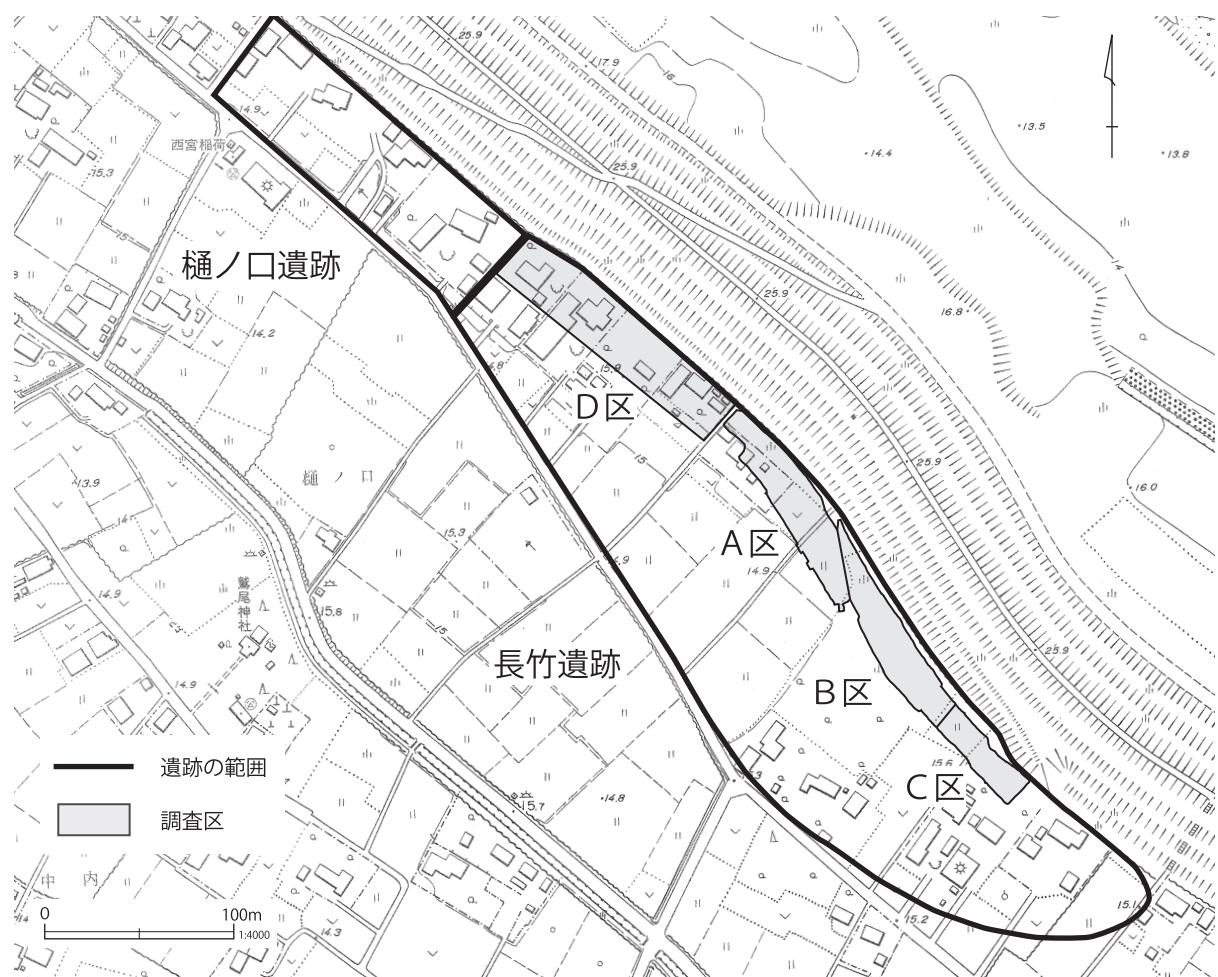
柱穴列は、A区とD区境界付近のB-0、B-2・3グリッドで1基ずつ検出された。環状盛土遺構の内縁側緩傾斜面に位置していた。いずれも柱穴列内部に炉跡、入り口部等の施設は検出されなかったので住居跡と認定はできなかった。

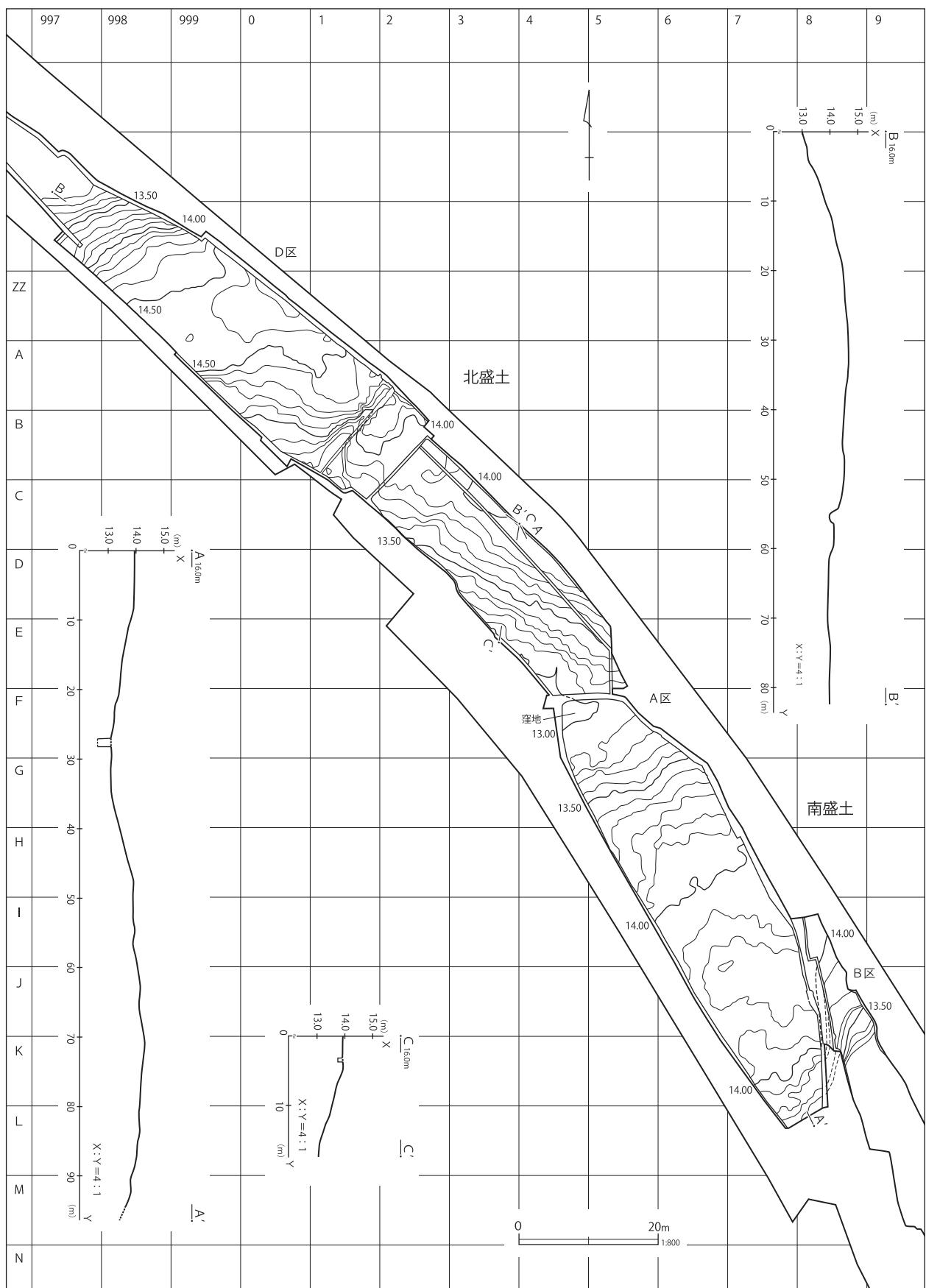
焼土跡は、盛土内縁側から外縁側傾斜面にかけて散在し、合計12基が検出された。墓壙群の周囲、盛土内縁側の住居跡集中範囲と重なっていた。また、遺構の空白区域からも検出されている。多くが晩期盛土包含層から後・晩期遺構検出面にかけて検出された。

不明遺構はD区境界付近のZ Z-C-0・1グリッドで纏まって検出された。環状盛土遺構のやや内縁側から内縁側緩傾斜面に位置していた。

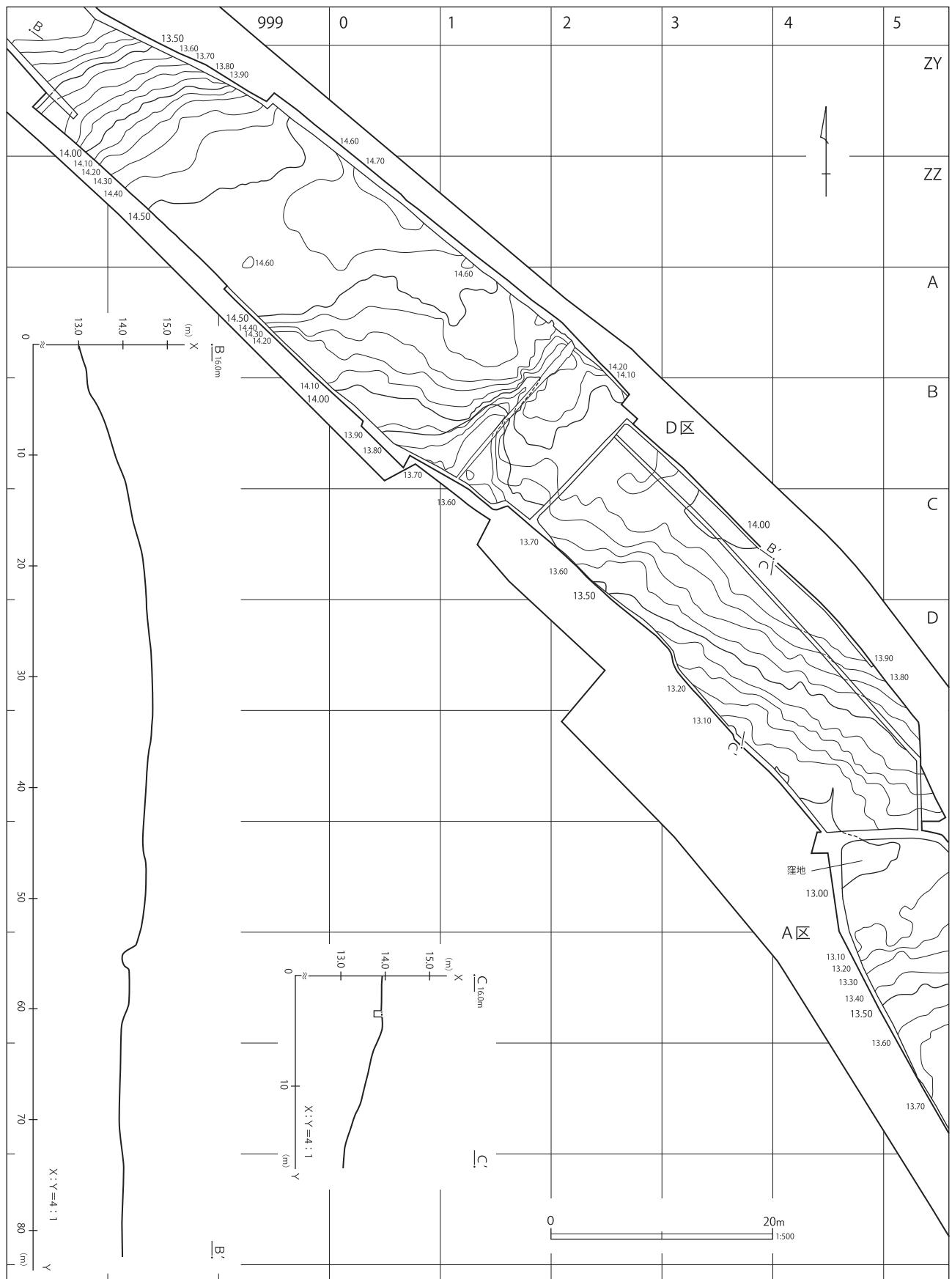
第15・16号不明遺構は住居跡に類似しているが炉跡・柱穴等は検出されなかった。第17号不明遺構は土壙墓群西側に位置し、内縁側窪地に向かう緩傾斜面上から検出され、墓域西側限界を区画する可能性が想定された。第18号不明遺構は、第17号不明遺構の西側に近接し、平坦な硬化面の範囲が検出されたが、性格不明であった。

グリッドピットは最も密に分布していたのがA-999~2、B-2グリッドにかけて、環状盛土遺構のやや内縁側から内縁側にかけてであった。但し、調査区全体では、大きく4グループに分かれて分布していた。

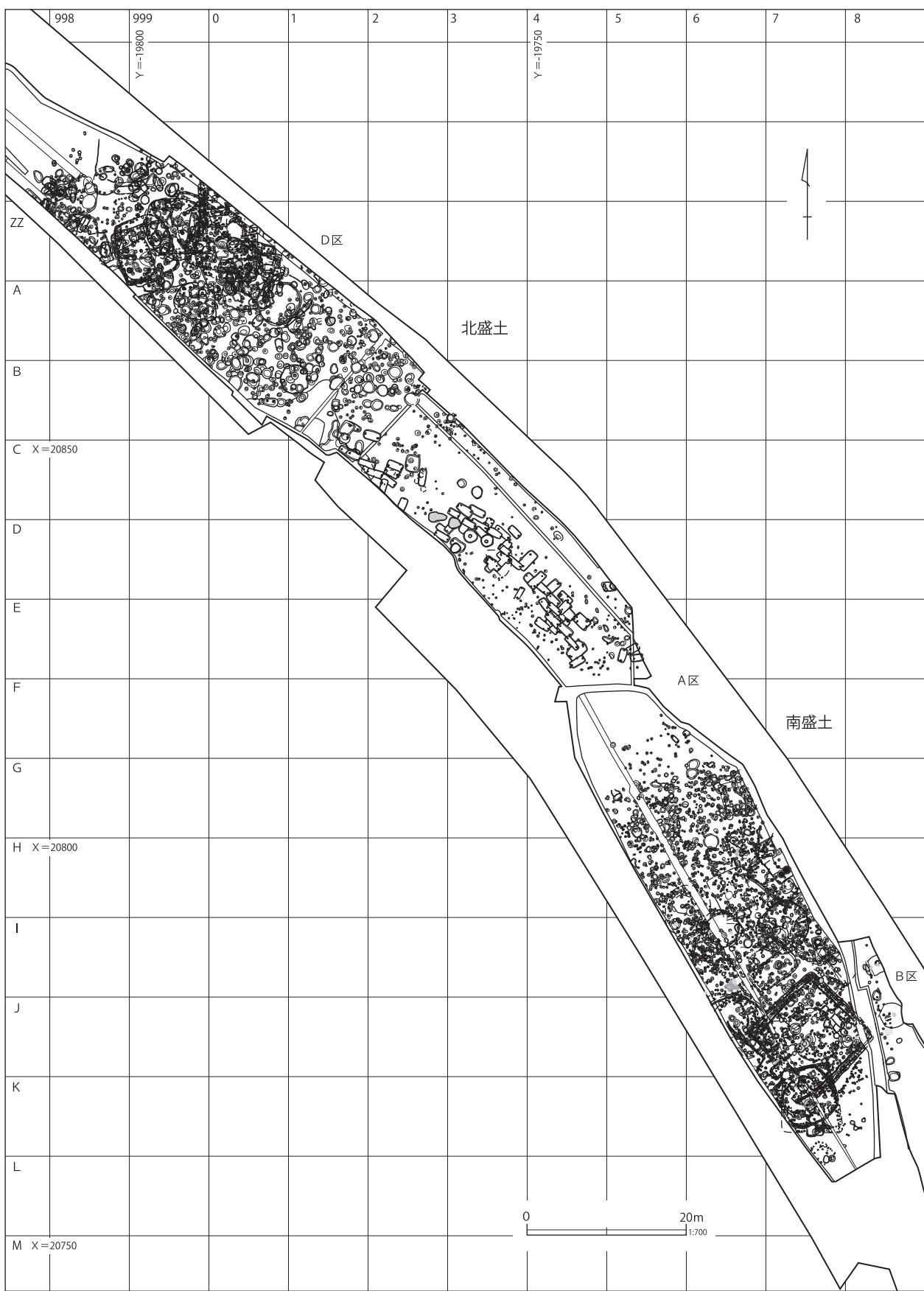




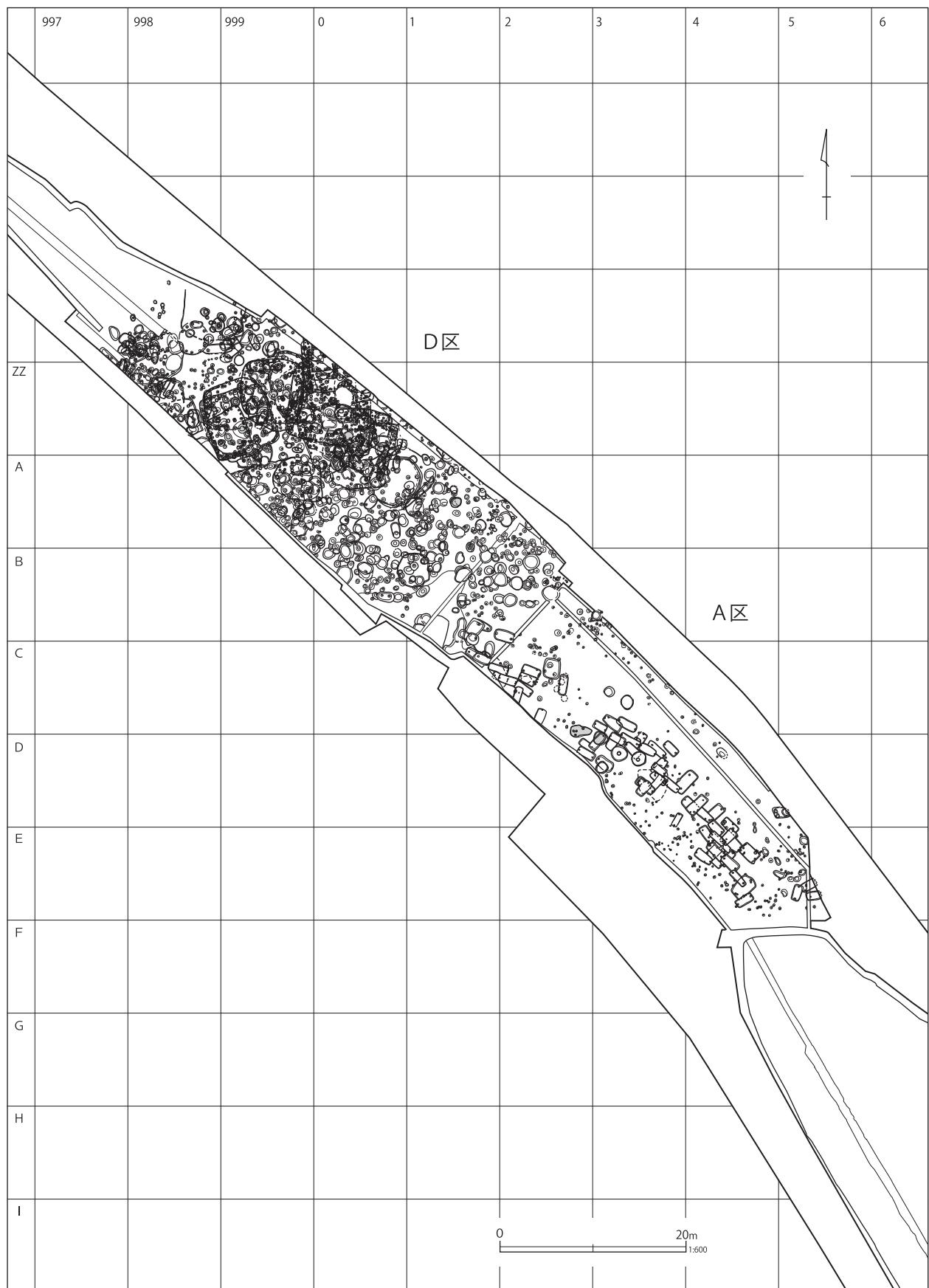
第3図 長竹遺跡盛土等高線図



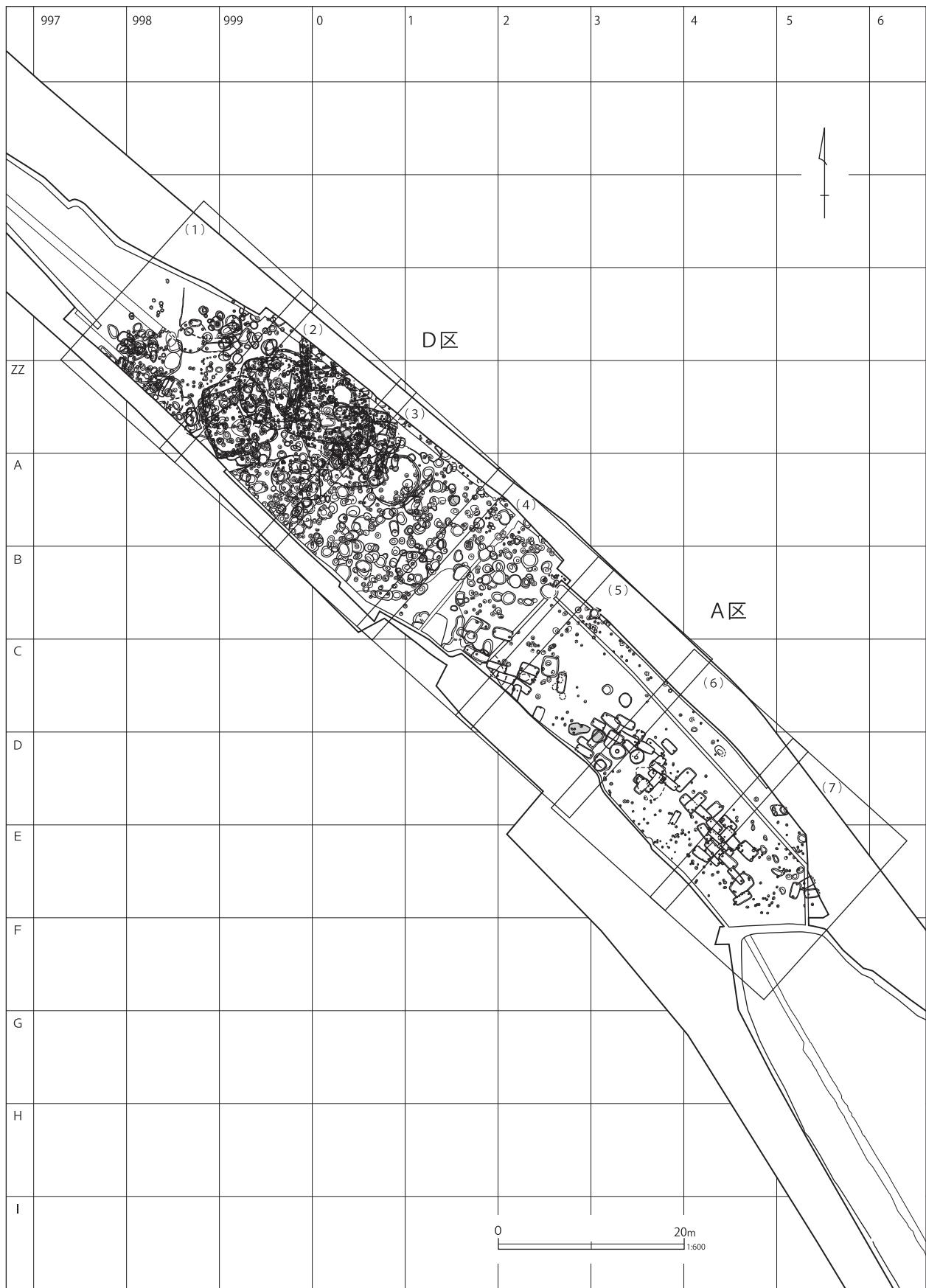
第4図 長竹遺跡北盛土等高線図



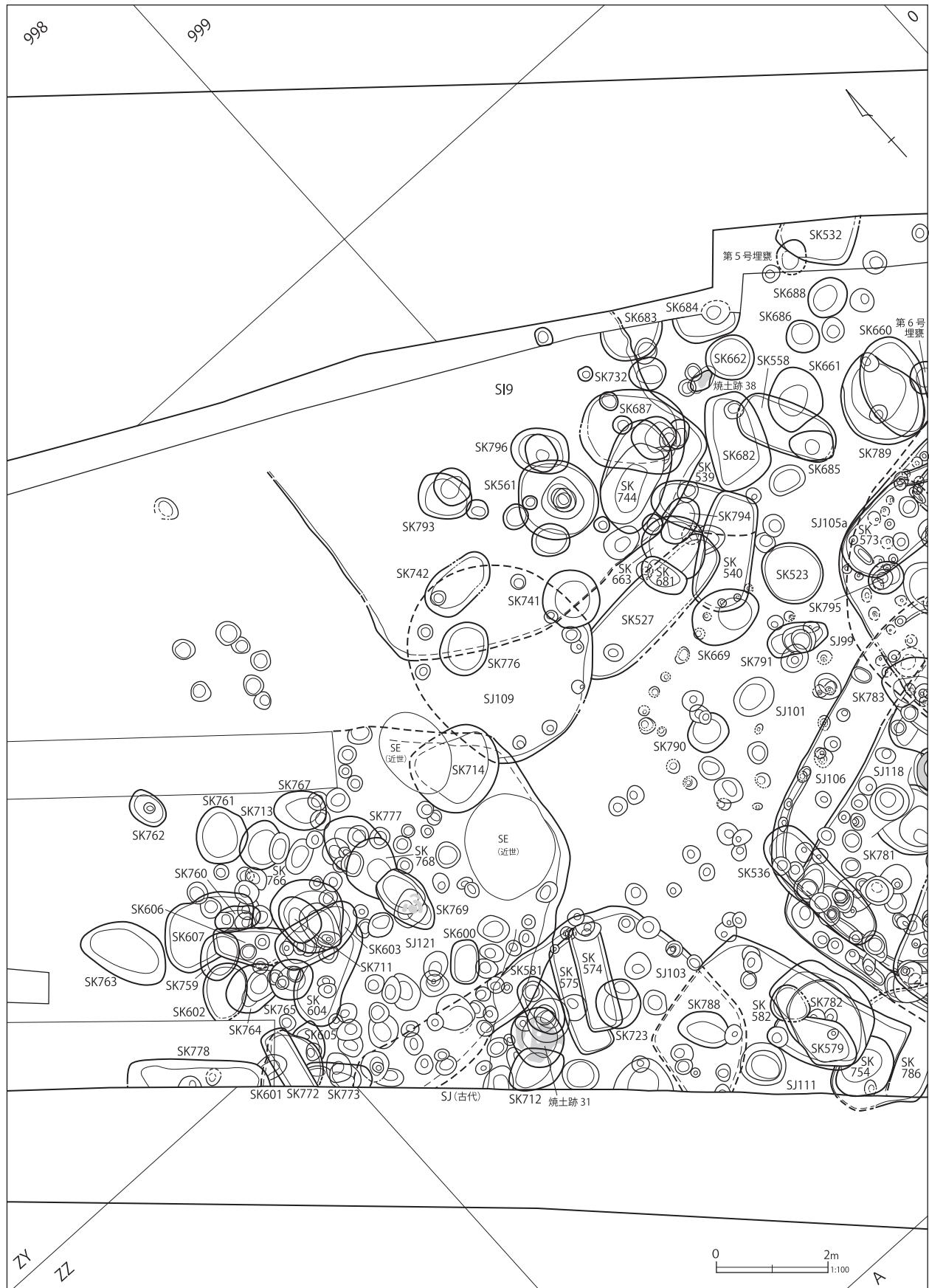
第5図 長竹遺跡盛土全体図



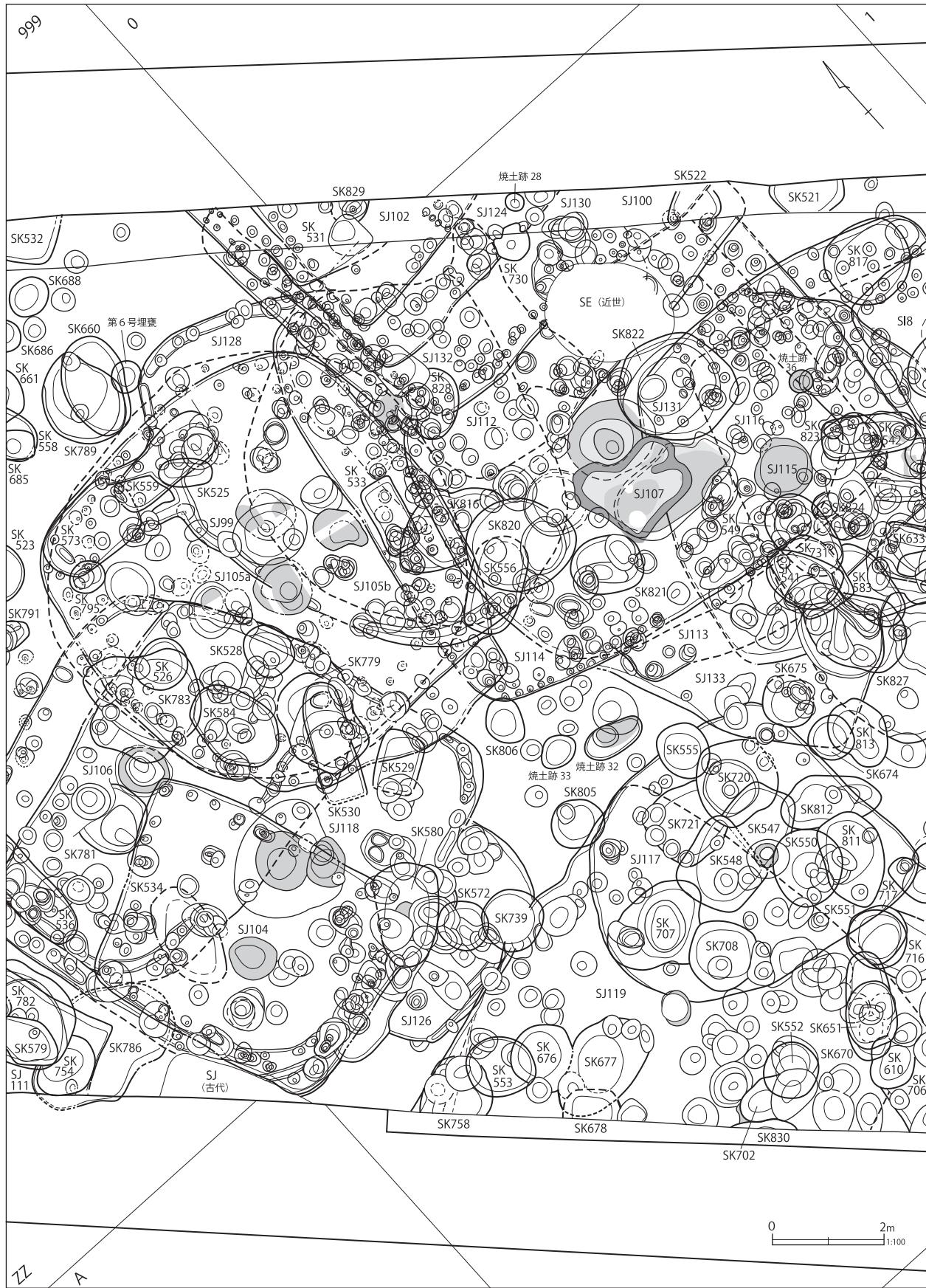
第6図 長竹遺跡北盛土全体図



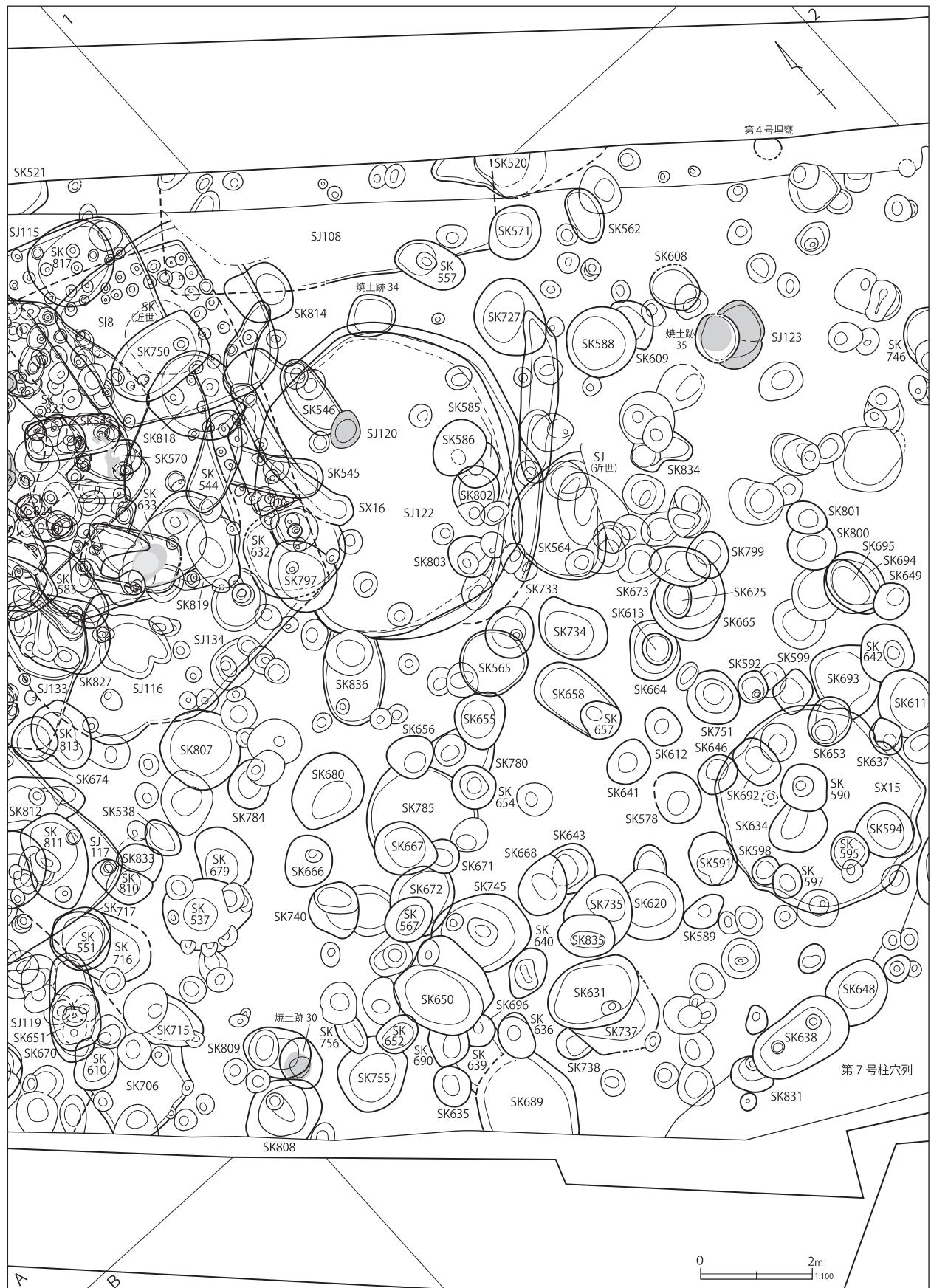
第7図 長竹遺跡北盛土分割図



第8図 長竹遺跡北盛土分割図（1）



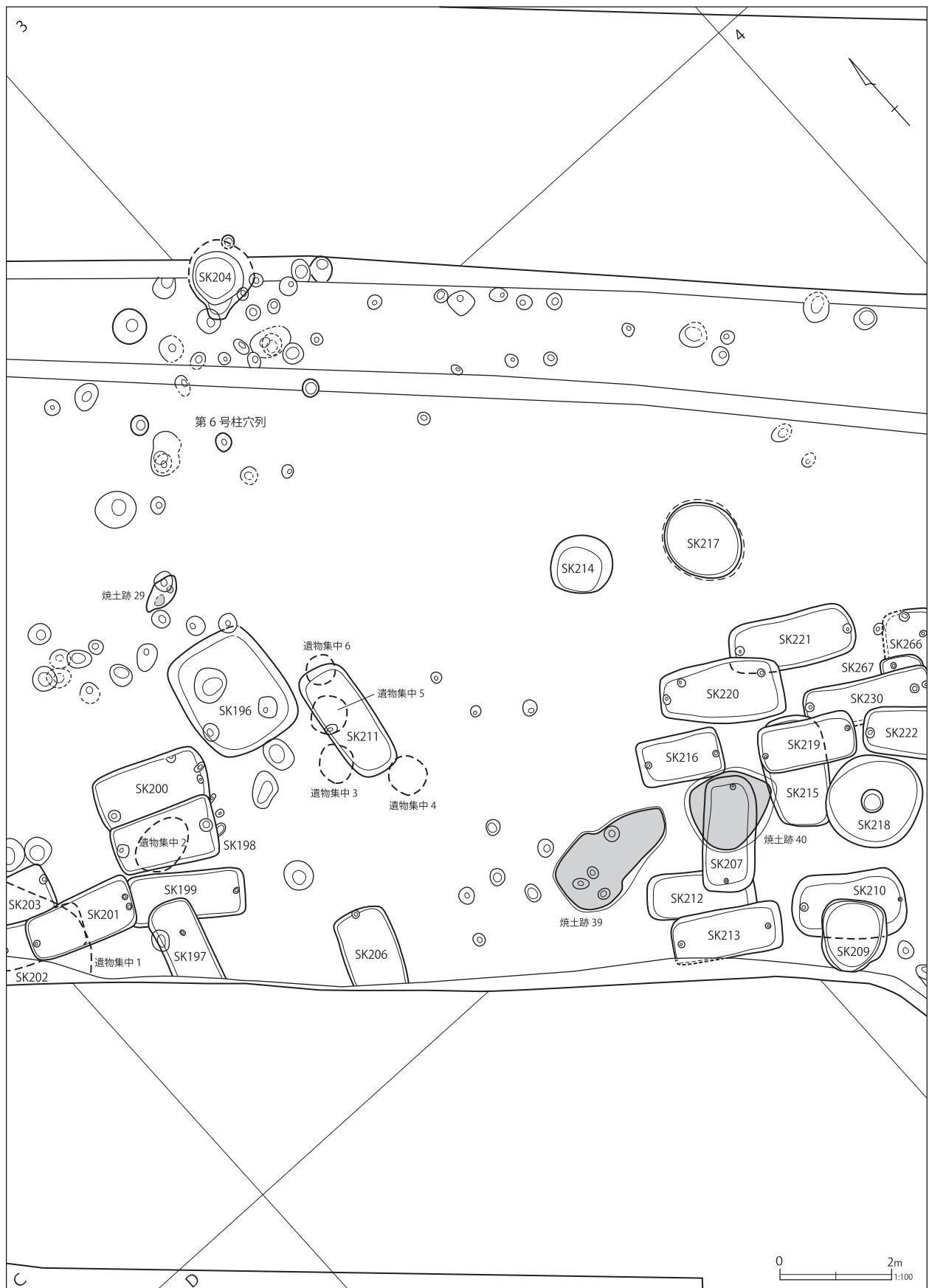
第9図 長竹遺跡北盛土分割図 (2)



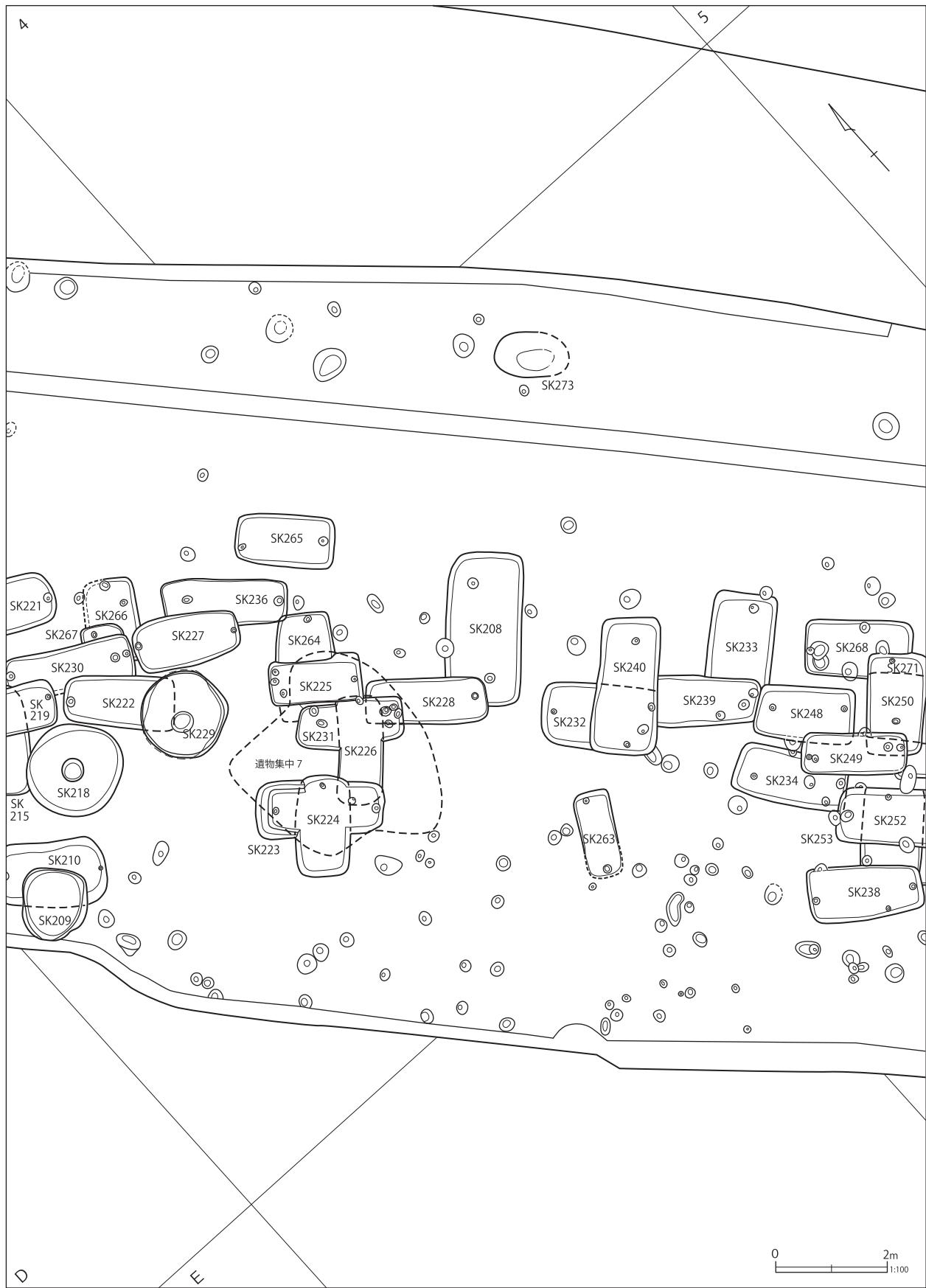
第10図 長竹遺跡北盛土分割図 (3)



第11図 長竹遺跡北盛土分割図（4）



第12図 長竹遺跡北盛土分割図（5）

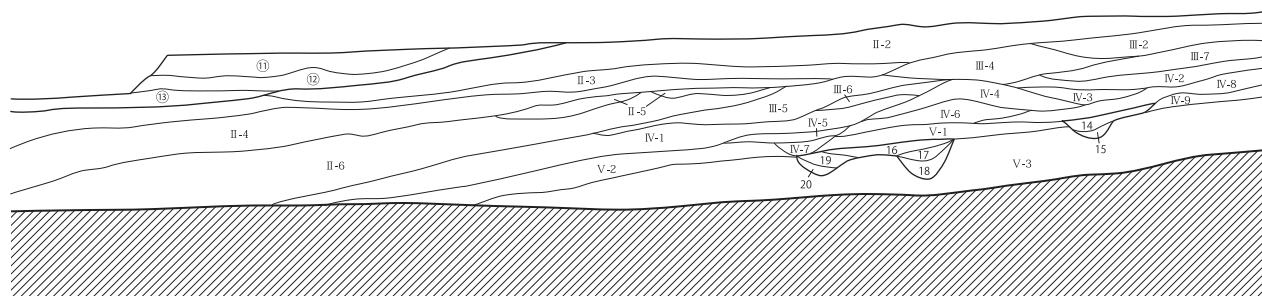


第13図 長竹遺跡北盛土分割図（6）

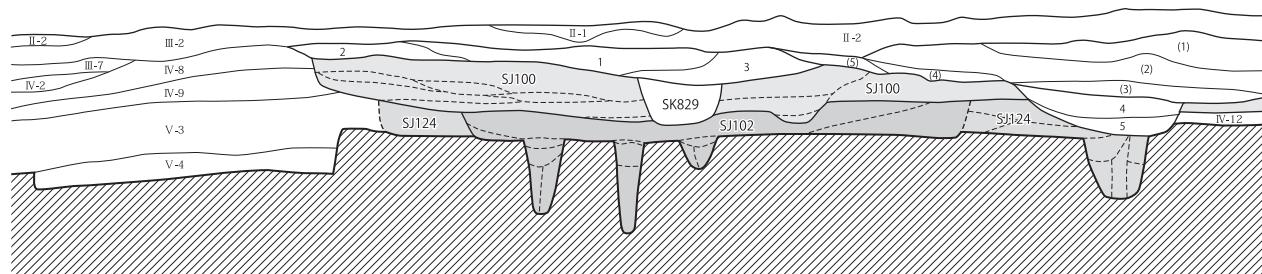


第14図 長竹遺跡北盛土分割図 (7)

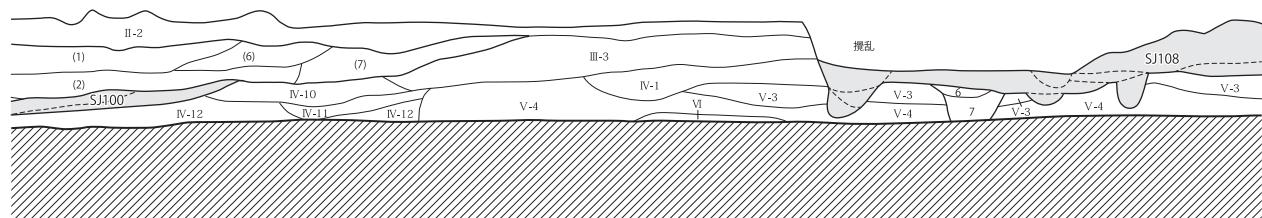
A 15.0m



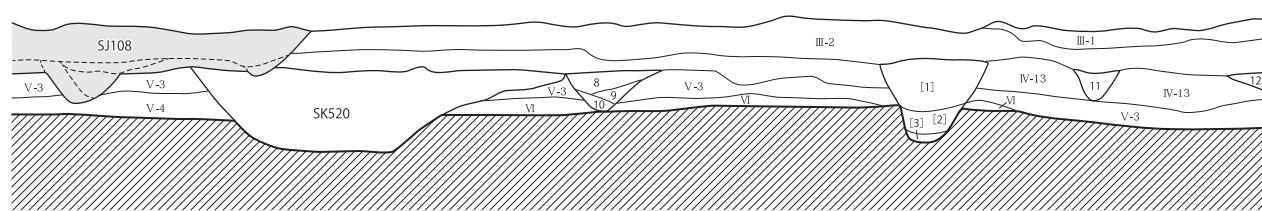
15.0m



15.0m

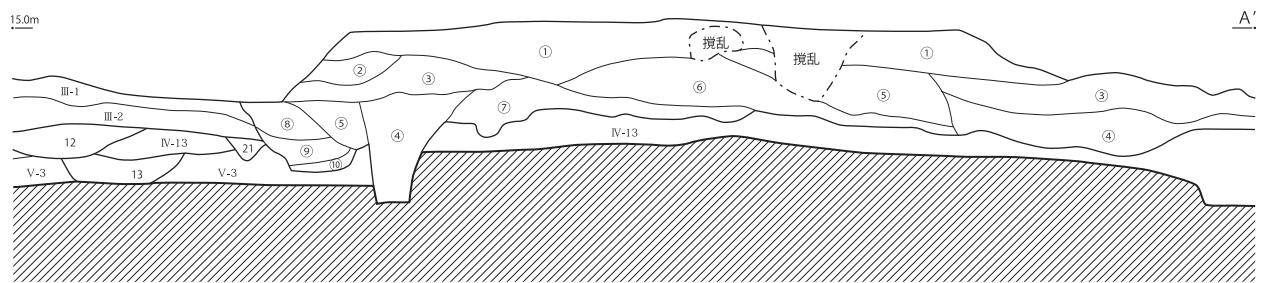


15.0m

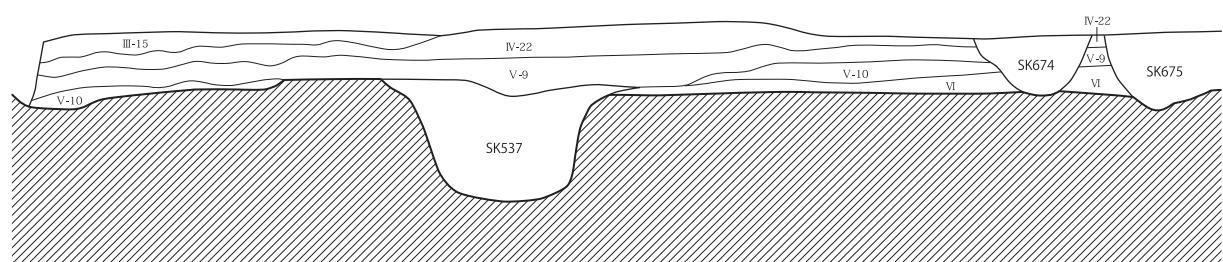


0 2m 1:60

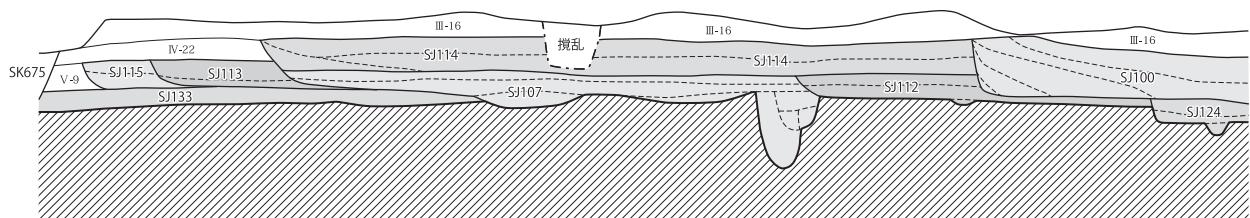
第15図 北盛土基本土層 (1)



B 15.0m

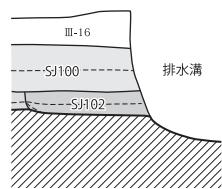


15.0m

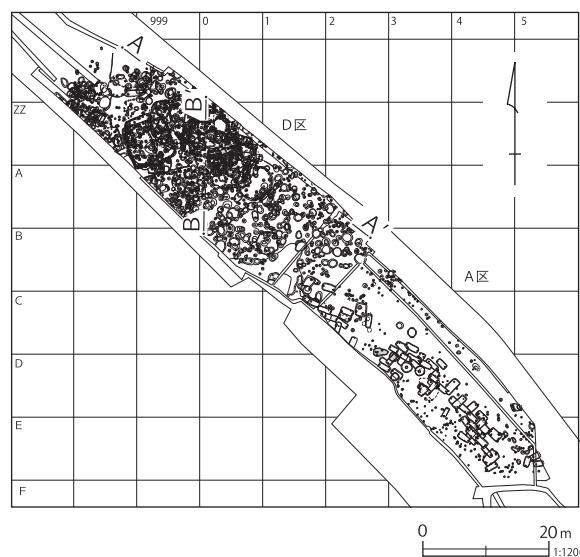


15.0m

B'



0 2m 1:60



第16図 北盛土基本土層 (2)

| | | | | |
|--------|---------|--------------------------------|----------|---------------------------------|
| II-1 | 暗灰褐色土 | 粘質 遺物（少） しまり（中） | ローム質土 | 炭化物（微） 遺物（少） 粘性（欠） しまり（良） |
| II-2 | 暗灰色土 | 粘質 砂粒含む 粘性（中） しまり（良） | (1) 黄褐色土 | 炭化物（微） 遺物（少） |
| II-3 | 暗灰色土 | シルト質 暗灰色粘土主体 砂粒含む | (2) 黄褐色土 | 粘性（欠） しまり（堅致） 底面鉄分沈着 |
| II-4 | 暗灰色土 | 粘性（中） しまり（良） | (3) 黄褐色土 | 炭化物含む 遺物（微） 粘性（欠） しまり（良） |
| II-5 | 暗黄褐色土 | 粘質 炭化物（微） 砂粒含む 遺物（微） | (4) 黄褐色土 | 粘質 ローム質土・暗褐色土との混土 |
| II-6 | 暗黄褐色土 | 粘性（強） しまり（良） | (5) 暗褐色土 | 炭化物（少） 粘性（中） しまり（良） |
| II-7 | 褐色土 | 粘質 ローム粒子（多） 炭化物含む 粘性・しまり（中） | (6) 暗褐色土 | 炭化物含む 粘性（中） しまり（良） |
| II-8 | 明灰褐色土 | ローム粒子（多） 炭化物・焼土含む 遺物（少） | (7) 黄褐色土 | 粘質 暗褐色土主体 ローム質土ブロック（少） |
| II-9 | 灰黄褐色土 | 粘性（中） しまり（良） | | 炭化物含む 粘性（強） しまり（良） |
| III-1 | 暗褐色土 | 炭化物・焼土粒子・骨細粒（微） 粘性（中） しまり（良） | | 粘質 炭化物（微） 粘性（弱） しまり（良） |
| III-2 | 黑褐色土 | 灰褐色土小ブロック・炭化物・土器片（少） | 遺構 | 粘質 炭化物（微） 粘性（弱） しまり（良） |
| III-3 | 黑褐色土 | 粘性（中） しまり（良） | S J | ロームブロック（径5～10mm）・炭化物・焼土含む |
| III-4 | 褐土 | シルト質 炭化物・焼土含む 土器片（多） | 1 暗褐色土 | 粘性（弱） しまり（良） |
| III-5 | 灰褐色土 | 粘性（弱） しまり（良） | 2 暗褐色土 | 炭化物・焼土・骨粉含む 粘性（弱） しまり（中） |
| III-6 | 灰色土 | 炭化物・焼土（多） 粘性（弱） しまり（良） | 3 暗褐色土 | ロームブロック（径5～10mm）（微） 焼土（多） |
| III-7 | にぶい黄褐色土 | 粘質 ローム質土 炭化物含む | S K | 粘性（弱） しまり（良） |
| III-8 | 褐色土 | 粘性（強） しまり（良） | 4 暗褐色土 | 炭化物（径5～10mm）・焼土ブロック（径25～30mm）含む |
| III-9 | 褐色土 | 焼土粒子（微） 粘性（強） しまり（中） | 5 暗褐色土 | 粘性・しまり（中） |
| III-10 | 褐色土 | 炭化物・焼土粒子（少） 粘性（強） しまり（中） | 6 暗褐色土 | 炭化物・焼土ブロック（径5～10mm）含む |
| III-11 | 褐色土 | 焼土をほとんど含まない 粘性（強） しまり（中） | 7 暗褐色土 | 粘性（弱） しまり（良） |
| III-12 | 褐色土 | 黄色土粒子・黄色土ブロック（多） 粘性・しまり（中） | 8 暗褐色土 | 粘質 烧土（微） 粘性（強） しまり（良） |
| III-13 | 褐色土 | 焼土粒子（微） 粘性（強） しまり（中） | 9 暗褐色土 | 粘質 烧土含む 骨粉（少） 遺物（微） |
| III-14 | 暗褐色土 | 黄色土ブロック（径10～20mm）（少） | 10 暗黄褐色土 | 粘性（弱） しまり（中） |
| III-15 | 黑褐色土 | 焼土粒子・骨片（微） 粘性（強） しまり（欠） | 11 暗褐色土 | 粘質 烧土（微） 粘性（強） しまり（中） |
| III-16 | 暗褐色土 | 粘質 炭化物（中） 焼土（少） やや灰色ぎみ 骨粉含む | 12 黑褐色土 | 粘質 烧土（多） 烧土含む 骨粉・遺物（少） |
| IV-1 | 暗褐色土 | ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子・骨粉（少） | 13 暗褐色土 | 粘性（強） しまり（中） |
| IV-2 | 黑色土 | 粘性（弱） しまり（良） | 14 黑褐色土 | 粘質 炭化物（強） しまり（中） |
| IV-3 | 暗褐色土 | 粘質 ローム粒子（多） 炭化物・焼土・骨粉含む | 15 暗褐色土 | シルト質 炭化物（径10～15mm）（多） 遺物（少） |
| IV-4 | 暗褐色土 | 粘性（強） しまり（良） | 16 黑褐色土 | 炭化物被含む 粘性（強） しまり（中） |
| IV-5 | 黑褐色土 | 粘質 炭化物・焼土含む 粘性（強） しまり（良） | 17 黑褐色土 | 粘質 ローム小ブロック（少） 炭化物（径10～15mm）（多） |
| IV-6 | 暗褐色土 | 粘質 炭化物含む 粘性（中） しまり（良） | 18 暗褐色土 | 粘性（強） しまり（中） |
| IV-7 | 暗褐色土 | 粘質 炭化物・焼土含む 遺物（微） | 19 暗黄褐色土 | 粘質 烧土（少） 粘性（強） しまり（中） |
| IV-8 | 暗褐色土 | 粘性（強） しまり（良） | 20 黄褐色土 | 粘質 ロームブロック（少） 炭化物含む |
| IV-9 | 暗褐色土 | シルト質 暗褐色土・ローム質土との混土 | ピット | 粘性・しまり（中） |
| IV-10 | 暗褐色土 | 炭化物・焼土含む 遺物（少） 粘性（中） しまり（良） | 21 黑褐色土 | 粘質 ローム小ブロック・炭化物・焼土含む |
| IV-11 | 暗褐色土 | 粘質 炭化物（少） 烧土（微） 土器片含む | | 粘性・しまり（中） |
| IV-12 | 暗褐色土 | 粘性（強） しまり（中） | | |
| IV-13 | 褐色土 | 炭化物・焼土含む 粘性（強） しまり（中） | 埋甕 | 粘質 炭化物含む 骨片・遺物（少） 粘性・しまり（中） |
| IV-14 | 暗褐色土 | 炭化物（径2～6mm）（多） 烧土粒子（径2～8mm）（少） | [1] 暗褐色土 | 粘質 炭化物（径10～15mm）（多） 烧土粒子（少） |
| IV-15 | 褐色土 | 骨小片（微） 粘性（強） しまり（欠） | [2] 暗褐色土 | 粘性・しまり（中） |
| IV-16 | 褐色土 | 炭化物・焼土粒子・骨（微） 粘性（欠） しまり（良） | [3] 暗褐色土 | 粘質 炭化物（径10～15mm）含む 粘性（強） しまり（欠） |
| IV-17 | 暗褐色土 | 炭化物（少） 烧土粒子（少） 粘性（強） しまり（中） | | |
| IV-18 | 褐色土 | 黄色土粒子（少） 烧土粒子・骨小片（微） | | |
| IV-19 | 黄褐色土 | 粘性（中） しまり（良） | | |
| IV-20 | 褐色土 | ロームブロック主体 粘性（中） しまり（良） | 近世の遺構 | シルト質 炭化物粒子・赤色粒子含む |
| IV-21 | 暗褐色土 | 骨小片（微） 粘性・しまり（中） | ① 黄褐色土 | シルト質 浅間A火山灰（多） 黄褐色 しまり（欠） |
| IV-22 | 暗褐色土 | 炭化物（微） 粘性（強） しまり（良） | ② 浅間A | 砂質 粘性（欠） しまり（強） |
| V-1 | にぶい黄色土 | ローム粒子・骨粉（少） 炭化物・焼土粒子（多） | ③ 灰色土 | シルト質 粘性（欠） しまり（強） |
| V-2 | 黄褐色土 | 粘性（弱） しまり（欠） | ④ 灰褐色土 | 砂質 粘性（欠） しまり（強） |
| V-3 | にぶい黄褐色土 | 炭化物（少） 粘性（強） しまり（良） | ⑤ 灰褐色土 | 粘土ブロック |
| V-4 | にぶい黄褐色土 | 炭化物（少） 粘性（強） しまり（良） ソフトローム対応 | ⑥ 黄褐色土 | 白色粒子・赤色粒子・粘土ブロック（多） |
| V-5 | 暗黄褐色土 | ロームに似た土 炭化物（径5mm前後）・焼土粒子（少） | ⑦ 黄褐色土 | 粘質 鉄分沈着 粘性・しまり（中） |
| V-6 | 橙褐色土 | 粘性（強） しまり（良） | ⑧ 灰褐色土 | 砂質 粘性（欠） しまり（強） |
| V-7 | 暗黄褐色土 | ロームとの混合土 烧土粒子（微） 黑色土含む | ⑨ 暗灰色土 | 炭化物含む 粘性・しまり（中） |
| V-8 | 暗黄褐色土 | 粘性（中） しまり（良） | ⑩ 暗灰色土 | シルト質 粘性（弱） しまり（良） |
| V-9 | 暗褐色土 | 炭化物・焼土粒子・骨（微） 粘性（強） しまり（良） | ⑪ 黄褐色土 | シルト質 粘性（中） しまり（良） |
| V-10 | 暗褐色土 | 粘質 ローム小ブロック・炭化物・土器（少） 烧土（微） | ⑫ 灰色土 | 砂質 砂粒・小砂礫（多） 粘性（弱） しまり（良） |
| V-11 | 暗褐色土 | 粘性（強） しまり（良） | ⑬ 淡黄色土 | |

*以下の土層注記は、盛土編報告書 土層断面図に記載

II-7～9 III-8～14 IV-14～21 V-5～8

*以下の土層注記は、盛土編報告書 土層断面図に記載

$$\text{II-7} \sim 9 \quad \text{III-8} \sim 14 \quad \text{IV-14} \sim 21 \quad \text{V-5} \sim 8$$

第17図 北盛土基本土層 (3)

IV 北盛土の遺構

1. 住居跡

住居跡の分布は盛土の最も標高の高い範囲から集中して検出された。開始期は第126号住居跡が中期末葉に想定され、時期がやや離れている。第128号住居跡は後期前葉以前で、南盛土の第59号住居跡とほぼ同期であり、開始期として確定できる。後期中葉の住居跡は第120・122号住居跡など円形プランが基調で、環の内側に位置しているが、軒数は少ない。

後期後葉に入ると環のやや外側に広がり、盛土の頂上部から重層して検出されている。方形プランを基調とし、入り口方向を南側窪地方向に向けた住居跡が多く検出された。また、規模も大きくなり、第114・131号住居跡は8.5mを超える北盛土最大規模の住居跡であった。但し、南盛土と異なるところは、南盛土最大規模の第43号住居跡のように12m級の特大規模且つ、長期間継続して営まれる住居跡は検出されなかった。

晩期の住居跡は、盛土の外側と内側に分かれて検出された。第99・105号住居跡を除きほとんどが規模を縮小している。また方形プランが崩れ不整形の浅い掘り込みの住居跡が多く検出された。このうち第105号住居跡は壁際寄りから、装飾品及び、祭祀関連遺物が纏まって出土した。また、中葉にかかると想定された第99号住居跡は第105号住居跡をローム質土で埋め立てて構築していた。

中葉以降は、住居跡は検出されず、焼土跡が同期の包含層と共に検出されている。また、盛土内側の傾斜面沿いに、土壙や多数のピットなどが検出された。

第99号住居跡（I - 第18～20図）遺物（II - 第239・275～277・536・542・551・579・580・584・592・596・599・619図）

D区Z Y・Z Z - 999グリッドに所在した。下層にある第105号住居跡をローム質土で埋め戻して床面を構築していた。第107・114・118・128号住居跡・第559・573・584号土壙を切っていた。第525・526・528・533号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層最上部でローム質土を伴う硬化面の範囲を確認し、遺構精査を行ったところ、炉跡及び床面、柱穴等が検出されたため、住居跡と認定した。壁の立ち上がりは検出されなかった。

規模は推定長径7.45m、推定短径7.45mで柱穴の配置から円形プランが想定される。主軸方位は不明であった。

床面は平坦で、第105号住居跡覆土のレンズ状堆積の上にローム質土で埋め戻しを行い、さらに、約0.10mの貼床を施して構築していた。

炉跡はほぼ中央より検出された。長径1.30m、短径1.10m、深さ0.35mで、円形の火床炉であった。炉跡の火床面は良く焼けており、最上面はローム質土で覆われていた。

柱穴は壁際で一部2列となる小穴が周回していた。各小穴は杭状の掘り込みであった。住居跡の内側からも柱穴は検出されたが、主柱穴や入り口部にかかる柱穴は特定できなかった。

遺物は遺構検出面付近で出土した。後期初頭から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器・製塩土器、耳飾り6点、土製円盤6点、石鎌・石錐・打製石斧・砥石・凹石・磨石・骨製の笄等が出土した。

所属時期は晩期前葉から中葉にかけてと考えられる。

第100号住居跡（I - 第21～24図）遺物（II - 第239～241・278～284・534・536・537・542・551・

580・582・587・589・591～593・601・602・605・611・614・618図)

D区Z Y・Z Z-999・0グリッドに所在した。東側は調査区外であった。第102・112・114・124・128号住居跡と重複し、いずれの住居跡も切っていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、床面及び柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。なお、D区北側基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

残存長軸6.35m、残存短軸6.00mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.46mであった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦で、炉跡は調査区外に想定された。南壁際周囲に沿って焼土の薄層と一部粘土塊が検出された。また、南壁際で近世の井戸跡に一部壊されていたが埋甕が1基検出された。

柱穴は壁柱穴と中央から杭状の小穴が纏まって検出された。主柱穴及び入り口部に関連する柱穴は特定できなかった。壁柱穴は壁際に1列検出された。径0.15～0.25m前後の杭状の掘り込みであった。また、中央の小穴はP 6・7を除き浅い掘り込みであった。

埋甕は南壁寄り中央付近から検出された。残存長径0.85m、短径0.75m、深さ0.30mの楕円形の掘り込みで、底部を欠損する深鉢形土器が逆位で埋設されていた。

遺物は南西コーナー寄りの覆土中から、後期後葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器破片、土偶・耳飾り26点、土製円盤18点、ミニチュア土器4点、不明土製品（垂飾等）、礫器・打製石斧・磨石・石皿・石刀・垂飾等が纏まって出土した。この他に、覆土全体から中期後葉から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・注口土器・瓢形土器・深鉢形土器、剥片石器・磨製石斧・砥石・石錘等が出土した。

所属時期は埋甕及び覆土出土土器から、晩期前葉と考えられる。

第101号住居跡（I-第25図）遺物（II-第284・285・534・537・542図）

D区Z Y・Z Z-998・999グリッドに所在した。第106号住居跡・第669・790・791号土壙を切っていた。環状盛土遺構の外縁側に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。壁の立ち上がりは検出されなかった。

柱穴範囲から推定される規模は、長径3.80m、短径3.40m、壁柱穴列の配置から円形プランが想定される。主軸方位は不明であった。

床面は平坦で、厚さ約0.10mの貼床が検出された。

炉跡はほぼ中央から検出された。長径0.76m、短径0.62m、深さ0.10mの楕円形の地床炉であった。火床面はあまり焼けていなかった。

柱穴は壁柱穴を主体とし、主柱穴及び入り口部に関連する柱穴は検出されなかった。壁柱穴はP 1～27までの27本が検出され、径0.15～0.50m前後、深さ0.20～0.40m前後の杭状の掘り込みであった。P 8・26はやや内側で検出され、大形の掘り込みであった。

遺物は床面検出面付近より、後期前葉から晩期前葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、後期土偶1点、耳飾り2点、土製円盤3点等が出土した。

所属時期は第106号住居跡の重複関係と床面出土土器から、晩期前葉以降と考えられる。

第102号住居跡（I-第26図）遺物（II-第241・285・286・538・543・583・618図）

D区Z Y・Z Z-999・0グリッドに所在した。東側は調査区外であった。第112・114・124・128号住居跡と重複し、いずれの住居跡も切っていた。第100号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、床面及び柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。なお、D区北

壁基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

残存長軸3.05m、残存短軸3.00mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.26mであった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦で、炉跡は調査区外に想定された。床面全体に焼土の薄層が検出された。また、壁面の焼土はやや盛り上がっていた。

柱穴は壁柱穴と中央から2基検出された。主柱穴及び入り口部に関連する柱穴は特定できなかった。壁柱穴は壁際に1列検出された。径0.15~0.35m前後の杭状の掘り込みであった。また、P2は径0.40m前後でP1は深さ0.70mの深い掘り込みであった。

遺物は南西コーナー寄りの床面直上から、後期後葉の深鉢形土器が出土した。また、南壁際床面直上から耳飾り2点が並んで出土した。やや離れて石製垂飾1点が出土した。この他に、覆土全体から後期初頭から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・瓢形土器・深鉢形土器、土製円盤2点、礫器が出土した。

所属時期は後期後葉から晩期前葉にかけてと考えられる。

第103号住居跡（I - 第27・28図）遺物（II - 第241・286・287・538・543・551・595・597・610・613図）

D区Z Z - 998グリッドに所在した。西側は調査区外であった。第121号住居跡を切っていた。北側を古代の住居跡に、南側を第111号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の外縁側に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡及び床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。なお、D区南側基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

推定長軸5.85m、残存短軸4.10mの推定隅円長方形で、壁高は最も深い部分で0.34mであった。

主軸方位は不明であった。

床面はわずかに北側に傾斜していた。一部貼床が検出された。

炉跡は調査区南壁際より2基検出された。炉跡1は長径1.07m、残存短径0.58m、深さ0.20mの推定円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。炉跡2は長径0.66m、短径0.55m、深さ0.30mの橢円形の地床炉であった。覆土上層に灰層が堆積し火床面は良く焼けていた。

柱穴は壁柱穴が17本検出された。主柱穴及び入り口部に関連する柱穴は特定できなかった。

壁柱穴は壁際に1列検出された。径0.15~0.65m前後、深さ0.15~0.55mであった。

遺物はやや南東寄り覆土中から散在して出土した。東壁際からは、ミニチュア土器2点が出土した。この他に、覆土全体から早期末から晩期中葉にかけての壺・浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、製塙土器、耳飾り2点、土製円盤4点、敲石・磨石・石皿・軽石類等が出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

第104号住居跡（I - 第29~35図）遺物（II - 第241~247・288~295・538・543・544・552・579・581~583・585・586・588・589・593・595・598・599・603・605・606・608・611・612・616・619図）

D区Z Z - A - 998・999グリッドに所在した。第118・126号住居跡を切っていた。第106号住居跡・第534・580号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、多量の遺物集中範囲、炉跡及び床面、柱穴等が検出されたため、住居跡と認定した。

長軸5.35m、短軸4.12mの長方形で、壁高は最も深い部分で0.31mであった。主軸方位はN-21°-Eを指す。

床面は平坦であった。壁際を除いて焼土を含む硬化面（貼床）が検出された。

炉跡は中央やや南寄りから検出された。長径

0.86m、短径0.75m、深さ0.06mの楕円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

柱穴は主柱穴、入り口部、壁柱穴が検出された。主柱穴はP 7・8・16・35・42・43の6本で、P 7・8とP 42・43は重複していた。炉跡の対角線上に配置され、4本柱穴であった。入り口部に関連する柱穴は南壁中央に位置し、P 24～29までの6本が検出された。P 24・25とP 27・28では重複し2列となっていた。壁柱穴は壁際に1列に周回して検出された。径0.15～0.75m前後、深さ0.15～0.70mの杭状の掘り込みであった。

遺物は住居跡全体覆土中から多量の土器や土製品、石器等が出土した。このうち北東寄りから出土した晚期前葉の遺物については、第106号住居跡出土遺物が混入している可能性が高い。遺物は後期後葉から晚期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器等が多く破片の状態で出土した。入り口部上層から大形の深鉢形土器（第245図43）がつぶれた状態で、中央からは完形の鉢形土器（第246図56）が正位で出土した。入り口部床面直上から出土した台付鉢脚部（第246図51）内から、カモ科左右上腕骨、サギ科左脛足根骨、タカ科右尺骨が纏まって出土した。北東コーナー寄りでは耳飾り5点が纏まって出土した。

この他に、覆土全体から後期前葉から晚期中葉にかけての壺・吊手土器・瓢形土器・浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り8点、土製円盤62点、不明土製品（垂飾・鳥形）、石鏃・石匙・打製石斧・磨製石斧・砥石・敲石・磨石・石皿・台石・石剣・骨製の笄と垂飾未成品等が出土した。

所属時期は後期後葉から晚期前葉にかけてと考えられる。

第105号住居跡（I - 第36・37・43～45図）

D区ZY・ZZ-999グリッドに所在した。第106・114・118号住居跡・第559号土壙を切っていた。第99号住居跡・第530・573号土壙に切られていた。第584号土壙と重複していたが、新旧関係は不明

であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第99号住居跡床面構築土であるローム質土を除去後、遺構覆土と認定した土壤を掘り下げたところ、炉跡及び床面、柱穴等が検出されたため、住居跡と認定した。

本住居跡は、複数の炉跡、主柱穴の据え替え、入り口部の柱穴の重複、2列の壁柱穴が検出されたことから、拡張建て替え住居跡であったことが判明した。

第105a号住居跡（I - 第38～40図）遺物（II - 第247～249・296～301・538・539・545・552・580・582・586・588・590・593・596・598～606・608・611・614～616・618図）

拡張建て替え後の住居跡は長軸7.70m、短軸6.93mの隅円方形で、壁高は最も深い部分で0.15mであった。主軸方位はN-8°-Eを指す。

床面は平坦であった。壁際周囲の一部から貼床が検出された。

炉跡は中央に1基（炉跡1）と、南側入り口方向を除き三方を囲む焼土跡3箇所（焼土跡2・3・4）が検出された。炉跡1は長径1.06m、推定短径1.00m、深さ0.23mの不正円形で2段掘り込みの地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

柱穴は主柱穴、入り口部、壁柱穴が検出された。主柱穴はP 3・18・41・53・54・64の6本で、P 53・54は重複していた。炉跡と入り口部の軸線上にあるP 64を頂点とする5本柱穴であった。入り口部に関連する柱穴は炉跡1の南側1.5～2.5mに位置するP 32～34の3本が検出された。径0.30～0.55m、深さ0.70～0.80mの掘り込みの深い柱穴で、対ピットに対応するものと推察された。また南壁側P 26～39までが部分的に張り出していた。壁柱穴は壁際に1列に周回して検出された。径0.15～0.40m前後、深さ0.20～0.50mの杭状の掘り込みであった。

遺物は建て替え前の古住居跡住居に伴う可能性がある遺物も含めて一括して取り扱った。住居跡

の北東コーナーから南西コーナーにかけての壁寄りから纏まって検出された。東壁寄りから晩期前葉の浅鉢・台付鉢形土器が間隔を開けて出土した。南西コーナー寄りでは、同じく浅鉢・台付鉢形土器が纏まって出土した。壁際からは耳飾り7点が纏って出土した。特に北壁際では（第539図73・74）耳飾り2点が対で出土した。北東コーナーからは完形の土版（第552図412）が1点出土した。土版・ミニチュア土器は東壁寄りから出土した。磨石は他の土器と同様に壁際から纏まって出土した。石剣・石棒は北壁際から1本、炉跡南側から1本、南東コーナー寄りから1本出土した。特に入り口部脇から出土した完形の石剣（第616図389）は、すぐ西脇で端部中央に抉り込みを入れた板状の砥石（第590図114）と床面に張り付いた状態で、セットで出土した。

この他に、覆土全体から前期前葉から晩期中葉にかけての壺・浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り8点、土製円盤9点、土錐・ミニチュア土器・土版、石錐・礫器・打製石斧・磨製石斧・砥石・凹石・磨石14点・石皿・石錐・石棒・石剣・岩版等が出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

第105b号住居跡（I - 第41・42図）

拡張建て替え前の住居跡は長軸6.95m、短軸6.86mの隅円方形で、壁高及び主軸方位は建て替え後の住居跡と同一であった。床面は平坦であった。

炉跡は建て替え後の住居跡の炉跡1と共有していたと推察された。焼土跡はやや高いレベルから検出されたので、建て替え後の住居跡に伴う可能性が高い。

柱穴は主柱穴、入り口部、壁柱穴が検出された。主柱穴はP 5・12・25・35・42の5本が検出された。炉跡と入り口部の軸線上にあるP 42を頂点とする5本柱穴であった。入り口部に関連する柱穴は南壁中央に位置するP 20・22の2本が検出された。径0.30～0.50m、深さ0.70～0.90mの掘り込みの深い柱穴で、対ピットに対応するものと推察さ

れた。炉跡1の南東側P 13～16までと、南西側P 26・27までは、「ハ」の字状に開く連続ピットとして検出され、入り口部に関連する柱穴と推察された。また南壁側P 17～20・22～24までが部分的に張り出していた。

壁柱穴は壁際に1列に周回して検出された。径0.15～0.40m前後、深さ0.20～0.50mの杭状の掘り込みであった。

第106号住居跡（I - 第46～50図）遺物（II - 第249～251・301～303・534・539・545・552・579・585・591・600・604・606・614・615・617図）

D区Z Z - 998・999グリッドに所在した。第104・118号住居跡を切っていた。第99・101・105号住居跡・第534号土壙に切られていた。第536号土壙と重複していたが、新旧関係は不明であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第118号住居跡覆土除去中に炉跡を確認し、土層断面の確認と周囲の精査を実施した結果、北壁の一部及び周回する周溝、壁柱穴等が検出されたため、住居跡と認定した。

長径6.80m、推定短径5.48mの不整橢円形で、壁高は最も深い部分で0.12mであった。主軸方位はN - 28° - Wを指す。

南側の床面は第118号住居跡覆土掘削により消滅していた。炉跡及び北側壁際は平坦であった。炉跡周囲から硬化面（床面）が検出された。

炉跡は中央に検出された。長径0.95m、短径0.84m、深さ0.22mの円形の地床炉であった。環状に焼土が廻り、内部は骨粉を含む灰層が堆積していた。火床面は良く焼けていた。

柱穴は入り口部、壁柱穴が検出された。主柱穴はP 14・15・22・28・29など内側でやや大形の柱穴が検出されたが、特定はできなかった。入り口部に関連する柱穴は南壁想定ライン外側に位置するP 1が該当すると推察された。径0.45m、深さ0.10mの深い掘り込みであった。壁柱穴は北東側から北西・南西コーナーにかけて周回する壁溝に

沿って検出された。これとは別に南東コーナー側は壁溝の外側に間隔を開けて周回する柱穴列が検出された。径0.15~0.40m前後、深さ0.20~0.90mの杭状の掘り込みであった。

遺物は第104・118号住居跡出土遺物として一部を取り上げた。北寄りと中央から南西寄りの覆土中から纏まって出土した。北壁際から石棒2点と端部に抉り込みのある砥石1点、磨石1点、石錘1点が纏まって出土した。中央付近からは対になる耳飾り2点が近接して出土した。また、南東寄りからは独鉛石1点が出土した。この他に、後期前葉から晩期中葉にかけての壺・注口土器・浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、土偶・土製円盤6点、ミニチュア土器、石鏃・打製石斧・砥石・磨石等が出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

第107号住居跡（I - 第51~56図）遺物（II - 第251~254・303~307・539・545・546・553・582・584・586・588・593・595・598・604・614・615・619図）

D区Z Z - 999・0 グリッドに所在した。第113・115号住居跡を切っていた。第99・105・112・114号住居跡・近世の井戸跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第112・114号住居跡覆土掘り下げに伴い、新たな遺物集中範囲、炭化材の検出があり、さらに掘り下げたところ、壁の立ち上がり、炉跡、柱穴等が検出されたため、住居跡と認定した。

長軸6.80m、推定短軸5.45mの隅円方形で、壁高は最も深い部分で0.16mであった。主軸方位は炉跡2内出土の石棒と埋甕の配置からN-18° - Eが想定された。

覆土の大半は第112・114号住居跡によって削平されていた。床面は平坦であった。炉跡周囲約1mには焼土を伴う硬化面が検出された。また、西壁際からは、中央方向へ向かう炭化材が検出された。

炉跡は中央に2基重複して検出された。炉跡1

は推定長径1.56m、推定短径1.36m、深さ0.32mの円形の地床炉であった。焼土と灰層がドーナツ状となって堆積していた。炉跡1に接して炉跡2が検出された。南側に設置された炉を北側に造り替えていた。造り替え前の規模は、長径2.26m、推定短径1.21m、深さ0.16mの不整形と橢円形が重複した地床炉であった。

炉跡の周囲は炭化物の薄層が廻り、内部は多量の灰層と焼土層が堆積していた。造り替え後の炉跡の西寄りからは、頭部のみの石棒が立石して出土し、その南脇で深鉢形土器底部が逆位で埋置されて出土した。いずれも、炉跡使用後に設置されたものと推察された。

柱穴は主に壁柱穴が検出された。主柱穴は内側のP 1~5・8・10・12・16・19・22・31・32など環状に廻るやや大形の柱穴が検出されたが、特定はできなかった。入り口部を特定する柱穴は検出されなかった。壁柱穴は北側を除き間隔を開け周回して検出された。径0.20~0.45m前後、深さ0.20~1.00mの杭状の掘り込みであった。

遺物は西壁寄りの覆土上層から後期後葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器1個体と大形破片4点、磨石1点が纏まって出土した。北東側からは小形の耳飾り2点が出土した。炉跡2からは、立石して出土した石棒のほかに破碎、被熱された石棒2点、打製石斧が出土した。また、中央から西側にかけては後期後葉から晩期前葉にかけての台付鉢・深鉢形土器が散在して出土した。この他に、後期後葉から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り2点、土製円盤22点、土版・ミニチュア土器・不明土製品、礫器・打製石斧・砥石・敲石・磨石・石棒、ホオジロザメの歯等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第108号住居跡（I - 第57・58図）遺物（II - 第254・307・308・539・546・593~595・600・603図）

D区Z Z - 0・1、A - 1 グリッドに所在した。北東側は調査区外であった。また、西側の一部を

後世の搅乱によって壊されていた。第8号竪穴状遺構と重複していたが新旧関係は不明であった。第557号土壙に切られていた。第571号土壙と重複していたが、新旧関係は不明であった。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、遺物集中範囲、壁の立ち上がり、硬化面（床面）、柱穴等が検出されたため、住居跡と認定した。

また、北壁基本土層断面で住居跡覆土及び床面が検出された。

推定長軸6.00m、残存短軸2.05mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.30mであった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦であった。東側一部で貼床が検出された。炉跡は調査区外に想定された。

柱穴は内側でP1～3の3本のみ検出された。主柱穴、入り口部関連、壁柱穴は検出されなかつた。P2・3は径0.35～0.45m前後、推定の深さ0.50mのすり鉢状の掘り込みであった。

遺物は南コーナー寄りから晩期中葉の浅鉢形土器1個体、壺口縁部1点、台付鉢・深鉢形土器破片等が纏まって出土した。また、中央からは深鉢形土器破片、耳飾り1点、敲石1点、磨石1点、砥石1点が出土した。この他に、床面付近より前期中葉から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、土製円盤2点、敲石・磨石等が出土した。所属時期は晩期前葉から中葉にかけてと考えられる。

第109号住居跡（I－第59・60図）遺物（II－第254～256・308～313・539・546・547・553・592・593・597・605・609図）

D区ZY-998グリッドに所在した。北側の一部床面が流失していた。第121号住居跡・第9号竪穴状遺構・第776号土壙を切っていた。環状盛土遺構の外縁側傾斜面に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、遺物集中範囲、壁の立ち上がり、硬化面（床面）、柱穴等が検出さ

れたため、住居跡と認定した。本住居跡は上部遺物出土範囲と、遺物取り上げ後の再掘り下げに伴う最終遺構確定との2回の精査を実施したため、出土遺物の時期と遺構の構築時期とが必ずしも符合していない。

推定長径3.50m、推定短径3.15mの推定円形で、壁高は最も深い部分で0.15mであった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦であった。炉跡は検出されなかつたが、中央付近に焼土と炭化物の薄層が検出された。

柱穴は壁際で間隔を開け周回して検出された。径0.30m前後、深さ0.20～0.50mのすり鉢状の掘り込みであった。

遺物はやや南東寄りの覆土上層から後期後葉から晩期前葉にかけての浅鉢・角底鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り1点、土製円盤2点、不明土製品1点、砥石・石皿等が纏まって出土した。この他に、覆土中から後期前葉から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り3点、土製円盤33点、蓋1点、磨石等が出土した。所属時期は不明であった。

第111号住居跡（I－第61・62図）遺物（II－第256・257・313～315・540・547・553・579・580・583・587・599・606・615・616図）

D区ZZ-998グリッドに所在した。西側は調査区外であった。第103号住居跡を切っていた。第579・582号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。なお、D区南壁基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

長軸4.05m、残存短軸3.00mの推定不整方形で、壁高は最も深い部分で0.42mであった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦であった。炉跡は調査区南壁際より1基検出された。長径0.83m、短径0.78m、深さ0.41

mの円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

柱穴は北西コーナー・北東コーナー・東壁寄りから各2本、南壁寄りから1本の合計7本が検出された。径0.25~0.45m前後、深さ0.15~0.20mの掘り込みの浅い柱穴であった。P 1・2、P 3・4、P 6・7の3箇所と、南西調査区外に想定される1箇所と合わせて4本柱穴が想定された。入り口部及び壁柱穴は検出されなかった。

遺物はやや北側と南東コーナーの床面直上及び、覆土下層から纏まって出土した。北側からは土器破片の他に、石剣1点、打製石斧1点、礫器1点、磨石1点が出土した。南東コーナーからは小形のほぼ完形の深鉢形土器、耳飾り3点、石鏃1点、磨石1点が纏まって出土した。この他に、後期前葉から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り2点、土製円盤3点、ミニチュア土器、石匙・礫器・打製石斧・磨石・石棒等が出土した。所属時期は晩期前葉と考えられる。

第112号住居跡（I－第63~65図）遺物（II－第257・258・315~317・540・547・553・586・606・612・618図）

D区ZY・ZZ-999・0グリッドに所在した。東側は調査区外であった。また、南壁側中央を近世の井戸跡によって壊されていた。第107・113・128号住居跡を切っていた。第100・102・114・124号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第114号住居跡覆土掘り下げに伴い、新たに壁の立ち上がり、床面及び柱穴、炭化材が検出されたため住居跡と認定した。

残存長軸725m、残存短軸695mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.18mであった。推定主軸方位はN-7°-Wを指す。

床面は平坦で西側壁際から炭化材が出土した。炉跡は調査区外に所在したが、第102号住居跡によって壊されていた。

柱穴は壁柱穴のみ検出された。主柱穴及び入り口部に関連する柱穴は特定できなかった。壁柱穴は壁際に2列検出された。径0.15~0.30m前後、深さ0.10~1.10m前後の杭状の掘り込みであった。

遺物は南西コーナー寄りの覆土下層から纏まって出土した。P 5内からは、台石が1点出土した。また、西側からは後期後葉の深鉢形土器1個体、浅鉢・台付鉢形土器、異形台付土器が出土した。この他に、覆土全体から前期中葉から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り1点、土製円盤6点、打製石斧・磨石・垂飾等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第113号住居跡（I－第66~68図）遺物（II－第258~260・317~319・547・553・579・580・610・615図）

D区ZZ-999・0、A-0グリッドに所在した。北側中央を近世の井戸跡によって壊されていた。第115・133号住居跡を切っていた。第107・112・114号住居跡・第731号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第107号住居跡覆土掘り下げに伴い、新たに壁の立ち上がり、炉跡、床面の一部、柱穴、炭化材が検出されたため、住居跡と認定した。

残存長軸6.64m、残存短軸6.55mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.19mであった。主軸方位は不明であった。

床面の大半は第107・114号住居跡によって壊されていた。検出された範囲は平坦であった。東側壁際から炭化材が出土した。

炉跡は中央やや西よりから検出された。推定長径1.18m、推定短径1.10m、深さ0.10mの円形の地床炉であった。火床面はあまり焼けていなかった。

柱穴は壁柱穴のみ検出された。主柱穴及び入り口部に関連する柱穴は特定できなかった。東壁から南西コーナーにかけて1列検出された。径0.15~0.55m前後、深さ0.20~0.60m前後の杭状の掘り込みであった。

遺物は南東コーナー寄りの床面付近から纏まって出土した。P11内より後期後葉の注口土器が出土した。また、周囲から瓢形土器・浅鉢・深鉢形土器破片・不明土製品1点が出土した。この他に、覆土全体から後期初頭から晩期中葉にかけての壺・浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、土製円盤2点、石鏃・石皿・石棒等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第114号住居跡 (I - 第69~74図) 遺物 (II - 第260・261・319~322・540・547・548・553・581・585・590・594・595・600~602・604~606・615・618図)

D区Z Z - 999・0 グリッドに所在した。中央やや東寄りを近世の井戸跡によって壊されていた。第107・112・113・115・128・131・132号住居跡を切っていた。第99・100・102・105・124号住居跡・第731号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、壁の立ち上がり、炉跡、床面、柱穴、炭化材が検出されたため、住居跡と認定した。

推定長軸840m、推定短軸820mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.26mであった。主軸方位は不明であった。

北側の床面は第100号住居跡によって壊されていた。検出された範囲は平坦であった。西側壁際から炭化材が出土した。壁に沿う材と直交する材の2種類が検出された。

炉跡は中央やや西寄りから1基検出された。長径0.81m、短径0.69m、深さ0.12mの楕円形の地床炉であった。炉跡周囲を炭化物の薄層が廻っていた。火床面はあまり焼けていなかった。

柱穴は壁柱穴と内側から3本柱穴が検出された。主柱穴は西側のP56・82の2本が検出された。径0.55~0.65m、深さ0.60~1.05mの大形で深い掘り込みであった。この他に近世井戸跡内の1本と第107号住居跡と共有する可能性がある1本と合

わせて4本柱穴が想定される。入り口部に関連する柱穴は特定できなかった。壁柱穴は北壁側を除き西壁側から南壁側一部にかけては2列で他は1列で検出された。径0.15~0.40m前後、深さ0.10~1.10m前後の杭状の掘り込みであった。

遺物は西側から纏まって出土した。中央付近では後期後葉の深鉢形土器破片が纏まって出土した。西側では、石篋1点、磨石2点、打製石斧1点、石棒1点が出土した。南壁寄りからは、深鉢形土器、打製石斧1点、磨石2点が出土した。この他に、覆土全体から後期初頭から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り4点、土製円盤27点、異形台付土器・土錘、敲石・磨石・垂飾等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第115号住居跡 (I - 第75~80図) 遺物 (II - 第262・263・322~327・540・548・585・587・589・592・593・598・604・607・611・615図)

D区Z Z - A - 0 グリッドに所在した。第116・131・133号住居跡を切っていた。第107・113・114号住居跡・第750号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第113・114号住居跡掘り下げに伴い、壁の立ち上がり、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

長軸6.55m、推定短軸6.35mの方形で、壁高は最も深い部分で0.14mであった。主軸方位はN - 2° - Eを指す。

西側の一部床面は第107号住居跡によって壊されていた。検出された範囲は平坦であった。

炉跡は中央やや西寄りから1基検出された。長径1.10m、短径1.08m、深さ0.14mの円形の地床炉であった。土層断面の状況より炉跡の造り替えが行われたと推察された。火床面は良く焼けていた。

柱穴は北壁側のみ壁柱穴が検出されたが、この他は、纏まりに欠けて検出された。南壁中央からは、入り口部に関連する柱穴が検出された。

主柱穴は特定できなかった。入り口部に関連す

る柱穴は炉跡南側1.50mに位置するP 1～13までの「ハ」の字状に開く柱穴列が検出された。大形で掘り込みの浅い柱穴と掘り込みの深い柱穴が連結していた。壁柱穴は北壁寄りで検出された。径0.15～0.40m前後、深さ0.20～0.80m前後の杭状の掘り込みであった。この他に、炉跡の周囲からやや大形で掘り込みの深い柱穴が連接して検出された。このような柱穴の配列は別の住居跡が存在した可能性も想定された。

遺物は床面付近から散在して出土した。中央東寄りからは、後期後葉の深鉢形土器と共に、磨石1点、石皿1点、石棒1点が出土した。南東寄りからは、瓢形土器・深鉢形土器と共に、打製石斧2点、磨石1点、石皿1点が出土した。この他に、覆土全体から前期中葉から晩期中葉にかけての壺・瓢形土器・鉢・台付鉢・深鉢形土器、耳飾り1点、土製円盤12点、磨製石斧・砥石等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第116号住居跡（I - 第81～85図）遺物（II - 第263～266・327～330・548・554・587・588・598・613図）

D区Z Z・A-0グリッドに所在した。第120・122・133号住居跡を切っていた。第107・113・114・115号住居跡・第750号土壙に切られていた。環状盛土遺構の中央からやや内縁側に位置していた。

第115号住居跡掘り下げに伴い、新たに壁の立ち上がり、炉跡及び床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

推定長軸8.10m、推定短軸6.00mの長方形で、壁高は最も深い部分で0.08mであった。主軸方位はN-17°-Eを指す。

床面の大半は第115号住居跡による削平を受けていた。検出された範囲は平坦であった。

炉跡は中央から1基検出された。長径1.42m、短径1.00m、深さ0.11mの楕円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

柱穴は壁柱穴と入り口部に関連する柱穴が検出されたが、主柱穴は検出されなかった。

入り口部に関連する柱穴は炉跡南側2.50mに位置するP 1・2の2本の柱穴が検出された。P 1は長径1.10m、短径0.95m、深さ0.20mの楕円形の浅い掘り込みの中央から小穴が1基検出された。P 2は長径1.45m、短径1.10mの不整形の荒い掘り込みであった。壁柱穴は北壁から東壁にかけて2列検出された。径0.15～0.50m前後、深さ0.15～1.10m前後の杭状の掘り込みであった。

遺物は南寄りの覆土上層と下層に分かれて出土した。東壁際では後期後葉の深鉢形土器と共に、台付鉢形土器が1個体出土した。入り口部周囲からは後期後葉の深鉢形土器と共に、鉢・浅鉢形土器破片、打製石斧1点、磨石・軽石類等が出土した。この他に、覆土全体から後期初頭から晩期中葉にかけての浅鉢・台付鉢・深鉢形土器、土製円盤2点、ミニチュア土器1点、土錐1点、不明土製品1点、磨製石斧等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第117号住居跡（I - 第86～88図）遺物（II - 第266・267・330～332・584・588・593・594・604・613・618図）

D区A-999・0グリッドに所在した。第119・133号住居跡を切っていた。第547・548号土壙に切られていた。第555・675号土壙と重複していたが、新旧関係は不明であった。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

盛土包含層及び第547・548号土壙の掘り下げに伴い、遺物集中範囲及び炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

長軸5.17m、短軸4.55mの不整形で、壁高は最も深い部分で0.23mであった。主軸方位は不明であった。

床面は中央がやや窪んでいた。炉跡周囲に硬化面が検出された。

炉跡は中央やや東寄りから1基検出された。長

径0.75m、短径0.68m、深さ0.20mの円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

柱穴は壁柱穴のみ検出された。壁柱穴は壁際よりやや内側に間隔を開けて1列検出された。径0.25~0.45m前後、深さ0.15~0.85m前後で、浅い掘り込みの柱穴と深い掘り込みの柱穴が交互に検出された。

遺物は北寄りの覆土上層から小破片が纏まって出土した。北壁際では晩期前葉から中葉にかけての台付鉢破片が纏まって出土した。南壁際では晩期の土器と共に、後期前葉から後葉にかけての浅鉢・深鉢形土器が出土した。この他に、覆土全体から中期後葉から晩期中葉にかけての壺・注口土器・浅鉢・深鉢形土器、打製石斧・磨製石斧・砥石・敲石・磨石・浮子・垂飾等が出土した。

所属時期は晩期前葉から中葉にかけてと考えられる。

第118号住居跡（I－第89~101図）遺物（II－第267~270・332~337・534・535・540・541・549・550・554・579~581・592・593・597・598・601・603・604・606~608・613・619図）

D区ZZ・A-998・999グリッドに所在した。南西コーナーの一部を古代の住居跡によって壊されていた。第126号住居跡・第779・781・783号土壙を切っていた。第99・104~106号住居跡・グリッドピットに切られていた。晩期掘り返し範囲内は、床面が壊されていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第104号住居跡覆土の掘り下げに伴い、新たに遺物集中範囲、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。本住居跡は、主柱穴が2回の据え替えを行っていたこと、柱穴が複数列検出されたこと、南側入り口部が外側に拡張していたこと、方向を変えていたことなどから、2回の拡張建て替え住居跡であることが判明した。また、床面下の壁周囲を中心として掘り込みの深く大きな掘り方が検出された。

長軸8.45m、短軸7.46mの隅円方形で、入り口部は張り出していた。壁高は最も深い部分で0.26mであった。主軸方位はN-10°-Wを指す。

床面は平坦であった。西側壁寄りの住居跡拡張範囲から貼床が検出された。炉跡周囲に焼土・灰・炭化物を伴う硬化面が検出された。また、第779号土壙と第786号土壙の外周部分は焼土を伴う貼床で覆われていた。

炉跡はやや南側入り口部寄りから2基連接して検出された。新炉は長径2.20m、短径1.60m、深さ0.38mで2段掘り込みの不整円形の地床炉であった。覆土には多量の粘土化した灰と炭化物が堆積していた。火床面は良く焼け被熱赤化していた。旧炉は、新炉の南東側に重複して検出された。長径0.90m、短径0.67m、深さ0.14m不整橜円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

柱穴は主柱穴、入り口部関連の柱穴、壁柱穴が検出された。この他にも内側から大形で掘り込みの深い柱穴が検出された。最も古い主柱穴はP5・6・90・100の4本柱穴で、炉跡の対角線上に位置していた。第1回目の建て替えに伴う主柱穴はP3・4・7・91の4本柱穴が検出された。2回目の建て替えに伴う柱穴はP1・2・4・8の4本柱穴で、このうちP4は第1回目の建て替えに伴う柱穴と共有していた。

入り口部は、炉跡南側から検出された。住居跡南壁から約1.30m「コ」の字型に張り出し、周溝と掘り込みの深い柱穴列であった。柱穴は炉跡南側0.70mに位置するP9~30・32で構成されていた。旧入り口部は重複が著しいが、P13・16・27・31が該当すると推察された。この他に、西壁際中央から検出されたP47・48と掘り方掘削時に新たに検出されたP107の大形で掘り込みの深い3本の柱穴は、入り口部の方向替えに関連する柱穴の可能性がある。

壁柱穴は、北壁から東壁にかけては新・旧とも共有していたと推察され、南西コーナーから北東

コーナーにかけては、周溝と柱穴が複数列検出された。

古い壁柱穴は、P92・94～97が該当すると推察された。第1回目の建て替えに伴う壁柱穴は内側周溝を伴うP37～44・60～64が該当すると推察された。2回目の建て替えに伴う壁柱穴は、外側周溝に伴い西側に拡張された柱穴が該当すると推察された。

この他に、P93・101など大形で掘り込みの深い柱穴が検出されたが、別の遺構に伴う可能性も推察された。

掘り方は壁側に沿って幅広く、深く掘り込まれていた。特に炉跡南側0.50mに位置するピット状の掘り込みはオーバーハングしていた。さらに、左右「ハ」の字状に繋がり、底面には焼土と炭化物の薄層が堆積していた。

遺物は第104号住居跡範囲を除いた北寄りの床面直上から覆土下層にかけて、纏まって出土した。北壁寄りからは、鉢・台付鉢・深鉢形土器が纏まって出土した。また、入り口部寄りでは、注口土器破片が1点出土した。石器は壁際から石鏃・石錐・磨石・砥石・石皿・軽石類等が出土した。

この他に、覆土全体より早期末から晩期中葉にかけての壺・注口土器・瓢形土器・浅鉢・深鉢形土器、土偶3点、耳飾り11点、土製円盤44点、土版1点、不明土製品1点、石匙、骨製のヤス等の多量の遺物が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第119号住居跡（I - 第102・103図） 遺物（II - 第270・338・339・554・593・598・607図）

D区A-999グリッドに所在した。西側は調査区外であった。第610・677・678・707・708・721号土壙を切っていた。第117号住居跡・第552・553号土壙に切られていた。第670号土壙と重複していたが、新旧関係は不明であった。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

盛土包含層及び第117号住居跡の掘り下げに伴

い、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。D区南壁基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

残存長軸7.00m、残存短軸6.90mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.54mであった。主軸方位は不明であった。

床面はやや凹凸があった。ほぼ全面から厚さ0.05mの貼床が検出された。

炉跡は中央やや東寄りの炉跡1と、南側の調査区壁際の炉跡2の合計2基が検出された。炉跡1は長径0.64m、短径0.45m、深さ0.10mの楕円形の地床炉であった。大部分はグリッドピットに壊されていた。火床面はあまり焼けていなかった。炉跡2は大半が第830号土壙に壊されていたため規模は不明であった。火床面は良く焼けていた。遺構内における位置が南側に偏りすぎているので本住居跡に伴わない可能性がある。

柱穴は壁柱穴と、内側に不規則な配列を伴う柱穴が検出された。主柱穴、入り口部に伴う柱穴は特定できなかった。南側壁寄りからはP27・30・33などのやや大形の柱穴が纏まって検出された。壁柱穴は壁際よりに間隔を開けて1列検出された。径0.25～0.75m前後、深さ0.20～1.15m前後で、小形で浅い掘り込みの柱穴と、大形で深い掘り込みの柱穴が検出された。

遺物は覆土中から小破片が散在して出土した。中期末葉から晩期中葉にかけての壺・浅鉢・深鉢形土器、ミニチュア土器1点、土製垂飾1点、砥石・磨石・石皿等が出土した。所属時期は後期後葉と考えられる。

第120号住居跡（I - 第104～106図） 遺物（II - 第270・339～343・550・554・589・610図）

D区Z Z・A-0・1グリッドに所在した。第122号住居跡・第818号土壙を切っていた。第116号住居跡・第797号土壙・第16号不明遺構に切られていた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

盛土包含層及び第16号不明遺構の掘り下げに伴い、遺物集中範囲、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。本住居跡は第122号住居跡と一括して調査を行った。

長径6.27m、短径5.56mの不整形で、北側に入り口部が張り出していた。壁高は最も深い部分で0.43mであった。主軸方位はN-158°-Eを指す。

床面は中央がやや窪んでいた。また、下層の第122号住居跡の影響を受け、不均一であった。

炉跡は中央やや北寄りから1基検出された。長径0.69m、短径0.52m、深さ0.21mの不整橢円形の地床炉であった。炉跡の西側一部を土器片で囲っていた。火床面はあまり焼けていなかった。

柱穴は壁際から5本の柱穴が不規則に配置されて検出された。径0.40~0.55m前後、深さ0.15~0.95m前後で、P5を除き浅い掘り込みの柱穴であった。入り口部は、北側にスロープ状の張り出しが設けられていた。周囲から柱穴等は検出されなかった。

遺物は南寄り覆土中から小破片が散在して出土した。前期後葉から晩期中葉にかけての壺・浅鉢・深鉢形土器、ミニチュア土器1点、土錘1点、磨製石斧・石皿等が出土した。

所属時期は後期中葉から後葉にかけてと考えられる。

第121号住居跡（I-第107・108図）遺物（II-第270・343・344・612・617図）

D区ZY・ZZ-998グリッドに所在した。西側の一部は調査区外であった。南東壁寄りを近世の井戸跡に壊されていた。第766~769・777号土壙を切っていた。第103・109号住居跡・第600・603・604号土壙に切られていた。第711・714号土壙と重複していたが、新旧関係は不明であった。環状盛土遺構の外縁側傾斜面に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い炉跡、床面、入り口部、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

残存長径6.55m、推定短径4.55mの不整形で、

南東側のみ壁が検出された。壁高は最も深い部分で0.22mであった。主軸方位はN-146°-Eを指す。

床面は北西の入り口部付近は流失し、斜面方向に傾斜していた。他は平坦であった。炉跡の周囲から硬化面が検出された。

炉跡は中央より1基検出された。長径0.65m、短径0.55m、深さ0.21mの不整形の地床炉であった。火床面はあまり焼けていなかった。

柱穴は主柱穴、入り口部関連の柱穴、壁柱穴が検出された。主柱穴は、P2・58を頂点とし、P11・12、P41・42、P51・52の重複を伴う5本柱であった。入り口部は北西側にやや張り出し、P22~28までの柱穴が該当すると推察された。対になる北東側の柱穴は検出されなかった。壁柱穴は南壁側P1~6・8・9・56~59の壁柱穴と、北辺側P39~48までの列状の柱穴列が検出された。径0.20~0.35m前後、深さ0.30~0.60m前後の杭状の掘り込みであった。

遺物はP35より台石1点が出土したほか、前期中葉から後期後葉にかけての瓢形土器・浅鉢・深鉢形土器、石冠等が出土した。

所属時期は後期中葉から後葉にかけてと考えられる。

第122号住居跡（I-第109図）遺物（II-第270・271・344・345・583図）

D区ZZ・A-0・1グリッドに所在した。第120号住居跡の下層から検出された。第116号住居跡・第797号土壙・第16号不明遺構に切られていた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

第120号住居跡の掘り下げに伴い、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。本住居跡は第120号住居跡と一括して調査を行った。

長径5.45m、短径4.56mの橢円形で、壁高は最も深い部分で0.30mであった。主軸方位は不明であった。

床面は中央がやや窪んでいた。また、壁周囲は

固く締まっていなかった。

炉跡は検出されなかつたが、覆土上層に焼土・炭化物・骨粉の薄層が検出された。

柱穴は内側寄りで、4本の柱穴が方形に配置されて検出された。径0.35~0.45m前後、深さ0.10~0.60m前後で、P 2を除き浅い掘り込みの柱穴であった。入り口部は検出されなかつた。

遺物は南寄り覆土中から小破片が散在して出土した。前期中葉から晩期前葉にかけての注口土器・浅鉢・深鉢形土器、礫器が出土した。所属時期は後期中葉と考えられる。

第123号住居跡（I - 第110・111図）遺物（II - 第271・345・346・600・609図）

D区A-1グリッドに所在した。北側一部は調査区外であった。第746・834号土壙を切っていた。第16号不明遺構に切られていた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

残存長径7.65m、残存短径6.87mの不整形が想定された。壁の立ち上がりは検出されなかつた。主軸方位は不明であった。

床面は炉跡周囲のみ硬化面が検出された。周囲に硬化面が検出されなかつたため、柱穴確定の精査のため想定床面を除去した。

炉跡は中央より1基検出された。長径1.21m、短径1.01m、深さ0.22mの不正円形の土器埋設炉であった。炉跡の中央やや東寄りに堀之内2式の屈曲鉢形土器が正位で埋設されていた。埋設土器の上部はロームブロックで覆われていた。覆土は灰・炭化物・焼土が堆積していた。火床面はあまり焼けていなかつた。

柱穴は炉跡を中心として半径4.00mの範囲で大形の柱穴と小形の柱穴が不規則に検出された。P 5~18は直線状に配置されていた。主柱穴、入り口部関連の柱穴は特定できなかつた。

遺物は炉跡出土の屈曲鉢のほか、後期前葉から

晩期中葉にかけての壺・浅鉢・深鉢形土器、磨石・石皿が出土した。所属時期は炉跡出土埋設土器から後期前葉と考えられる。

第124号住居跡（I - 第112・113図）遺物（II - 第271・346・347・541・550・604図）

D区Z Y・Z Z-999・0グリッドに所在した。東側は調査区外であった。第112・114・128号住居跡を切っていた。第100・102号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第102号住居跡掘り下げに伴い、床面及び柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。なお、D区北壁基本土層断面上で当該住居跡の覆土が検出された。

残存長軸4.40m、残存短軸4.30mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.28mであった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦で、南側壁寄りに焼土ブロックの薄層が堆積していた。炉跡は調査区外に想定された。

柱穴は壁柱穴のみ検出された。柱穴及び入り口部に関連する柱穴は特定できなかつた。壁柱穴は壁際に南側は2列、他は1列検出された。径0.15~0.45m前後、深さ0.10~0.50m前後の杭状の掘り込みであった。

遺物は覆土全体より後期前葉から晩期中葉にかけての深鉢形土器、耳飾り5点、土製円盤5点、磨石が出土した。

所属時期は後期後葉と考えられる。

第126号住居跡（I - 第114図）遺物（II - 第271・347・348図）

D区Z Z・A-999グリッドに所在した。第739号土壙を切っていた。第118号住居跡によって北側半分を削平されていた。第104号住居跡・第572号土壙・グリッドピットに切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第118号住居跡入り口部検出に伴い、新たに遺物集中範囲、炉跡、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

推定長径4.15m、残存短径1.68mの隅円方形が想定された。壁高は最も深い部分で0.23mであった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦であった。一部貼床が検出された。南側壁際で一部周溝が検出された。

炉跡は第118号住居跡P 16・26に大半を壊されていた。推定径0.25m、深さ約0.05mの掘り込みの浅い地床炉であった。火床面はあまり焼けていなかった。

柱穴は4本が検出された。径0.40~0.50m、深さ0.10~1.00mでP 1・3・4は主柱穴が想定された。入り口部関連の柱穴、壁柱穴は検出されなかった。

遺物は晩期前葉の深鉢形土器が出土したが、第114号住居跡の重複関係と、上層より中期末葉の土器が出土したので所属時期は中期末葉が想定される。

第128号住居跡（I - 第115~118図） 遺物（II - 第272・348・349・554・584・587・594図）

D区Z Z - 999・0、Z Y - 999グリッドに所在した。重複する住居跡の最下層から検出された。環状盛土遺構の中央に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、壁の立ち上がり、炉跡、埋甕、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。本住居は入り口部方向を東側から西側に換えた建て替え住居跡であった。

新住居跡は長径7.55m、短径6.50mの不整橜円形で、壁高は最も深い部分で0.36mであった。主軸方位はN - 110° - Eを指す。

床面は南側から北側に向かってわずかに傾斜していた。西側入り口部から東辺除いて南北両方向に壁周溝が廻っていた。

炉跡は中央やや東寄りから1基検出された。長径0.70m、短径0.62m、深さ0.12mの円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

炉跡の一部を壊して東脇から埋甕が1基検出された。長径0.95m、短径0.72m、深さ0.46mの不整

形の掘り込みに壠之内2式の大形の深鉢形土器が逆位で埋設されていた。底部は床面より約0.20m高い位置にあったので、本来の掘り込みはさらにあったものと推察された。また、第100号住居跡柱穴によって底部の一部を壊されていた。埋甕は掘り方底面を整地したのち埋設されていた。埋甕内から骨片等は検出されなかった。

柱穴は壁柱穴と入り口部に関連する柱穴が検出された。入り口部は西側でP 6・7・14を起点として「コ」の字状に張り出す周溝が廻っていた。壁柱穴は壁周溝に沿いP 1~5・8~13・15~29・32~34・36~39が検出された。

古住居跡は長径6.45m、短径6.10mの不整橜円形で、壁の立ち上がりは検出できなかった。主軸方位はN - 91° - Wを指す。

床面は新住居跡によって壊されていた。また、炉跡も新住居跡と共有していた。

柱穴は東側のP 54~57の4本が検出された。P 30・36を起点として「ハ」の字状に張り出すと想定された。壁柱穴は新住居跡の柱穴の一部を共有し、これにP 25~53が検出された。

遺物は覆土全体から前期後葉から晩期中葉にかけての浅鉢・深鉢形土器、土製垂飾1点、打製石斧・敲石が出土した。

所属時期は埋甕の時期から後期前葉以前と考えられる。

第129号住居跡（I - 第119・120図） 遺物（II - 第273・349・580・614図）

D区A - 1・2、B - 2グリッドに所在した。北東側は調査区外であった。第770号土壙を切っていた。環状盛土遺構の内縁側に位置していた。

盛土包含層掘り下げに伴い、床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。本住居は柱穴の配列が2列で検出されたことから拡張建て替えの住居跡であった。

新住居跡（S J 129 a）は推定長径7.50m、残存短径3.50mの不整橜円形で、壁の立ち上がりは検

出されなかった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦であった。炉跡は検出されず、調査区外に想定された。

柱穴は壁柱穴のみ検出された。P 1～34の34本が検出された。径0.20～1.05m、深さ0.15～1.15mの小形で浅い掘り込みの柱穴と、大形で深い掘り込みの柱穴の2種類が検出された。大形の柱穴はP 1・2・5・9・15・19・21・25・34などが一定の間隔を開けて配置されていた。

古住居跡（S J 129b）は残存長径6.60m、残存短径3.30mの不整橢円形で、壁の立ち上がりは検出できなかった。主軸方位はN-91°-Wを指す。

床面は新住居跡と共有していた。炉跡は検出されず、調査区外に想定された。

柱穴はP 1～7の7本が検出された。径0.45～0.95m、深さ0.45～0.75mのやや大形で掘り込みの深い柱穴であった。P 2は新住居跡P 1に切られていた。

遺物は床面付近より後期初頭から晩期中葉にかけての浅鉢・鉢・深鉢形土器、石錐・石錘が出土した。所属時期は不明であった。

第130号住居跡（I-第121図） 遺物（II-第349・535・606・608図）

D区ZZ-999・0グリッドに所在した。北東側一部は調査区外であった。南東側を近世の井戸跡によって壊されていた。第128・131・132号住居跡を切っていた。第100・102・107・112・114・124号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第107号住居跡床面精査に伴い、下層に新たな焼土分布範囲、硬化面（床面）、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

壁の立ち上がりは検出されず、硬化面（床面）の範囲を住居跡の範囲と想定した。

推定長径5.70m、残存短径5.10mの不整形で、主軸方位は不明であった。

床面は焼土・炭化物を含む硬化面として検出さ

れた。また、西側に焼土の薄層が分布していた。

炉跡は検出されなかった。

柱穴は壁柱穴のみ検出された。P 1～16が不規則な配列で検出された。径0.20～1.00m、深さ0.25～0.80mの杭状の掘り込みで、西側は小形の柱穴が周回し、東側は大形の柱穴P 1～3が配置されていた。なお、P 8からは炭化材が検出された。

遺物は、P 2覆土中より晩期の土偶が出土した。この他に、床面付近より後期前葉から晩期前葉にかけての深鉢形土器、磨石・石皿が出土した。所属時期はP 2の遺物は上層の遺構からの混入と考えられ後期前葉から後葉にかけてと考えられる。

第131号住居跡（I-第122～125図） 遺物（II-第273・350・351・535・550・608・615図）

D区ZZ-A-999・0グリッドに所在した。第128・133号住居跡を切っていた。第107・113・114・115・116・130・132号住居跡・第8号竪穴状遺構に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第116・132号住居跡床面精査に伴い、下層から炉跡、床面、入り口部に関連する柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。本住居跡は、第132号住居跡と一括して調査した。

残存長軸10.65m、推定短軸7.30mの推定方形で、南側に入り口部が張り出して検出された。壁の立ち上がりは検出されなかった。主軸方位は炉跡1に対しては、N-50°-Eを指し、炉跡2に対しては、N-84°-Eを指す。

北側の一部床面は第132号住居跡によって壊されていた。検出された範囲は平坦であった。

炉跡は中央やや東寄りと西寄りから1基ずつ検出された。西寄りの炉跡1は長径1.05m、短径0.83m、深さ0.14mの橢円形の地床炉であった。火床面はあまり焼けていなかった。東寄りの炉跡2は長径1.75m、短径1.28m、深さ0.20mの橢円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

北壁側と東壁側の柱穴は第132号住居跡によっ

て壊されていた。西壁側から南壁側にかけての壁柱穴、入り口部関連の柱穴が検出された。内側から柱穴は検出されたが主柱穴を特定することはできなかった。入り口部に関連する柱穴は炉跡南側約230mに位置するP 1～11までの「ハ」の字状に開く柱穴列が検出された。各柱穴は周溝によって連結されていた。大形で掘り込みの深いP 1・8、P 4・6が対ピットに該当すると推察された。壁柱穴は西壁寄りから南壁寄りにかけて検出された。径0.15～0.65m前後、深さ0.15～0.60m前後の杭状の掘り込みであった。この他に、炉跡1の周囲でP 38～42の小形の柱穴が検出されたが性格は不明であった。

遺物は床面付近から散在して出土した。前期中葉から晩期中葉にかけての瓢形土器・浅鉢・深鉢形土器、土偶1点、土製円盤5点、石皿・石棒等が出土した。

所属時期は後期後葉以前と考えられる。

第132号住居跡（I - 第124～127図）遺物（II - 第351・352・541・550・579図）

D区Z Y・Z Z - 999・0グリッドに所在した。北東側は調査区外であった。南東側を近世の井戸跡によって壊されていた。第128・131号住居跡を切っていた。第100・102・112～115・130号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第107・114・115号住居跡床面精査に伴い、下層から床面、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。本住居跡は、第131号住居跡と一括して調査した。

残存長軸5.70m、残存短軸5.05mの推定方形であった。土層断面上で確認された壁の立ち上がりは0.20mであった。主軸方位は不明であった。

床面は平坦であった。炉跡は検出されず、調査区外に想定された。

柱穴は入り口部に関連する柱穴と壁柱穴が検出された。入り口部は南側に位置し、P 6～17まで

の小形の柱穴が「コ」の字状に張り出して検出された。壁柱穴は西辺側から南辺側にかけて検出された。径0.15～0.75m前後、深さ0.15～0.75m前後の杭状の掘り込みであった。

遺物は床面付近から散在して出土した。早期から晩期中葉にかけての深鉢形土器、耳飾り3点、土製円盤1点、石鎌が出土した。所属時期は後期後葉以前と考えられる。

第133号住居跡（I - 第128・129図）遺物（II - 第273・274・352・353・579・613図）

D区Z Z・A - 999・0グリッドに所在した。北西側は第107・114号住居跡によって削平されていた。第134号住居跡を切っていた。第107・112～117・131号住居跡に切られていた。環状盛土遺構の中央に位置していた。

第107・131号住居跡床面精査に伴い、下層から炉跡、床面、入り口部、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

推定長軸4.45m、短軸7.95mの推定方形で、壁高は最も深い部分で0.11mであった。主軸方位はN - 34° - Wを指す。

床面は平坦であった。炉跡は中央から1基検出された。第107・115号住居跡柱穴に南側周囲を壊されていた。残存長径0.85m、短径0.73m、深さ0.24mの円形の地床炉であった。火床面は良く焼けていた。

柱穴は入り口部に関連する柱穴と壁柱穴が検出された。入り口部は炉跡南側約1.60mに位置し、P 11～16までの小形の柱穴が周溝で連結され、「コ」の字状に張り出して検出された。P 11・12、P 13・16が対ピットに該当した。北壁側の壁柱穴は、第107・114号住居跡によって壊されていた。南辺側にかけては不規則な配置で検出された。径0.15～0.45m前後、深さ0.15～0.75m前後の杭状の掘り込みであった。南西コーナー寄りのP 25の覆土上層からは、後期中葉から後葉にかけての注口土器1個体が傾いた状態で出土した。P 25は、径

0.60m、深さ0.60mの円形の掘り込みの大形の柱穴で、柱痕抜き取り後に埋置されたことが判明した。

遺物は床面付近から散在して出土した。中期後葉から晩期前葉にかけての浅鉢・深鉢形土器、石鏃等が出土した。所属時期はP25出土の注口土器から後期後葉以前と考えられる。

第134号住居跡（I - 第130図）遺物（II - 第274・353図）

D区A-0グリッドに所在した。住居跡本体の大部分は、第115・131・133号住居跡等によって削平されていた。第113～116・131・133号住居跡に切られていた。環状盛土遺構のやや内縁側に位置していた。

第115号住居跡入り口部、第116号住居跡床面精査に伴い、新たに炉跡、入り口部が検出されたため、住居跡と認定した。

住居跡の規模は不明であった。壁の立ち上がりは検出されなかった。主軸方位はN-1°-Wを指す。

床面は削平されていた。炉跡は入り口部の北側0.50mから1基検出された。第819号土壙を切り、第133号住居跡入り口部柱穴に一部壊されていた。長径1.65m、短径1.12m、深さ0.24mの楕円形の地床炉であった。火床面はあまり焼けていなかった。炉跡東側覆土上層からは、後期後葉の深鉢形土器1個体が散乱して出土した。

入り口部は炉跡南側に位置し、P1～12までの

12本の柱穴が「ハ」の字状に張り出して検出された。径0.30～0.90m、深さ0.20～0.50mであった。P1・3は張り出し部先端に位置し、大形で掘り込みの深い柱穴であった。

遺物は床面付近から散在して出土した。前期後葉から晩期前葉にかけての浅鉢・深鉢形土器が出土した。

所属時期は炉跡出土の深鉢形土器から後期後葉以前と考えられる。

第135号住居跡（I - 第130図）

A・D区B-2グリッドに所在した。南東側一部を排水施設によって壊されていた。第245・246号土壙に切られていた。環状盛土遺構の内縁側に位置していた。

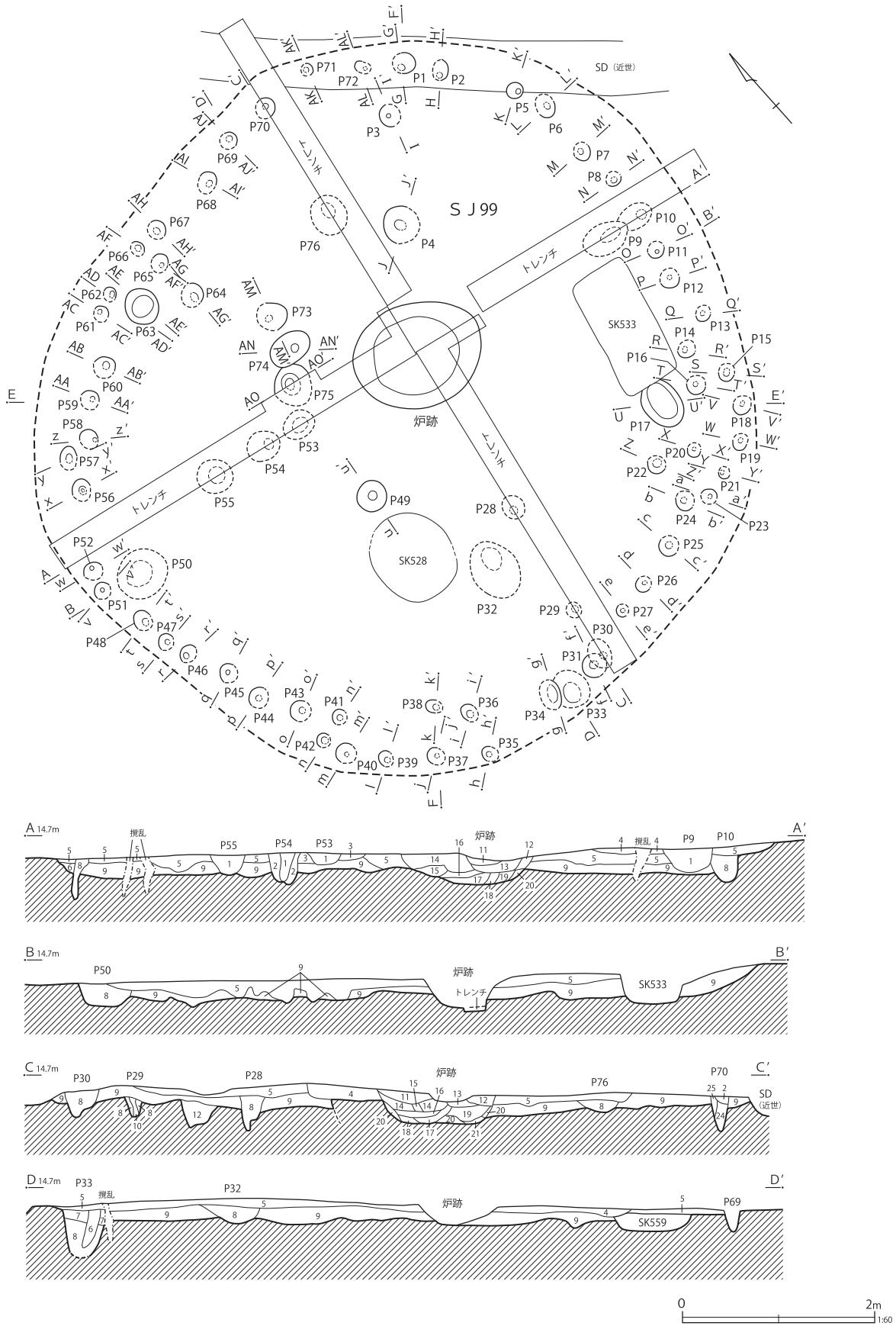
盛土包含層掘り下げに伴い、炉跡、柱穴が検出されたため、住居跡と認定した。

推定長径2.54m、残存短径1.35mの楕円形の小形住居跡で、壁の立ち上がりは検出されなかった。主軸方位は不明であった。

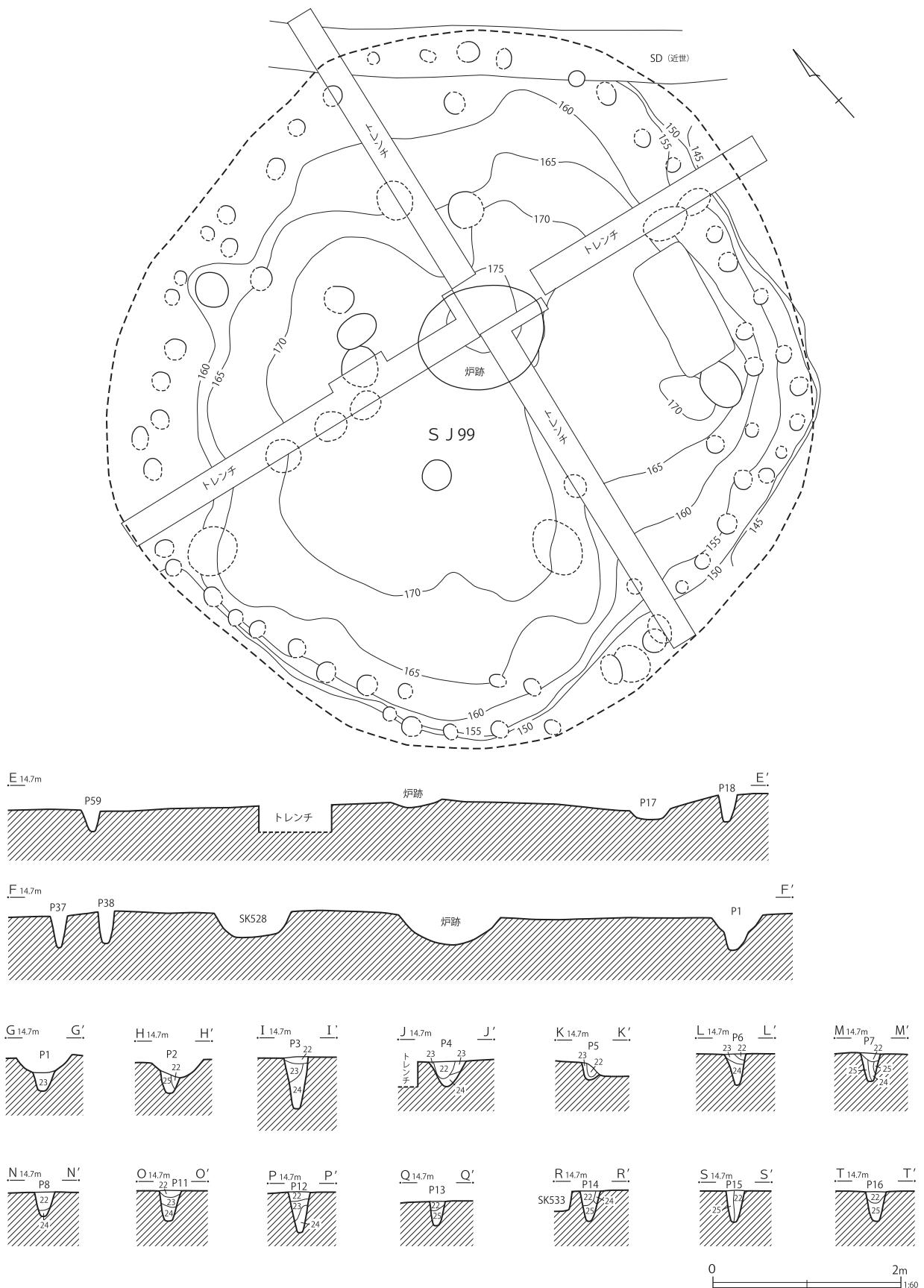
床面は平坦であった。覆土上層に焼土ブロック、被熱赤化面が検出された。

柱穴は壁柱穴及び内部柱穴を合わせて15本が検出された。径0.15～0.55m、深さ0.15～0.80mの小形で浅い掘り込みの柱穴と、大形で深い掘り込みの柱穴の2種類が検出された。いずれも杭状の掘り込みであった。

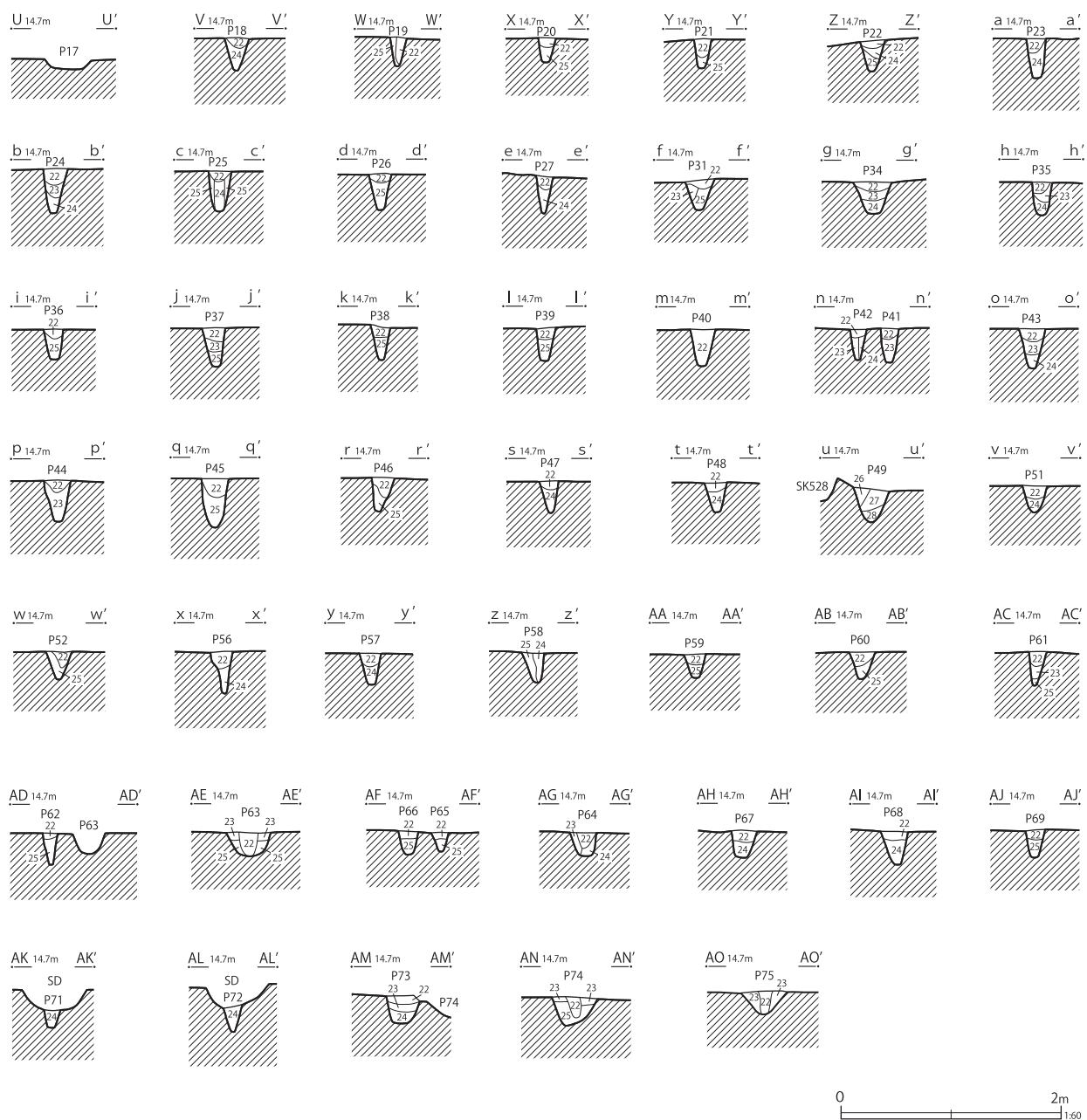
遺物は出土しなかった。所属時期は不明であった。



第18図 第99号住居跡（1）



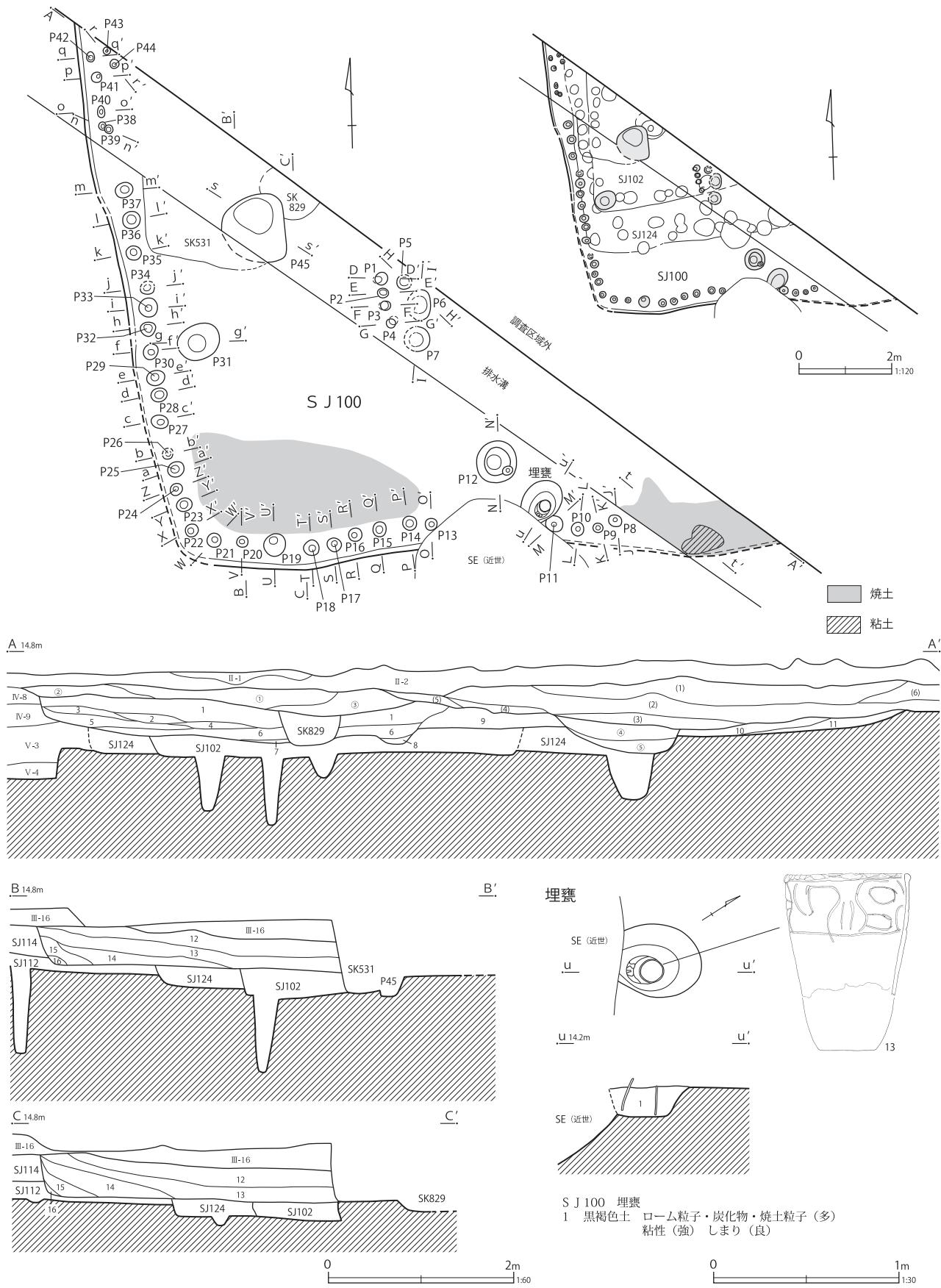
第19図 第99号住居跡（2）



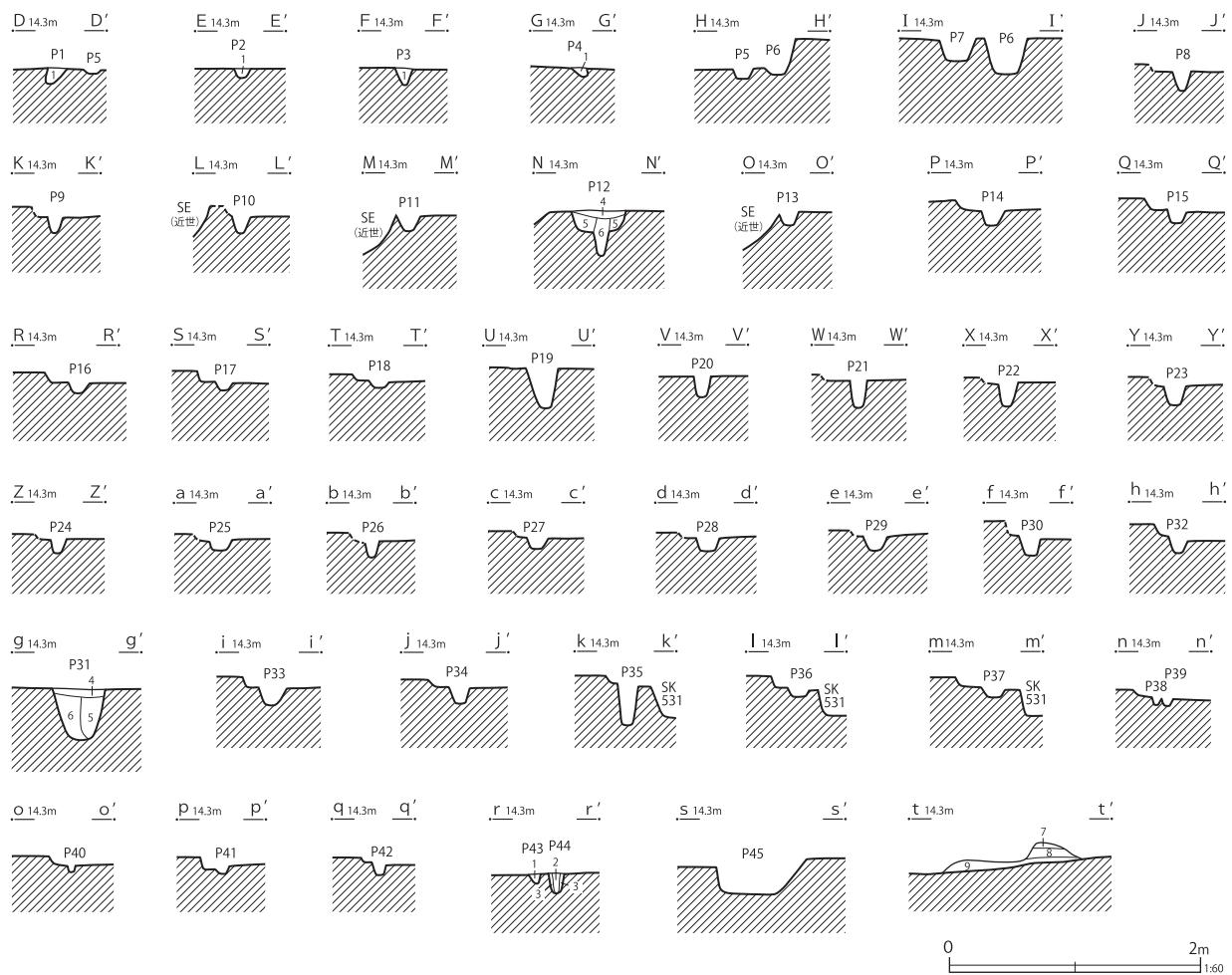
| S J 99 | |
|----------|--|
| 1 暗褐色土 | 粘質 ローム粒子・炭化物・焼土（少）柱穴覆土 |
| 2 暗褐色土 | シルト質 ローム粒子（多）炭化物・焼土（少） しまり（良） |
| 3 暗褐色土 | 粘質 ローム粒子（多） しまり（良） |
| 4 暗褐色土 | 5層に比べ焼土・炭化物（多） しまり（良） 炉周辺の硬化面 |
| 5 暗黄褐色土 | 粘質 ローム粒子・ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり（良） 貼床構築土 |
| 6 暗褐色土 | ロームブロック（中） しまり（欠） |
| 7 褐色土 | シルト質 焼土（多） しまり（欠） |
| 8 黄褐色土 | 粘質 ロームブロック（多） しまり（欠） 柱穴覆土 |
| 9 暗黄褐色土 | 粘質 ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり（中） 床面構築土 |
| 10 暗褐色土 | 粘質 ローム小ブロック・暗褐色土との混土 |
| 炉跡 | |
| 11 暗黄褐色土 | 粘質 ローム粒子・焼土粒子（多） しまり（良） 埋土 |
| 12 黄褐色土 | 粘質 ロームブロック（多） しまり（中） |
| 13 暗黄褐色土 | 粘質 ローム土 しまり（中） |
| 14 暗褐色土 | 粘質 ロームブロック・暗褐色土との混土 炭化物（少） しまり（欠） |

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 15 暗赤褐色土 | 粘質 焼土粒子・焼土ブロック（多） しまり（欠） |
| 16 黒褐色土 | 粘質 炭化物（多） 焼土（少） 骨粉含む しまり（欠） |
| 17 赤褐色土 | 粘質 焼土ブロック（多） しまり（良） 炉底直上 |
| 18 暗褐色土 | 粘質 暗褐色土主体 ローム粒子含む |
| 19 暗褐色土 | 粘質 ローム粒子・炭化物・焼土（少） |
| 20 暗黄褐色土 | 粘質 ロームブロック（多） しまり（中） |
| 21 暗褐色土 | 粘質 暗褐色土ブロック（多） しまり（中） |
| 柱穴 | |
| 22 暗褐色土 | シルト質 ローム粒子（多） 炭化物・焼土（少） しまり（良） |
| 23 褐色土 | シルト質 焼土（多） しまり（欠） |
| 24 黒褐色土 | 粘質 炭化物・暗褐色土小ブロック（少） 灰褐色粘質土（多） しまり（欠） |
| 25 暗黄褐色土 | 粘質 ロームブロック・灰褐色粘土（多） しまり（欠） |
| 26 黄褐色土 | ロームブロック（多） |
| 27 暗褐色土 | 炭化物（少） |
| 28 暗褐色土 | 暗灰色粘土（少） しまり（欠） |

第20図 第99号住居跡（3）



第21図 第100号住居跡 (1)



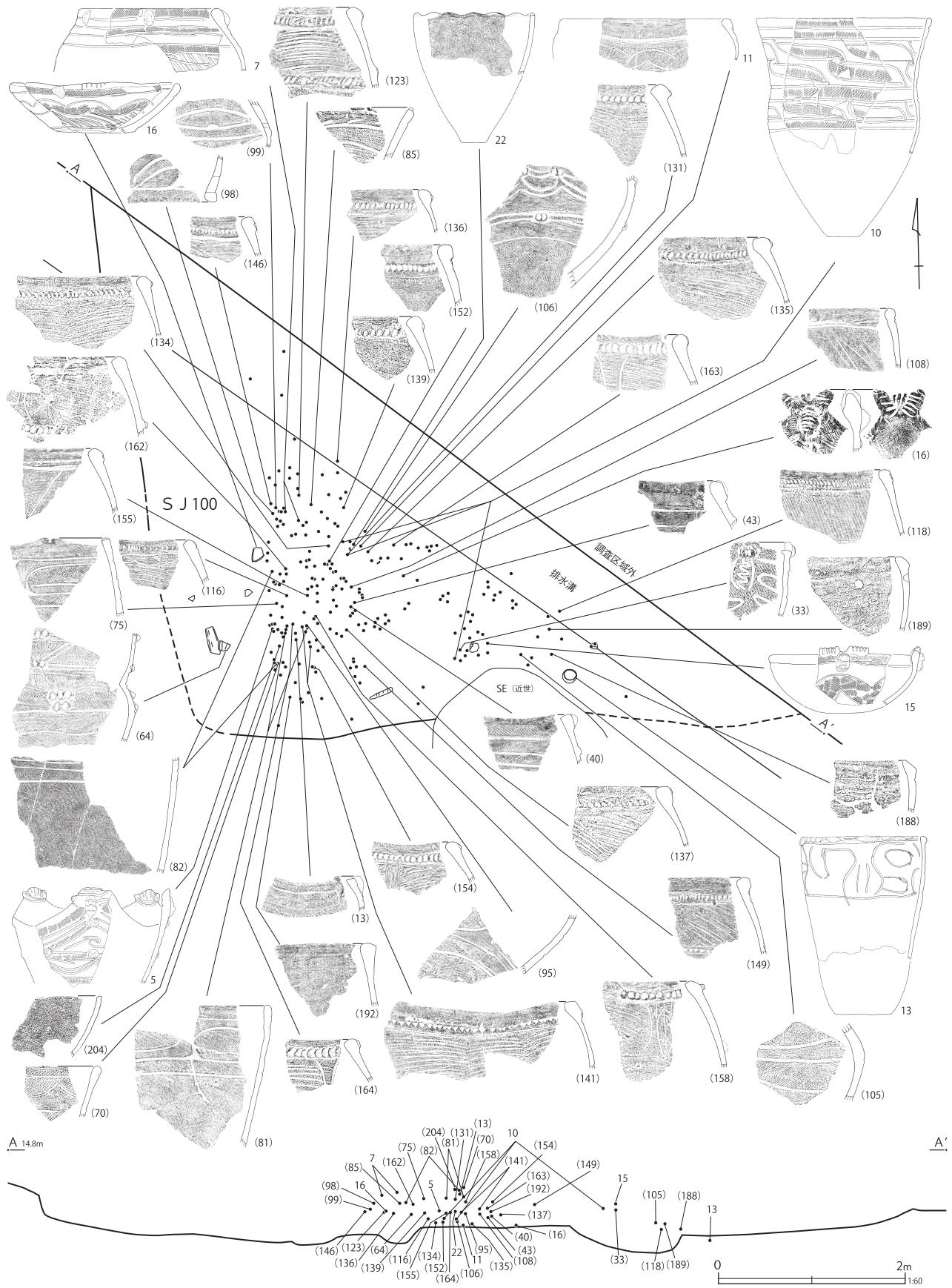
| | | |
|--------|---------|---|
| II-1 | 暗灰褐色土 | 粘質 遺物（少） しまり（中） |
| II-2 | 暗灰色土 | 粘質 砂粒含む 粘性（中） しまり（良） |
| III-16 | 暗褐色土 | ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子・骨粉（少） 粘性（弱） しまり（良） |
| IV-8 | 暗褐色土 | シルト質 暗褐色土・ローム質土との混土 炭化物・焼土含む 遺物（少） 粘性（中） しまり（良） |
| IV-9 | 暗褐色土 | 粘質 炭化物（少） 烧土（微） 土器片含む 粘性・しまり（中） |
| V-3 | にぶい黄褐色土 | 遺物（微） 粘性（強） しまり（良） |
| V-4 | にぶい黄褐色土 | 炭化物（微） 粘性（弱） しまり（良） ソフトローム対応 |
| ローム質土 | | |
| (1) | 黄褐色土 | 炭化物（微） 遺物（少） 粘性（欠） しまり（良） |
| (2) | 黄褐色土 | 炭化物（微） 遺物（少） 粘性（欠） しまり（堅致） 底面鉄分沈着 |
| (3) | 黄褐色土 | 炭化物含む 遺物（微） 粘性（欠） しまり（良） |
| (4) | 黄褐色土 | 粘質 ローム質土・暗褐色土との混土 炭化物（少） 粘性（中） しまり（良） |
| (5) | 暗褐色土 | 粘質 暗褐色土主体 ローム質土ブロック（少） 炭化物含む 粘性（中） しまり（良） |
| (6) | 暗褐色土 | 粘質 暗褐色土主体 ローム質土ブロック（少） 炭化物含む 粘性（弱） しまり（良） |

| | | |
|-----|-----|--|
| 遺構 | | |
| S J | | |
| ① | 褐色土 | ロームブロック（径5～10mm）・炭化物・焼土含む 粘性（弱） しまり（良） |
| ② | 褐色土 | 炭化物・焼土・骨粉含む 粘性（弱） しまり（中） |
| ③ | 褐色土 | ロームブロック（径5～10mm）（微） 烧土（多） 粘性（弱） しまり（良） |
| S K | | |
| ④ | 褐色土 | 炭化物（径5～10mm）・焼土ブロック（径25～30mm）含む 粘性・しまり（中） |
| ⑤ | 褐色土 | 炭化物・焼土ブロック（径5～10mm）含む 粘性（弱） しまり（良） |

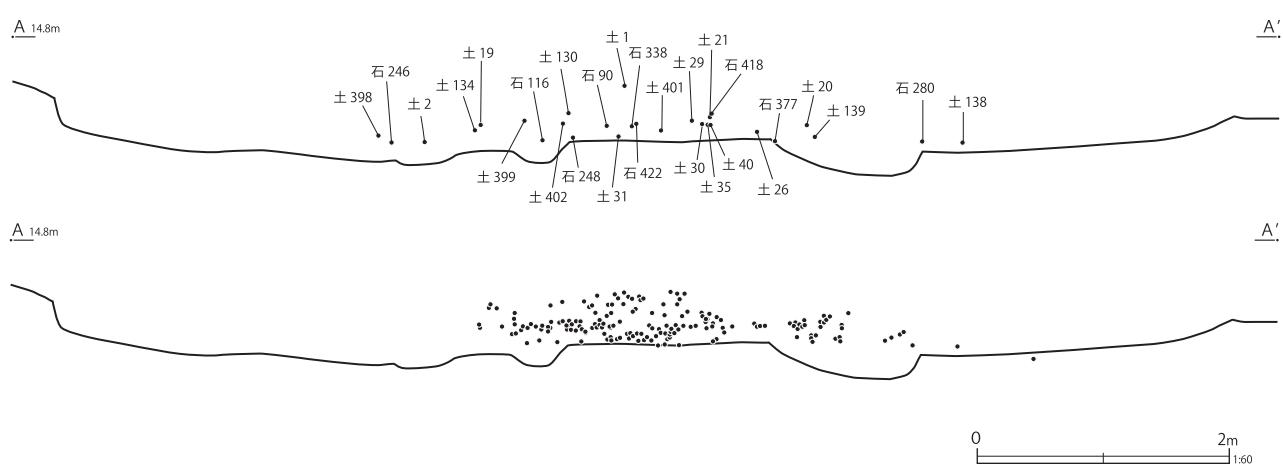
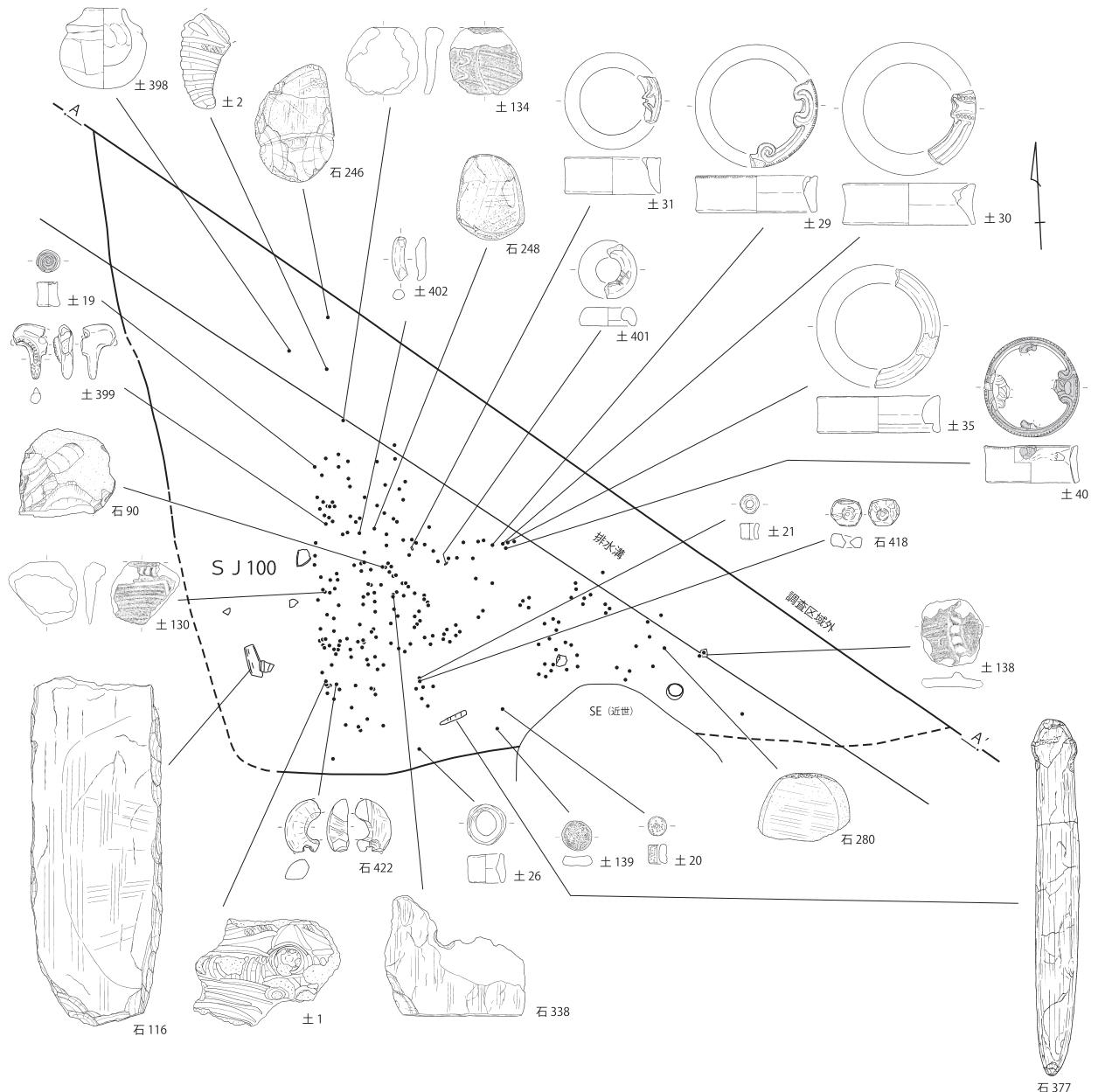
| | | | |
|---------|----|------|---|
| S J 100 | 1 | 暗褐色土 | ロームブロック（径5～10mm）・炭化物・焼土含む しまり（良） 底面土器出土 |
| | 2 | 黒褐色土 | ローム粒子（少） 炭化物・焼土含む 粘性（弱） しまり（良） |
| | 3 | 褐色土 | 炭化物・焼土含む 粘性（弱） しまり（中） |
| | 4 | 暗褐色土 | 炭化物・焼土（径5～10mm）含む 粘性・しまり（中） |
| | 5 | 暗褐色土 | 炭化物・焼土（多） 粘性（中） しまり（良） |
| | 6 | 黄褐色土 | ローム質土 炭化物（少） 粘性（強） しまり（良） |
| | 7 | 黒褐色土 | 炭化物（径5～10mm）（少） 骨粉含む 粘性（強） しまり（欠） |
| | 8 | 黄褐色土 | 炭化物・焼土（少） 粘性（強） しまり（中） |
| | 9 | 暗褐色土 | 炭化物・焼土含む 骨粉（微） 粘性（中） しまり（良） |
| | 10 | 暗褐色土 | ローム粒子（微） 炭化物（多） 烧土含む 粘性（中） しまり（良） |
| | 11 | 褐色土 | 炭化物・焼土含む 粘性（強） しまり（中） |
| | 12 | 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多） 骨粉（少） 粘性（弱） しまり（良） |
| | 13 | 黑色土 | ローム粒子（少） 炭化物・焼土粒子・骨粉（多） 粘性（強） しまり（良） |
| | 14 | 黒褐色土 | ローム粒子・骨粉（少） 炭化物（多） 烧土粒子（極多） 粘性（中） しまり（良） |
| | 15 | 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物（多） 烧土粒子（極多） 骨粉（少） 粘性（中） しまり（良） |
| | 16 | 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多） 粘性（強） しまり（良） |

| | | | |
|-----|---|------|---|
| 柱穴 | 1 | 暗褐色土 | 炭化物・焼土（中） 粘性（強） しまり（欠） |
| | 2 | 褐色土 | 炭化物・焼土（少） 粘性（弱） しまり（良） 挖り方 |
| | 3 | 炭化杭 | 杭材が炭化した痕 |
| | 4 | 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多） 粘性（中） しまり（良） |
| | 5 | 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少） 粘性（中） しまり（良） |
| | 6 | 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物（多） 烧土粒子（極多） 粘性（中） しまり（良） |
| 焼土跡 | 7 | 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多） 骨粉（少） 粘性（中） しまり（良） |
| | 8 | 黒褐色土 | ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子・骨粉（少） 粘性（中） しまり（良） |
| | 9 | 黒褐色土 | ローム粒子・骨粉（少） 炭化物・焼土粒子（多） 粘性（中） しまり（良） |

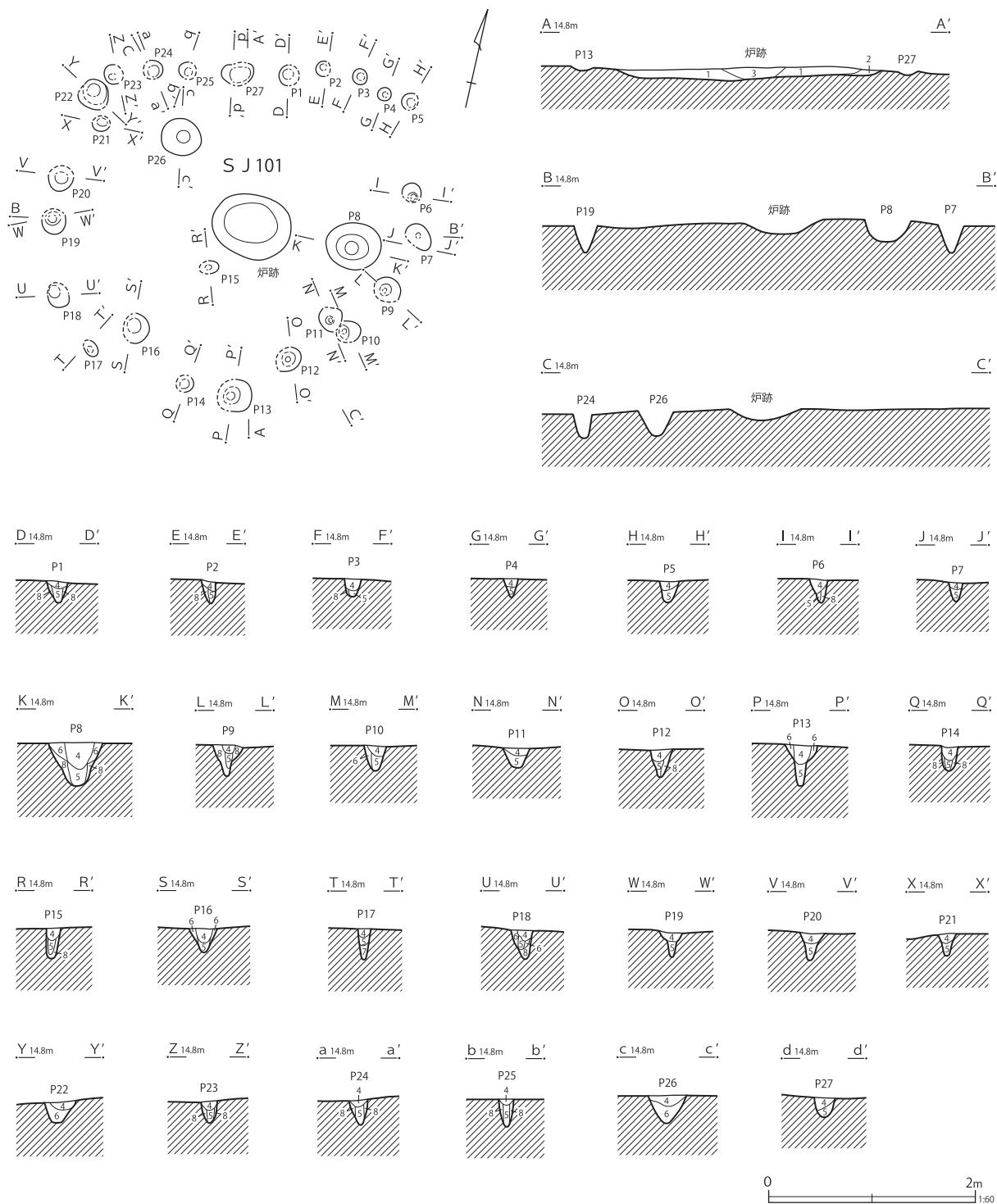
第22図 第100号住居跡（2）



第23図 第100号住居跡遺物出土状況（1）



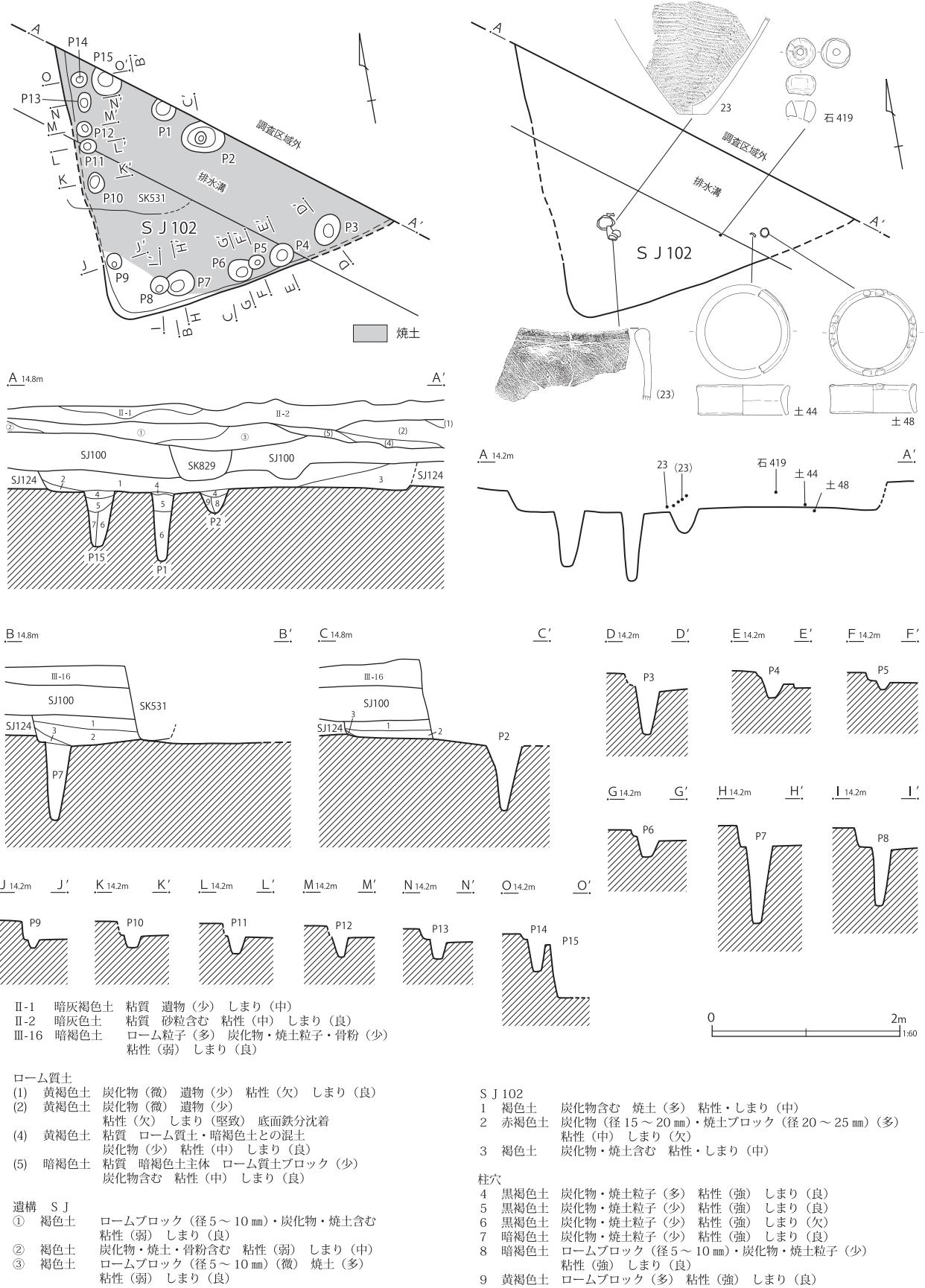
第24図 第100号住居跡遺物出土状況（2）



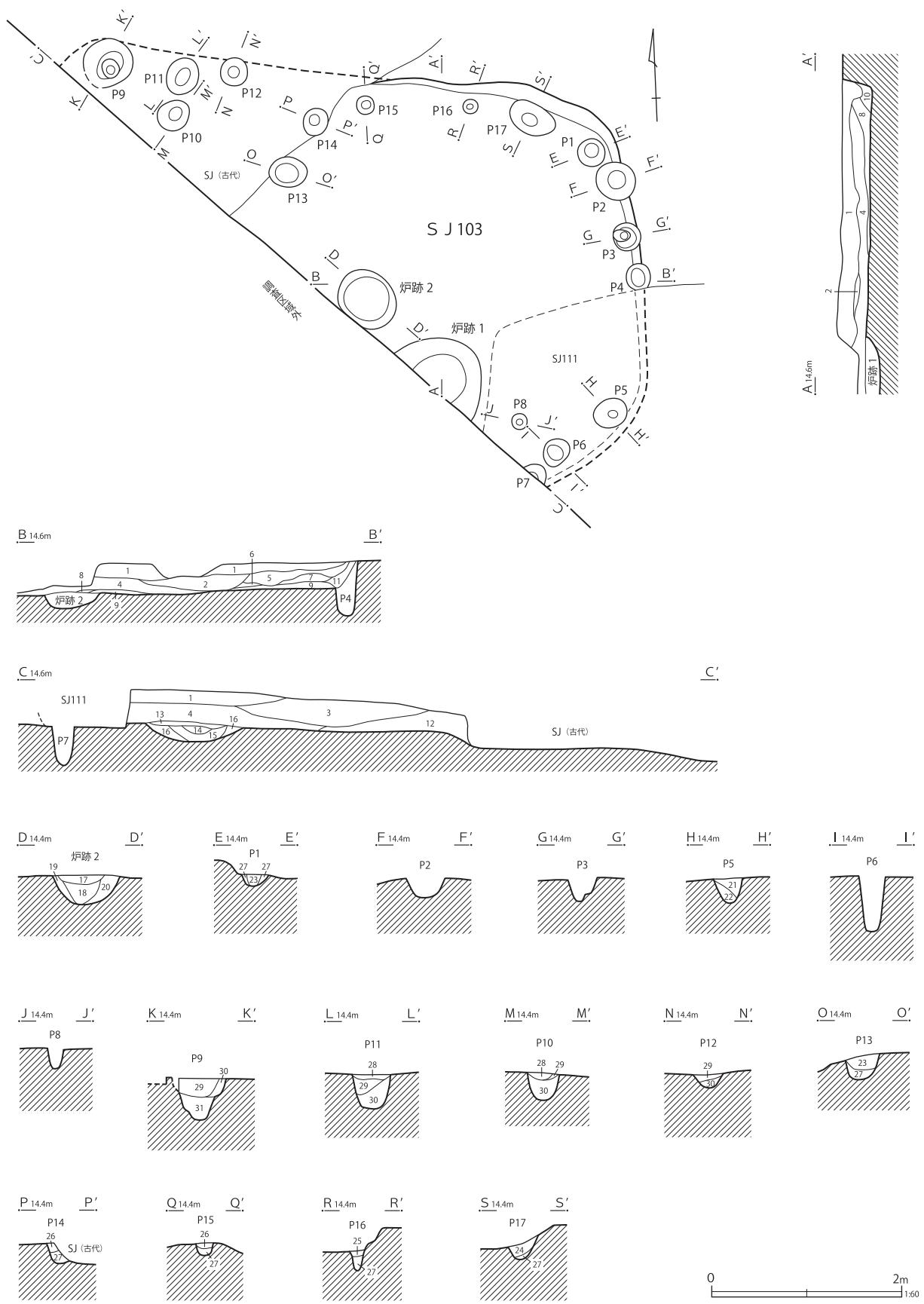
S J 101
 1 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土
 炭化物(少) しまり(良) 貼土土
 2 暗褐色土 炭化物・焼土(多) しまり(欠)
 炉跡
 3 暗赤褐色土 粘質 炭化物(中) 烧土粒子(多) 骨粉(少)
 上面焼土ブロック 被熱(弱)

柱穴
 4 暗褐色土 シルト質 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(多) しまり(欠)
 5 暗黄褐色土 粘質 暗褐色土ブロック・暗灰色粘土ブロックとの混土 柱痕
 6 黒褐色土 粘質 炭化物・焼土粒子(多)
 7 暗褐色土 粘質 ロームブロック含む
 8 黄褐色土 粘質 ロームブロック(多) 挖り方

第25図 第101号住居跡

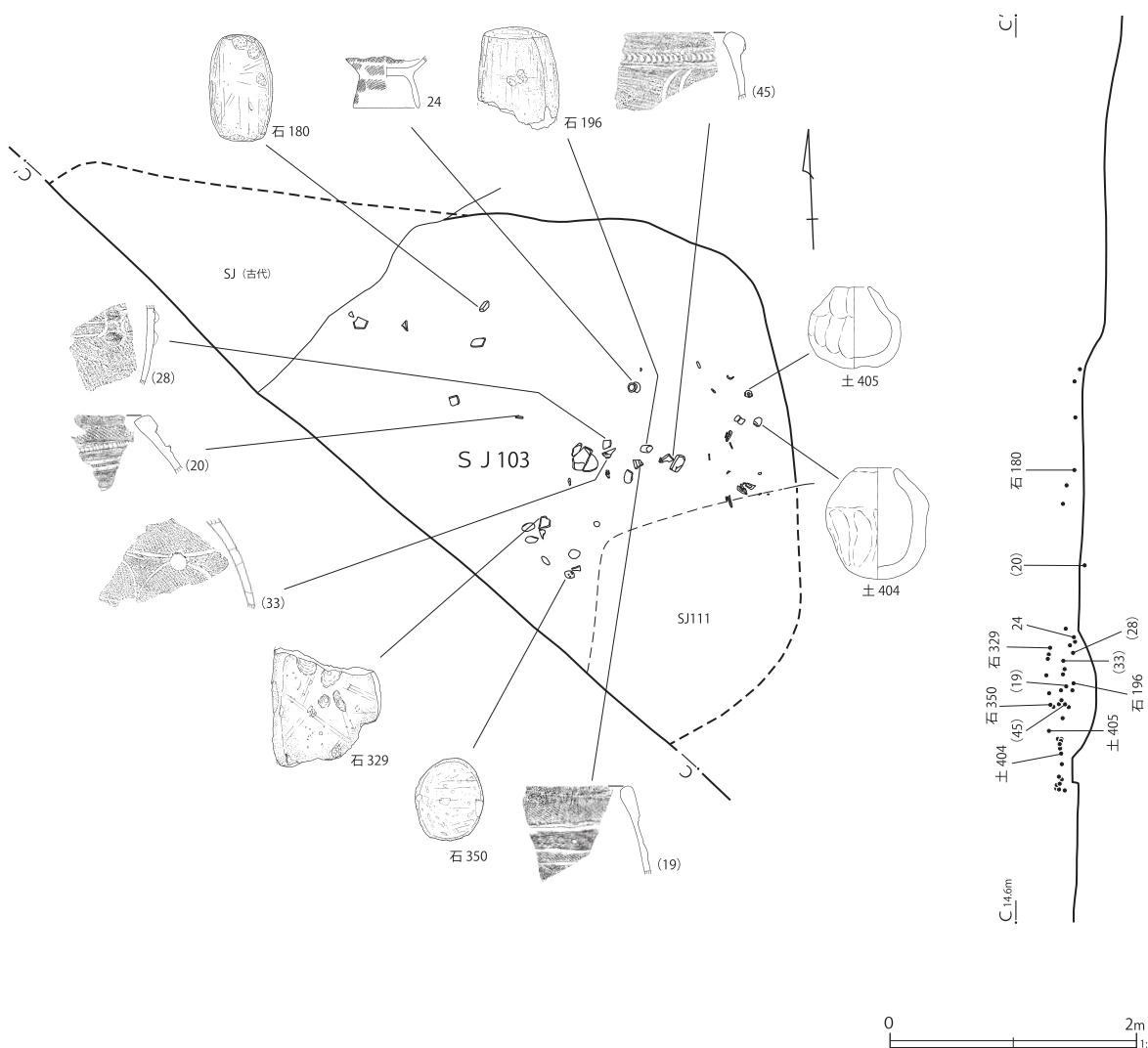


第26図 第102号住居跡

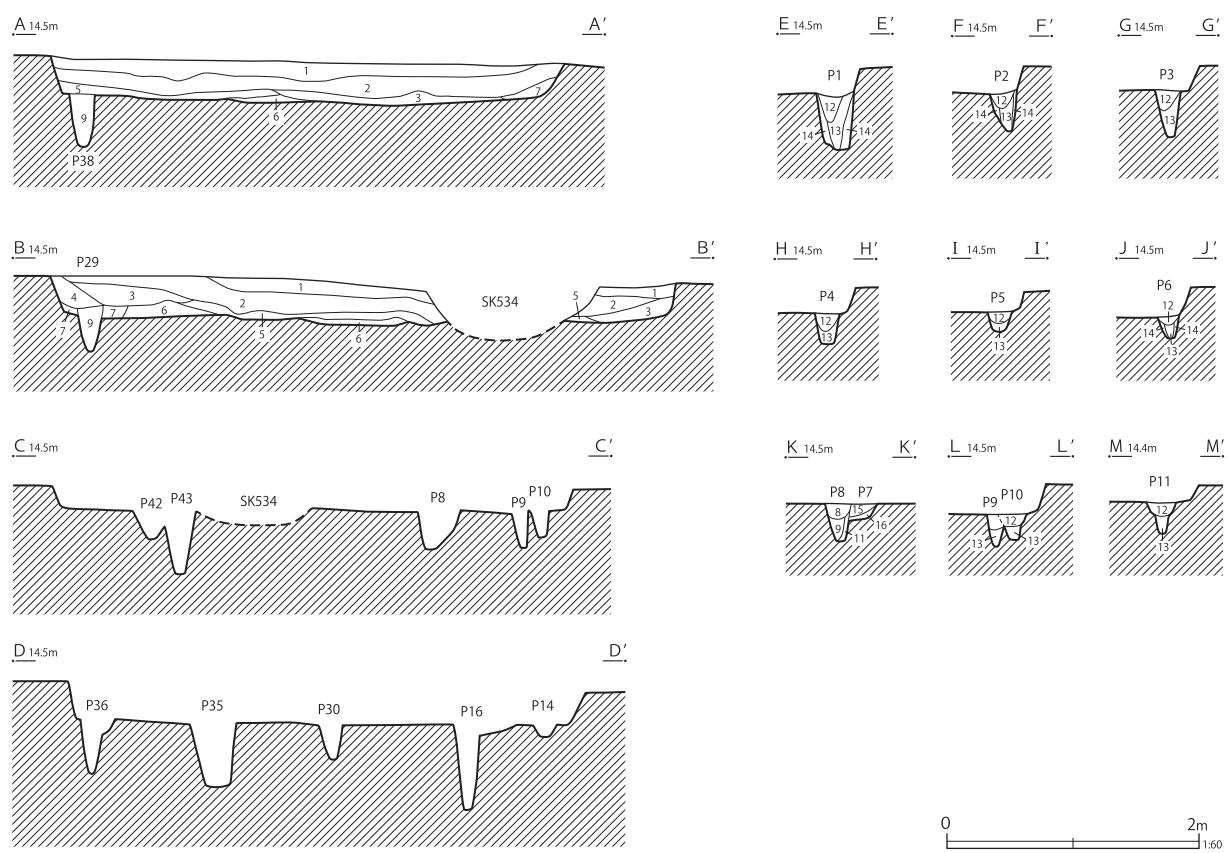
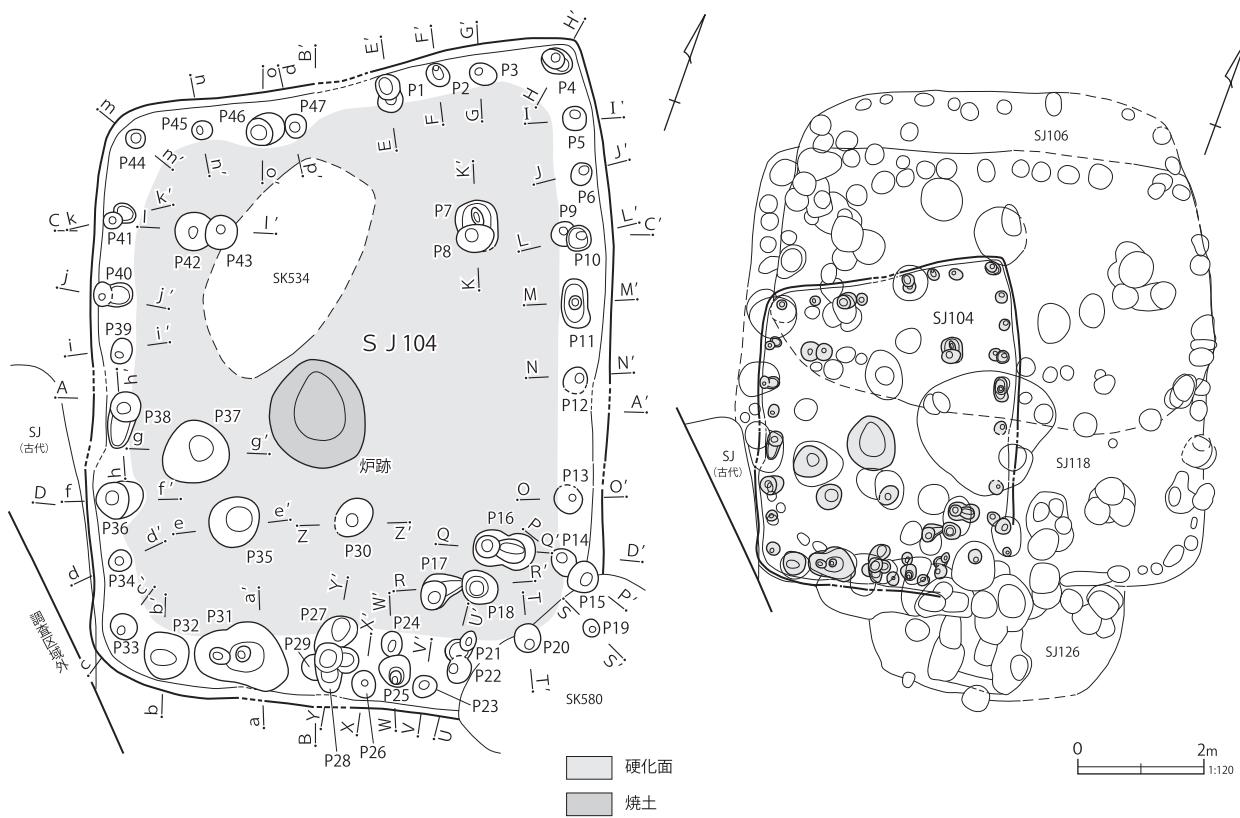


第27図 第103号住居跡 (1)

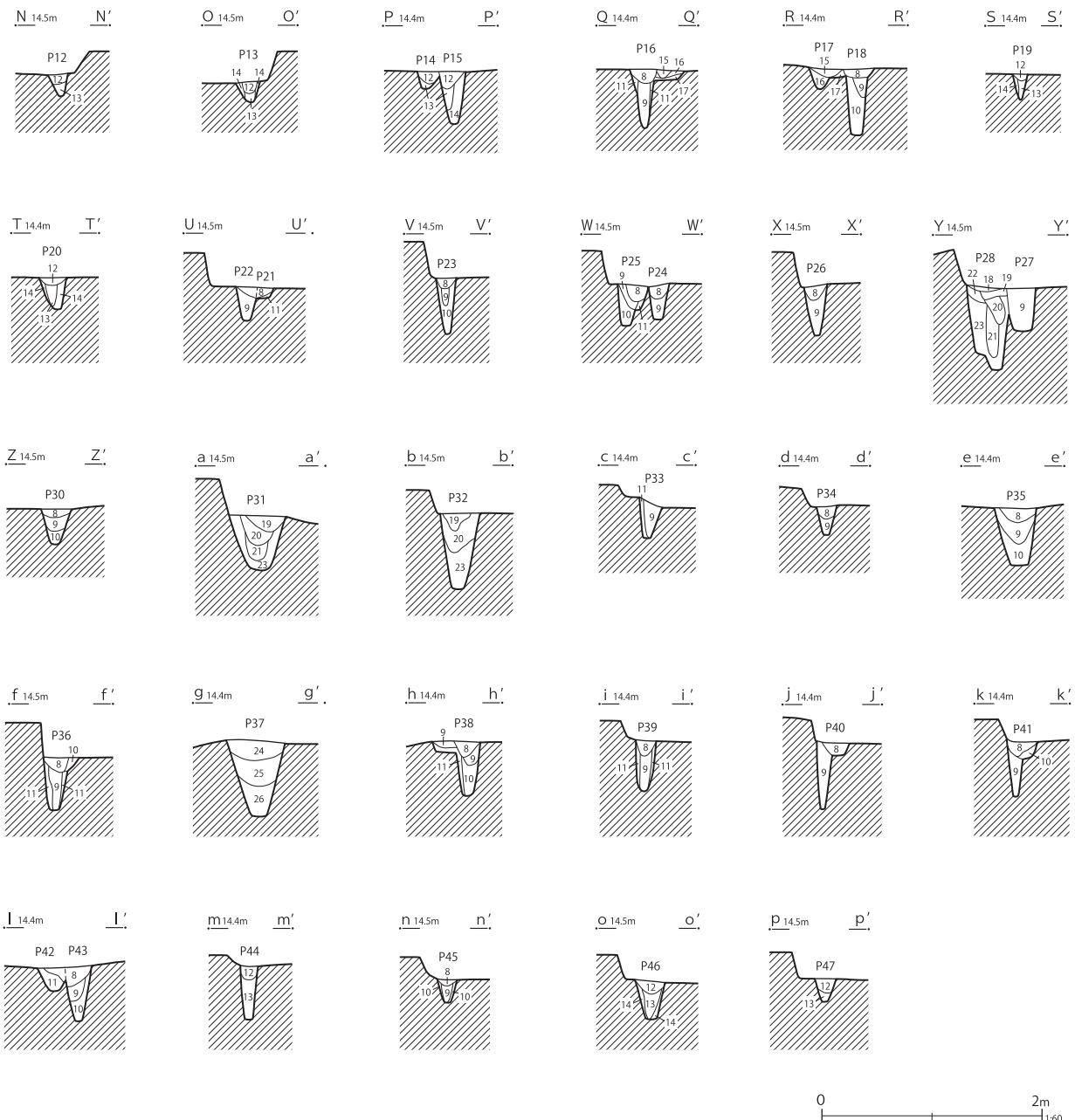
| S J 103 | | 炉跡 2 | |
|---------|-------|--|---|
| 1 | 褐色土 | 炭化物・焼土粒子 (径 5 mm) (中) 粘性 (無) しまり (良) | 17 褐色土 灰層 炭化物 (微) 焼土粒子 (少) 粘性 (弱) しまり (良) |
| 2 | 褐色土 | 炭化物・焼土粒子 (中) 粘性 (弱) しまり (良) | 18 赤褐色土 焼土層 粘性 (中) しまり (良) |
| 3 | 褐色土 | 炭化物・焼土粒子 (中) 粘性 (無) しまり (良) | 19 赤褐色土 焼土玉体 粘性 (中) しまり (良) 火床面 |
| 4 | 褐色土 | ロームブロック (少) 焼土粒子 (中) 粘性 (弱) しまり (良) | 20 赤褐色土 炭化物 (多) 粘性 (弱) しまり (良) 旧炉の灰層か |
| 5 | 褐色土 | ロームブロック (少) 焼土粒子 (径 2 ~ 10 mm) (中) 粘性 (無) しまり (良) | |
| 6 | 明褐色土 | 炭化物・焼土粒子 (少) 粘性 (無) しまり (良) | |
| 7 | 暗黄褐色土 | ロームブロック (多) 粘性 (弱) しまり (良) | |
| 8 | 赤褐色土 | 7層主体で焼土ブロック (少) 粘性 (弱) しまり (中) | |
| 9 | 褐色土 | ローム混合土 焼土粒子 (微) 粘性 (弱) しまり (良) 貼床 | |
| 10 | 褐色土 | ロームブロック・焼土 (少) 粘性 (弱) しまり (良) | |
| 11 | 暗黄褐色土 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子 (多) 粘性 (中) しまり (良) | |
| 12 | 暗褐色土 | 炭化物 (多) 焼土粒子 (少) 粘性 (弱) しまり (良) | |
| 炉跡 1 | | | |
| 13 | 赤褐色土 | 焼土層 炭化物・灰白色粘土粒子 (少) 粘性 (弱) しまり (中) 炉の最終使用面 | |
| 14 | 赤褐色土 | 焼土層 焼土粒子・粘土粒子 (中) 粘性 (弱) しまり (中) | |
| 15 | 赤褐色土 | 焼土層 炭化物 (微) 粘性 (弱) しまり (欠) | |
| 16 | 赤褐色土 | 炭化物・焼土粒子 (中) 粘性 (弱) しまり (中) | |



第28図 第103号住居跡 (2)・遺物出土状況



第29図 第104号住居跡（1）



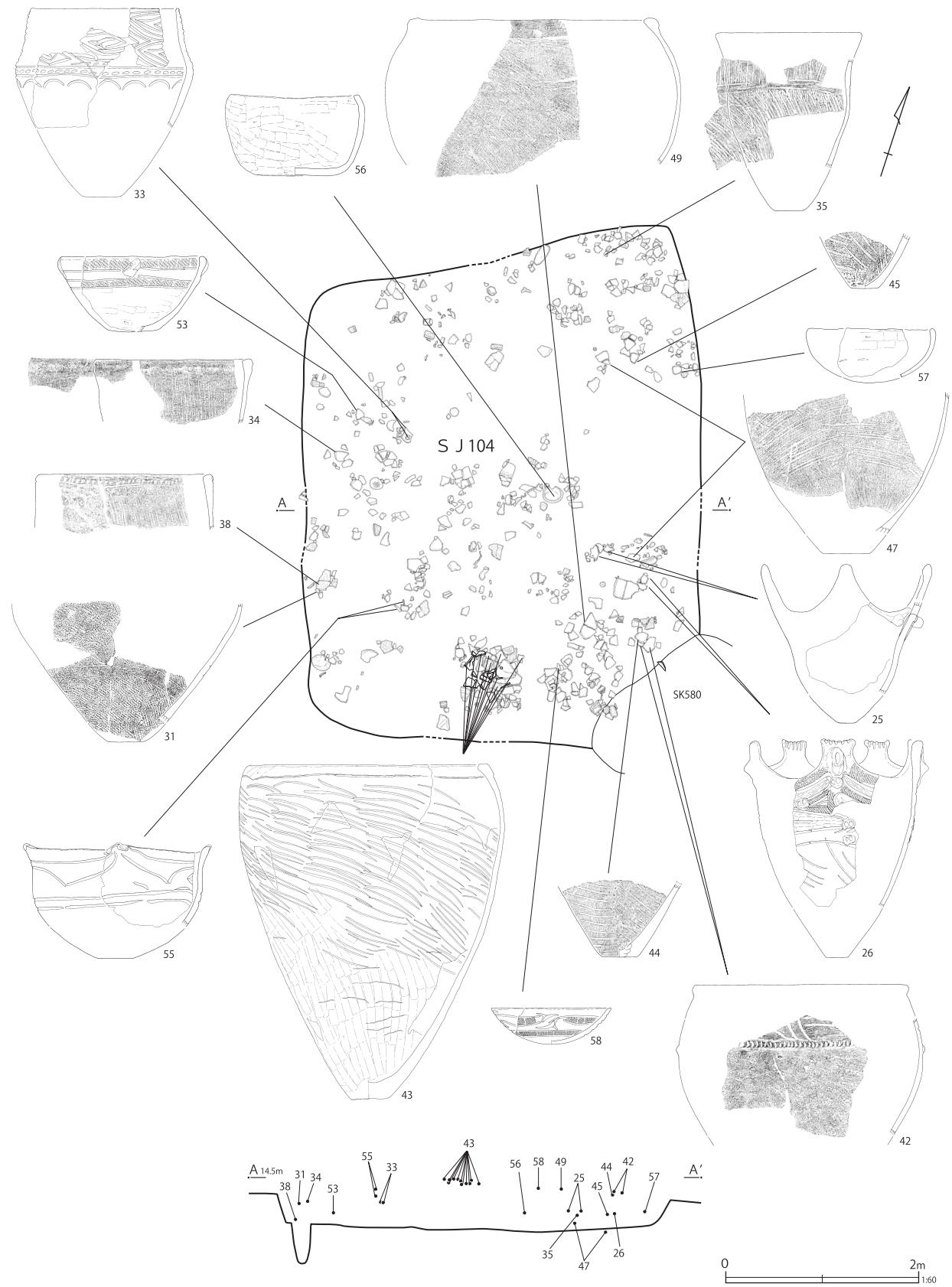
| S J 104 | |
|----------|--|
| 1 黒褐色土 | 粘質 炭化物・焼土・遺物(少) 骨粉・骨片含む |
| 2 黒褐色土 | 粘質 炭化物(少) 焼土(中) 遺物(多) 骨粉・骨片(微) |
| 3 黒褐色土 | 粘質 ローム小ブロック・暗褐色土ブロック(少) 炭化物(微) |
| 4 暗褐色土 | 粘質 ロームブロック・暗褐色土ブロック(多) |
| 5 灰黄褐色土 | 粘質 炭化物・焼土・焼土ブロック(多) 灰合む しまり(中) 床面構築土または廃絶直後の堆積土 |
| 6 赤褐色土 | シルト質 ローム粒子・焼土・灰(多) しまり(欠) 焼土硬化面あり |
| 7 暗黄褐色土 | 粘質 ローム粒子・暗褐色土ブロック(多) 壁際掘り方または柱穴覆土 |
| 柱穴 | |
| 8 黒褐色土 | 粘質 炭化物(多) 焼土(中) 骨粉(少) しまり(欠) |
| 9 暗褐色土 | 粘質 炭化物・焼土(少) 暗褐色土ブロック(中) しまり(欠) |
| 10 暗褐色土 | 粘質 ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土 炭化物(微) しまり(欠) |
| 11 暗黄褐色土 | 粘質 ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり(中) |
| 12 黒褐色土 | 粘質 ロームブロック・炭化物・焼土(少) しまり(中) |

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 13 暗褐色土 | 粘質 炭化物(微) 暗褐色土ブロック(多) しまり(欠) |
| 14 暗褐色土 | 粘質 ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土 しまり(中) |
| 15 黒褐色土 | 粘質 炭化物(多) 焼土(少) しまり(欠) |
| 16 暗褐色土 | ロームブロック・炭化物(少) しまり(欠) |
| 17 暗黄褐色土 | ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり(欠) |
| 18 黒褐色土 | 粘質 ロームブロック・焼土(少) 炭化物(多) しまり(欠) |
| 19 黒褐色土 | ロームブロック(多) 炭化物・焼土(中) しまり(欠) |
| 20 暗褐色土 | ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土 炭化物(少) |
| 21 暗褐色土 | 暗褐色土ブロック(多) しまり(欠) |
| 22 暗褐色土 | 炭化物・焼土(多) しまり(良) |
| 23 暗褐色土 | ロームブロック・暗褐色土ブロックとの混土 しまり(欠) |
| 24 黒褐色土 | 粘質 炭化物(多) 焼土・骨粉(少) しまり(欠) |
| 25 暗褐色土 | 粘質 炭化物・焼土(少) しまり(欠) |
| 26 暗褐色土 | 粘質 暗褐色土ブロック(多) しまり(欠) |

第30図 第104号住居跡（2）

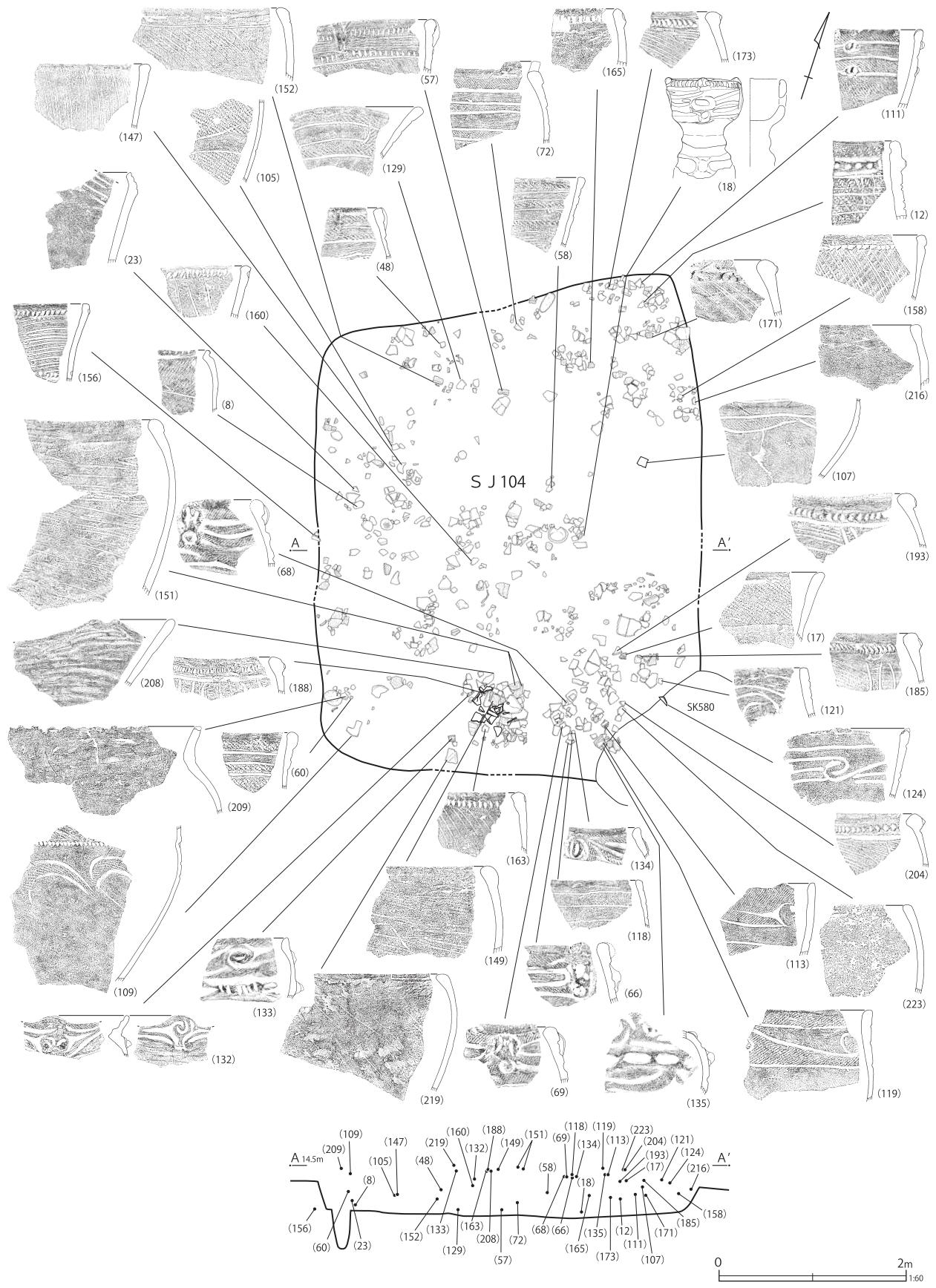


第31図 第104号住居跡遺物出土状況（1）

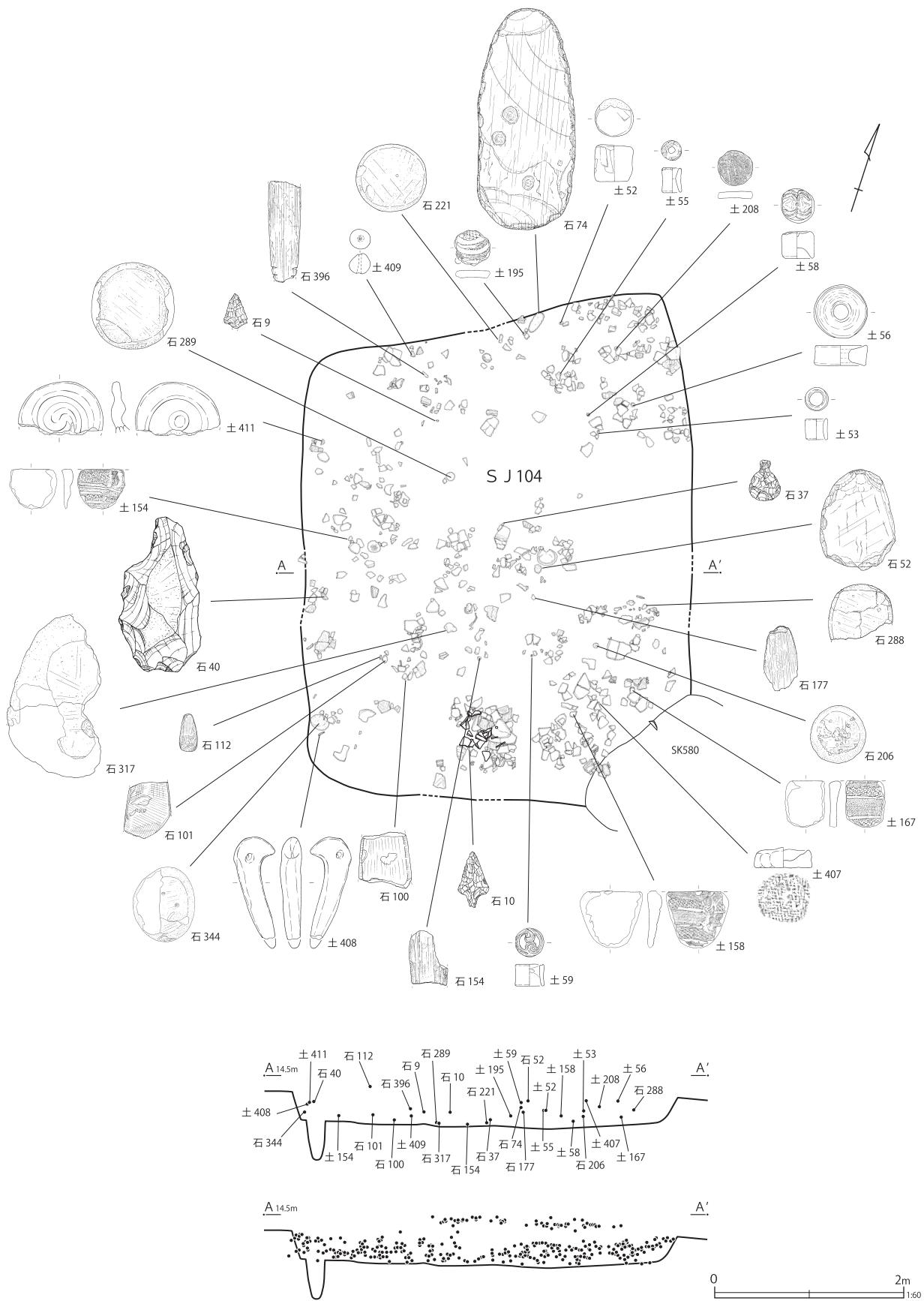


第32図 第104号住居跡遺物出土状況（2）

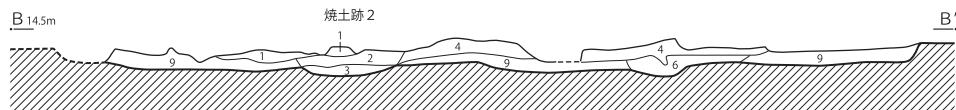
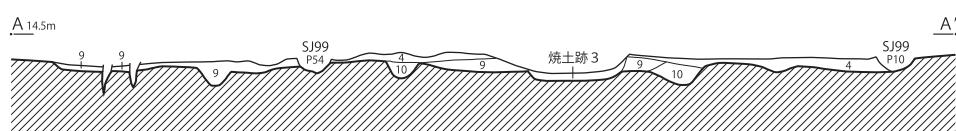
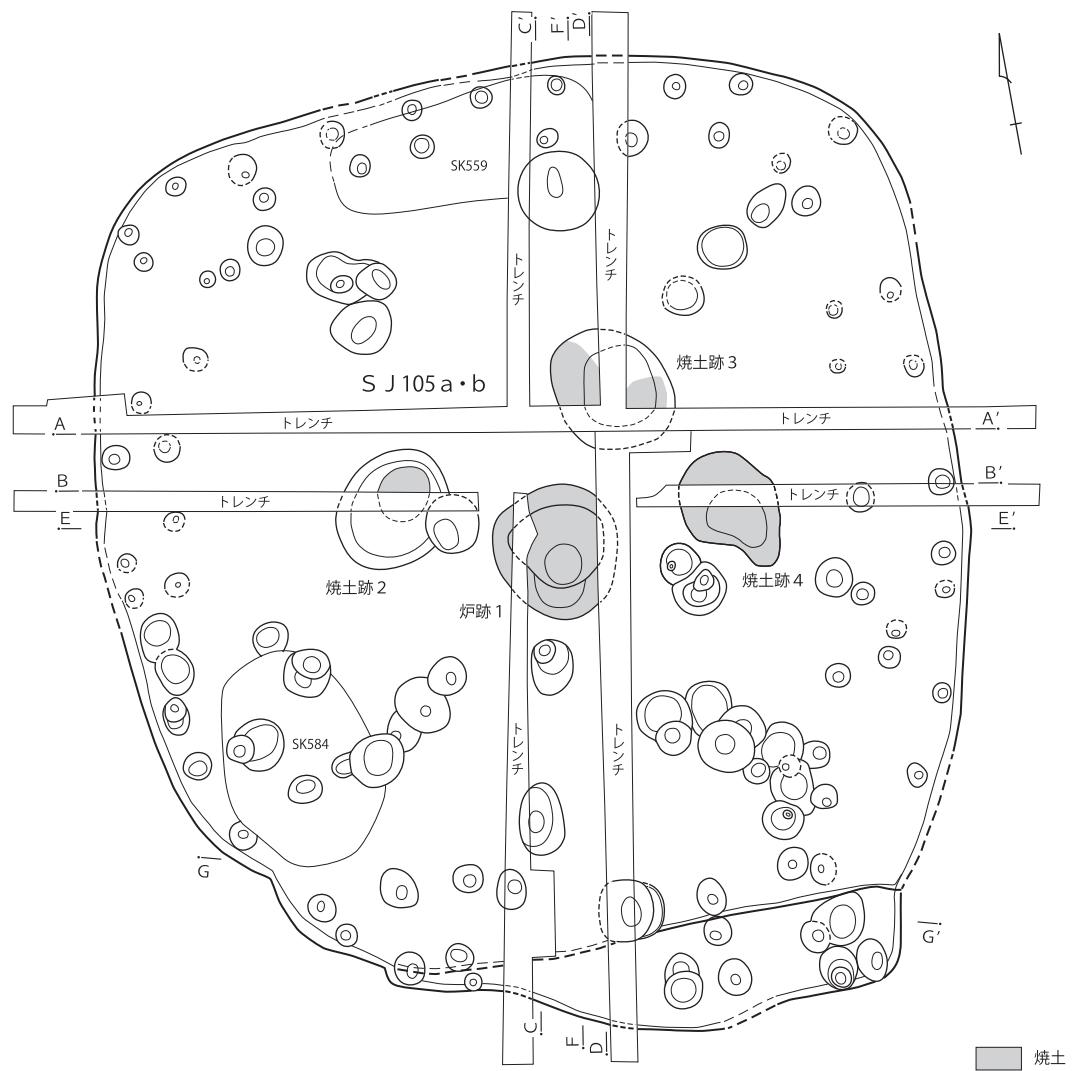




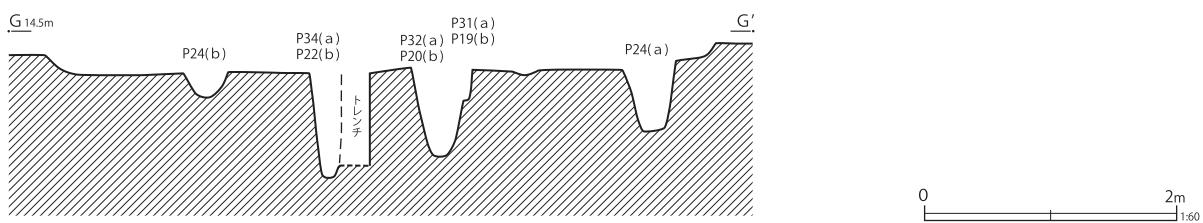
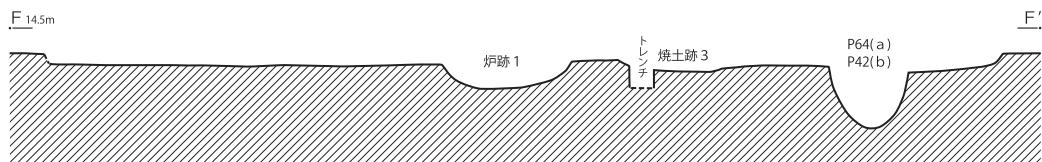
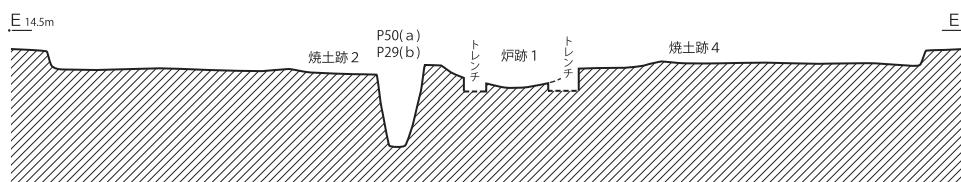
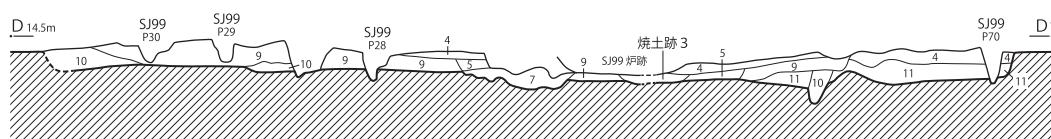
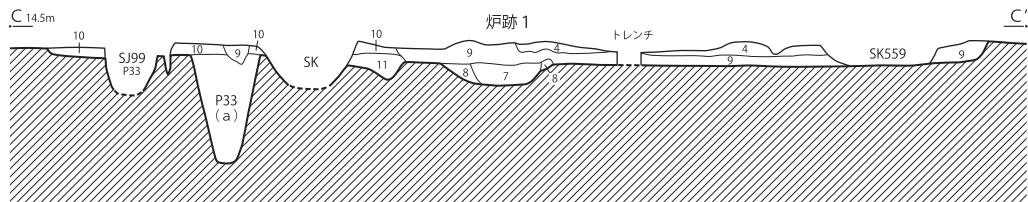
第34図 第104号住居跡遺物出土状況（4）



第35図 第104号住居跡遺物出土状況（5）



第36図 第105 a・b号住居跡 (1)



S J 105

1 暗黄褐色土 粘質 ロームブロック (多)

2 暗褐色土 粘質 ローム粒子・炭化物 (少)

3 暗赤褐色土 シルト質 ロームブロック (少) 烧土ブロック・烧土粒子 (多)

4 黒褐色土 シルト質 ローム粒子・炭化物 (多) 烧土 (中) しまり (欠)

5 暗赤褐色土 シルト質 烧土ブロック (中)

6 暗赤褐色土 シルト質 烧土ブロック層

7 暗赤褐色土 シルト質 烧土・烧土ブロック層 烧土跡

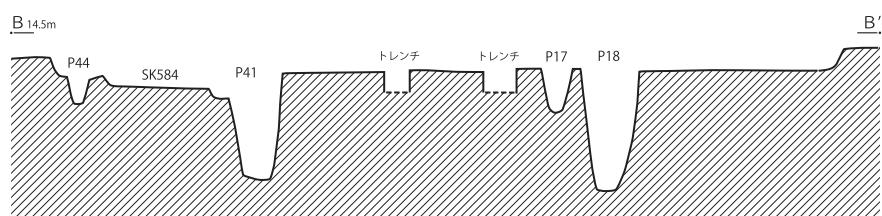
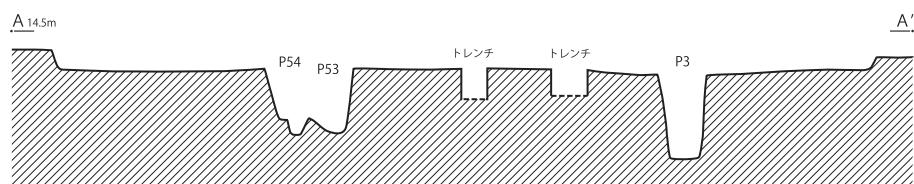
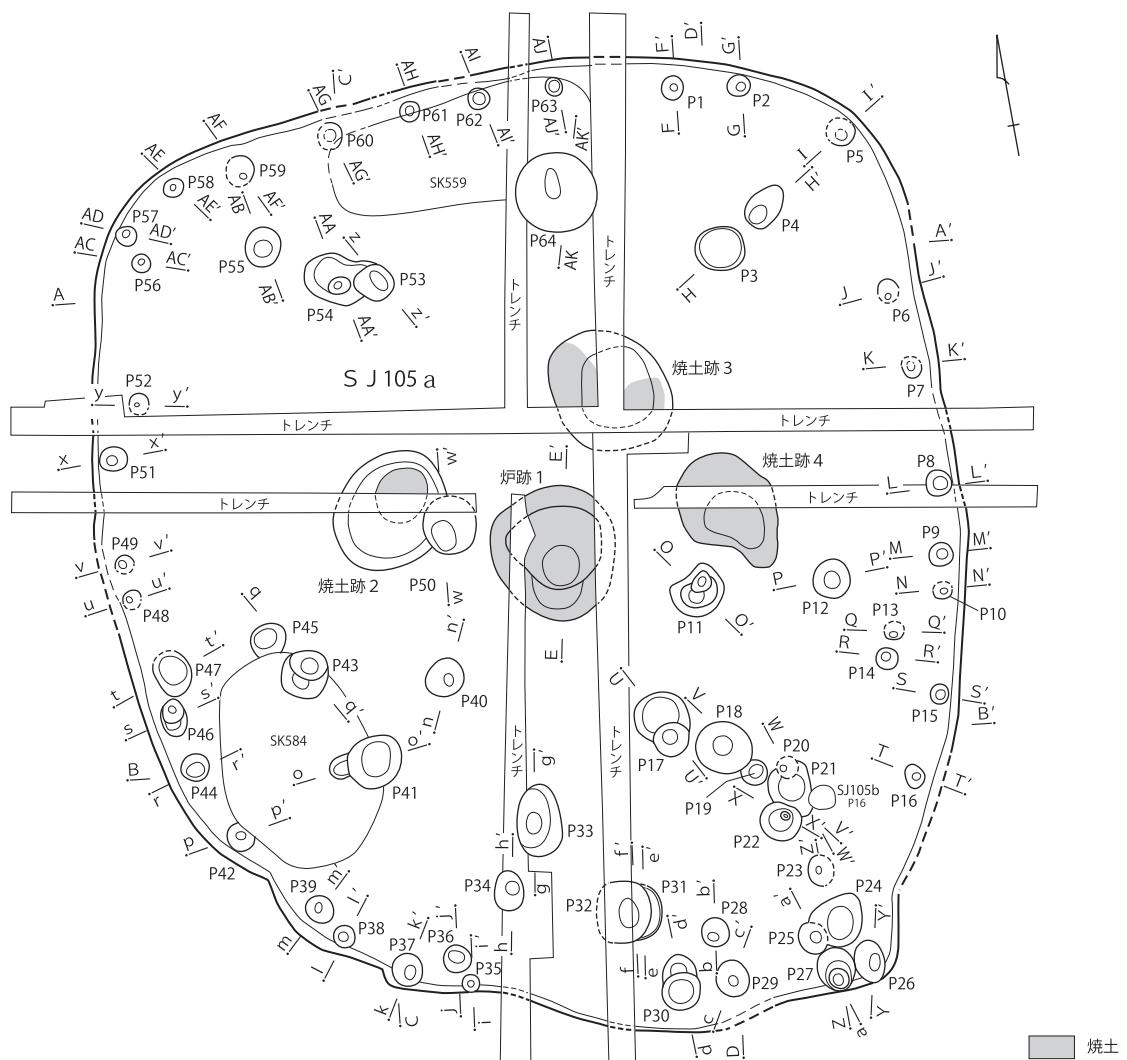
8 暗赤褐色土 シルト質 ロームブロック・烧土ブロックとの混土

9 黒褐色土 粘質 炭化物 (中) 烧土 (少)

10 暗黄褐色土 粘質 ロームブロック (少)

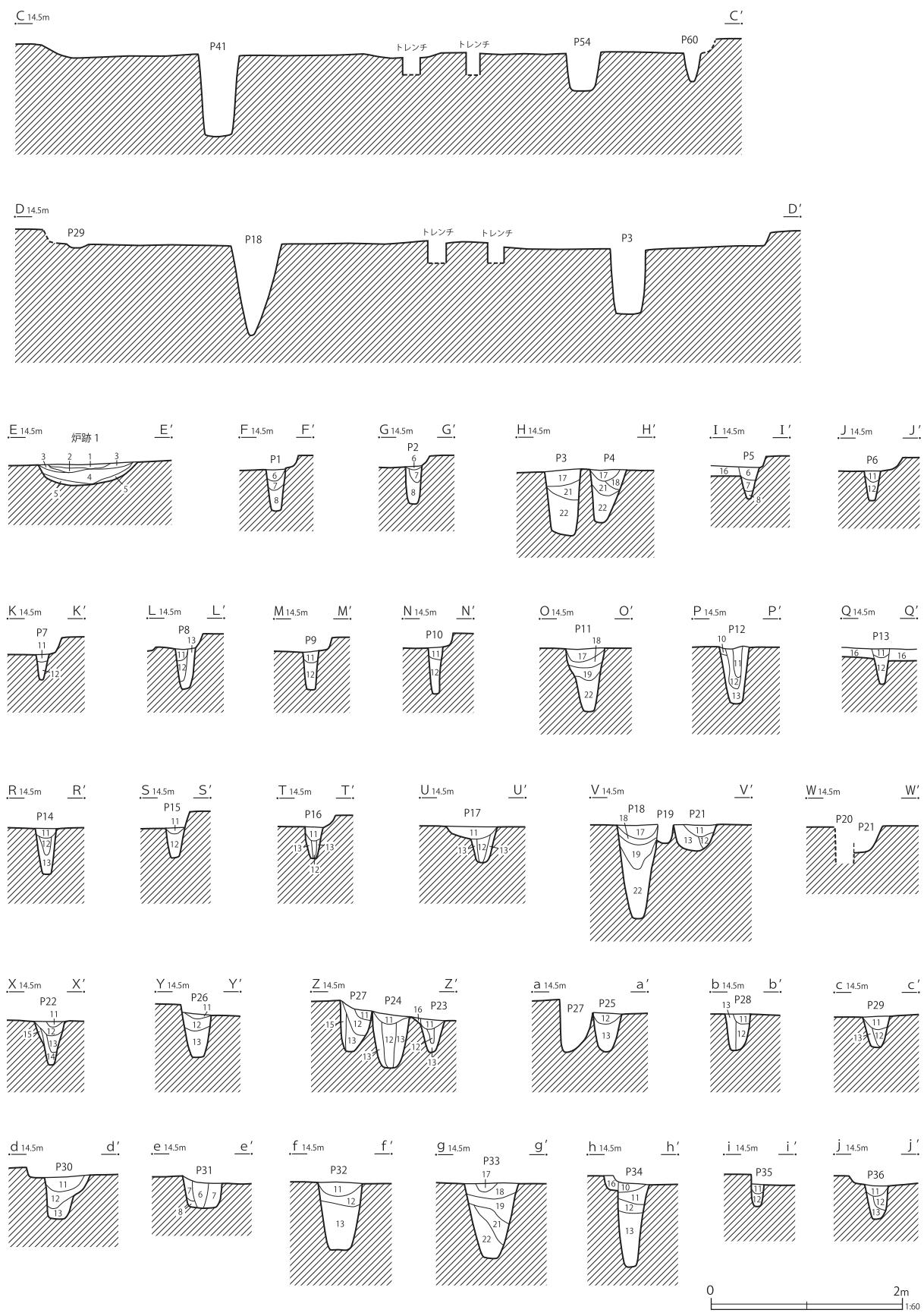
11 暗褐色土 粘質 炭化物 (少) しまり (中)

第37図 第105 a · b号住居跡 (2)

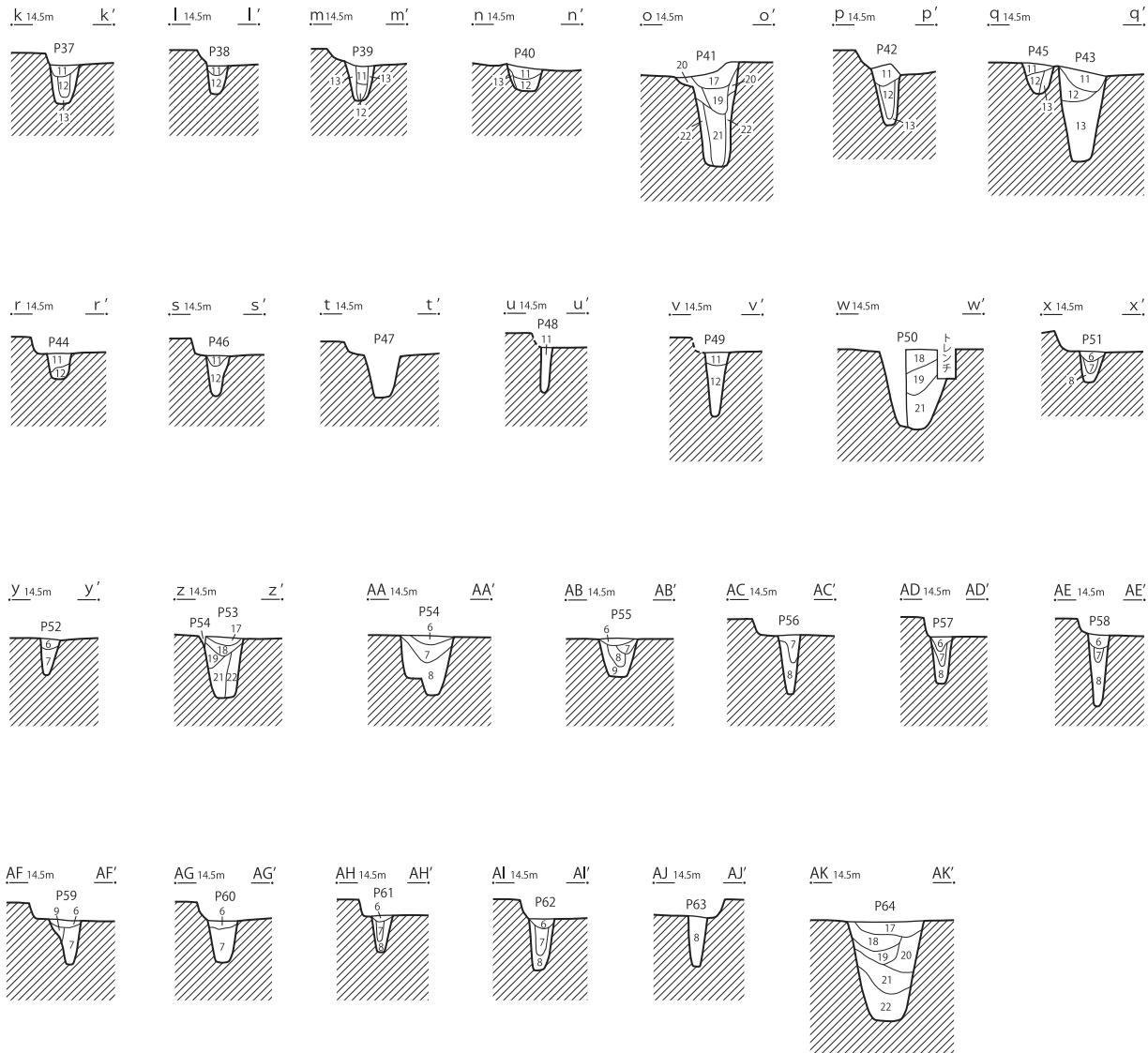


0 2m 1:60

第38図 第105a号住居跡（1）



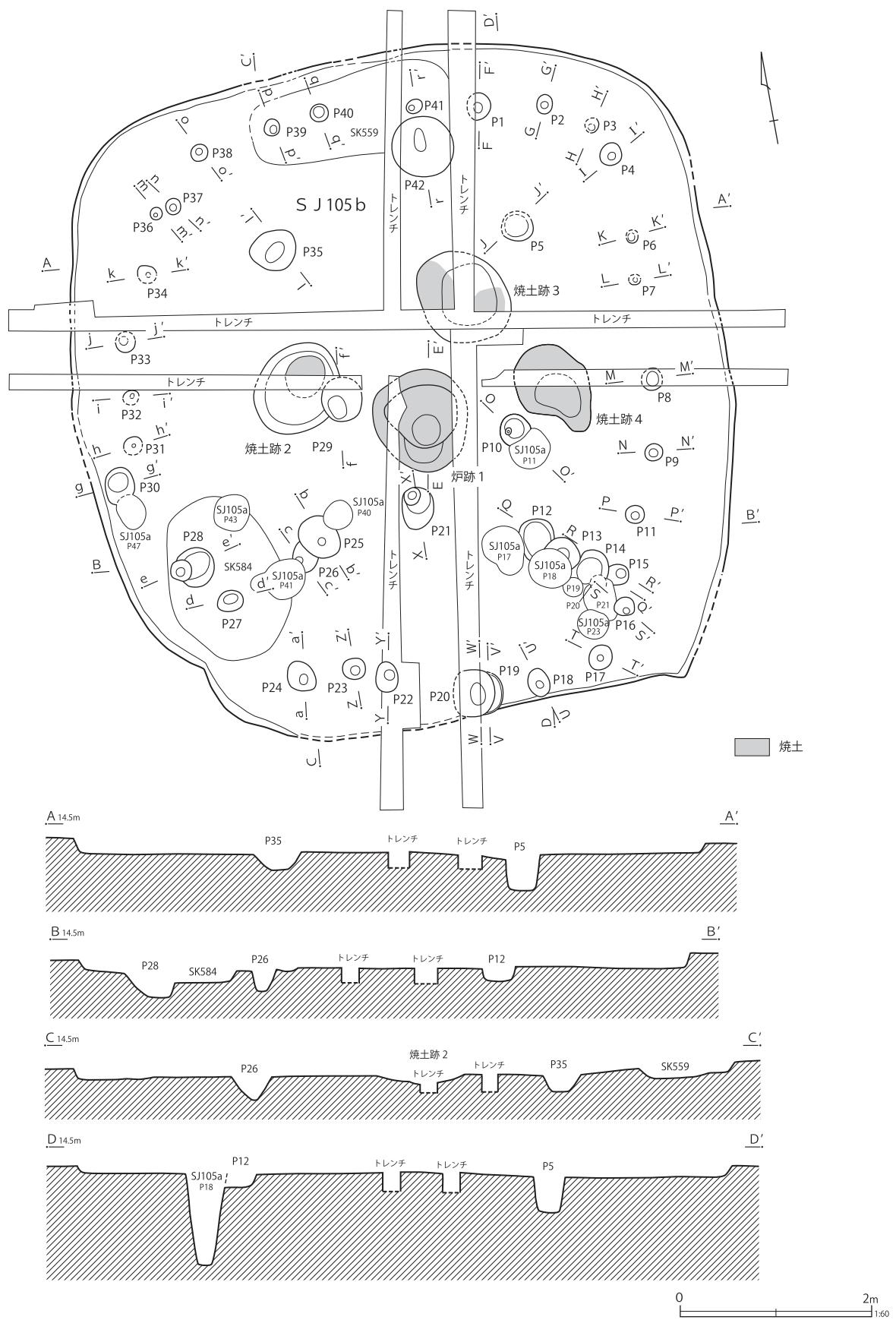
第39図 第105a号住居跡 (2)



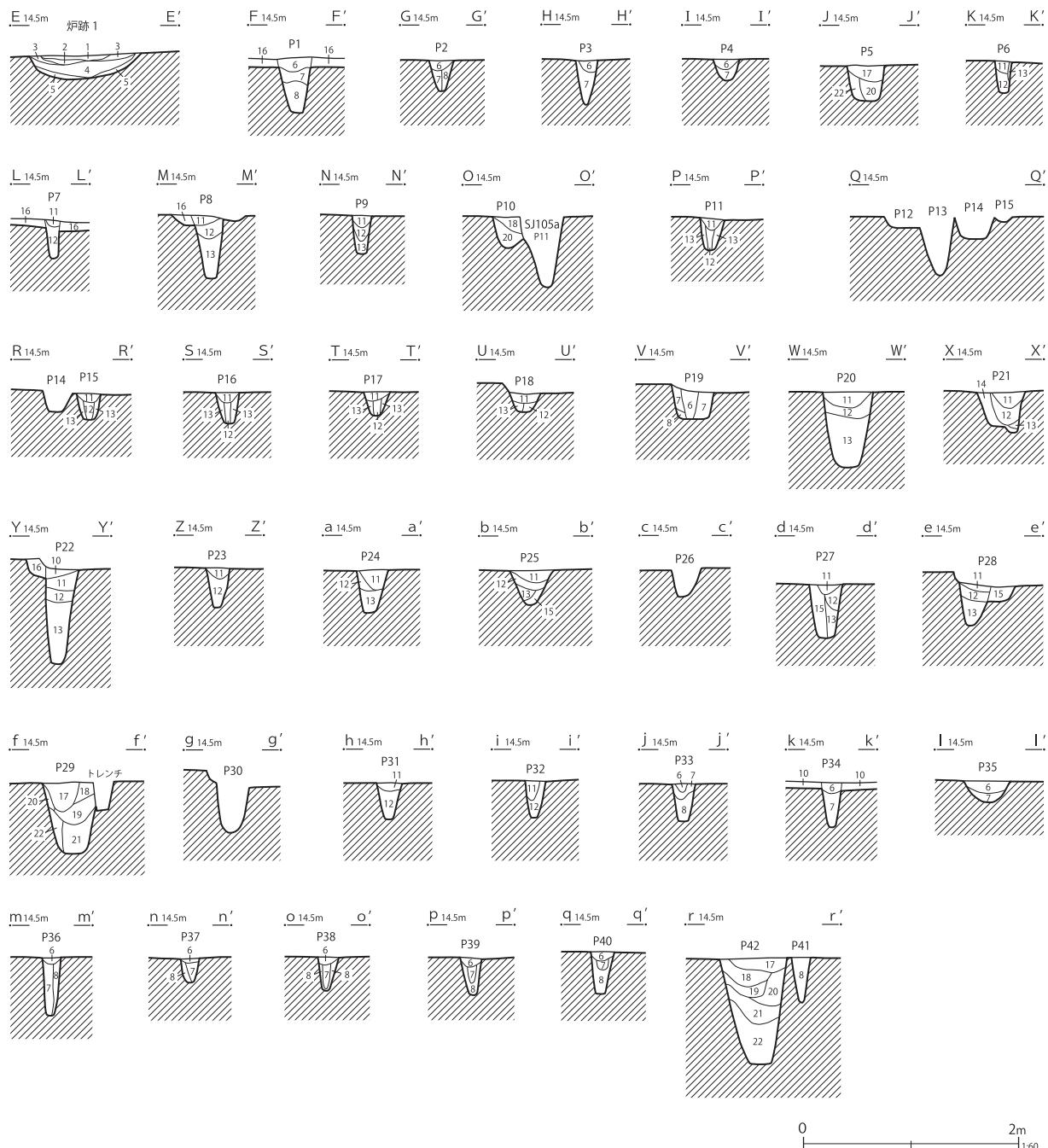
0 2m 1:60

| | | | | | | |
|--------------|---|---|---|--|--|--|
| S J 105 a 炉跡 | | | | | | |
| 1 暗赤褐色土 | 粘質 烧土ブロック・暗褐色土ブロックとの混土 炭化物（多） しまり（欠） | 11 黒褐色土 12 暗褐色土 13 暗褐色土 14 黄褐色土 15 暗黄褐色土 | 粘質 炭化物（多） 烧土・炭化材（少） しまり（欠） 粘質 炭化物・烧土・暗褐色土ブロック（少） 粘質 暗褐色土主体 ローム小ブロック含む しまり（欠） 粘質 ローム粒子（少） 暗褐色土ブロック（多） ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり（良） 挖り方 | | | |
| 2 灰白色土 | 砂質 灰と骨粉の層 しまり（欠） | 16 暗褐色土 17 黒褐色土 18 暗褐色土 19 暗褐色土 20 暗黄褐色土 21 暗黄褐色土 22 黄褐色土 | ローム粒子・炭化物（少） しまり（良） 住居掘り方 シルト質 炭化物・烧土（多） しまり（欠） 粘質 ローム小ブロック（多） 炭化物（少） しまり（中） 粘質 ローム小ブロック（少） 炭化物（中） 粘質 ローム粒子・暗褐色土ブロック（多） しまり（欠） 暗褐色土ブロック主体 ローム粒子（少） 炭化物（微） しまり（欠） ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり（欠） | | | |
| 3 明赤褐色土 | シルト質 烧土ブロック硬化面 しまり（良） | | | | | |
| 4 暗赤褐色土 | 砂質 烧土粒子・烧土ブロック層 しまり（欠） | | | | | |
| 5 暗褐色土 | 粘質 ロームブロック（多） 炭化物・烧土ブロック（少） | | | | | |
| 柱穴 | | | | | | |
| 6 暗褐色土 | シルト質 ロームブロック（少） 炭化物・烧土（多） 土器片含む しまり（欠） | | | | | |
| 7 暗黄褐色土 | 粘質 暗褐色土ブロック・灰褐色粘土との混土 しまり（欠） 柱痕 | | | | | |
| 8 黄褐色土 | 粘質 ローム粒子（多） 炭化物・暗褐色土ブロック（少） 挖り方 | | | | | |
| 9 暗褐色土 | 粘質 ローム粒子（多） 炭化物（中） しまり（良） 挖り方 | | | | | |
| 10 暗赤褐色土 | 粘質 烧土ブロック しまり（良） 貼床 | | | | | |

第40図 第105 a号住居跡（3）



第41図 第105 b号住居跡 (1)



S J 105 b 炉跡

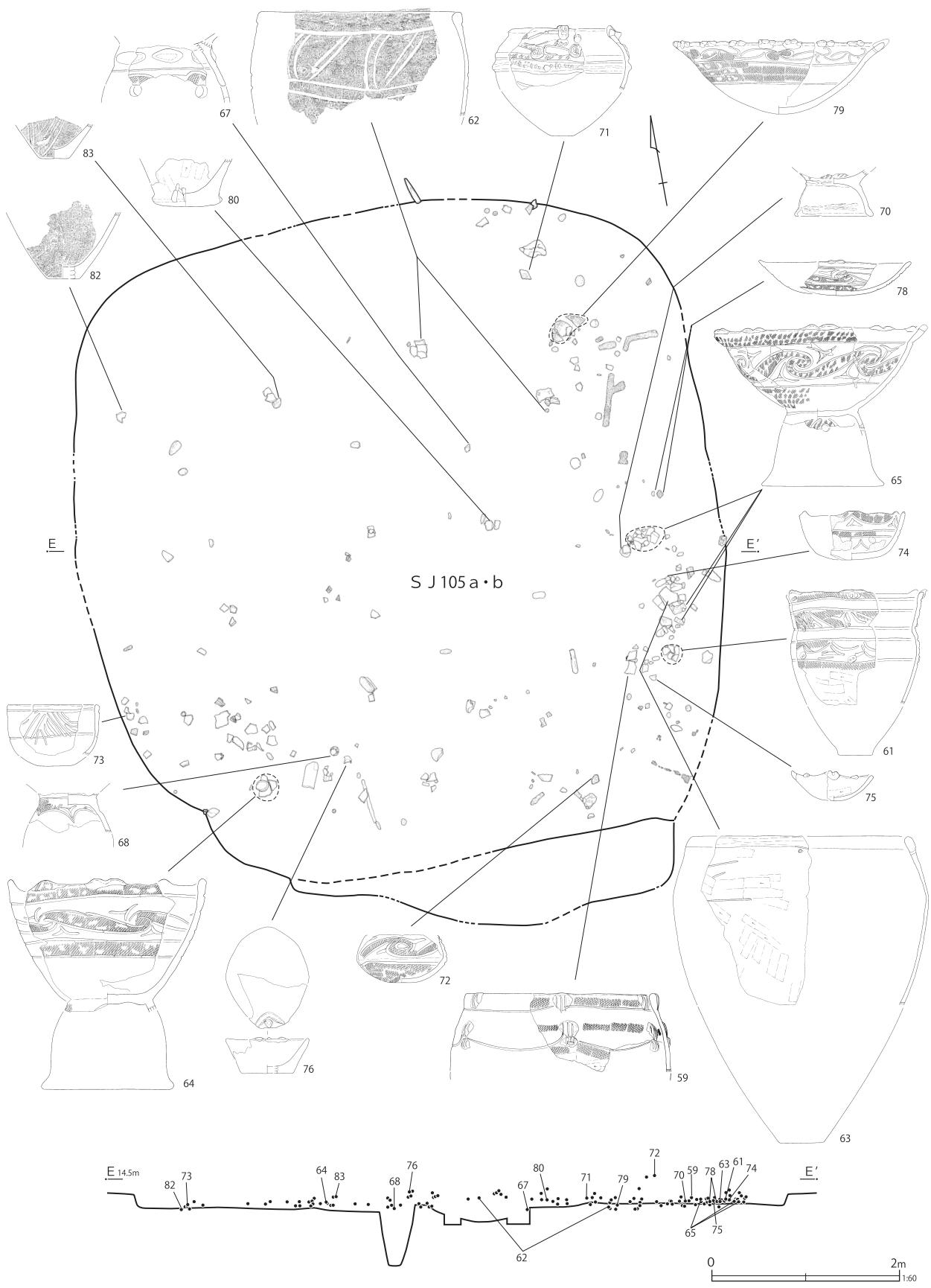
1 暗赤褐色土 粘質 暗褐色土ブロック・焼土ブロックとの混土
炭化物（多） しまり（欠）
2 灰白色土 砂質 灰・骨粉の層 しまり（欠）
3 明赤褐色土 シルト質 焼土ブロック硬化面 しまり（良）
4 暗赤褐色土 砂質 烧土粒子・焼土ブロック層 しまり（欠）
5 暗褐色土 粘質 ロームブロック（多） 炭化物・焼土ブロック（少）

柱穴

6 暗褐色土 シルト質 ロームブロック（少） 炭化物・焼土（多）
土器片含む しまり（欠）
7 暗黄褐色土 粘質 暗褐色土ブロック・灰褐色粘土との混土
しまり（欠） 柱痕
8 黄褐色土 粘質 ローム粒子（多） 炭化物・暗褐色土ブロック（少） 挖り方
9 暗褐色土 粘質 ローム粒子（多） 炭化物（中） しまり（良） 挖り方
10 暗赤褐色土 粘質 烧土ブロック しまり（良） 貼床
11 黑褐色土 粘質 炭化物（多） 烧土・炭化物（少） しまり（欠）

12 暗褐色土 粘質 炭化物・焼土・暗褐色土ブロック（少）
しまり（欠）
13 暗褐色土 粘質 暗褐色土主体 ロームブロック含む しまり（欠）
14 黄褐色土 粘質 ローム粒子（少） 暗褐色土ブロック（多）
しまり（欠） 柱痕
15 暗黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり（良） 挖り方
16 暗褐色土 ローム粒子・炭化物（少） しまり（良） 住居掘り方
17 黑褐色土 シルト質 炭化物・焼土（多） しまり（欠）
18 暗褐色土 粘質 ローム小ブロック（多） 炭化物（少）
しまり（中）
19 暗褐色土 粘質 ローム小ブロック（少） 炭化物（中）
20 暗黄褐色土 粘質 ローム粒子・暗褐色土ブロック（多） しまり（欠）
21 暗黄褐色土 暗褐色土ブロック主体 ローム粒子（少） 炭化物（微）
しまり（欠）
22 黄褐色土 ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり（欠）

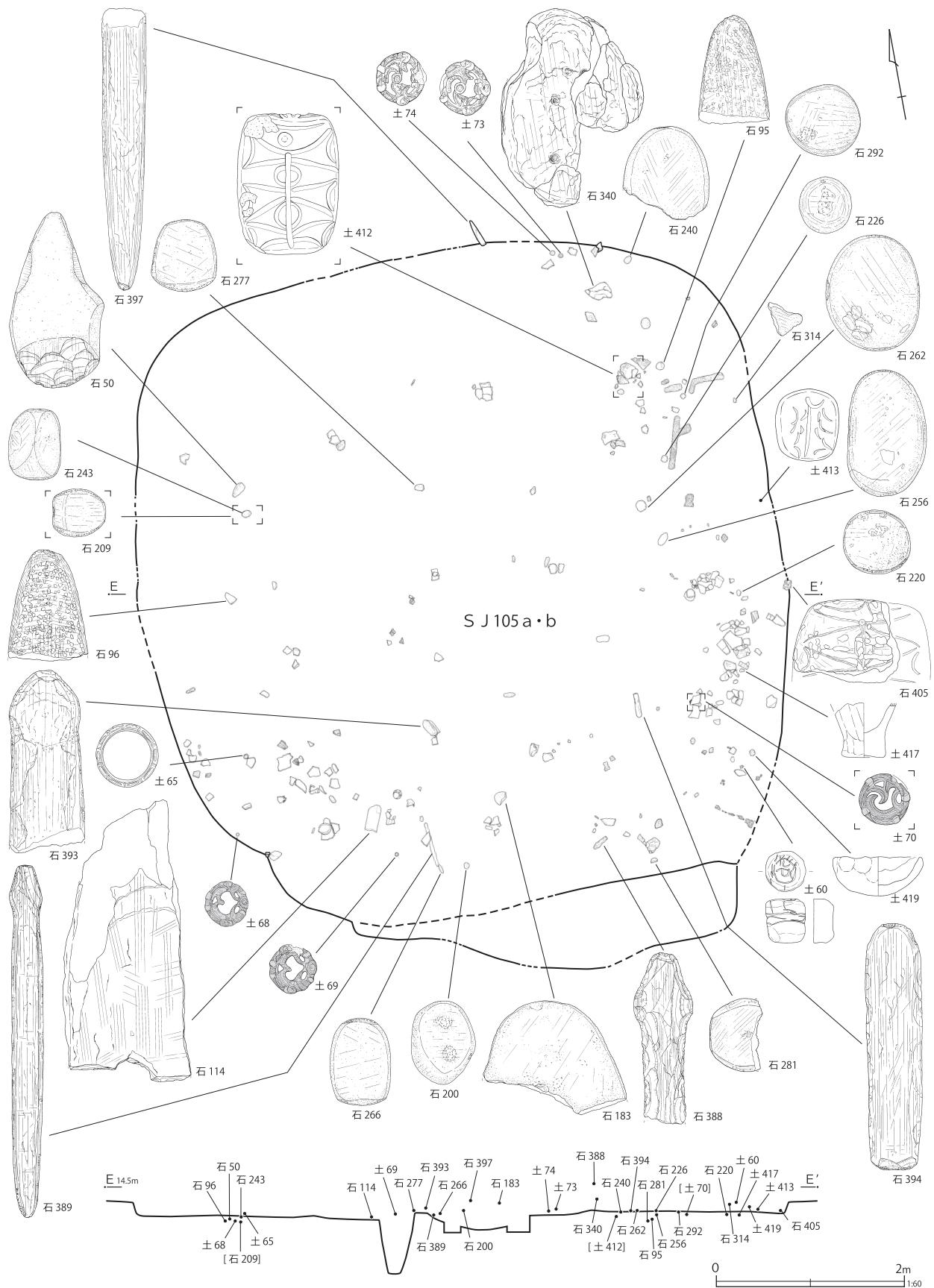
第42図 第105 b号住居跡（2）



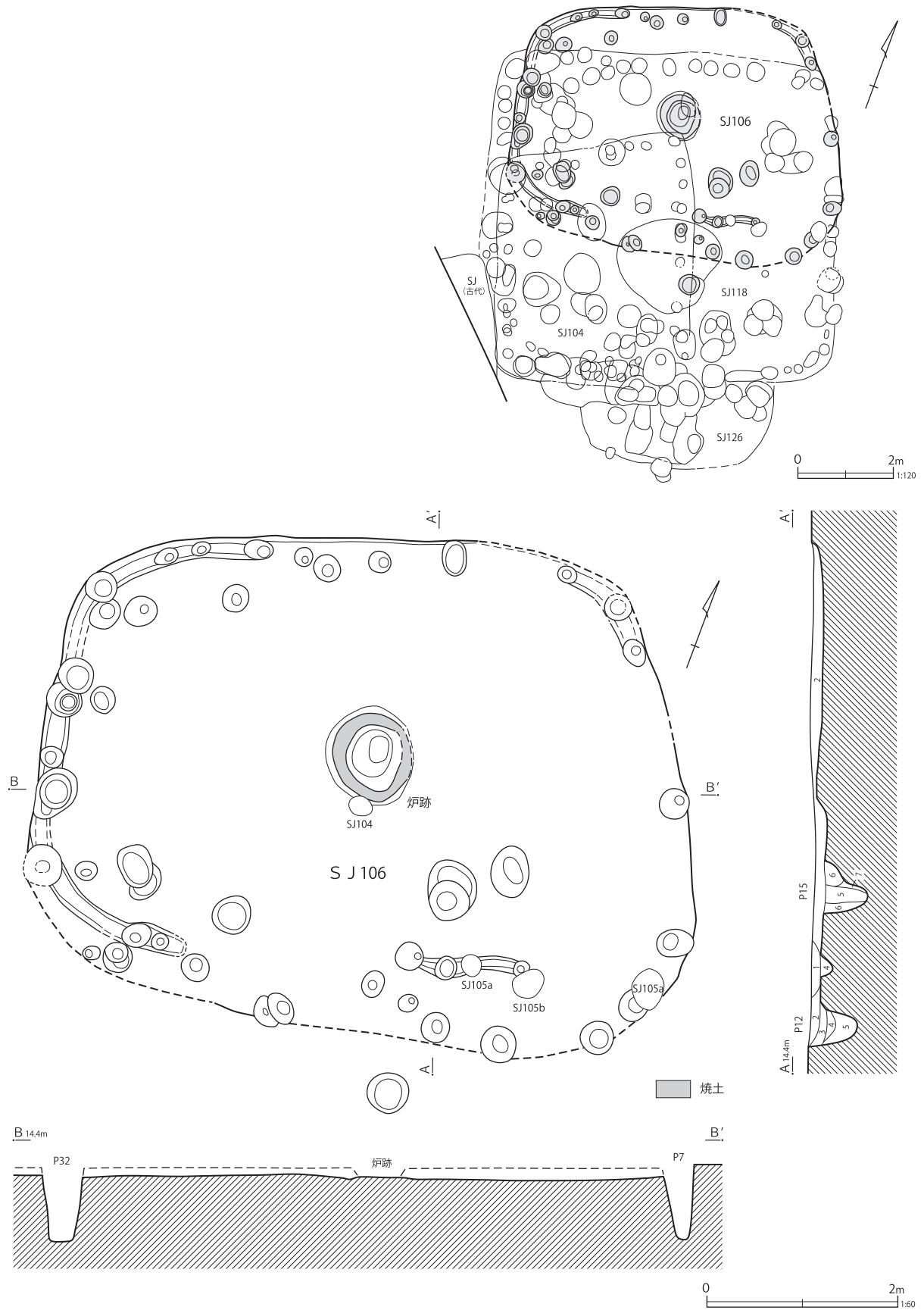
第43図 第105 a・b号住居跡遺物出土状況（1）



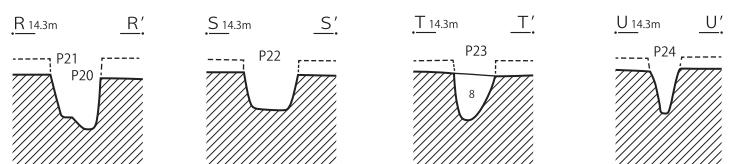
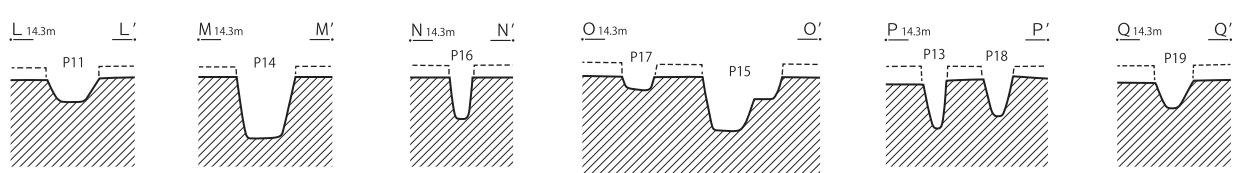
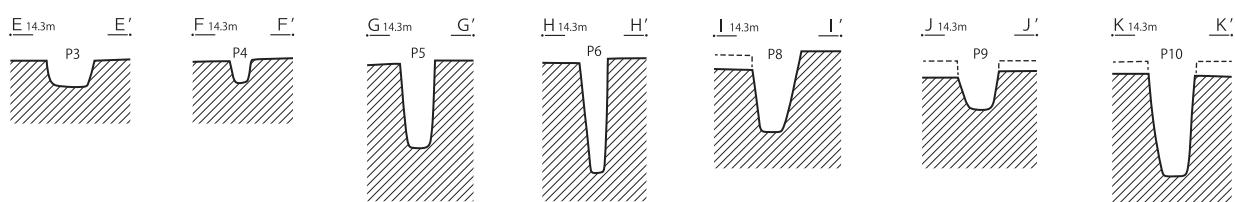
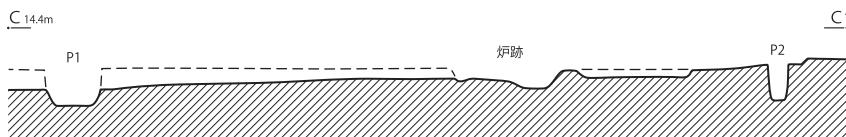
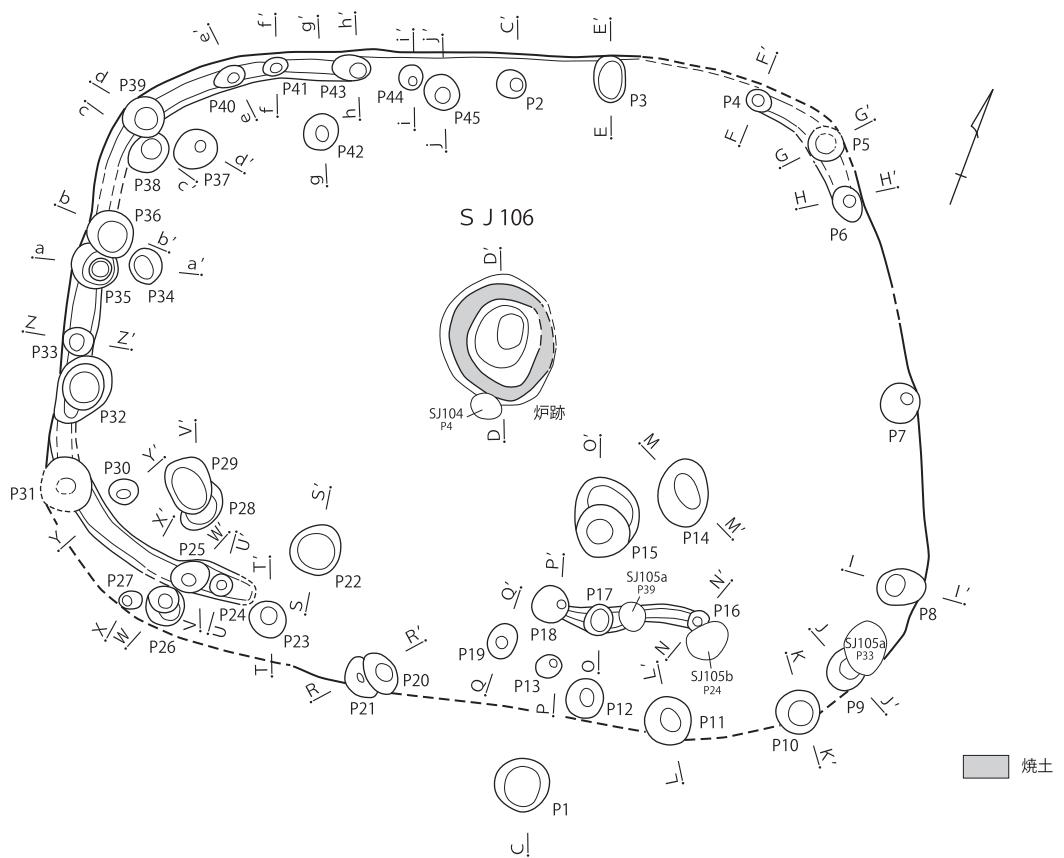
第44図 第105a · b号住居跡遺物出土状況 (2)



第45図 第105 a · b 号住居跡遺物出土状況 (3)

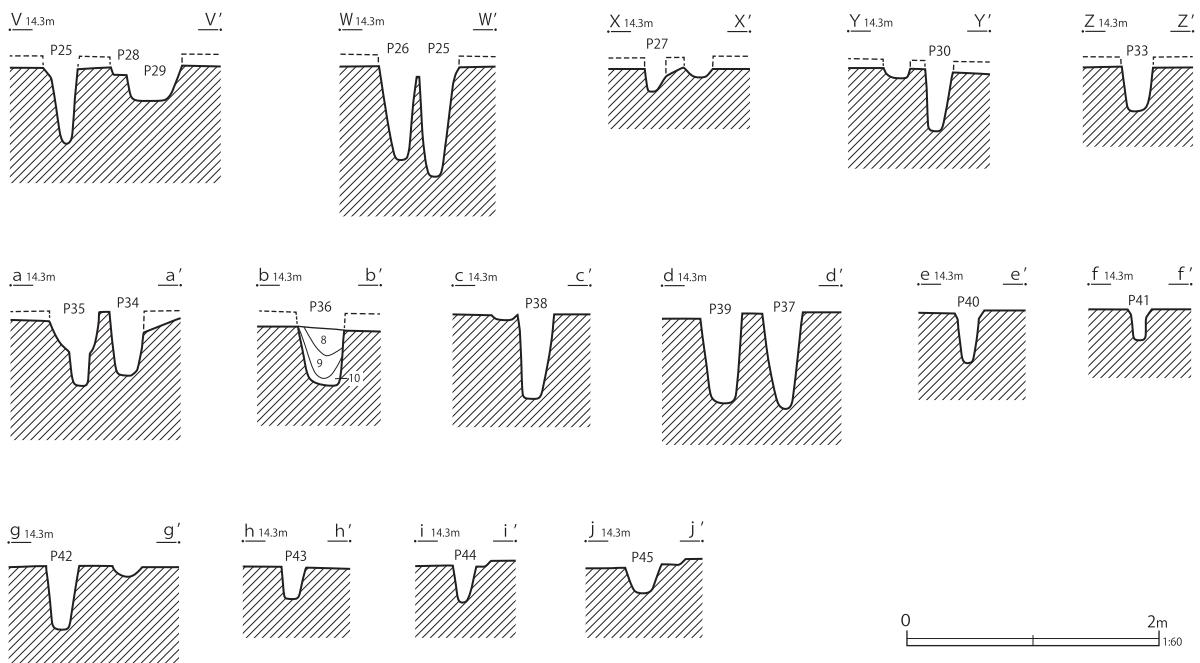


第46図 第106号住居跡（1）

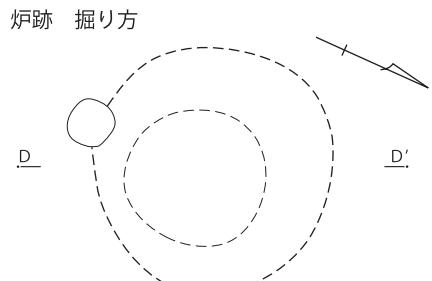
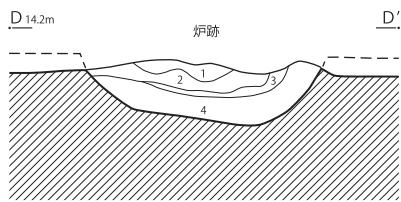
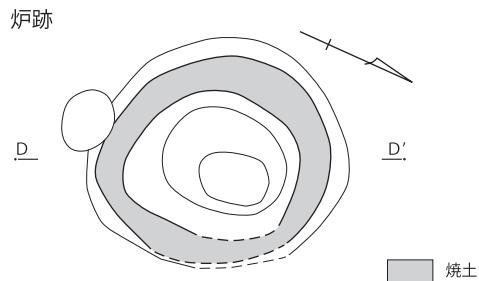


0 2m 1:60

第47図 第106号住居跡 (2)



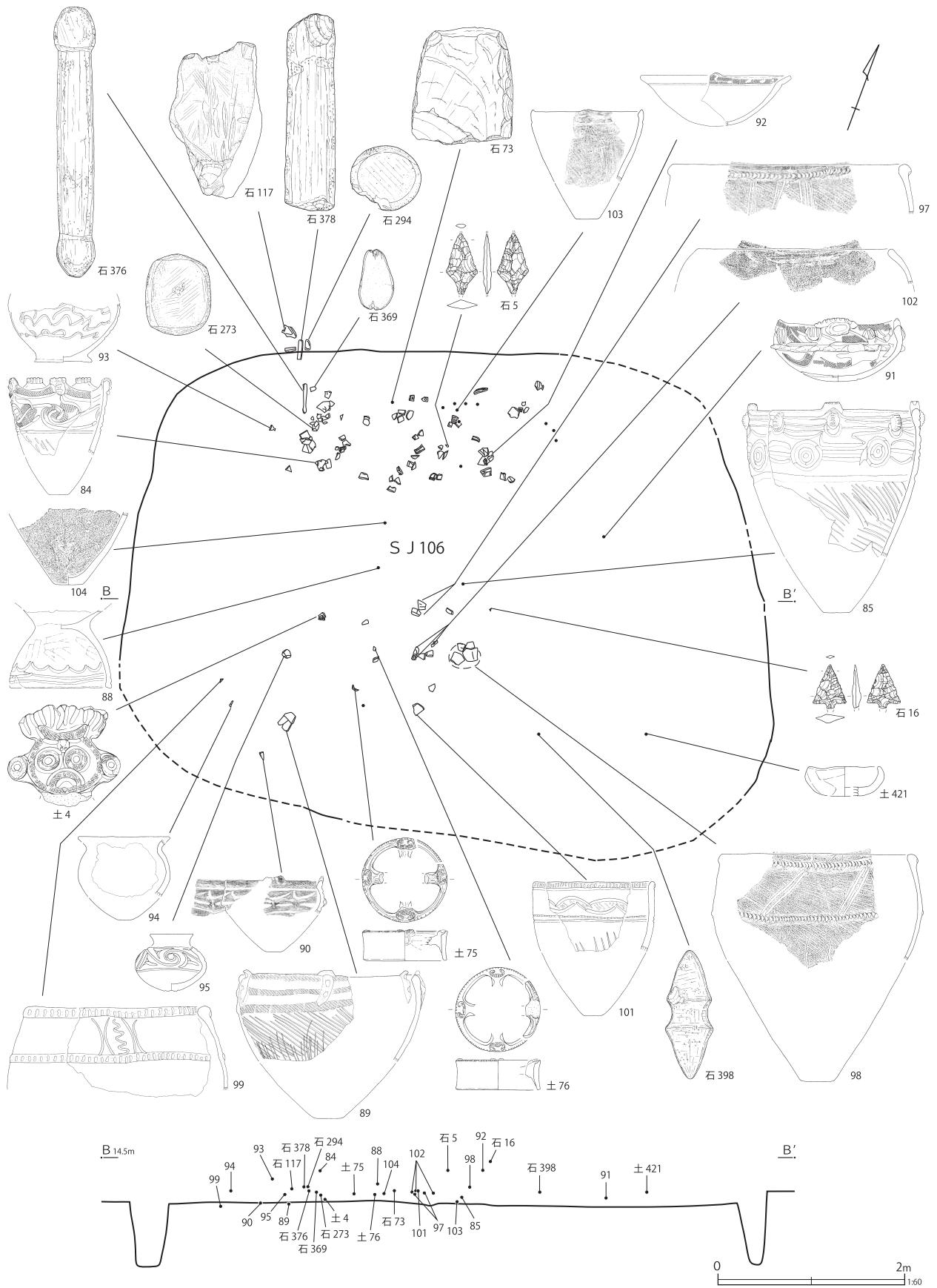
| S J 106 | | 6 暗褐色土 粘質 ローム小ブロック・炭化物(少) | |
|---------|-----------------------------------|---------------------------|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 粘質 炭化物(多) 焼土(少) しまり(欠) | 7 | 暗黄褐色土 粘質 ロームブロック(多) 挖り方 |
| 2 | 暗褐色土 粘質 炭化物・焼土・骨粉(中) しまり(欠) | 8 | 黒褐色土 粘質 炭化物・焼土(多) 灰含む しまり(欠) |
| 3 | 暗褐色土 粘質 炭化物・焼土・暗褐色土ブロック(少) しまり(欠) | 9 | 黒褐色土 粘質 ロームブロック・炭化物・焼土(少) しまり(欠) |
| 4 | 黒褐色土 粘質 炭化物(少) 焼土(多) しまり(欠) | 10 | 暗褐色土 粘質 暗褐色ブロック(多) しまり(欠) |
| 5 | 暗褐色土 シルト質 ロームブロック(多) 炭化物・焼土(中) 柱痕 | | |



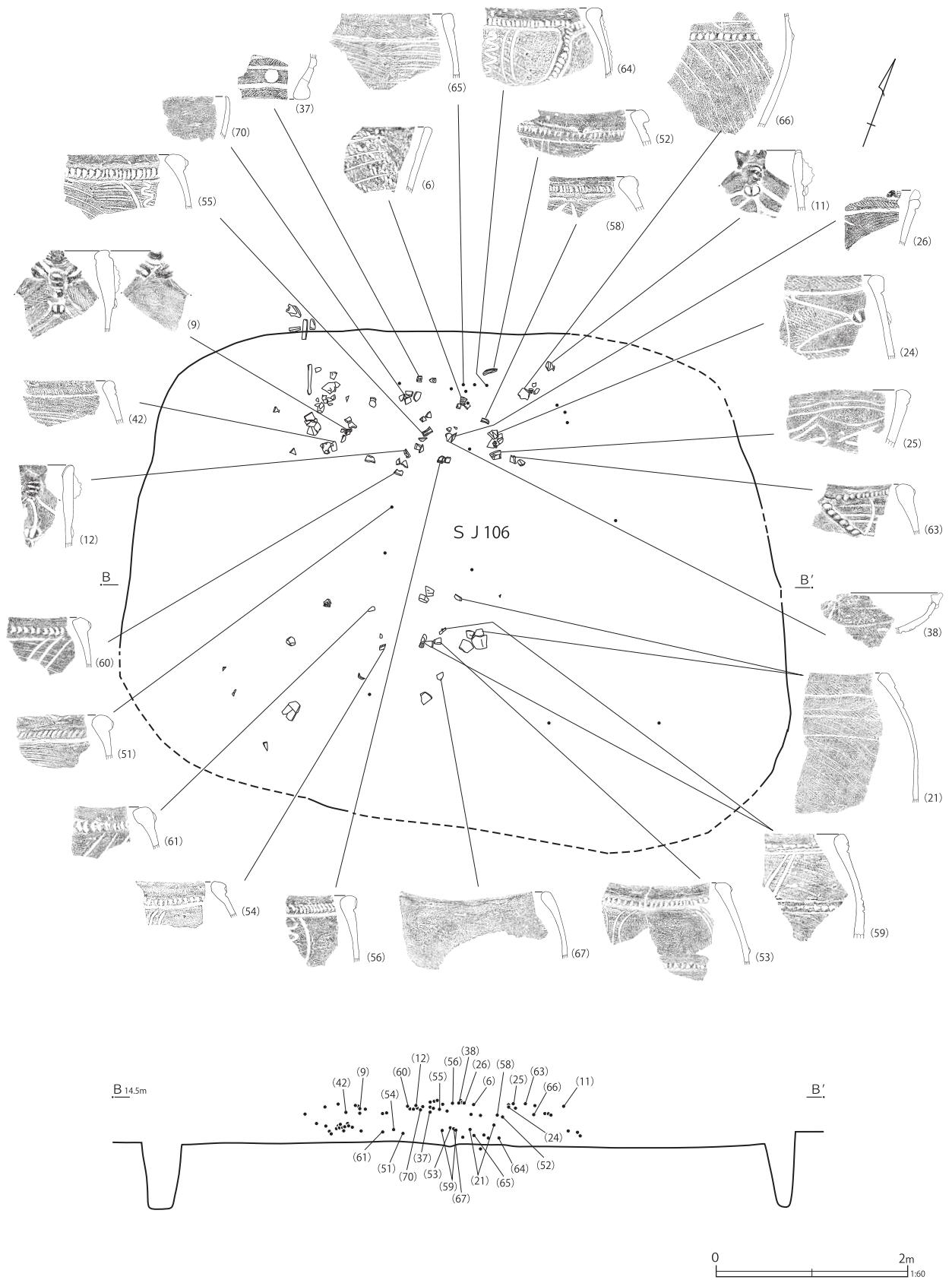
| S J 106 炉跡 | | | |
|------------|------------------------------------|---|-------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 粘質 炭化物・明灰色粘土ブロック・骨粉(多) しまり(欠) | 2 | 明灰色土 粘質 粘土・灰との混土 粘性(強) しまり(欠) |
| 3 | 赤褐色土 シルト質 焼土ブロック(多) しまり(欠) | 4 | 赤褐色土 砂質 被熱硬化面 |

0 1m 1:30

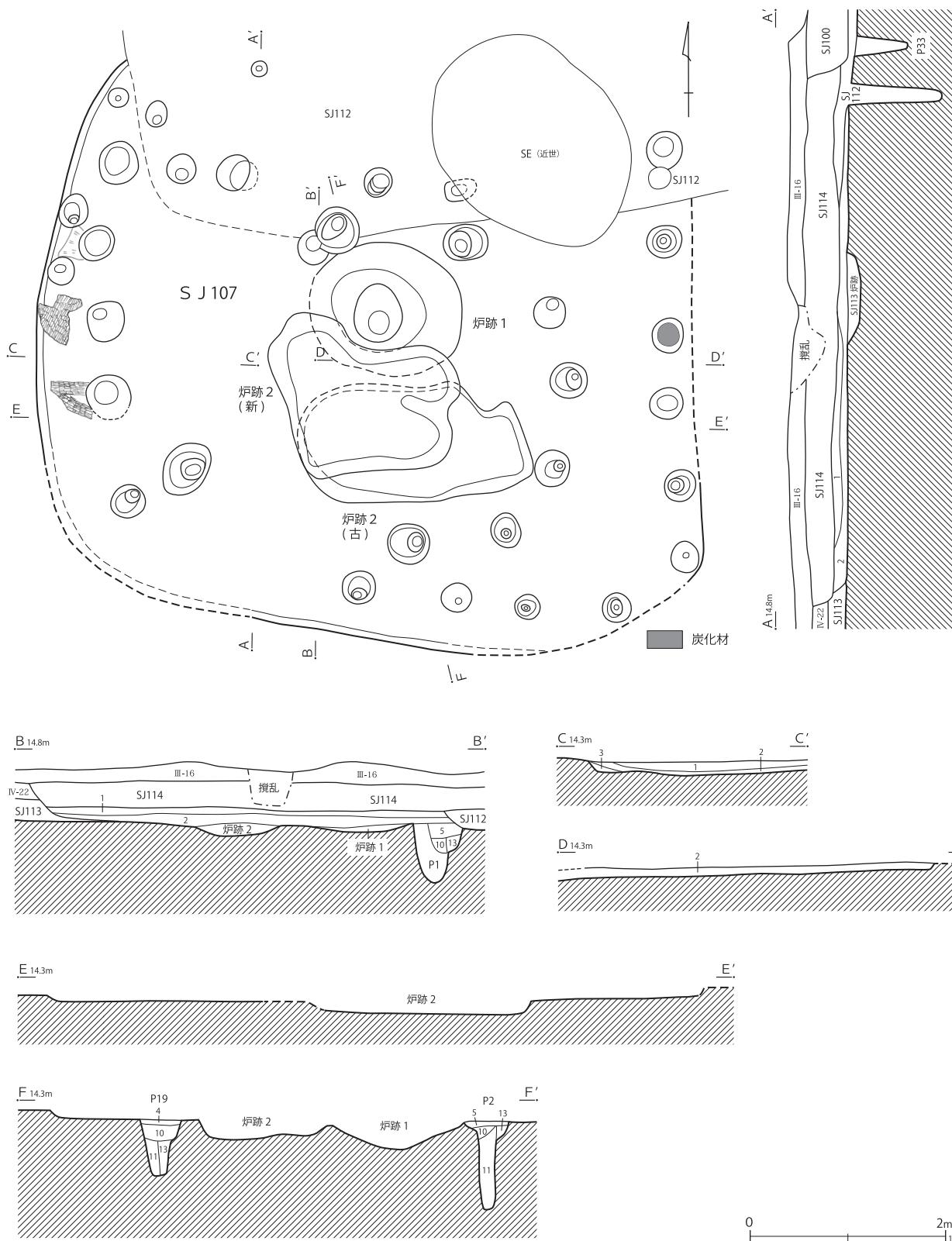
第48図 第106号住居跡 (3)



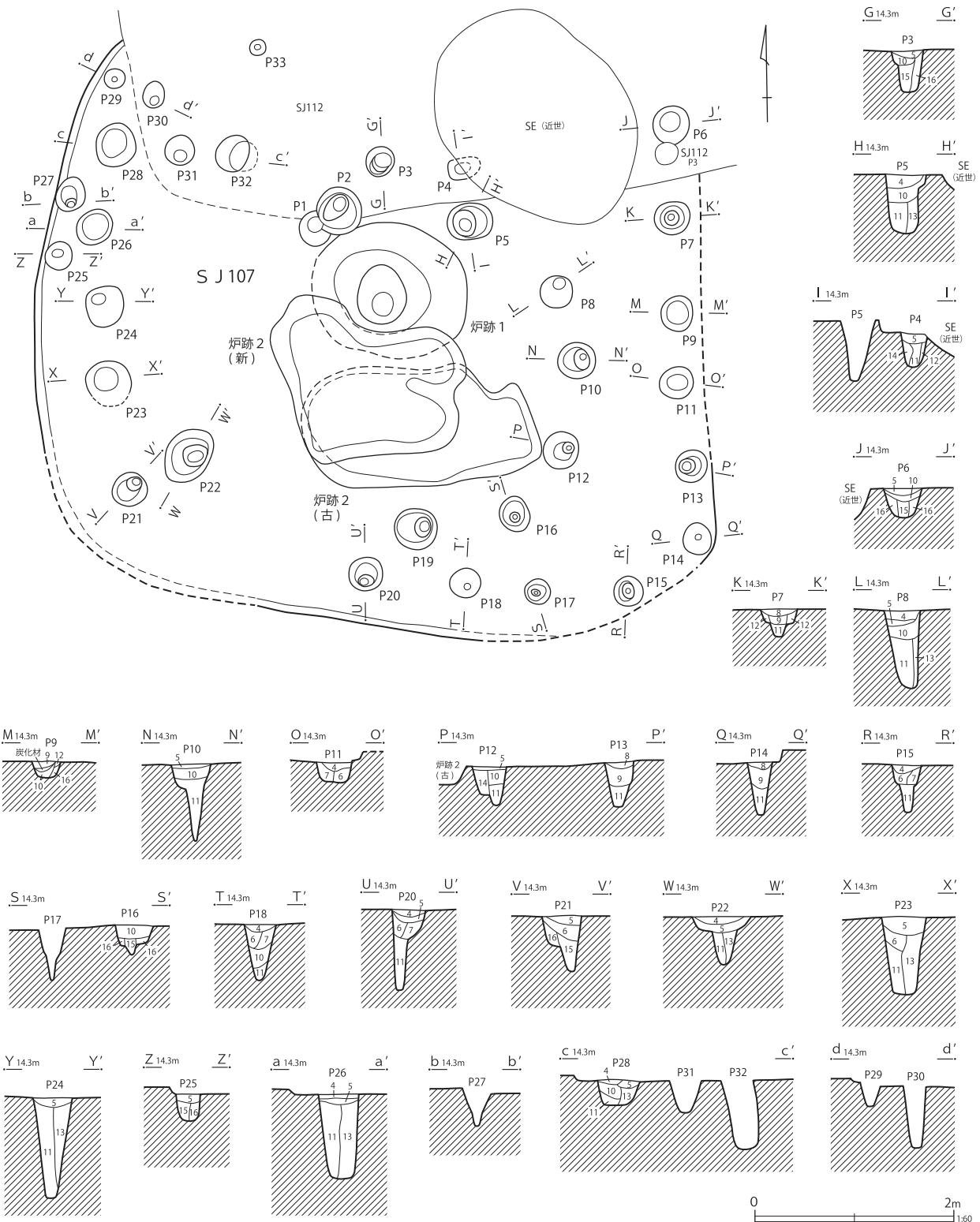
第49図 第106号住居跡遺物出土状況（1）



第50図 第106号住居跡遺物出土状況（2）



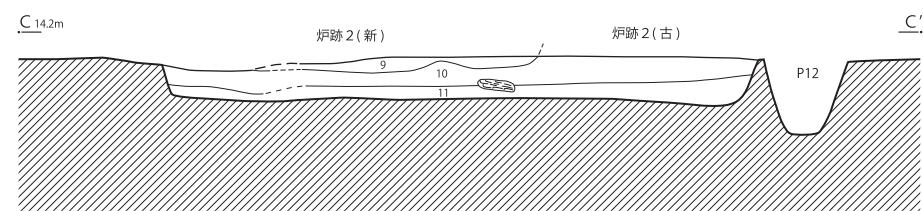
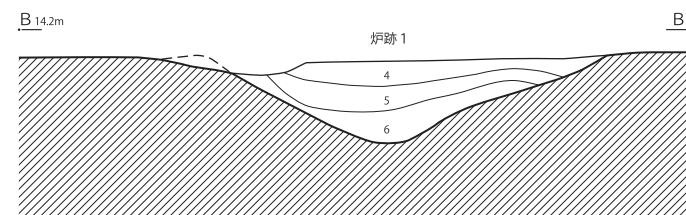
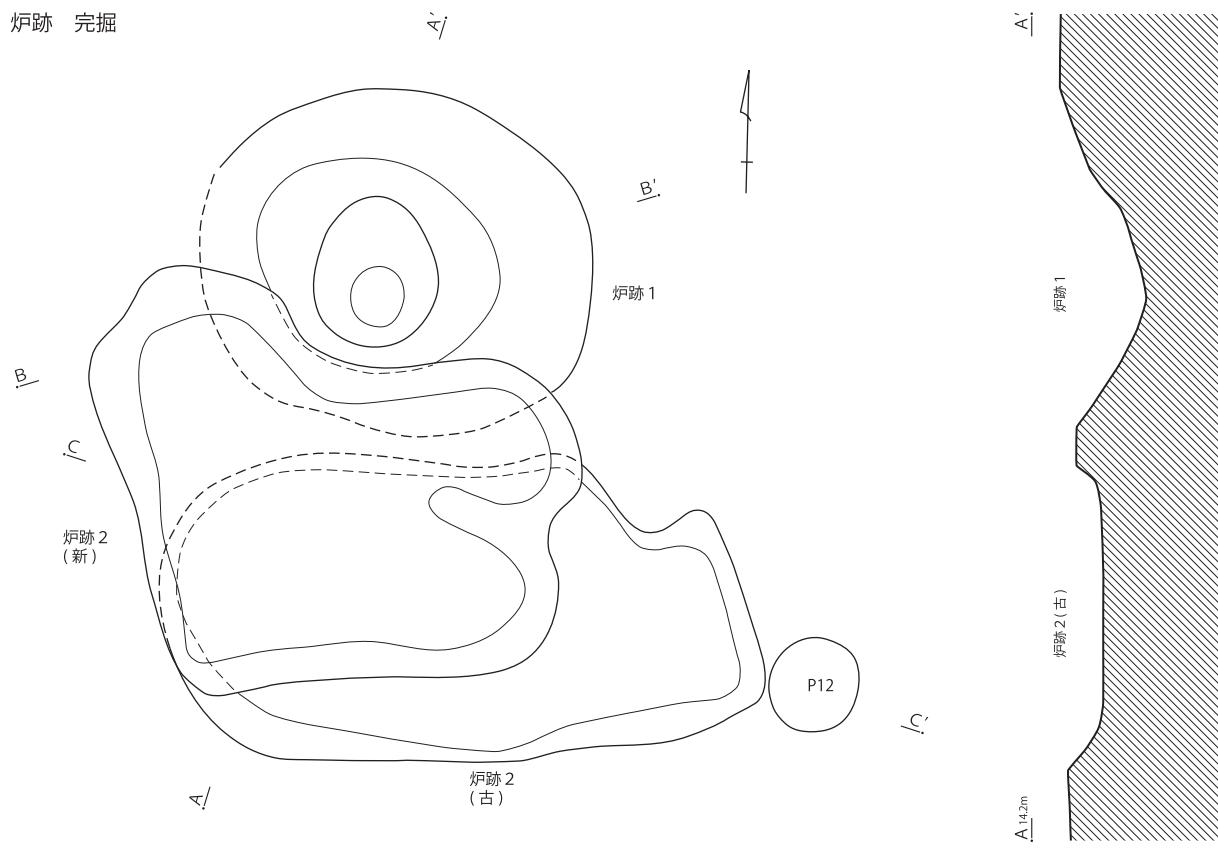
第51図 第107号住居跡（1）



| | |
|------------|--|
| S J 107 柱穴 | |
| 4 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子(多) 粘性(強) しまり(良) |
| 5 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(良) |
| 6 黒褐色土 | ローム粒子(多) 炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(欠) |
| 7 黒褐色土 | ローム粒子・ロームブロック(径5~10mm)(多) 炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(良) |
| 8 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(良) |
| 9 黒褐色土 | ローム粒子(多) 炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(良) |
| 10 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子(多) 粘性(強) しまり(良) |
| 11 黒褐色土 | ローム粒子(多) 烧土粒子(少) 粘性(強) しまり(良) |
| 12 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(良) |
| 13 暗褐色土 | ローム粒子・燒土粒子(少) 粘性(強) しまり(良) |
| 14 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子(多) 粘性(強) しまり(良) |
| 15 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子(多) 粘性(強) しまり(良) |
| 16 黑褐色土 | ローム粒子(径5mm)・炭化物・焼土粒子(多) 粘性(強) しまり(良) |

第52図 第107号住居跡 (2)

炉跡 完掘

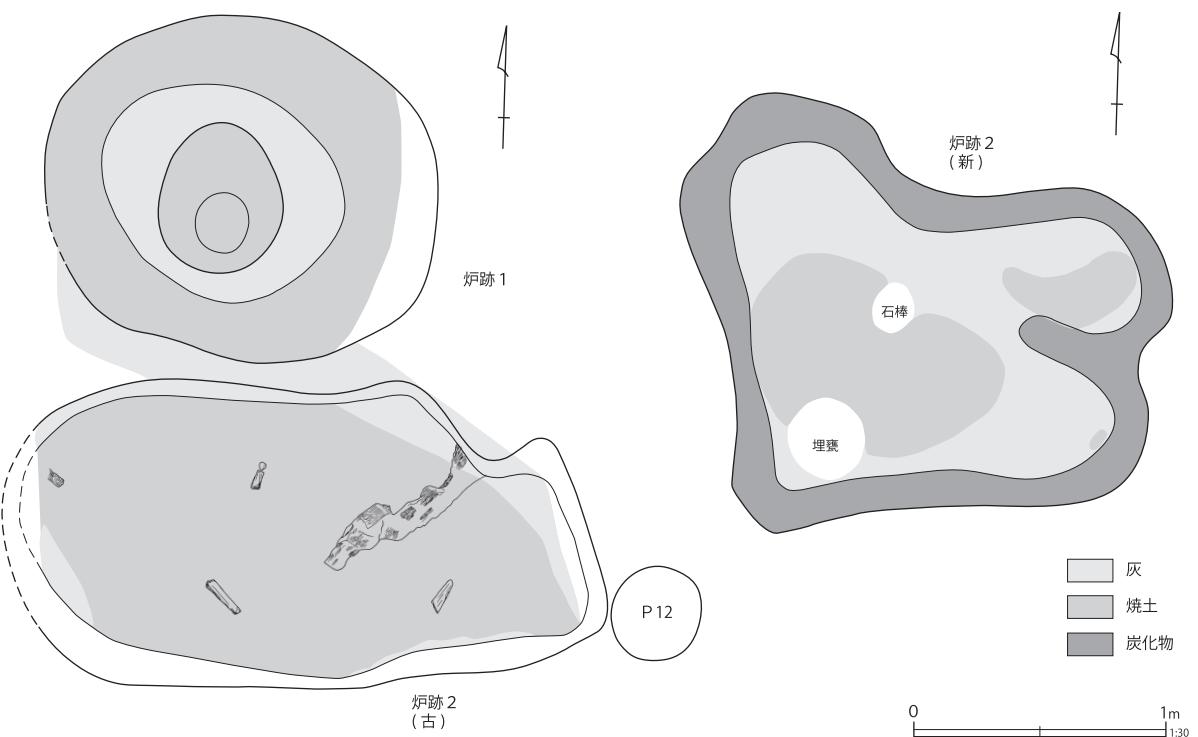
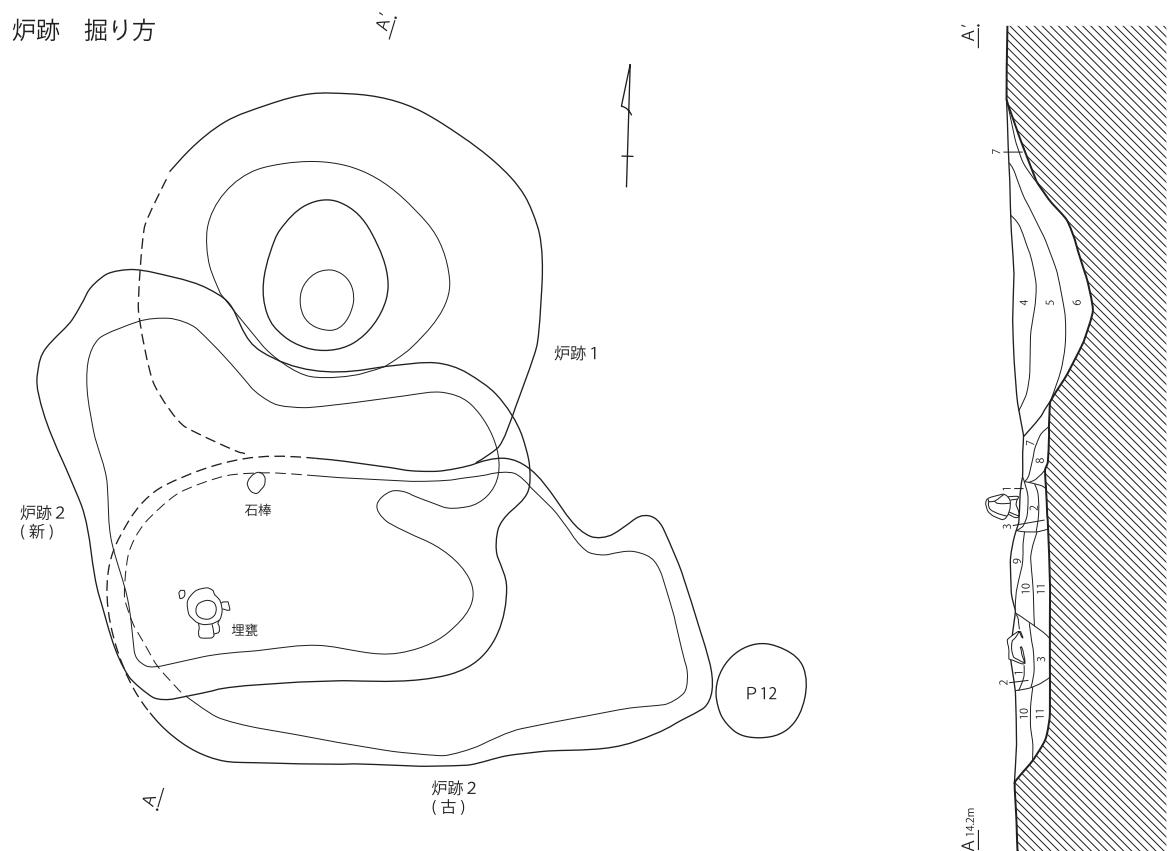


0 1m 1:30

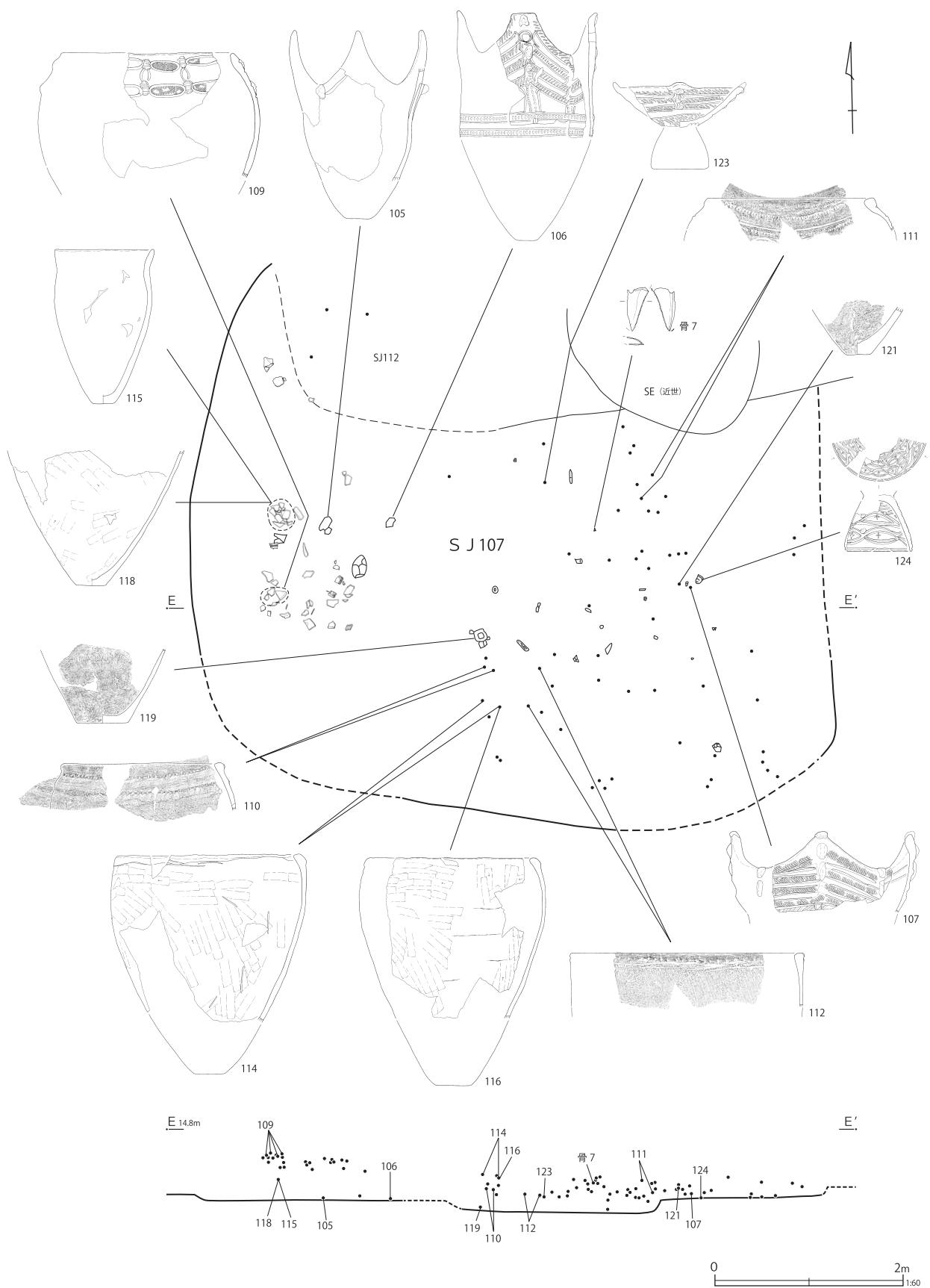
S J 107 石棒・埋甕

| | |
|--|---|
| 1 暗褐色土 炭化物 (少) 焼土粒子 (多) 粘性 (強) しまり (良) | 4 暗褐色土 炭化物 (極多) 焼土粒子 (多) 粘性 (強) しまり (良) |
| 2 黒褐色土 ローム粒子・炭化物 (多) 焼土粒子 (少) 粘性 (強) しまり (良) | 5 黒色土 焼土粒子 (少) 炭化物の土壤化 粘性 (強) しまり (良) |
| 3 黒褐色土 炭化物・焼土粒子 (多) 粘性 (強) しまり (良) | 6 白灰色土 灰層 粘性 (弱) しまり (良) |
| | 7 赤色土 焼土層 粘性 (弱) しまり (良) 炉跡 1 火床面 |
| | 8 赤色土 焼土層 粘性 (弱) しまり (欠) 炉跡 1 掘り方 |
| | 9 赤色土 炭化物・焼土ブロック (径 5~30 mm) (極多) 粘性 (弱) しまり (良) 貼床 炉跡 2 埋土 |
| 10 暗褐色土 炭化物・焼土粒子 (多) 粘性 (弱) しまり (良) | |
| 11 黒色土 炭化物 (極多) 焼土粒子 (少) 粘性 (強) しまり (良) | |

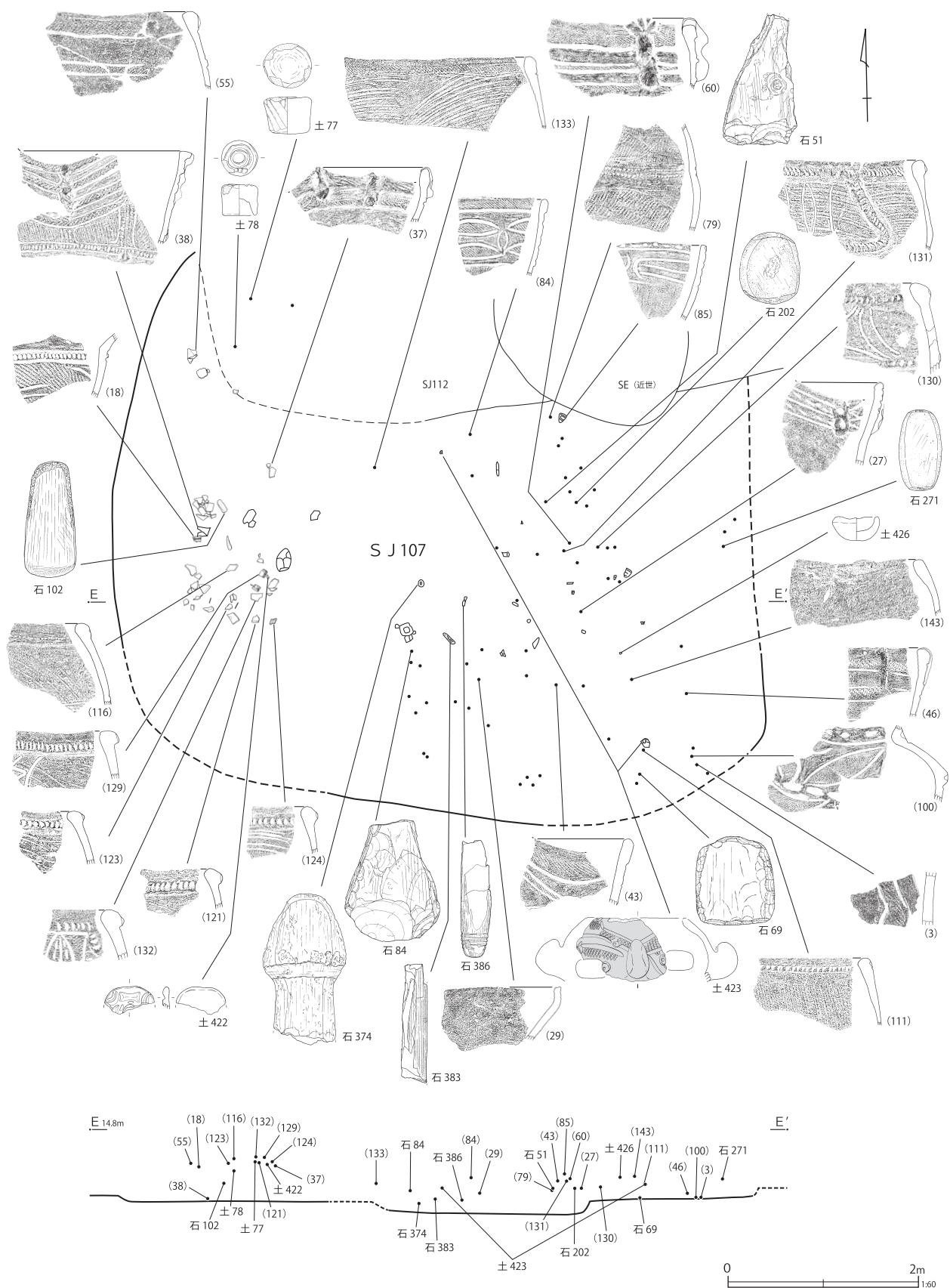
第53図 第107号住居跡 (3)



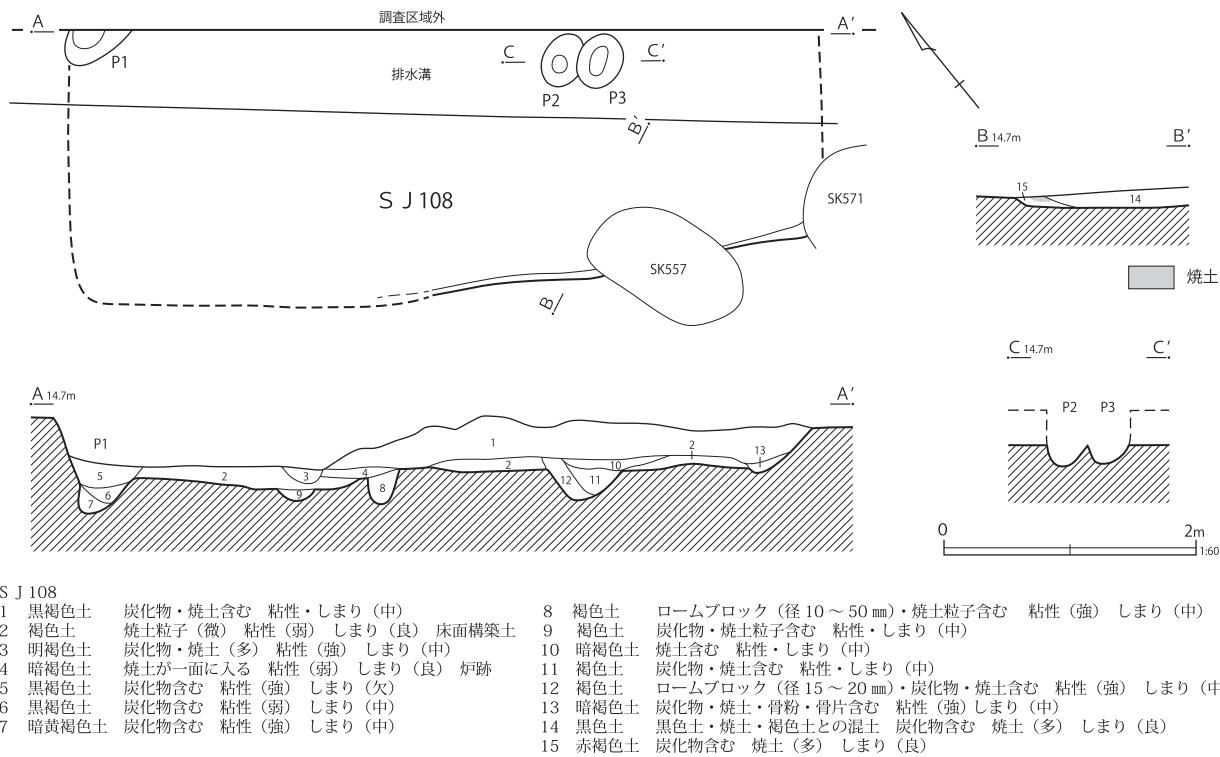
第54図 第107号住居跡 (4)



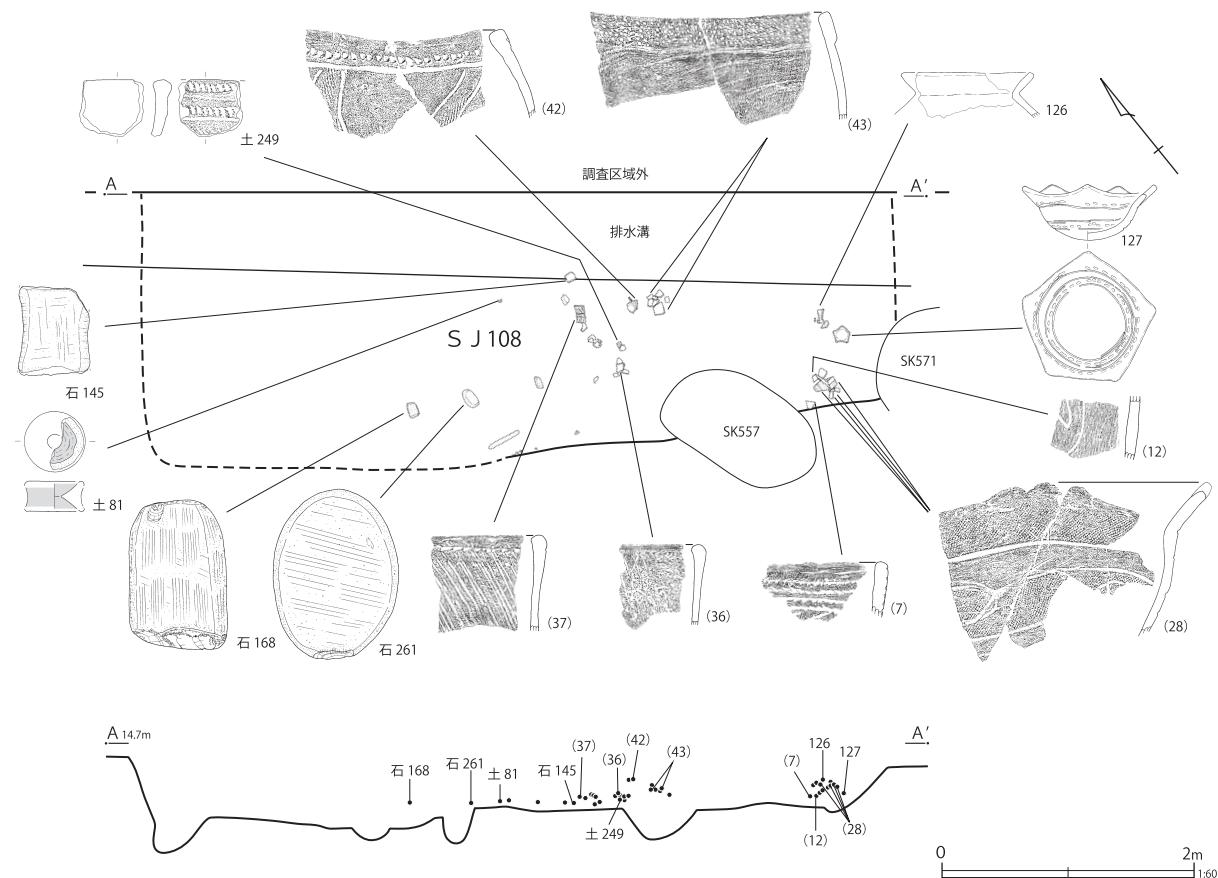
第55図 第107号住居跡遺物出土状況（1）



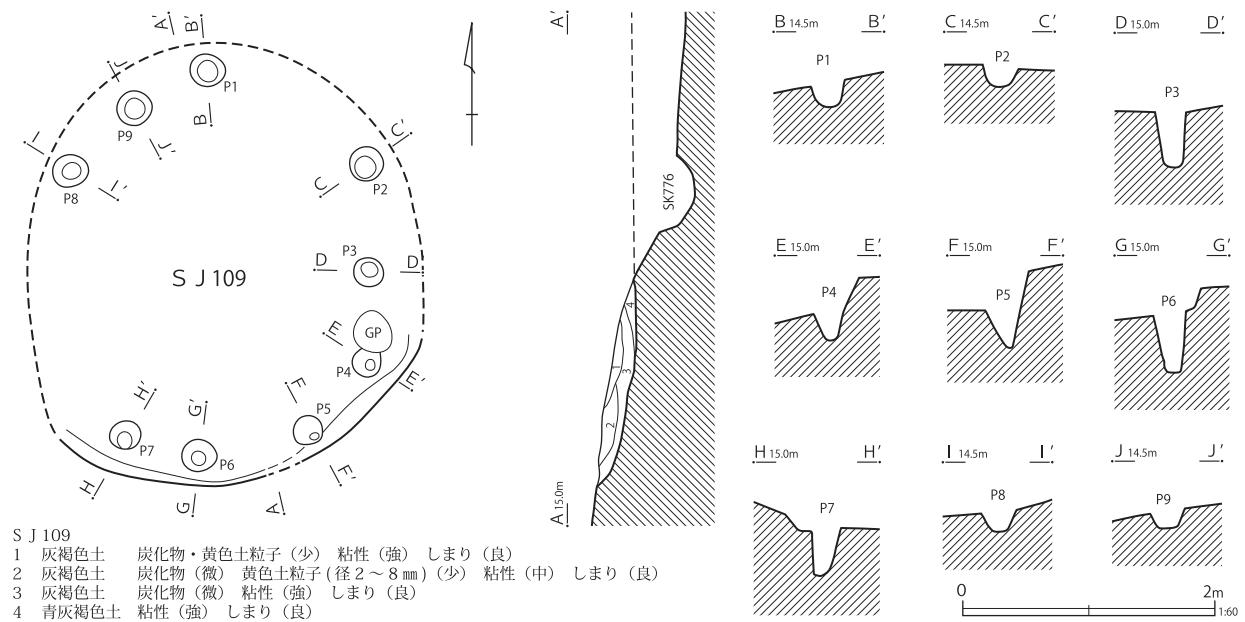
第56図 第107号住居跡遺物出土状況（2）



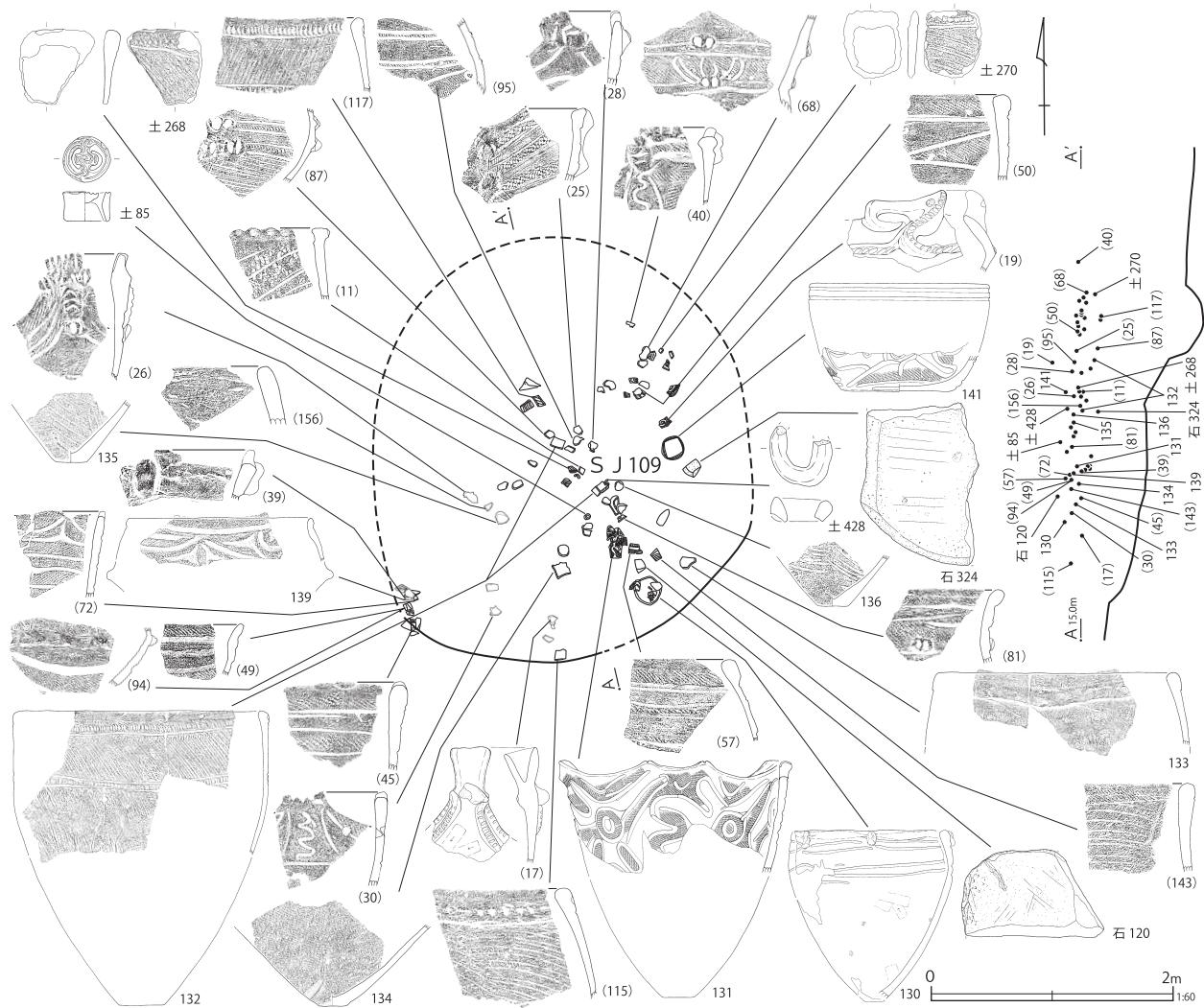
第57図 第108号住居跡



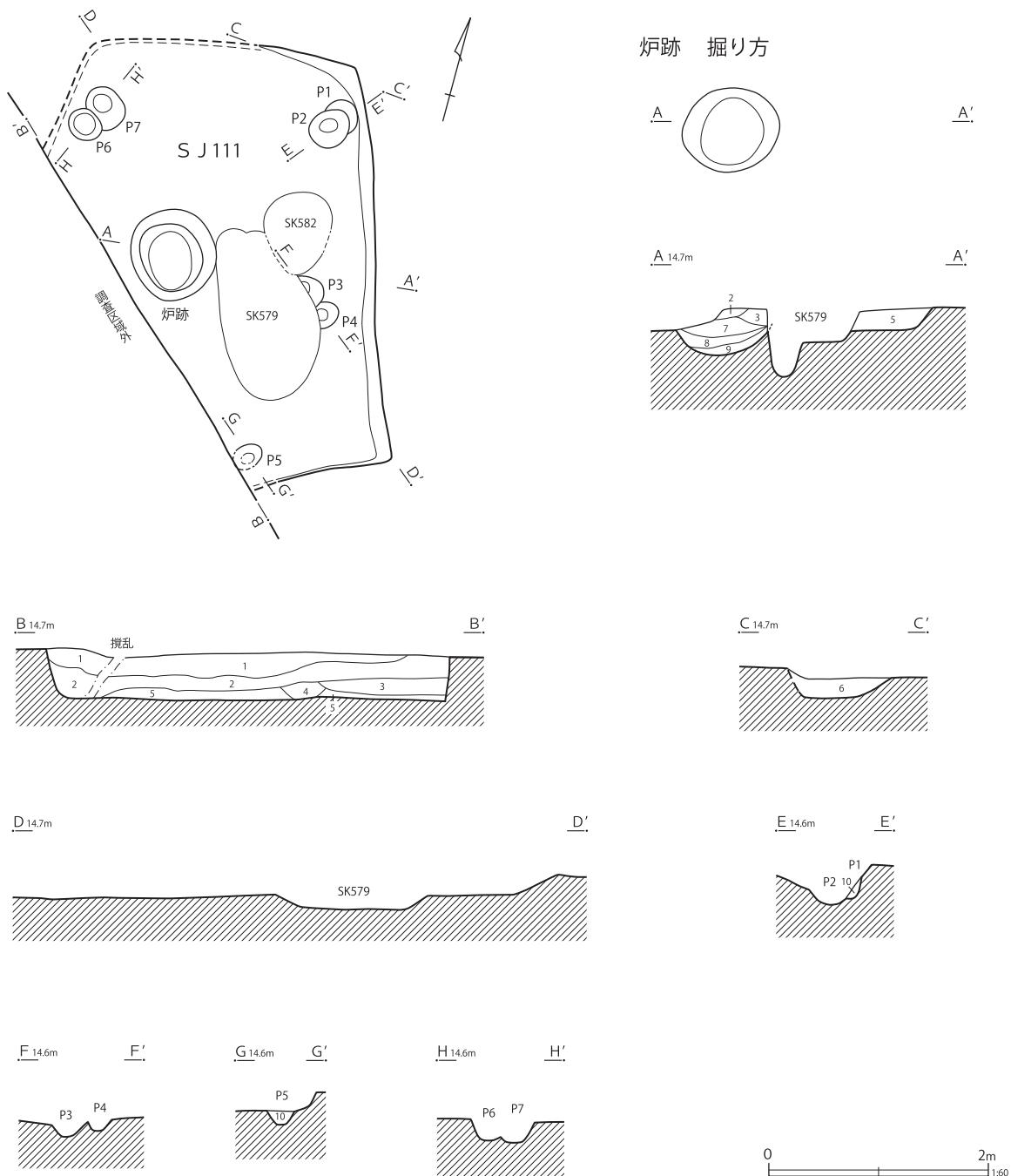
第58図 第108号住居跡遺物出土状況



第59図 第109号住居跡

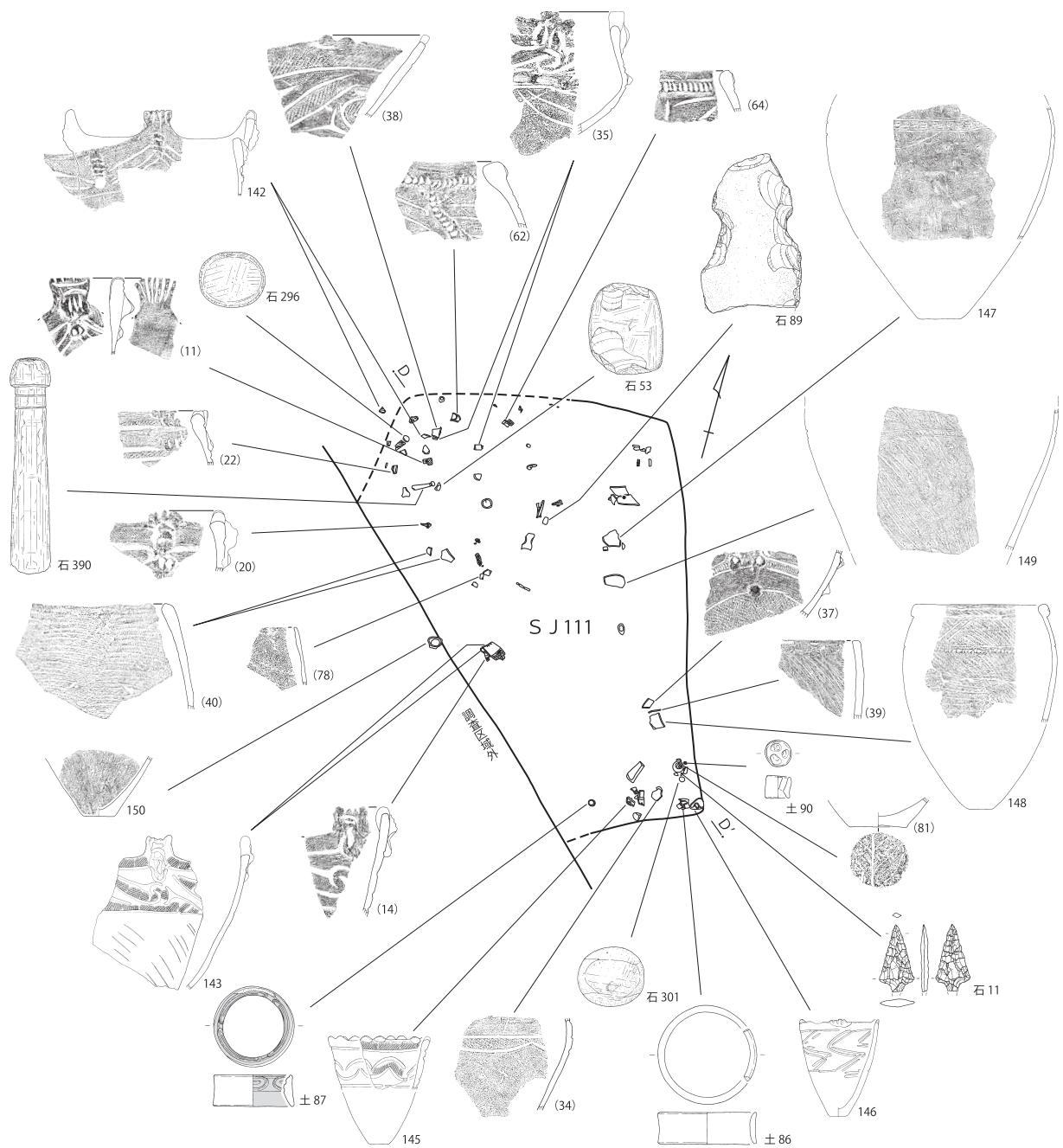


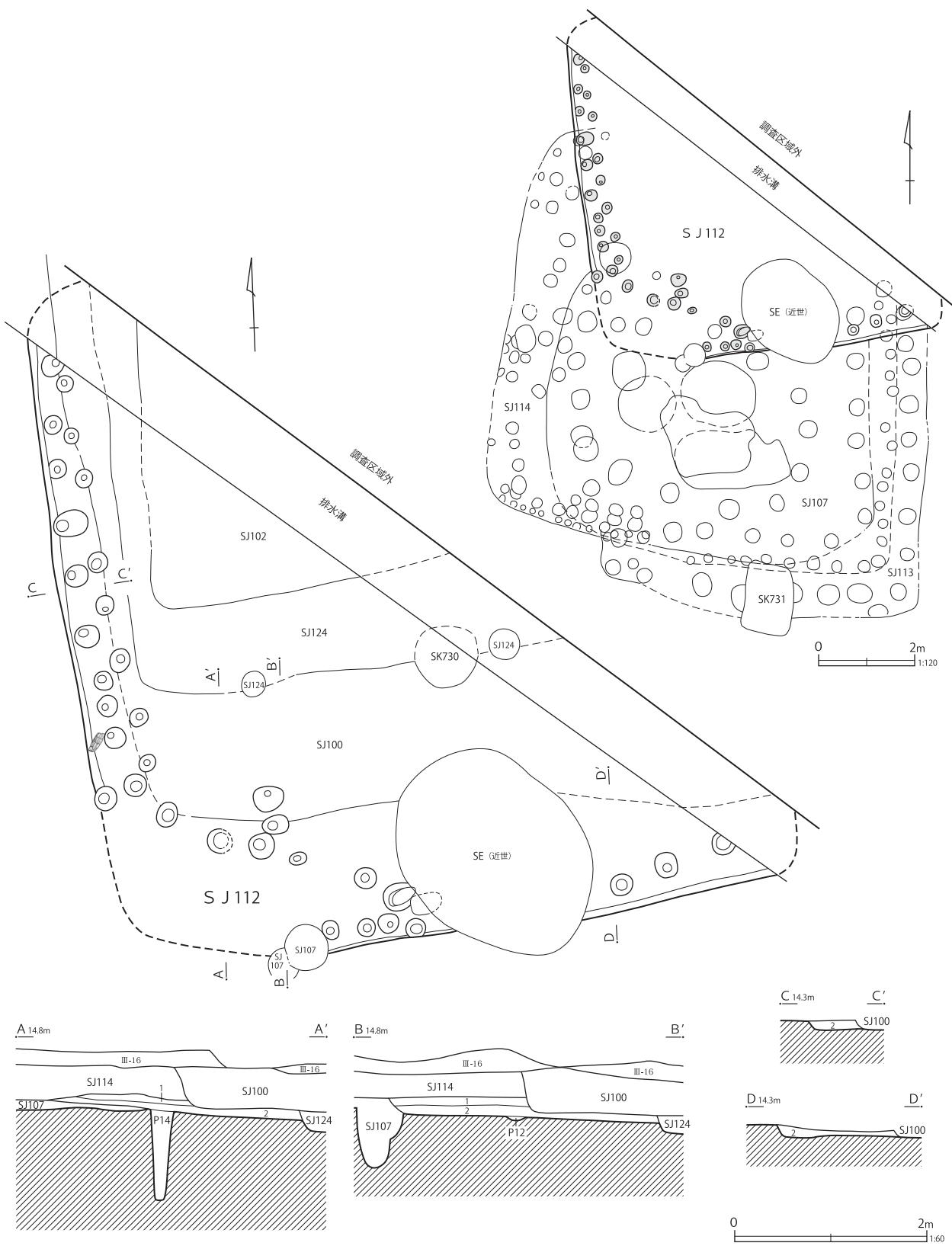
第60図 第109号住居跡遺物出土状況



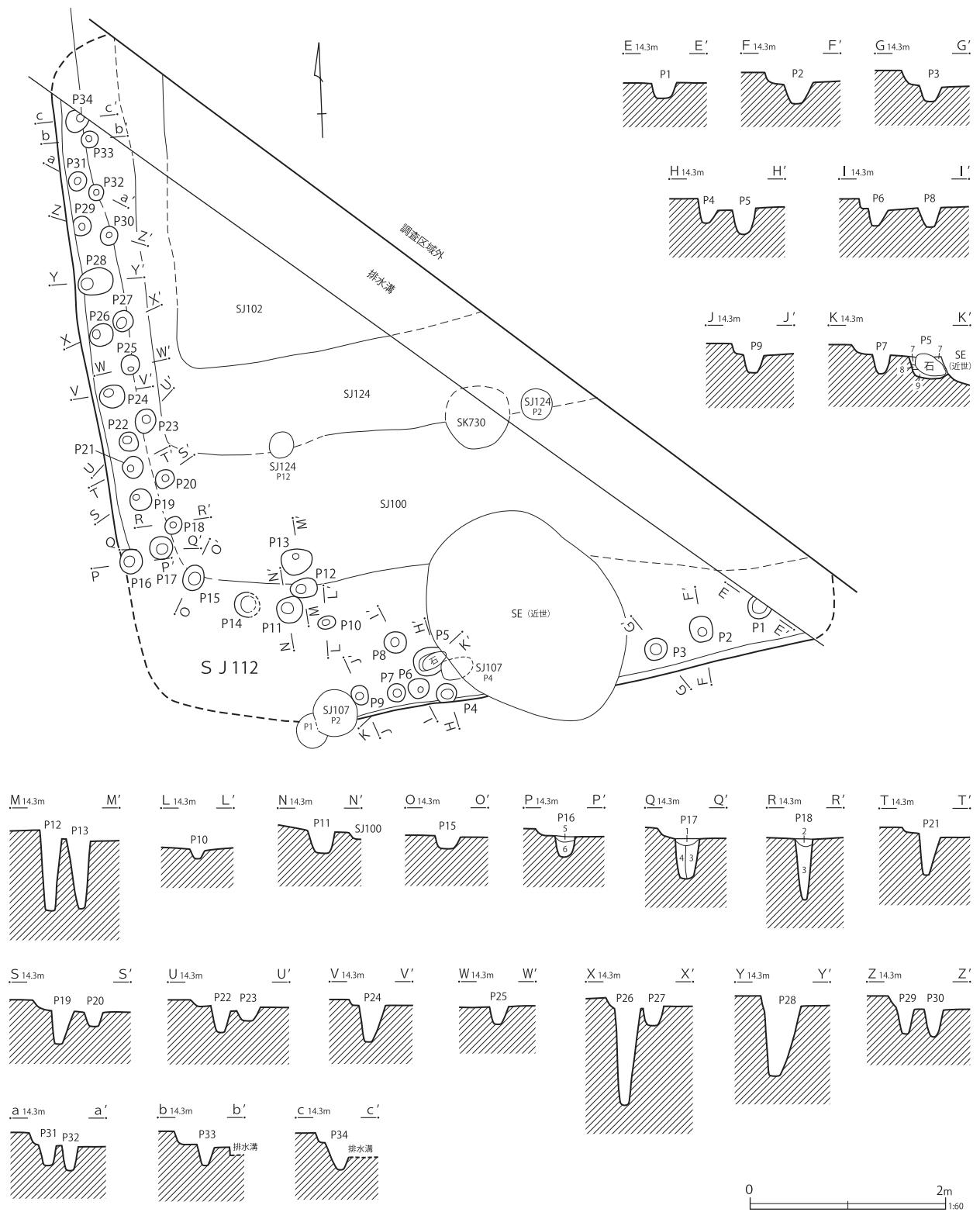
| | |
|---------|---|
| S J 111 | |
| 1 褐色土 | 炭化物（微） 焼土粒子（少） 黄色土粒子（多） 粘性（弱） しまり（良） |
| 2 暗黄褐色土 | 炭化物粒子・焼土粒子（少） 粘性（無） しまり（良） |
| 3 暗褐色土 | 炭化物（少） 焼土粒子・焼土小ブロック（多） 粘性（無） しまり（良） |
| 4 暗褐色土 | 焼土・灰色粘土（多） 粘性（中） しまり（欠） |
| 5 褐色土 | 炭化物（微） 粘性（弱） しまり（良） 埋土 |
| 6 明褐色土 | ロームブロック（多） 炭化物・焼土粒子（微） 粘性（中） 壁面崩落土 |
| | 炉跡 7 暗褐色土 焼土・灰色粘土（多） 粘質（中） しまり（欠） 8 赤褐色土 焼土を主体として粘土斑にまじる 粘性（無） しまり（欠） 9 褐色土 炭化物・焼土（多） 粘性（欠） しまり（中） 火床部 挖り方 柱穴 10 暗褐色土 ローム粒子・炭化物小片（少） 粘性（中） しまり（良） |

第61図 第111号住居跡





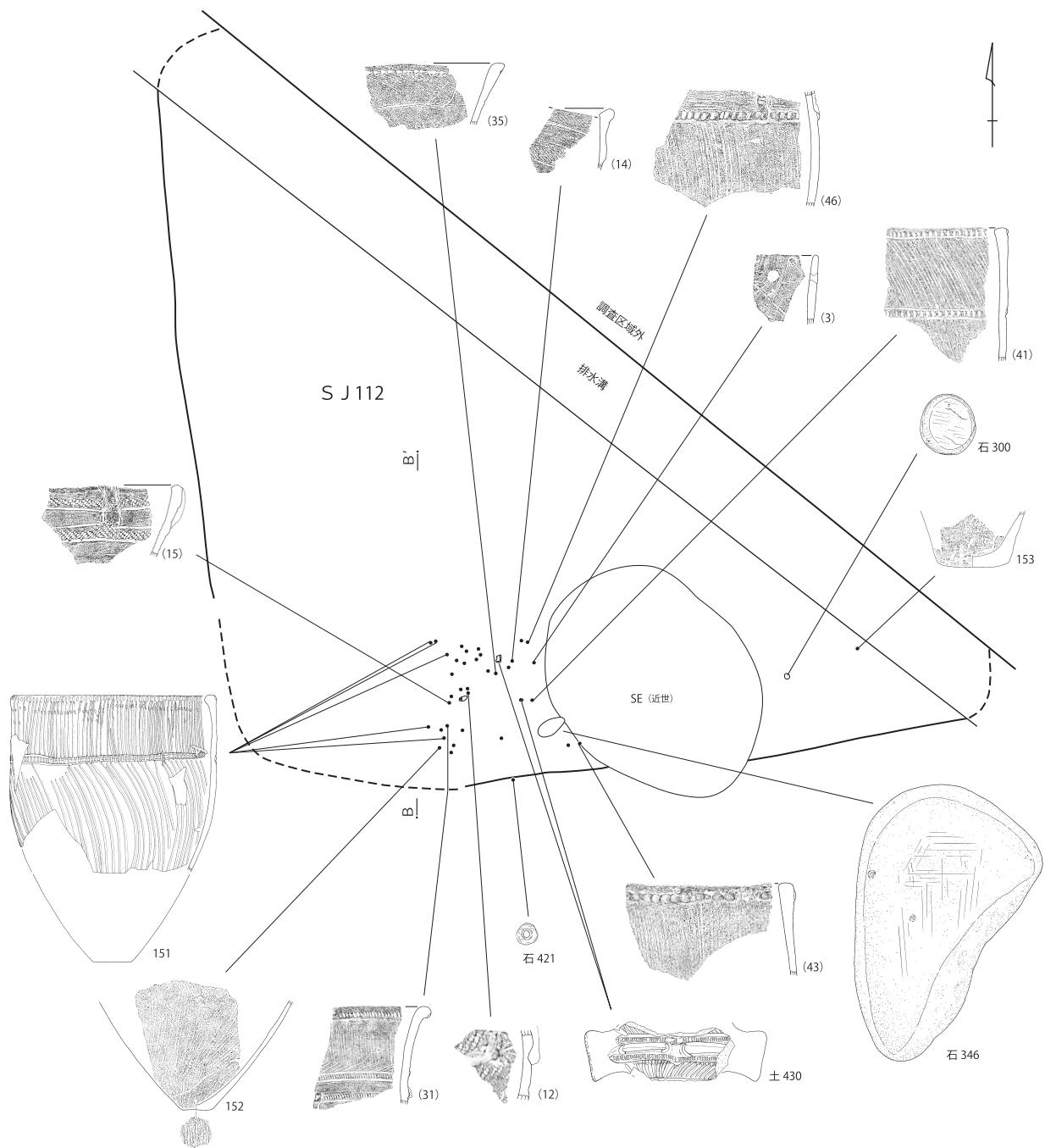
第63図 第112号住居跡（1）



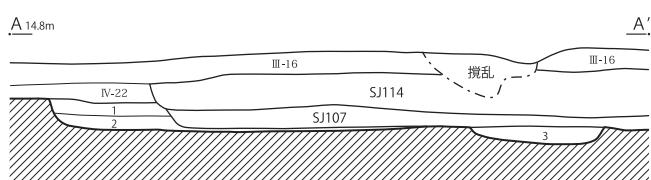
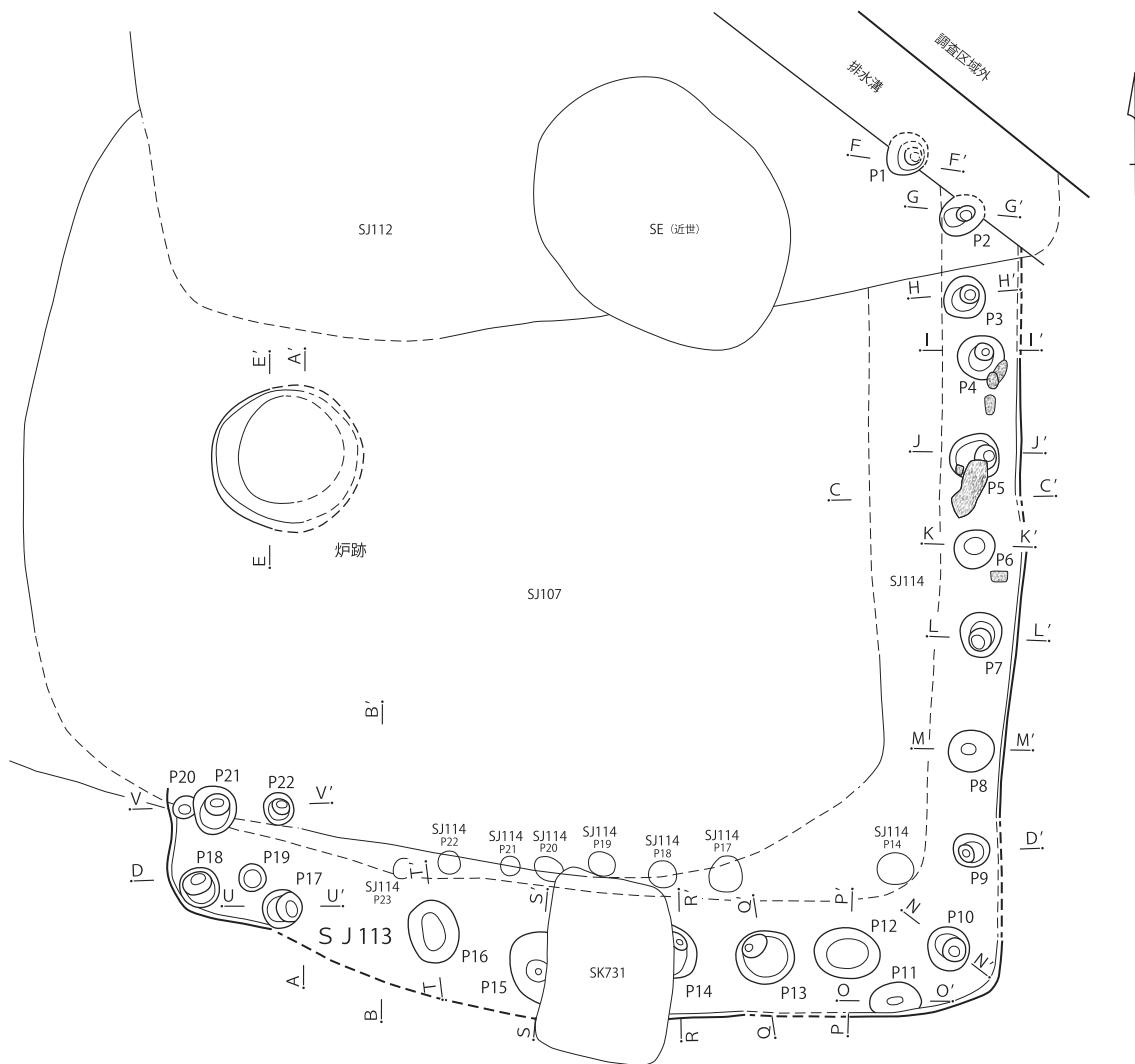
S J 112
 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(多) 粘性(強) しまり(良)
 2 暗褐色土 ローム粒子・骨粉(少) 炭化物・焼土粒子(多)
 粘性(強) しまり(良)
 3 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(良)
 4 黒褐色土 ローム粒子(少) 炭化物・焼土粒子(多) 粘性(強) しまり(良)
 5 黒褐色土 ローム粒子・骨粉(少) 炭化物・焼土粒子(極多)
 粘性(強) しまり(良)

6 暗褐色土 ローム粒子(多) 炭化物・焼土粒子(少)
 粘性(強) しまり(良)
 7 黒褐色土 ローム粒子(少) 炭化物・焼土粒子(多) 粘性(強)
 しまり(良)
 8 暗褐色土 ローム粒子・炭化物(多) 烧土粒子(極多)
 粘性(強) しまり(良)
 9 黒褐色土 炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(良)

第64図 第112号住居跡 (2)

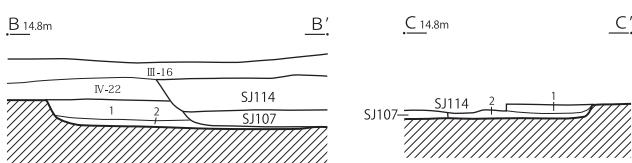


第65図 第112号住居跡遺物出土状況

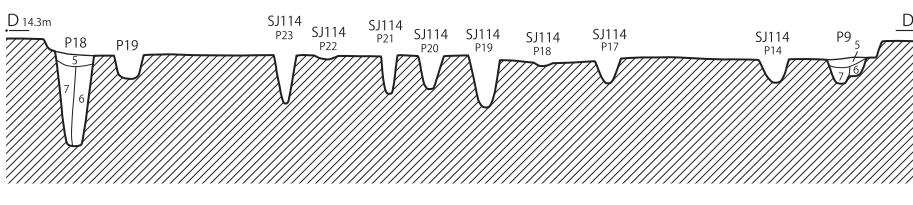


| | |
|-------------|---|
| III-16 暗褐色土 | ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子・骨粉（少） 粘性（弱） しまり（良） |
| IV-22 暗褐色土 | ローム粒子・骨粉（少） 炭化物・焼土粒子（多） |

IV-22 暗褐色土 口一ム粒子・骨粉(少) 炭化物・発育粒子(多)
粘性(弱) しまり(欠)

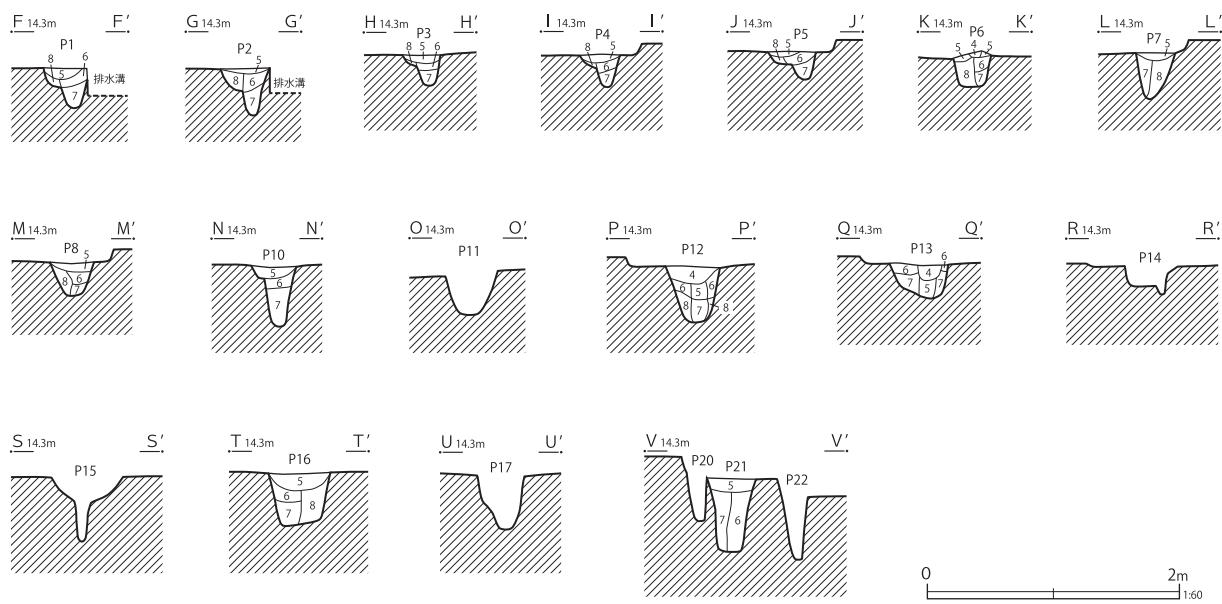


| | |
|---------|---|
| S J 113 | ローム粒子・ロームブロック（径5～10mm）・炭化物・ 焼土粒子（多）・骨粉（少）・粘性（弱）・しまり（欠） |
| 1 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子・骨粉（少） 粘性（中）・しまり（良） |
| 2 黒褐色土 | 焼土・炉跡 |
| 3 赤褐色土 | |



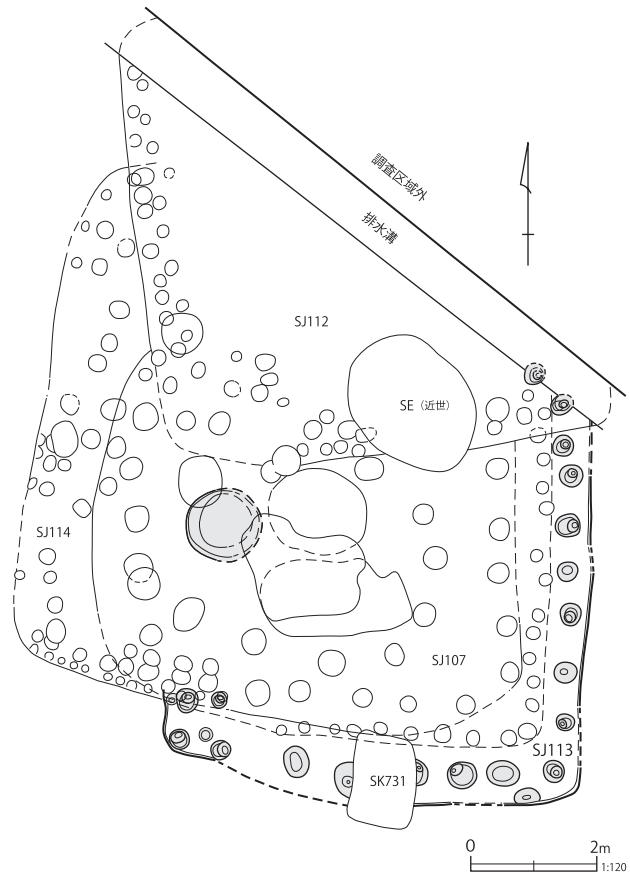
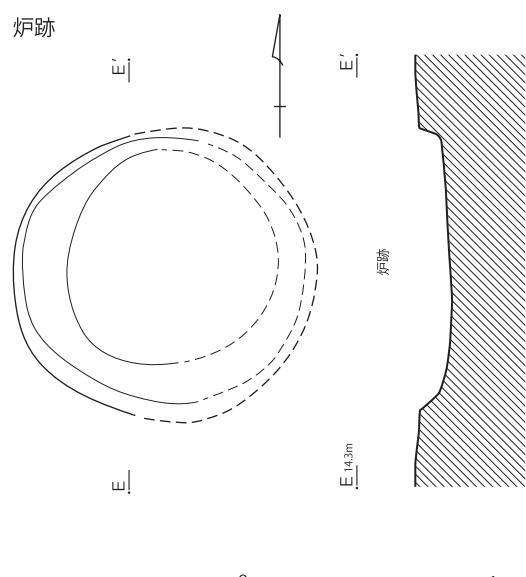
A horizontal number line starting at 0 and ending at $2m$. There is a tick mark on the line. The tick mark is located at the $\frac{1}{60}$ position from the origin.

第66図 第113号住居跡（1）

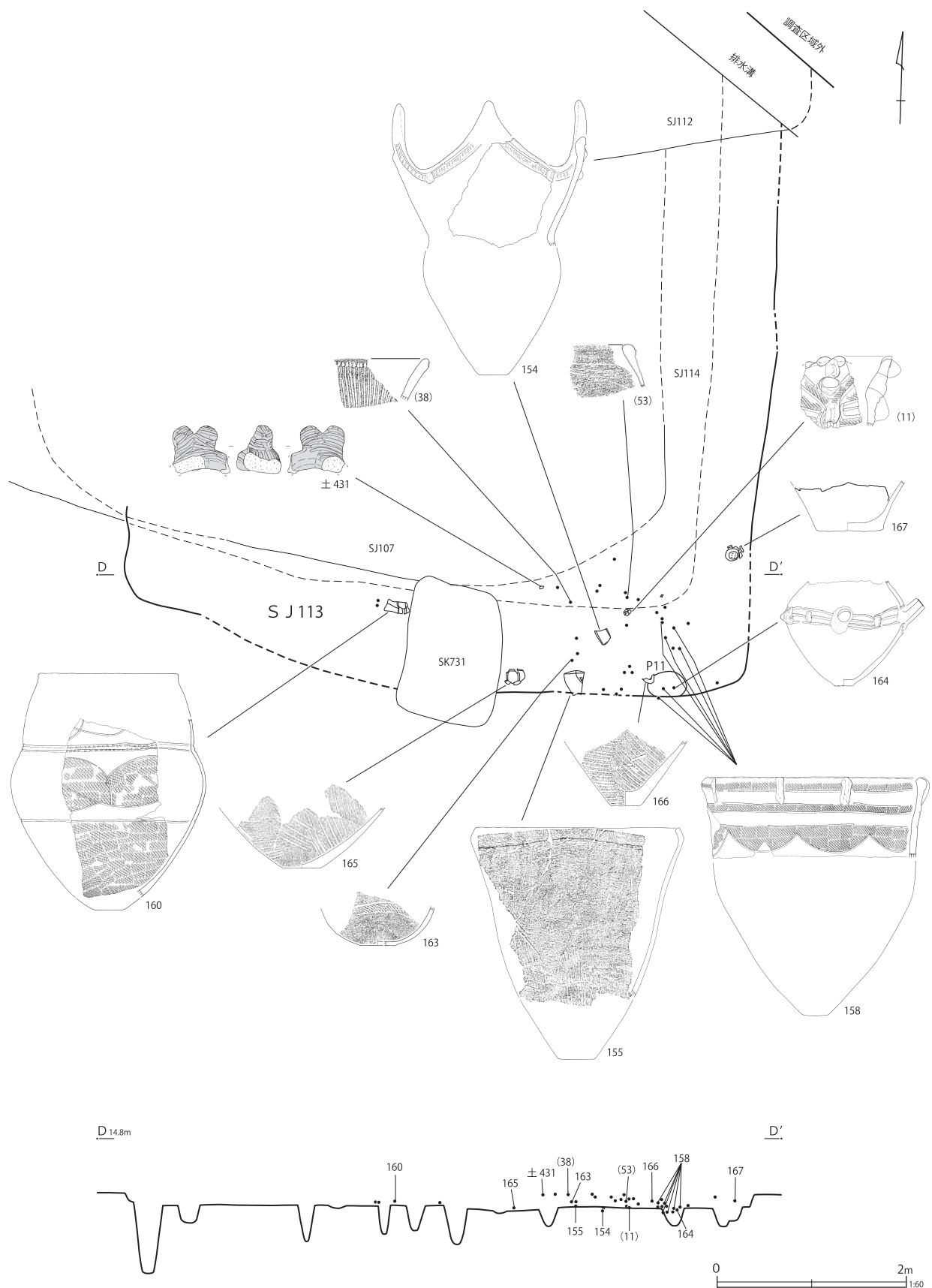


S J 113 柱穴

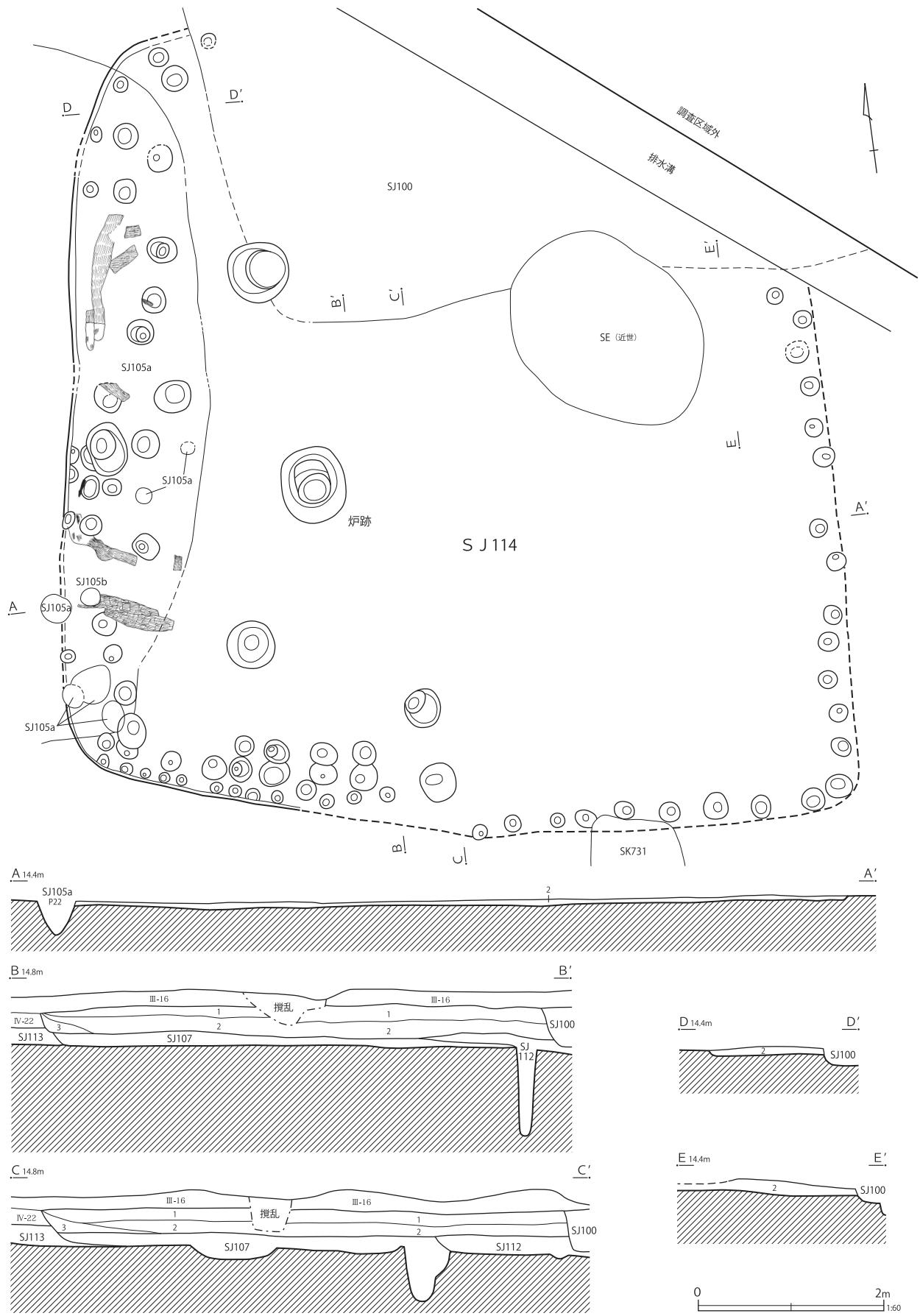
4 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子(少) 炭化物(極多) 炭化物含む 粘性(中) しまり(良)
 5 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(多) 粘性(中) しまり(良)
 6 暗褐色土 ローム粒子(多) 炭化物・焼土粒子(少) 粘性(中) しまり(良)
 7 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(少) 粘性(強) しまり(良)
 8 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子(少) 粘性(中) しまり(良)



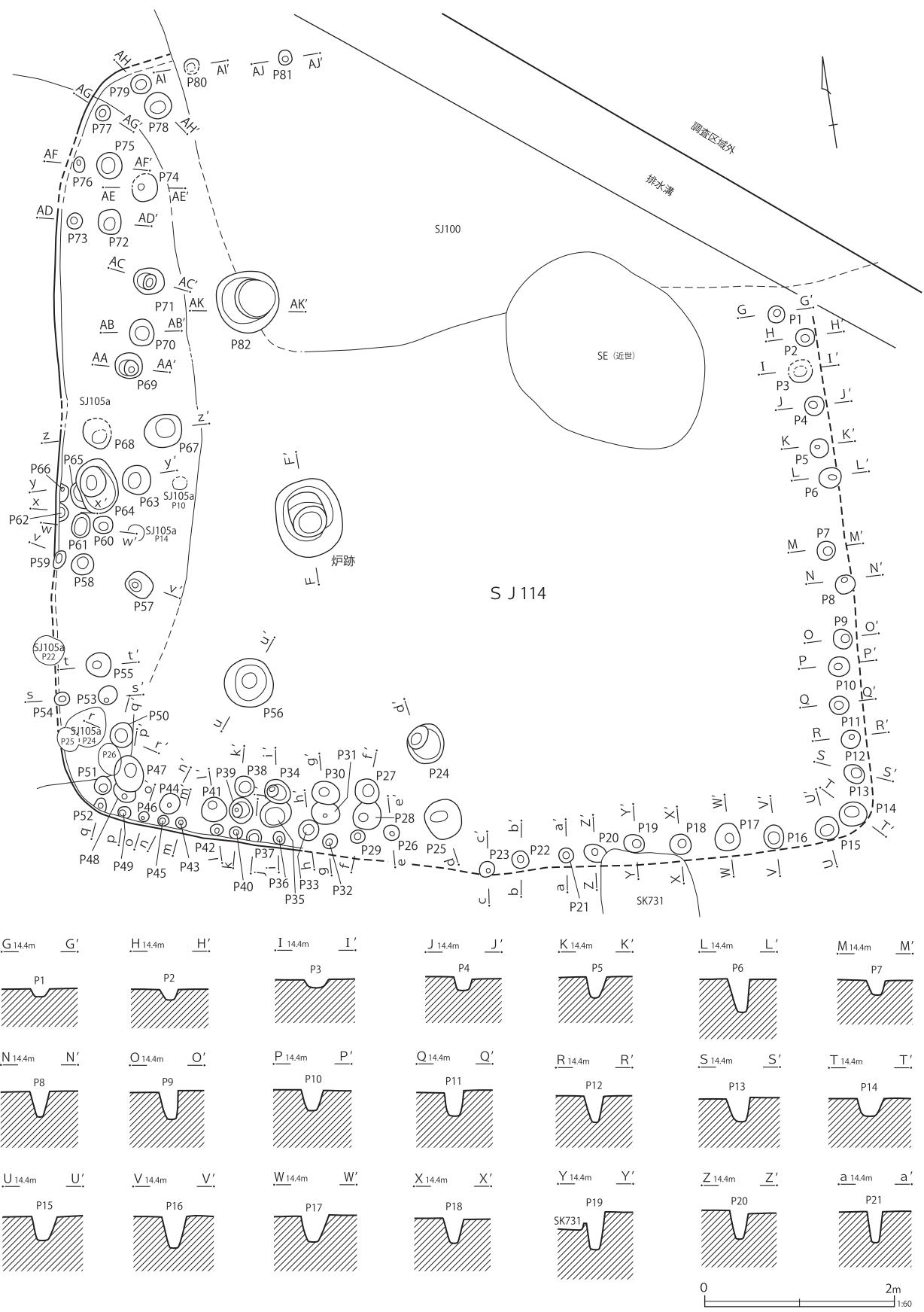
第67図 第113号住居跡 (2)



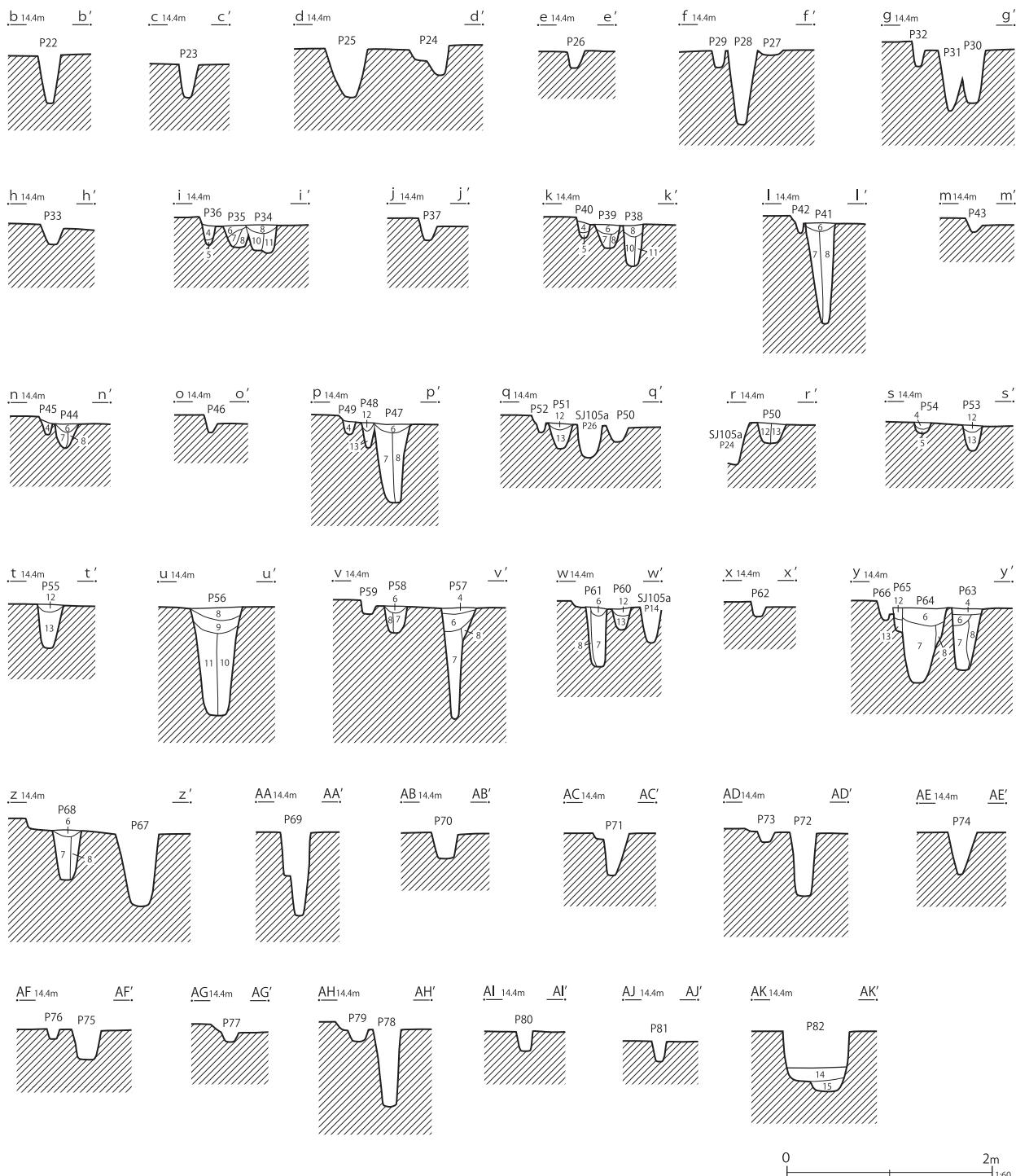
第68図 第113号住居跡遺物出土状況



第69図 第114号住居跡 (1)



第70図 第114号住居跡 (2)



III-16 暗褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子・骨粉（少）
粘性（弱） しまり（良）

IV-22 暗褐色土 ローム粒子・骨粉（少）炭化物・焼土粒子（多）
粘性（弱） しまり（欠）

S J 114

1 黒褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子・骨粉（少）
粘性（弱） しまり（良）

2 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）骨粉（少）
粘性（中） しまり（良）

3 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）
ロームブロック（径5～10mm）・骨粉（少）
粘性（中） しまり（良）

4 黒褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子（少）粘性（中） しまり（良）

5 暗褐色土 ローム粒子（多）粘性（中） しまり（良）

6 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）粘性（中） しまり（良）

7 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（中） しまり（欠）

8 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）粘性（中） しまり（良）

9 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）粘性（中） しまり（良）

10 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（中） しまり（欠）

11 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（中） しまり（良）

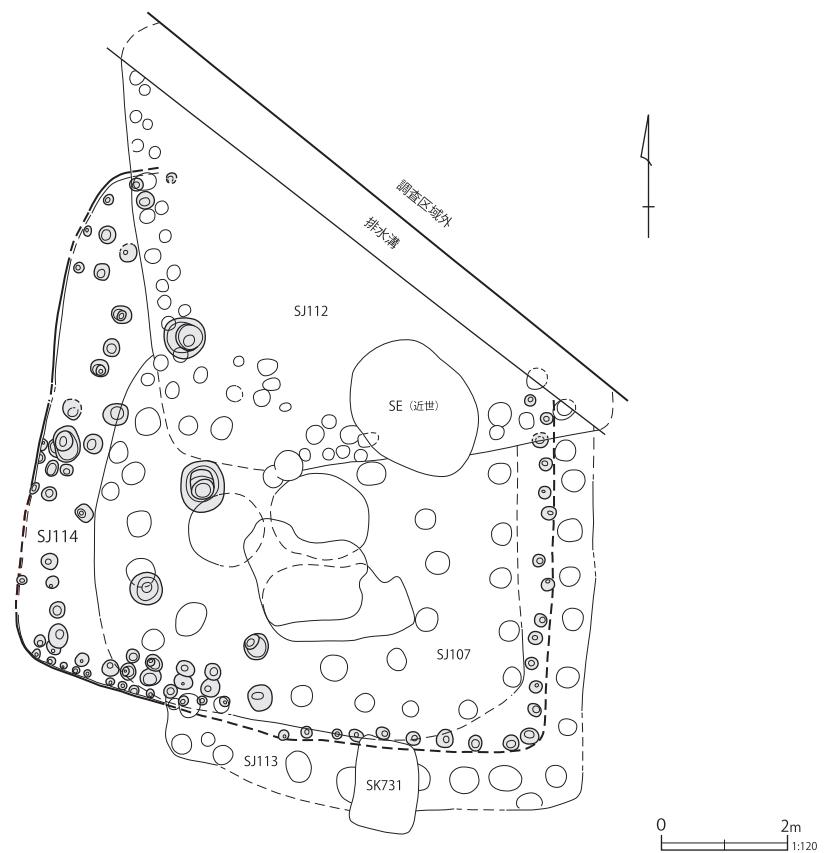
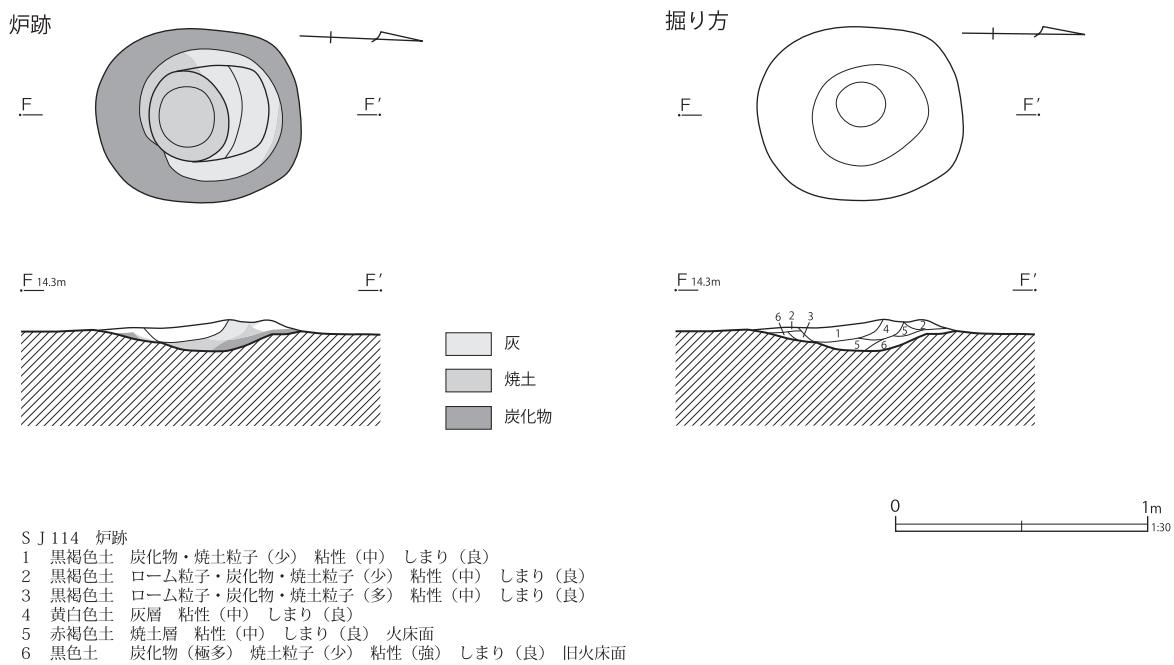
12 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（中） しまり（良）

13 暗褐色土 焼土粒子含む 粘性（中） しまり（良）

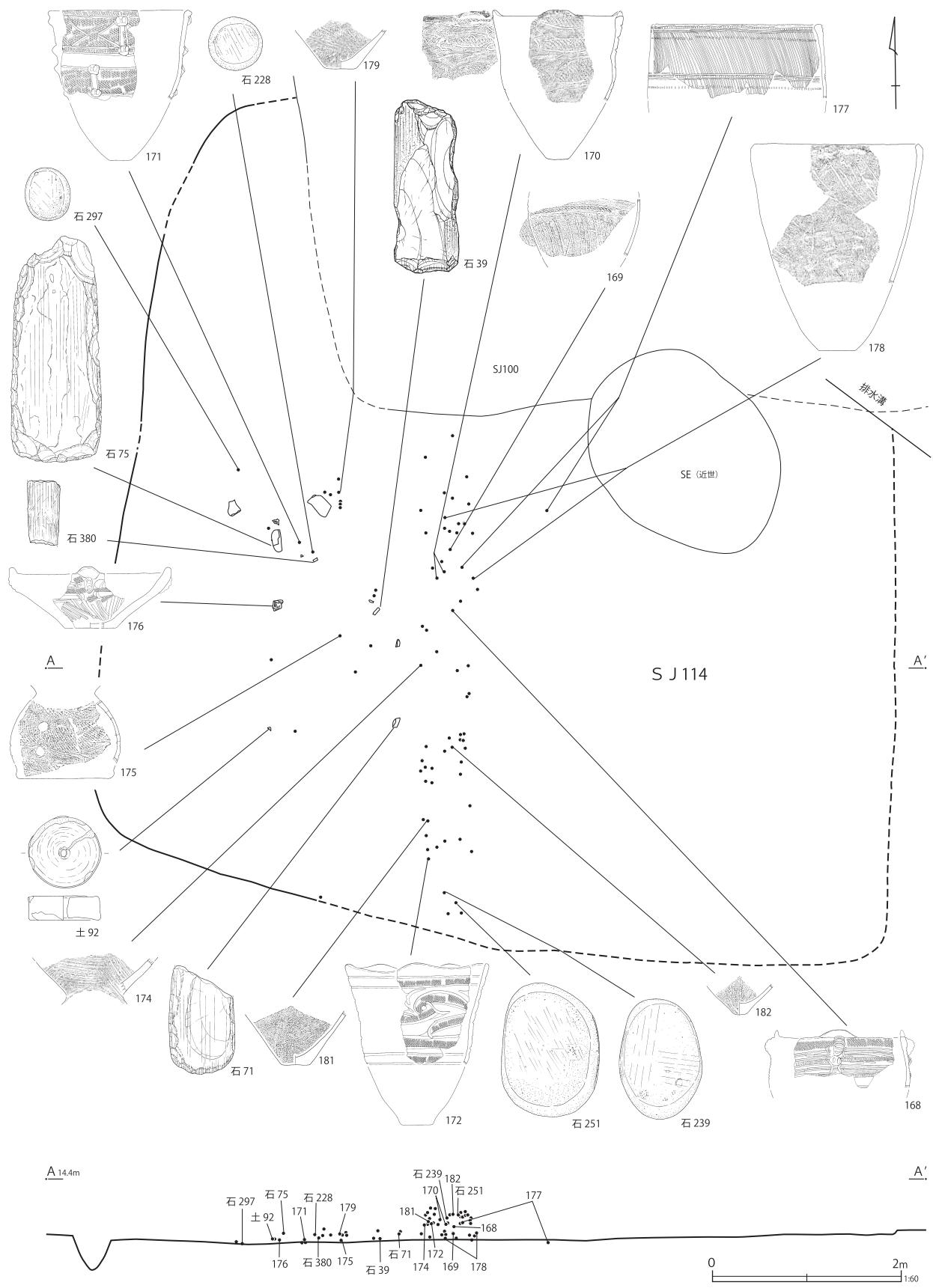
14 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック（径5～20mm）（少）
炭化物粒子（極多） 烧土粒子（多）粘性（弱） しまり（良）

15 暗褐色土 ローム粒子（少）粘性（中） しまり（良）

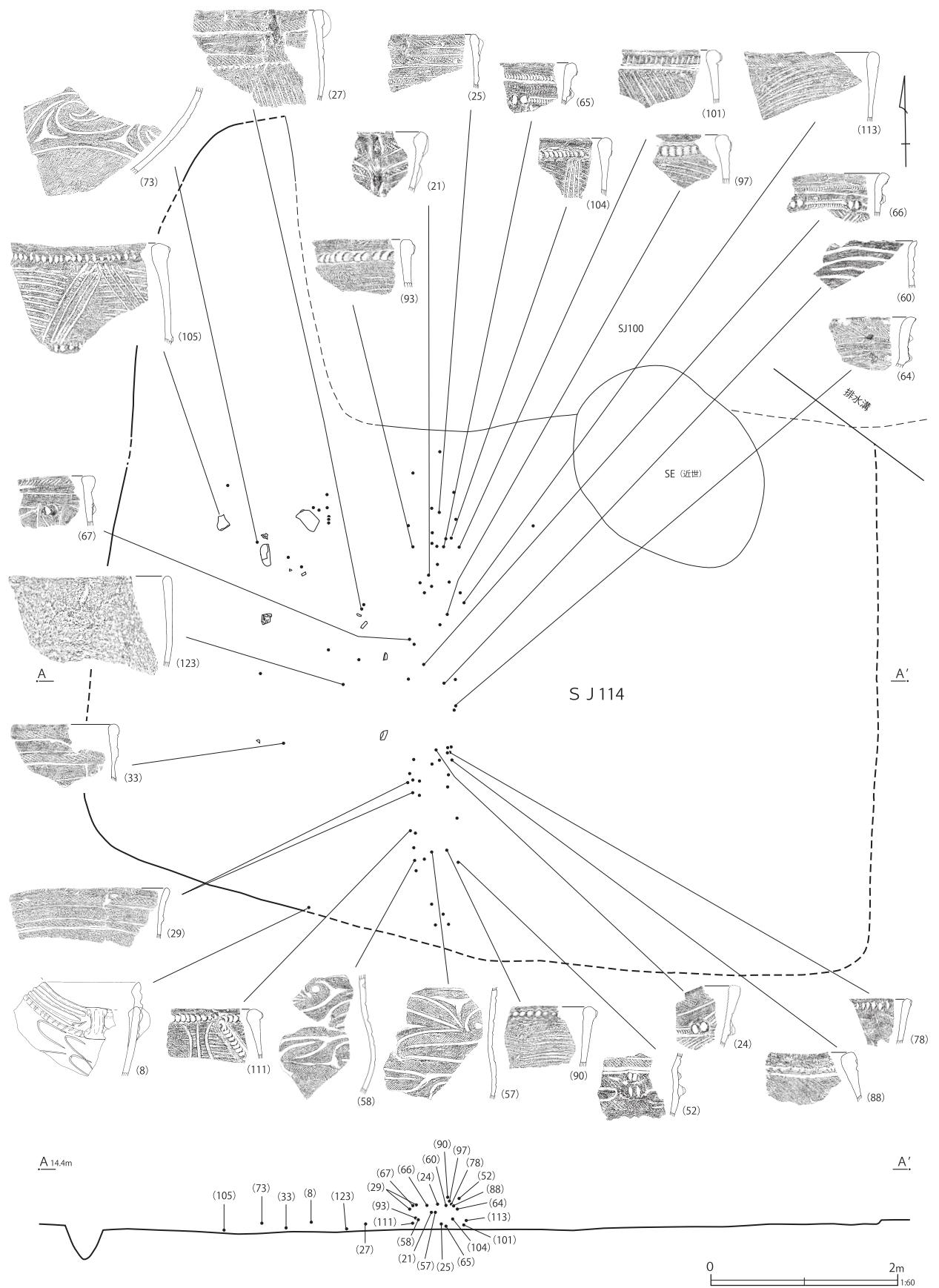
第71図 第114号住居跡（3）



第72図 第114号住居跡 (4)



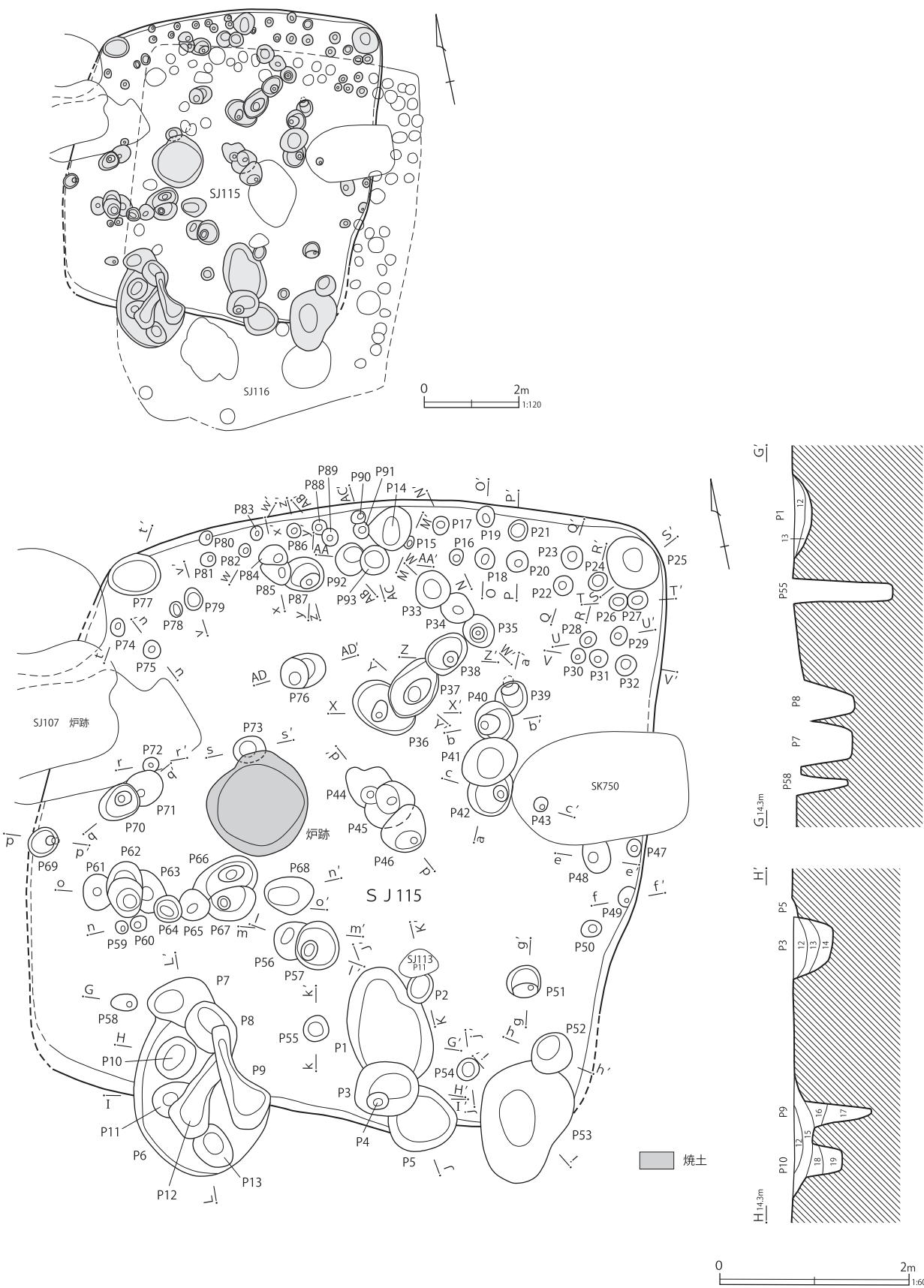
第73図 第114号住居跡遺物出土状況（1）



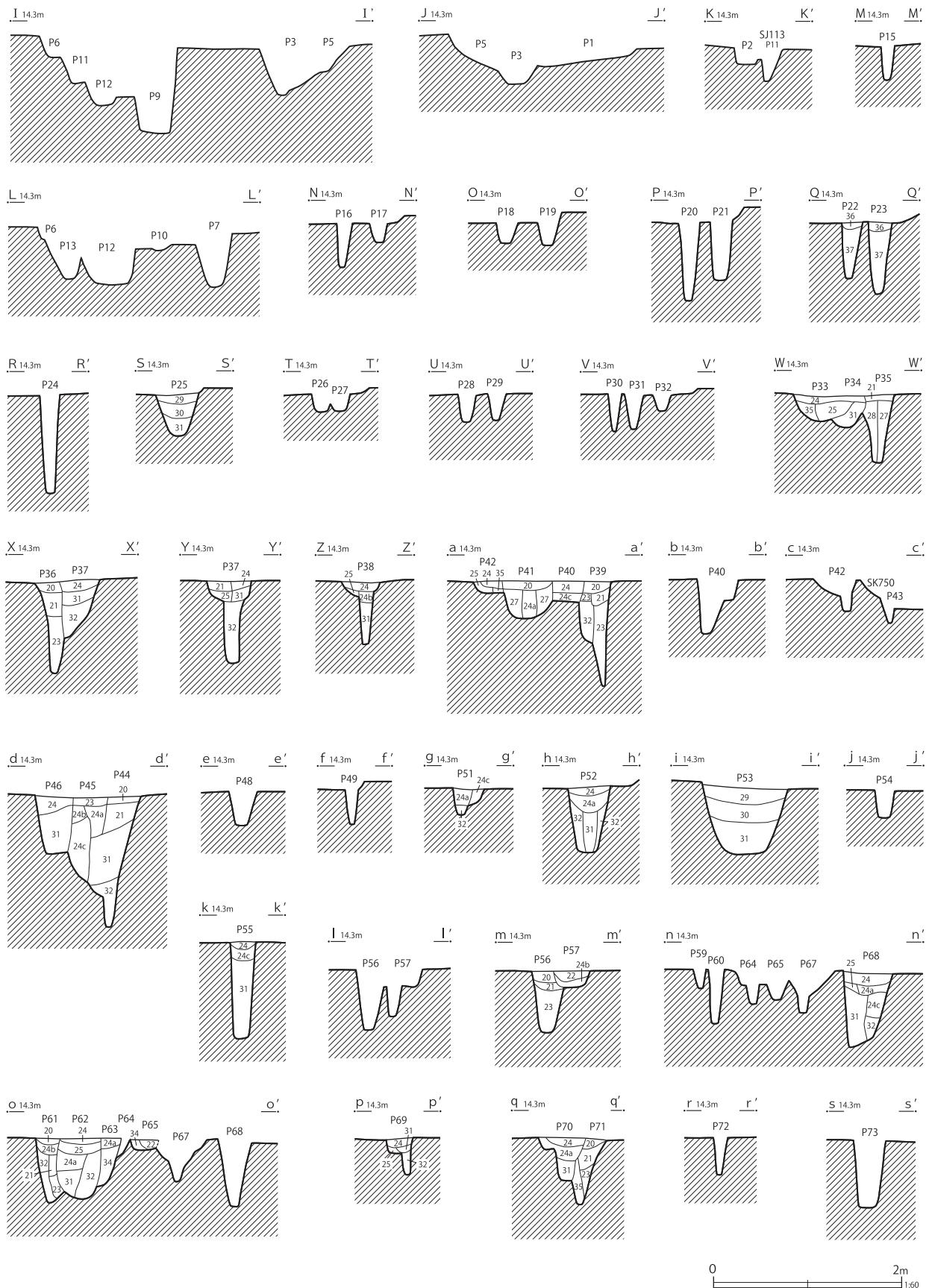
第74図 第114号住居跡遺物出土状況（2）



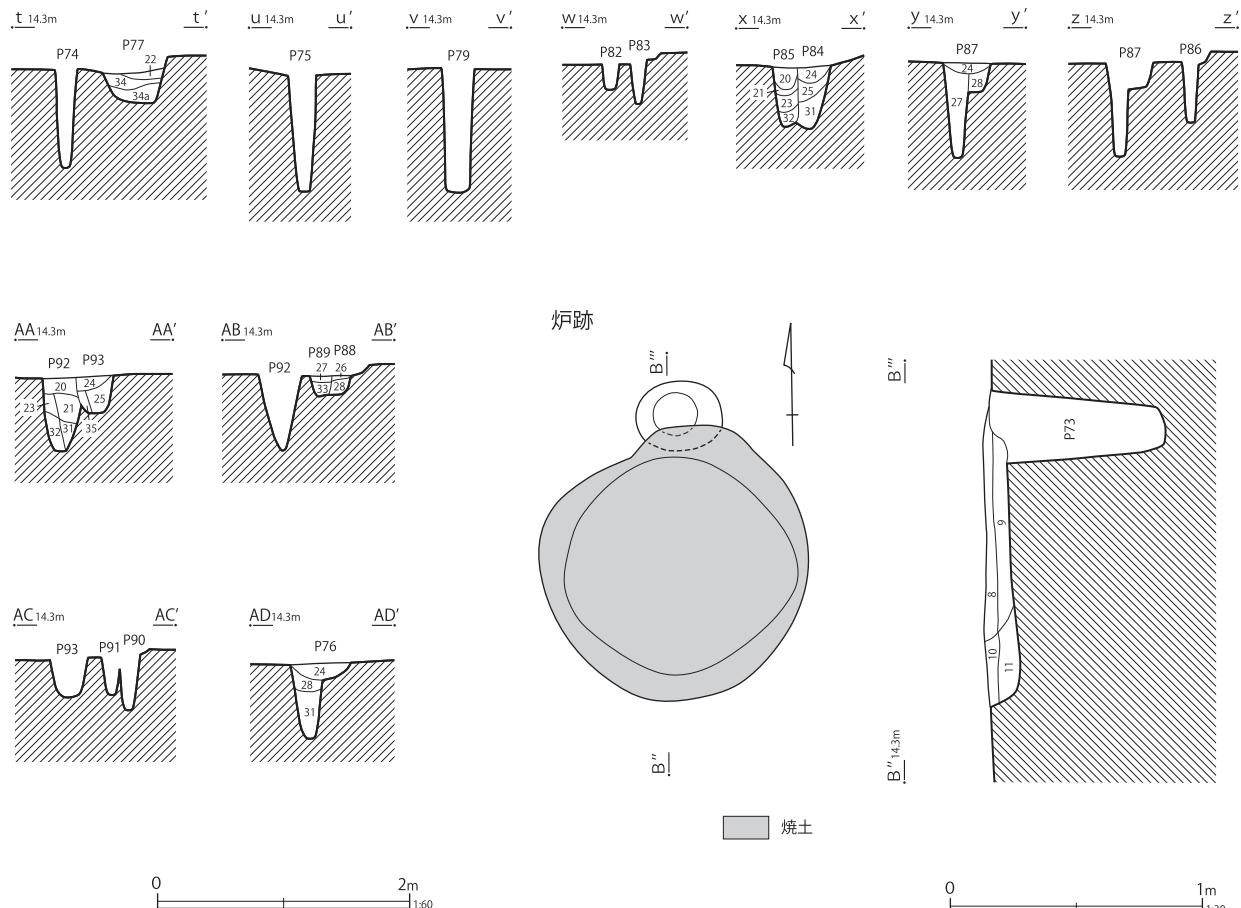
第75図 第115号住居跡 (1)



第76図 第115号住居跡（2）



第77図 第115号住居跡 (3)



III-16 暗褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子・骨粉（少）
粘性（弱） しまり（良）

IV-22 暗褐色土 ローム粒子・骨粉（少）炭化物・焼土粒子（多）
粘性（弱） しまり（欠）

S J 115

- 1 黒褐色土 ローム粒子（少）炭化物・焼土粒子（多）粘性（中） しまり（良）
- 2 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）粘性（中） しまり（良）
- 3 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子・骨粉（少）粘性（弱） しまり（良）
- 4 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子・骨粉（少）粘性（弱） しまり（良）
- 5 暗褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子・骨粉（少）
粘性（中） しまり（良）
- 6 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子・骨粉（少）粘性（弱） しまり（良）
- 7 黒褐色土 ローム粒子・骨粉（少）炭化物・焼土粒子（多）
粘性（中） しまり（良）

炉跡

- 8 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）粘性（中） しまり（良）
- 9 黒褐色土 ローム粒子・炭化物（多）焼土粒子（極多）粘性（中） しまり（良）
- 10 暗褐色土 ローム粒子・炭化物（多）焼土粒子（極多）粘性（中） しまり（良）
- 11 暗褐色土 ローム粒子（少）炭化物・焼土粒子（多）粘性（中） しまり（良）
掘り方

柱穴

- 12 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）骨粉（少）粘性（中）
しまり（良）
- 13 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（強） しまり（良）
- 14 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（強） しまり（欠）
- 15 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック（径5～20mm）・炭化物・焼土粒子（多）
粘性（強） しまり（良）
- 16 黒褐色土 ローム粒子・炭化物（多）焼土粒子（極多）
粘性（強） しまり（良）
- 17 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（強） しまり（欠）
- 18 暗褐色土 ローム粒子（少）炭化物・焼土粒子（多）粘性（強） しまり（良）
- 19 黒褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子（少）粘性（強） しまり（欠）
- 20 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）粘性（弱） しまり（良）

21 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（中）
しまり（良）

22 黒色土 ローム粒子（少）炭化物（径1～40mm）（極多）
焼土粒子（多）粘性（強） しまり（良）

23 黒褐色土 ローム粒子（少）粘性（弱） しまり（良）

24 黒褐色土 ローム粒子（少）炭化物・焼土粒子（多）
粘性（弱） しまり（良）

24a 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）粘性（強） しまり（良）

24b 暗褐色土 ローム粒子（極多）炭化物・焼土粒子（少）
粘性（強） しまり（良）

24c 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック（径5～40mm）（多）
粘性（強） しまり（良）

24d 黒褐色土 ローム粒子（少）炭化物・焼土粒子（少）
粘性（強） しまり（良）

25 暗褐色土 ローム粒子（少）炭化物・焼土粒子（多）
粘性（中） しまり（良）

26 暗褐色土 ローム粒子（少）炭化物・焼土粒子（多）
粘性（中） しまり（欠）

27 黒褐色土 ローム粒子（少）炭化物・焼土粒子（多）
粘性（中） しまり（良）

28 暗褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子（少）
粘性（中） しまり（良）

29 黒褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子（少）
粘性（中） しまり（良）

30 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（強） しまり（良）

31 黒褐色土 ローム粒子（径5mm）（少）粘性（強） しまり（良）

32 黒褐色土 ローム粒子（少）粘性（強） しまり（良）

33 黒褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子（少）粘性（中）
しまり（良）

34 暗褐色土 ローム粒子（少）炭化物（径1～20mm）・焼土粒子（極多）
粘性（中） しまり（良）

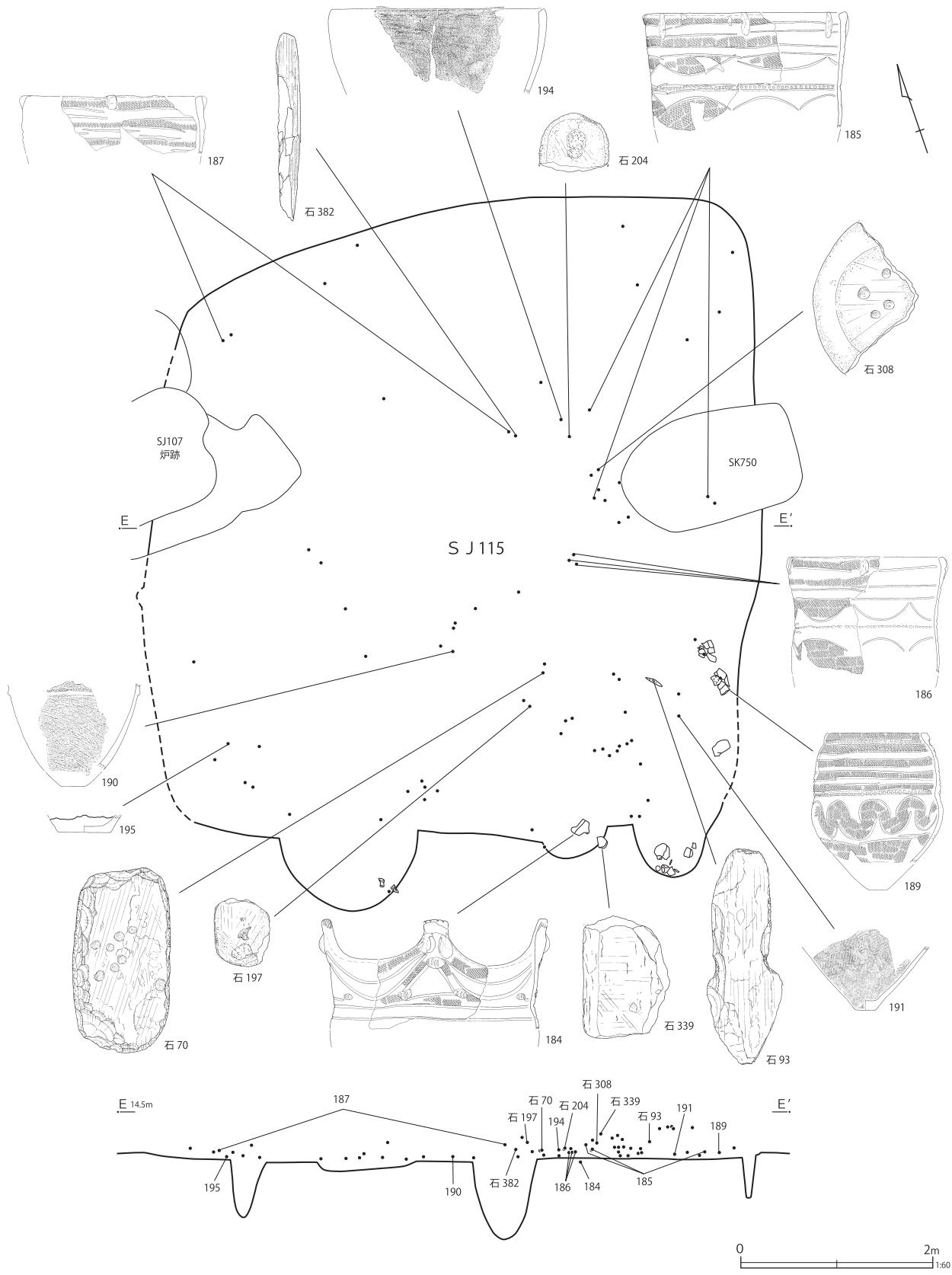
34a 黑褐色土 ローム粒子（少）炭化物（径1～40mm）（極多）
燒土粒子（多）粘性（弱） しまり（良）

35 暗褐色土 ローム粒子（多）粘性（強） しまり（良）

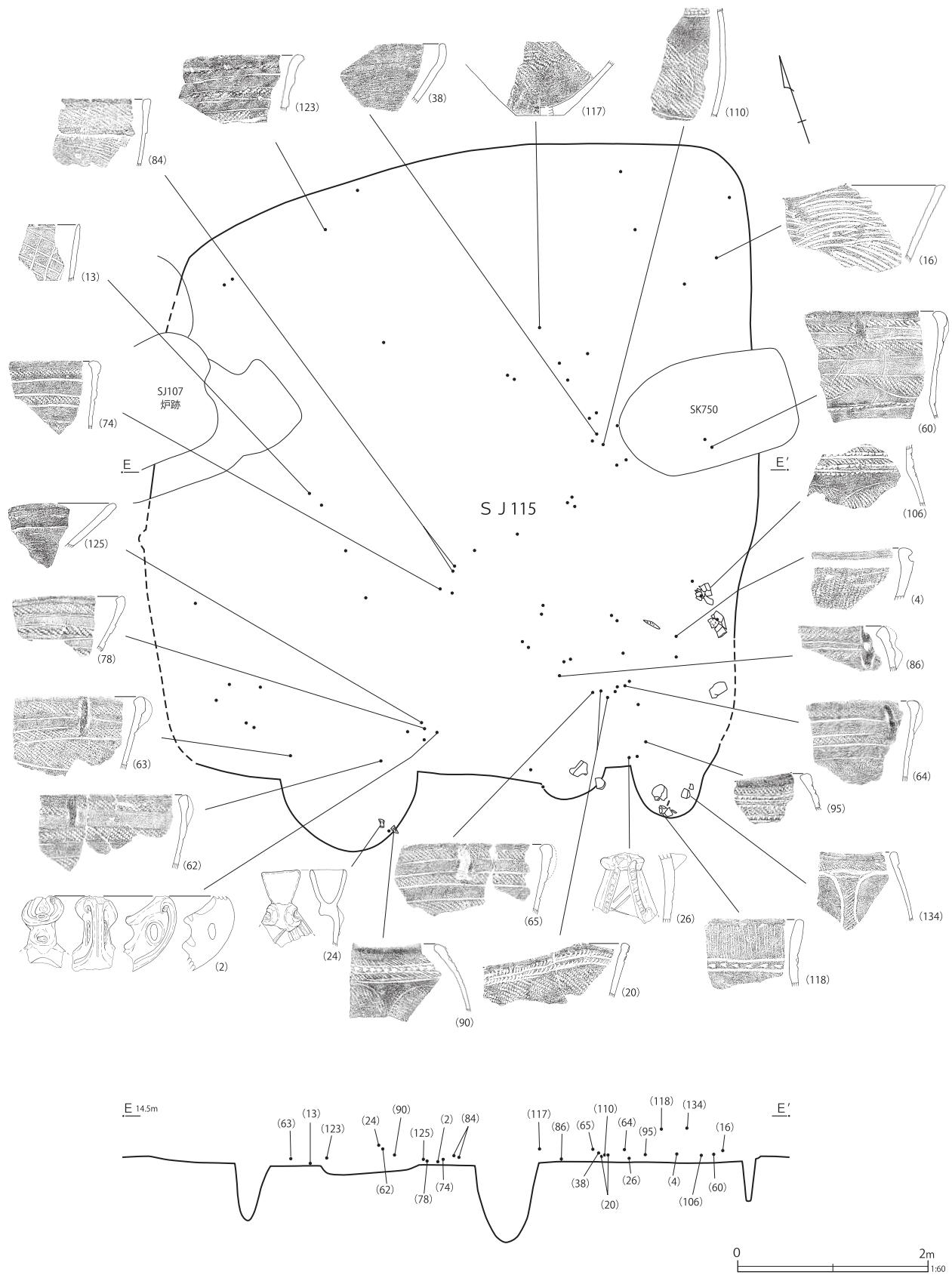
36 黑褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（中） しまり（良）

37 黑褐色土 ローム粒子（少）粘性（強） しまり（良）

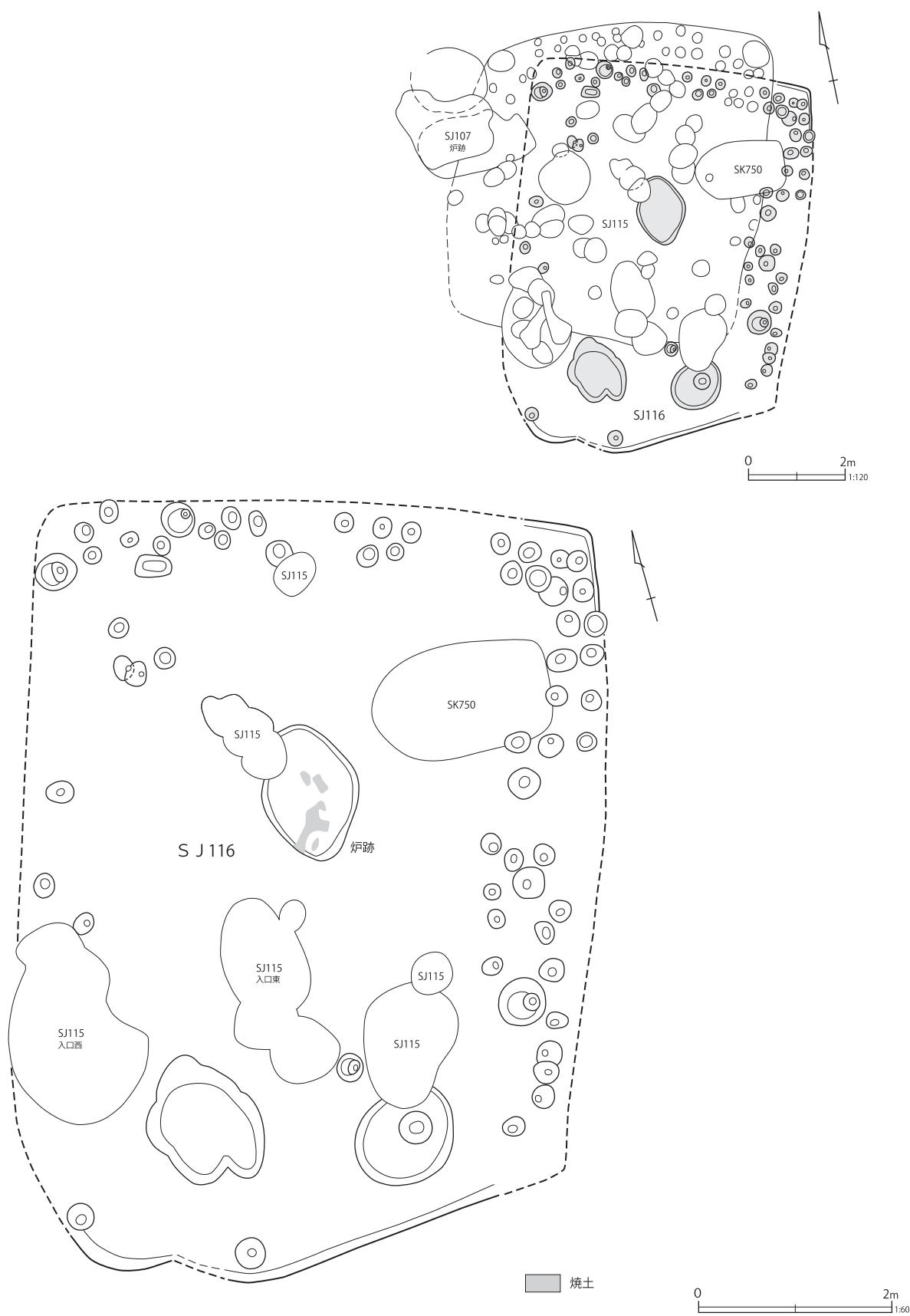
第78図 第115号住居跡（4）



第79図 第115号住居跡遺物出土状況（1）



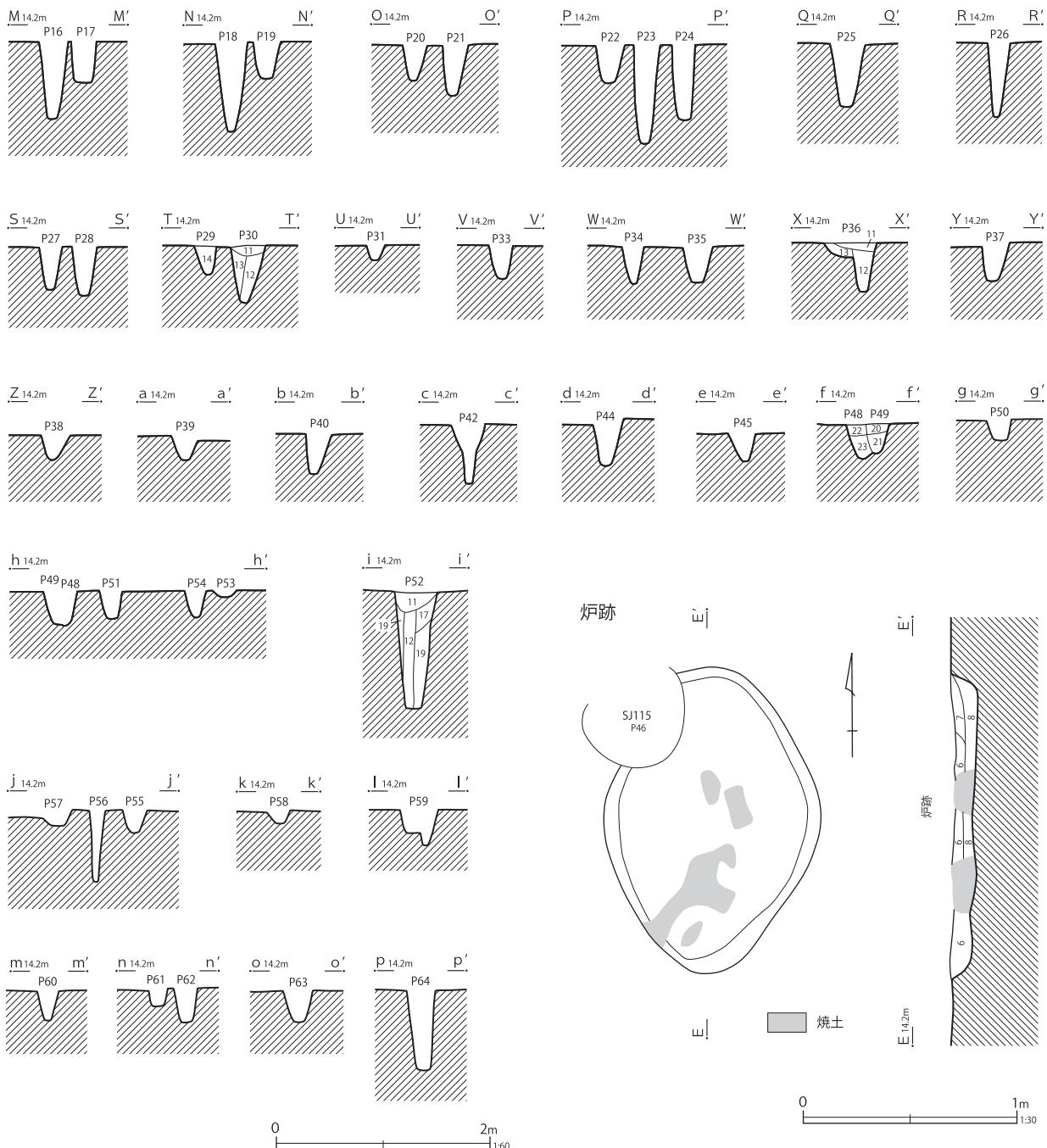
第80図 第115号住居跡遺物出土状況（2）



第81図 第116号住居跡（1）



第82図 第116号住居跡（2）



S J 116

| | |
|--------|---|
| 1 黒色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子・骨粉（少） 粘性（弱） しまり（良） |
| 2 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子・骨粉（少） 粘性（弱） しまり（良） S J 115 壁面 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子・骨粉（少） 粘性（弱） しまり（良） S J 115 壁面 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少） 粘性（弱） しまり（良） |
| 5 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子（少） 炭化物・骨粉（多） 粘性（中） しまり（良） |

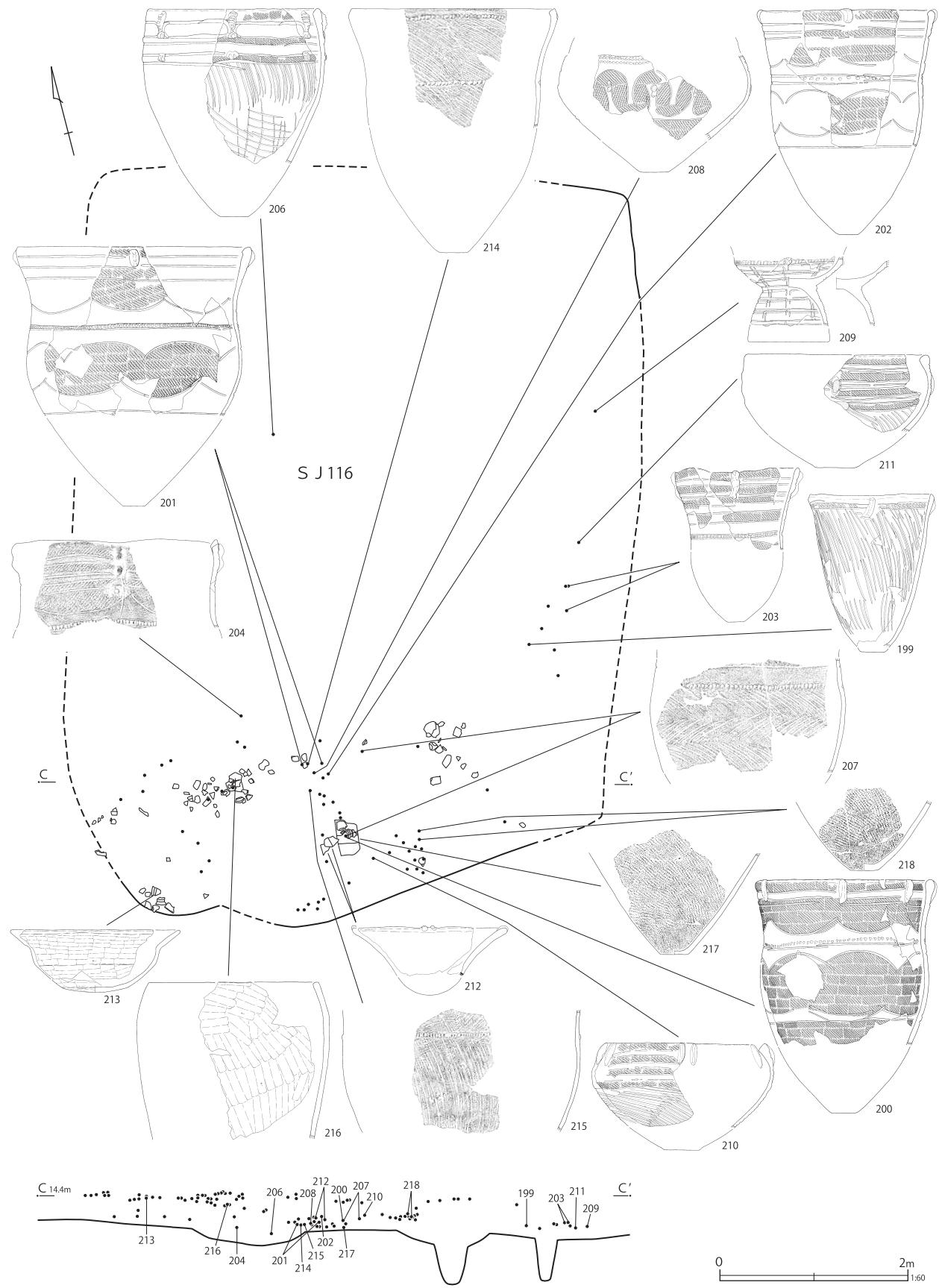
炉跡

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 6 暗褐色土 | ローム粒子（少） 炭化物（多） 烧土粒子（極多） 粘性（弱） しまり（良） |
| 7 黒褐色土 | ローム粒子（少） 炭化物・焼土粒子（多） 粘性（弱） しまり（良） |
| 8 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多） 粘性（中） しまり（良） |

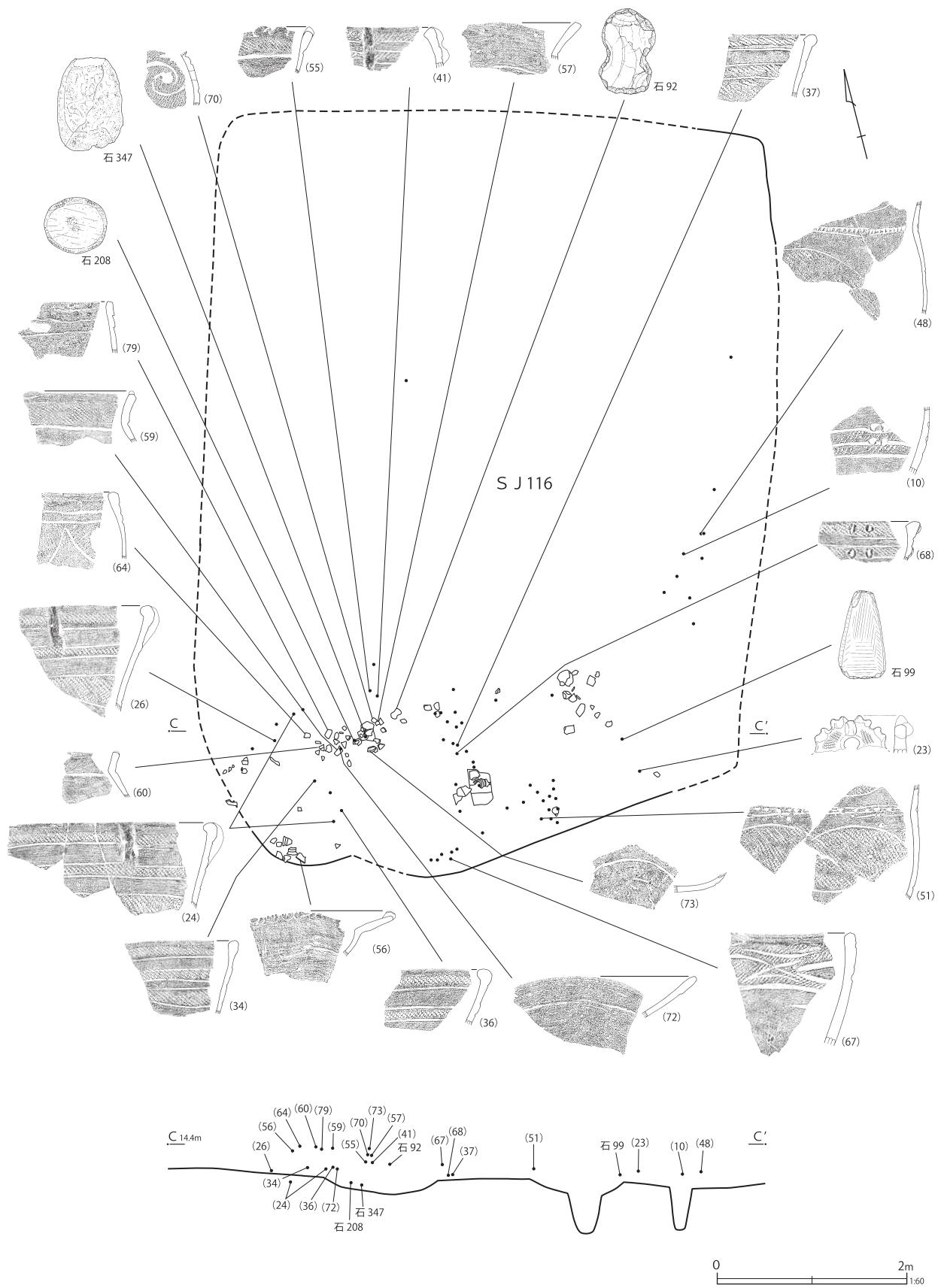
柱穴

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 9 黒褐色土 | ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子（少） 粘性（中） しまり（良） |
| 10 暗褐色土 | ローム粒子（多） 烧土粒子（少） 粘性（中） しまり（良） |
| 11 黒褐色土 | ローム粒子・焼土粒子（少） 炭化物（多） 粘性（中） しまり（良） |
| 12 黒褐色土 | ローム粒子（多） 粘性（強） しまり（良） |
| 13 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子（多） 炭化物（少） 粘性（強） しまり（良） |
| 14 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少） 粘性（中） しまり（良） |
| 15 暗褐色土 | ローム粒子・焼土粒子（少） 粘性（強） しまり（良） |
| 16 黒褐色土 | ローム粒子（少） 粘性（強） しまり（良） |
| 17 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少） 粘性（強） しまり（良） |
| 18 黒褐色土 | ロームブロック（径 5~20mm）（少） 粘性（強） しまり（良） |
| 19 暗褐色土 | ローム粒子（少） 粘性（強） しまり（良） |
| 20 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物（多） 烧土粒子（少） 粘性（弱） しまり（良） |
| 21 暗褐色土 | ローム粒子（少） 粘性（中） しまり（良） |
| 22 黒色土 | ローム粒子（少） 炭化物・焼土粒子（多） 粘性（弱） しまり（良） |
| 23 黒褐色土 | ローム粒子（少） 粘性（中） しまり（良） |

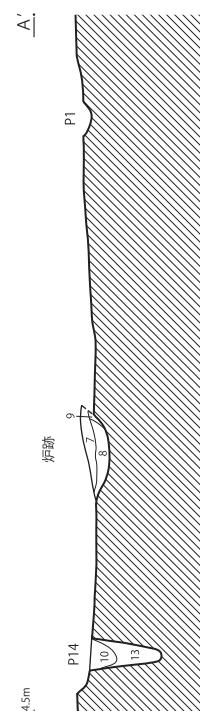
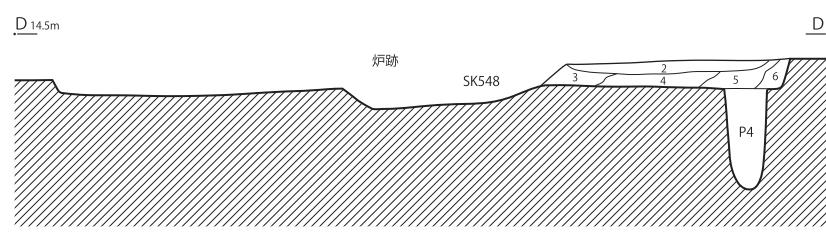
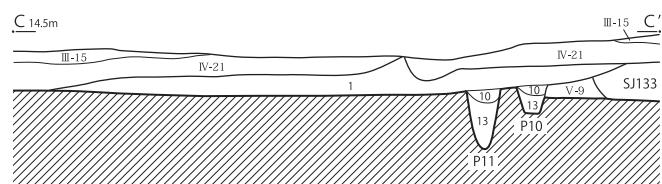
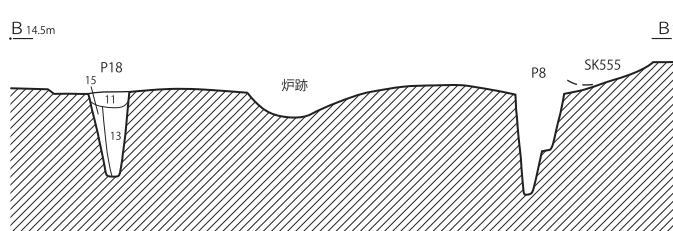
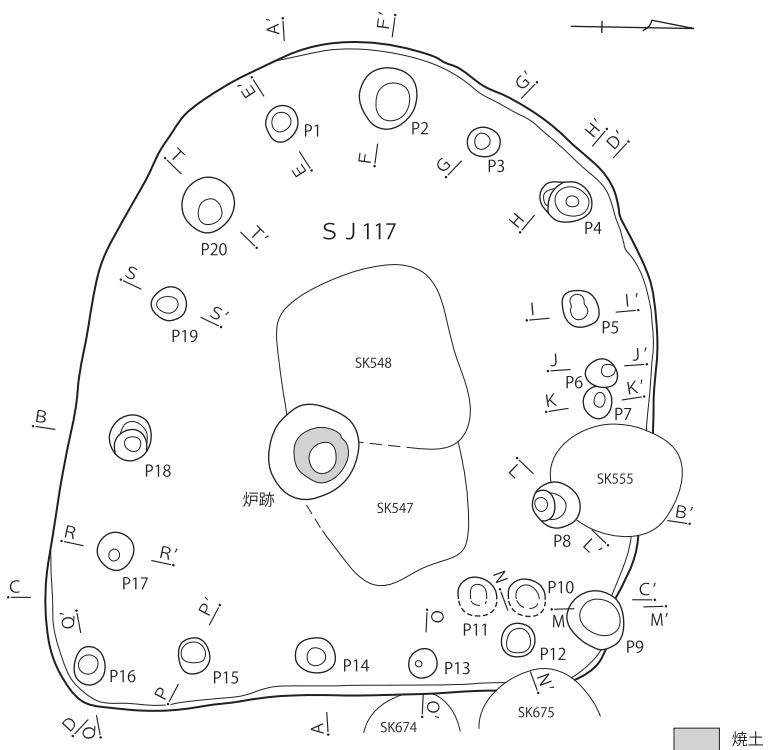
第83図 第116号住居跡（3）



第84図 第116号住居跡遺物出土状況（1）

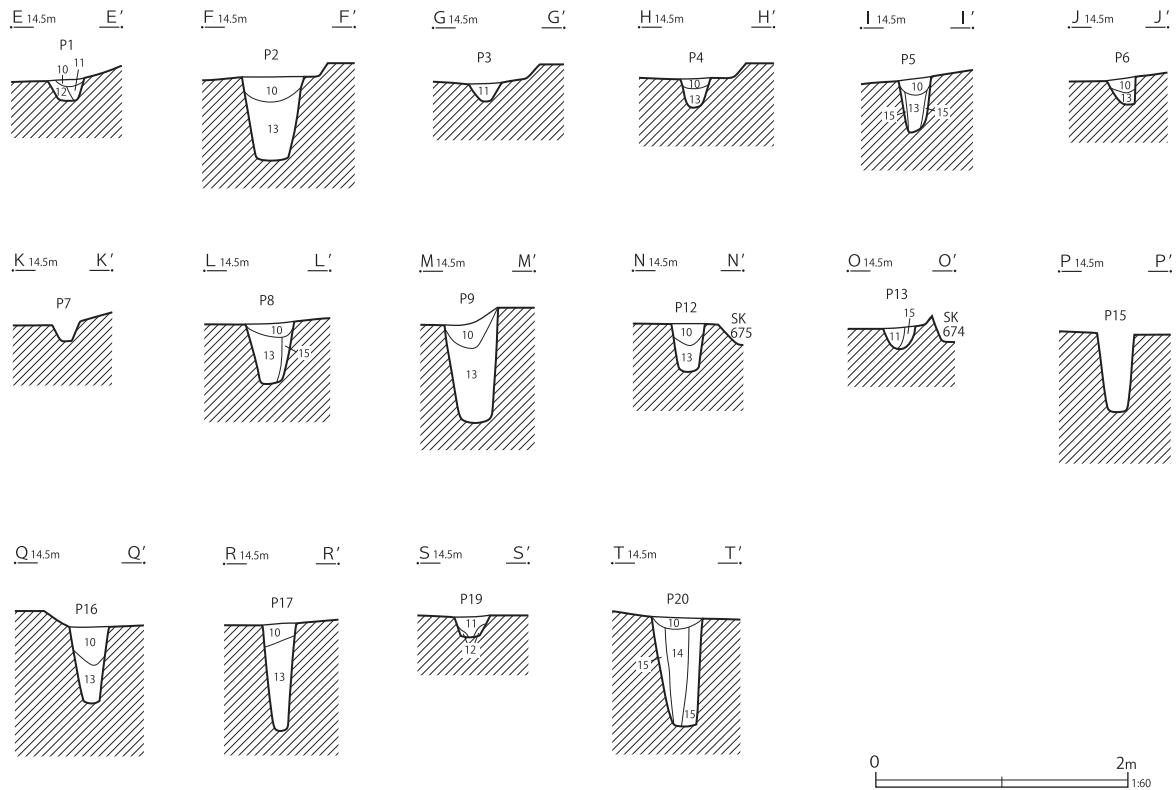


第85図 第116号住居跡遺物出土状況（2）



0 2m 1:60

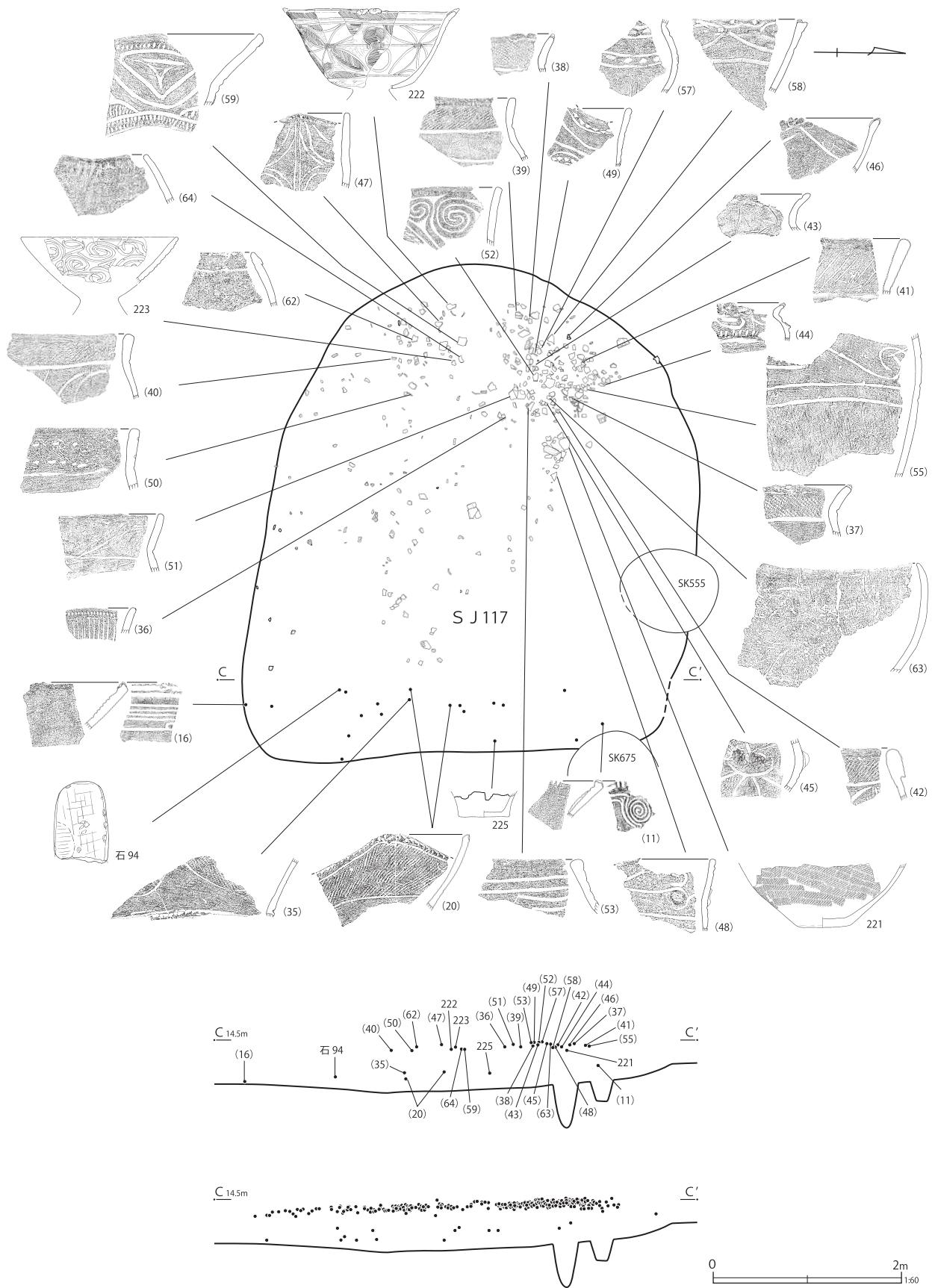
第86図 第117号住居跡 (1)



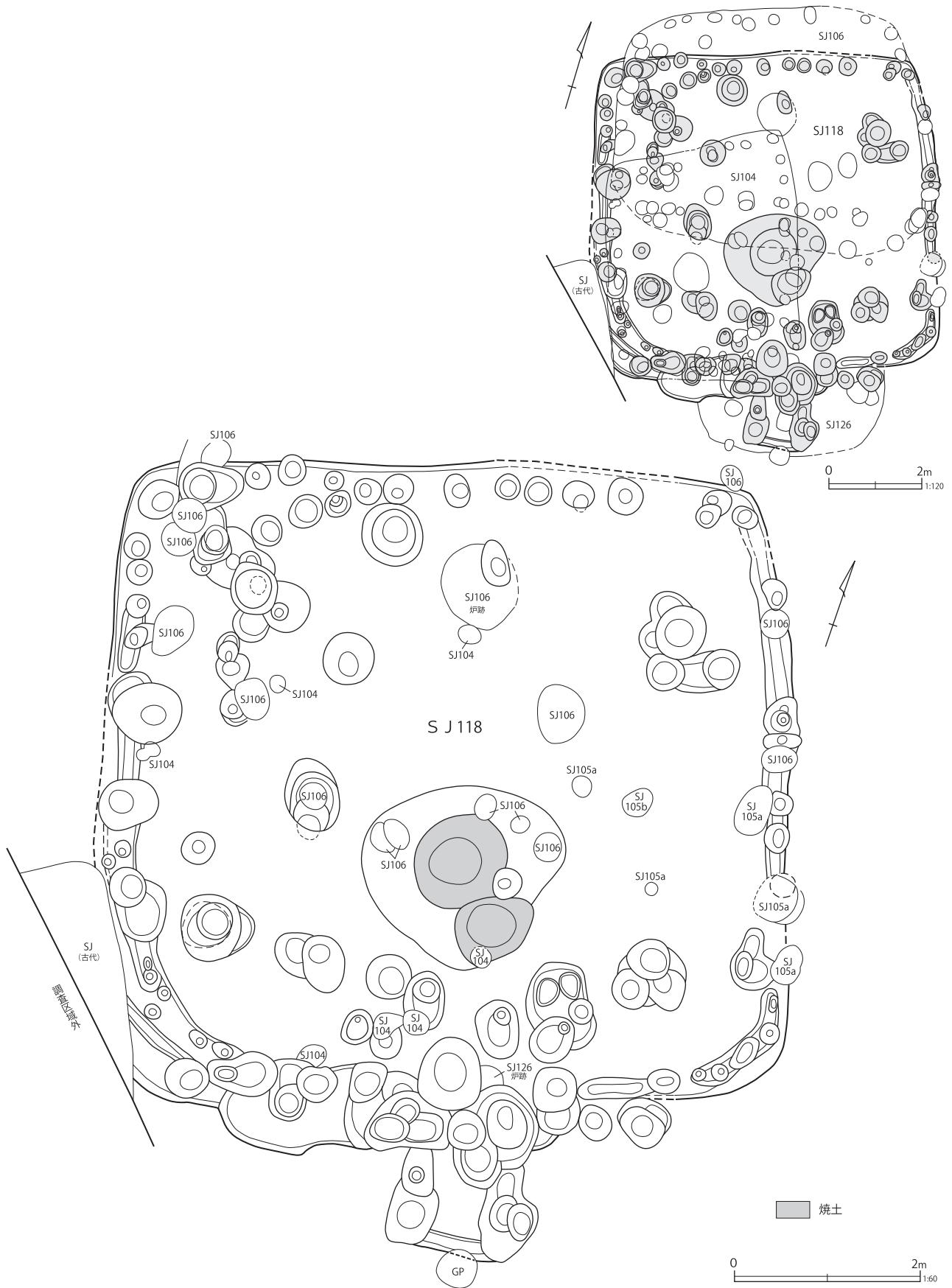
III-15 黒褐色土 粘質 炭化物（中） 焼土（少） やや灰色ぎみ 骨粉含む
 IV-21 暗褐色土 炭化物（微） 粘性（強） しまり（良）
 V-9 暗褐色土 粘質 ローム小ブロック・炭化物・土器（少） 焼土（微）
 S J 117
 1 暗褐色土 粘質 炭化物・焼土（多） 遺物（中） 骨粉含む しまり（欠）
 2 暗褐色土 炭化物・焼土粒子（中） 粘性（欠） しまり（良）
 3 褐色土 炭化物・焼土粒子（少） 粘性（中） しまり（欠）
 4 褐色土 ロームブロック（大）・大形炭化物含む 炭化物・焼土粒子（少） 粘性（中） しまり（欠）
 5 茶褐色土 焼土粒子（少） 粘性（中） しまり（良）
 6 褐色土 褐色土ブロック（径 10 mm）含む 粘性（欠） しまり（良） 壁崩落土

炉跡
 7 暗褐色土 粘質 ロームブロック（少） 炭化物・焼土粒子（中）
 しまり（欠）
 8 暗褐色土 粘質 炭化物（少） 烧土粒子・焼土ブロック（多）
 しまり（欠）
 9 暗褐色土 粘質 ロームブロック（多） しまり（欠）
 柱穴
 10 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（微）
 粘性・しまり（中）
 11 褐色土 ロームブロック（径 10 mm）（多） 炭化物（少） 粘性（強）
 しまり（良）
 12 暗褐色土 ローム粒子（微） 粘性（中） しまり（良）
 13 暗褐色土 粘性（中） しまり（良） 埋土
 14 暗褐色土 炭化物（多） 粘性（中） しまり（良）
 15 褐色土 烧土粒子（少） 粘性（強） しまり（欠） 挖り方

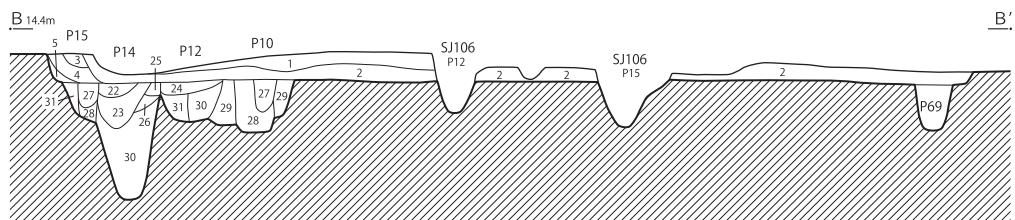
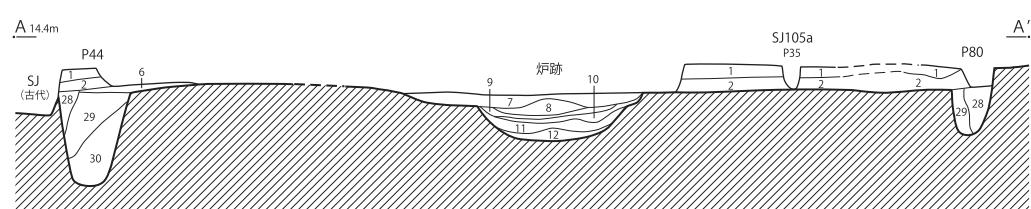
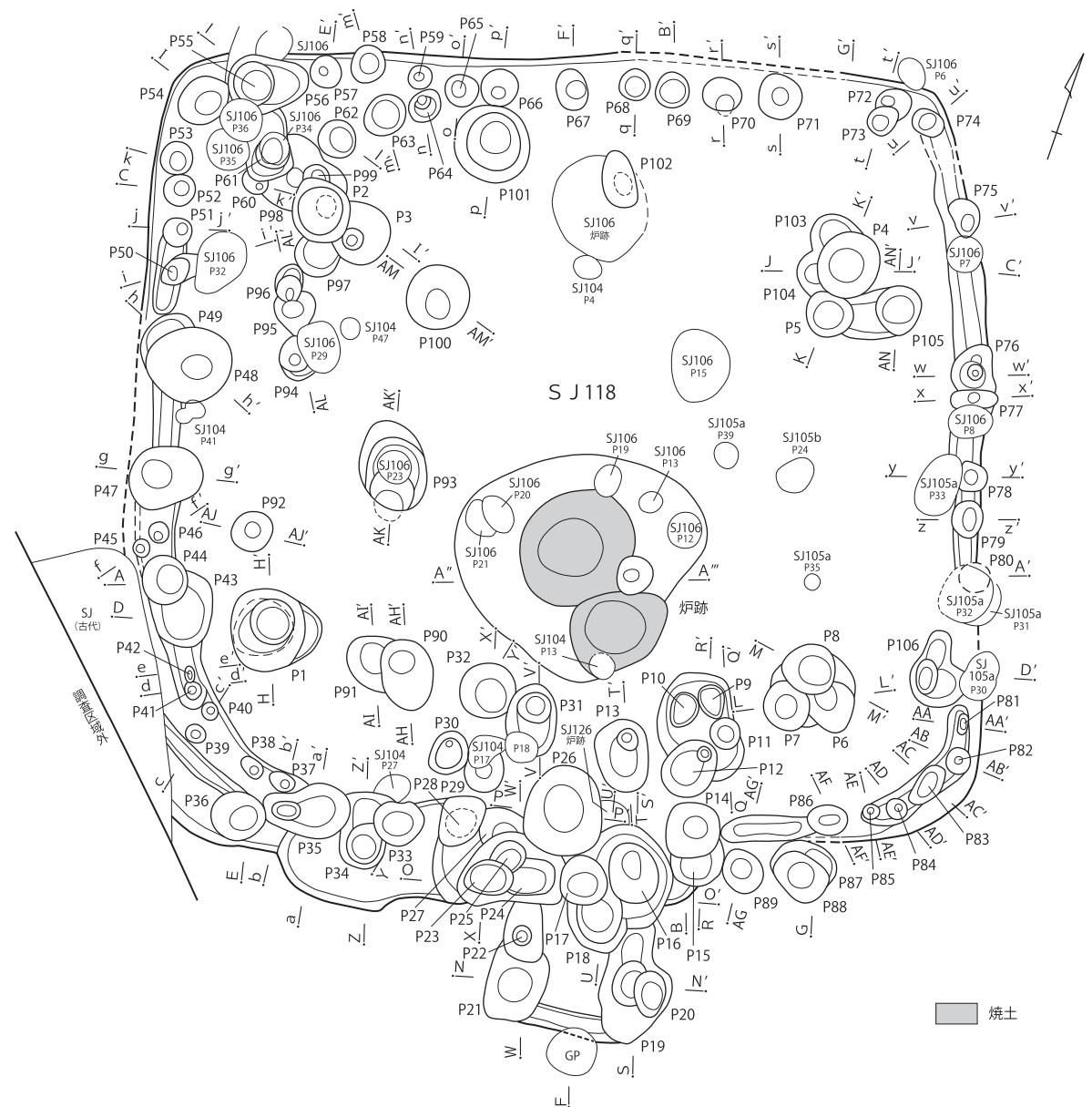
第87図 第117号住居跡（2）



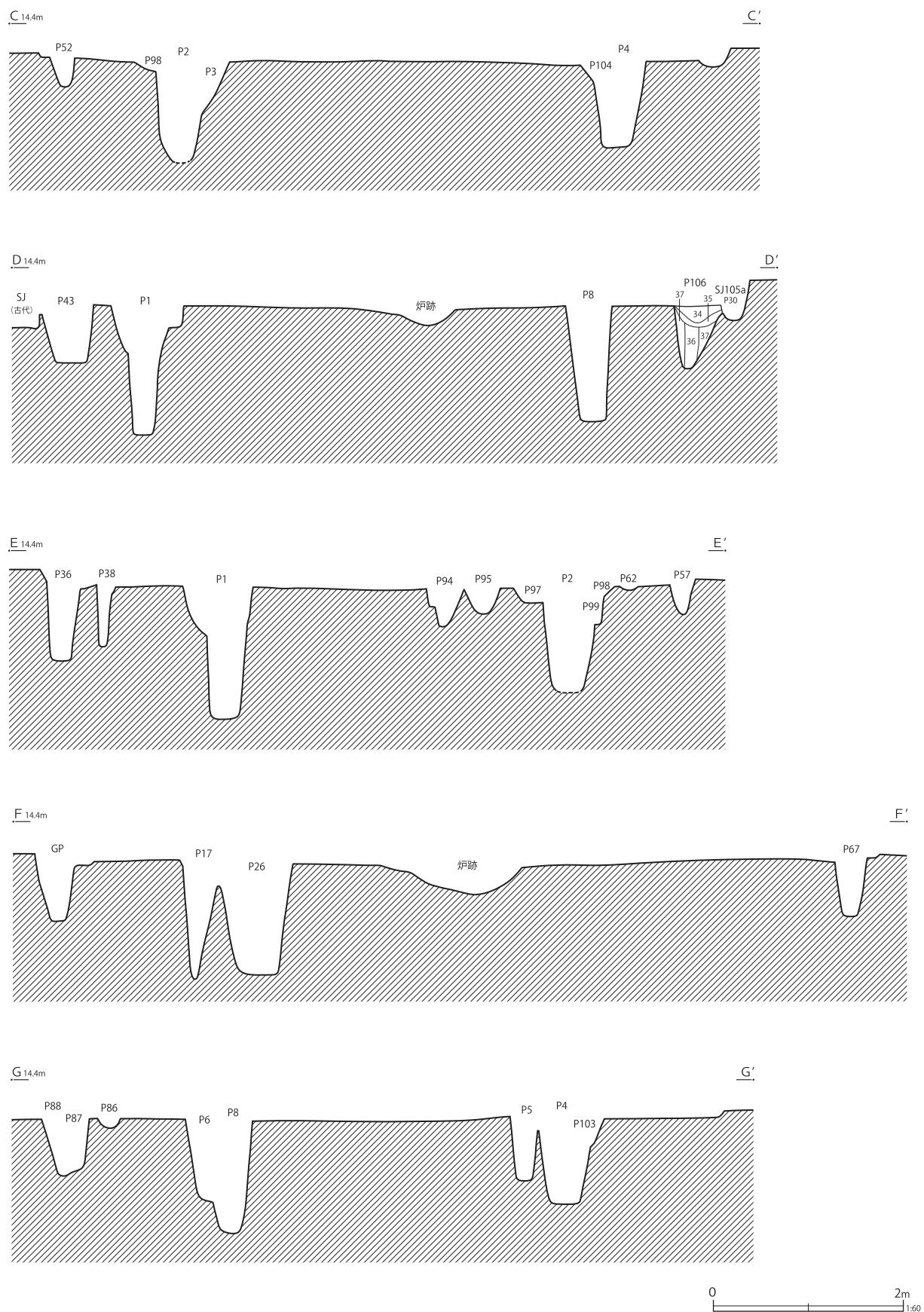
第88図 第117号住居跡遺物出土状況



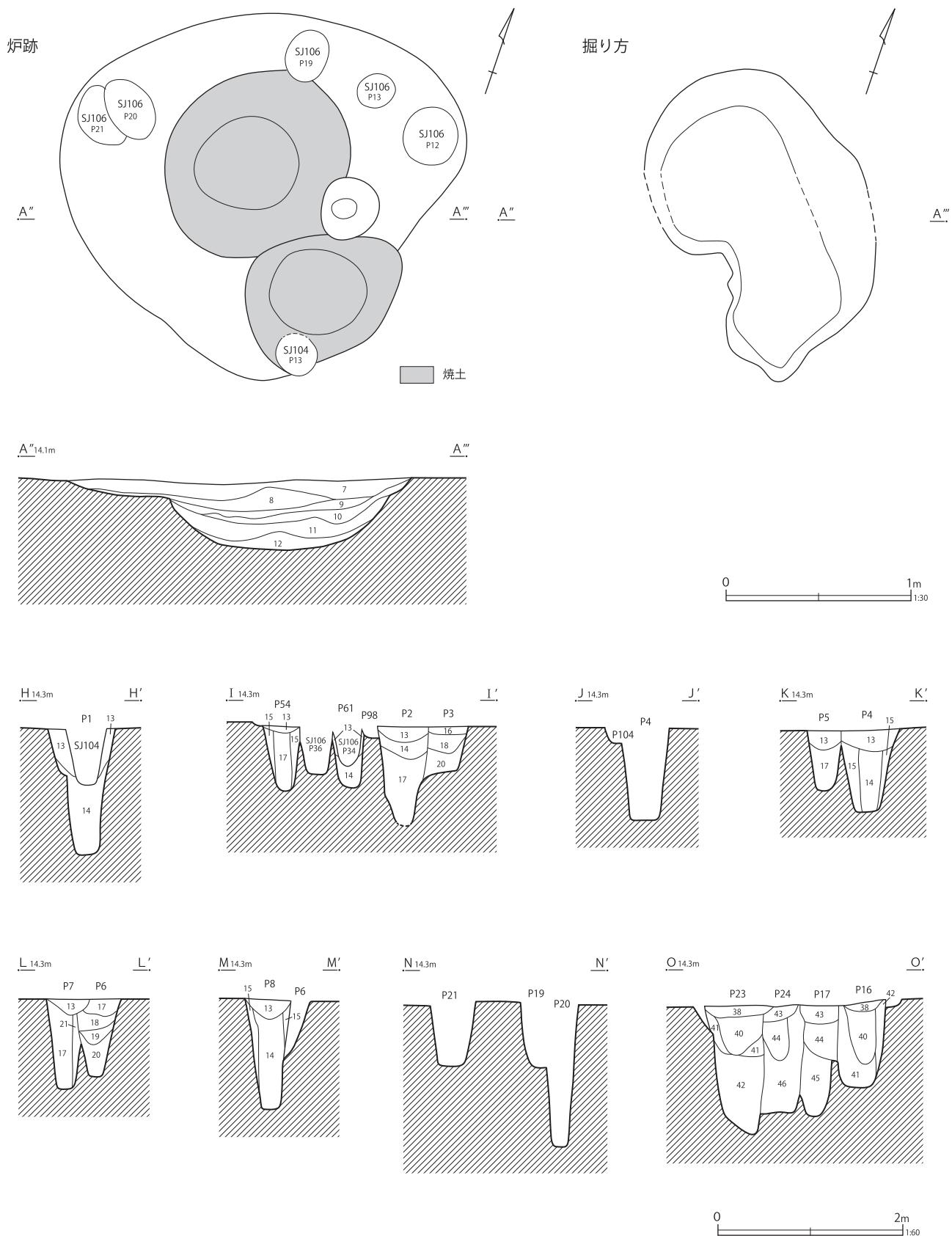
第89図 第118号住居跡（1）



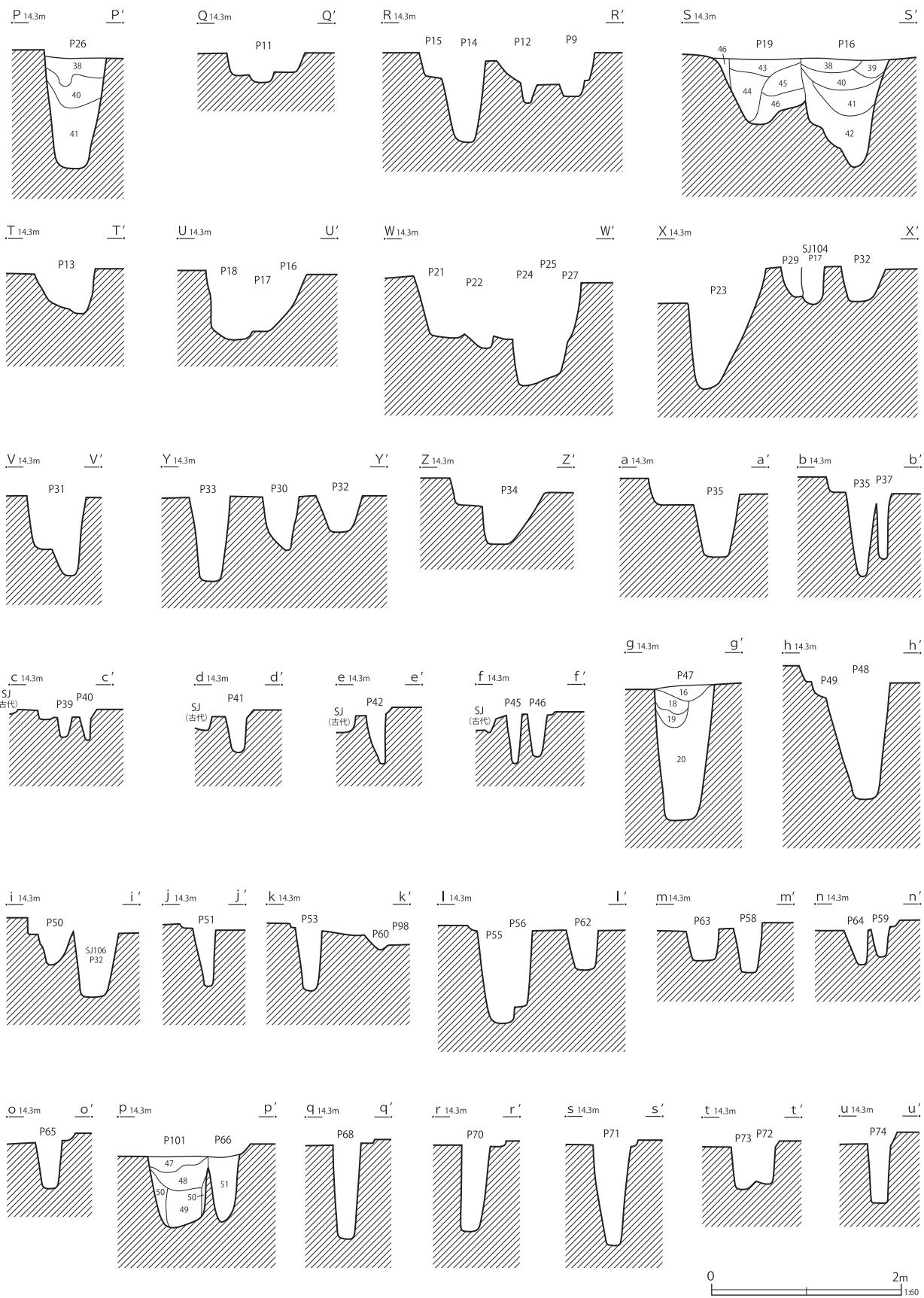
第90図 第118号住居跡 (2)



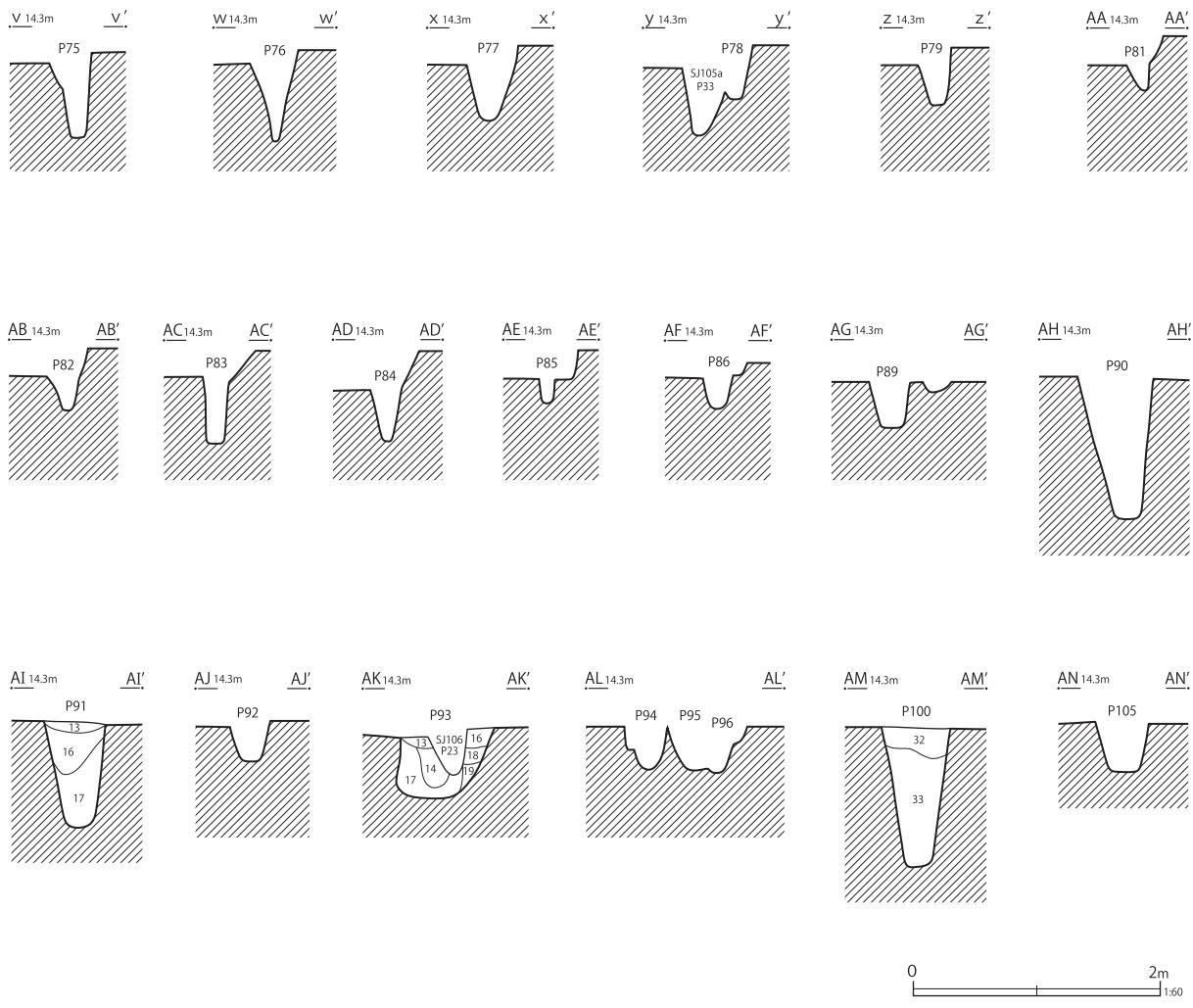
第91図 第118号住居跡 (3)



第92図 第118号住居跡 (4)

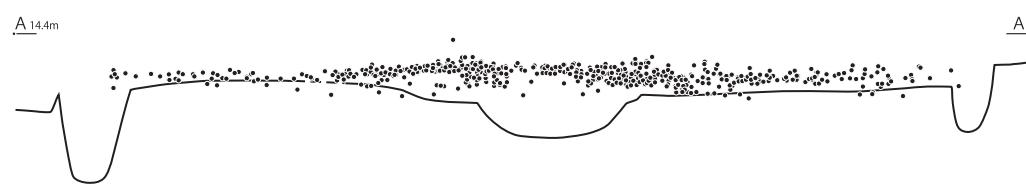


第93図 第118号住居跡 (5)



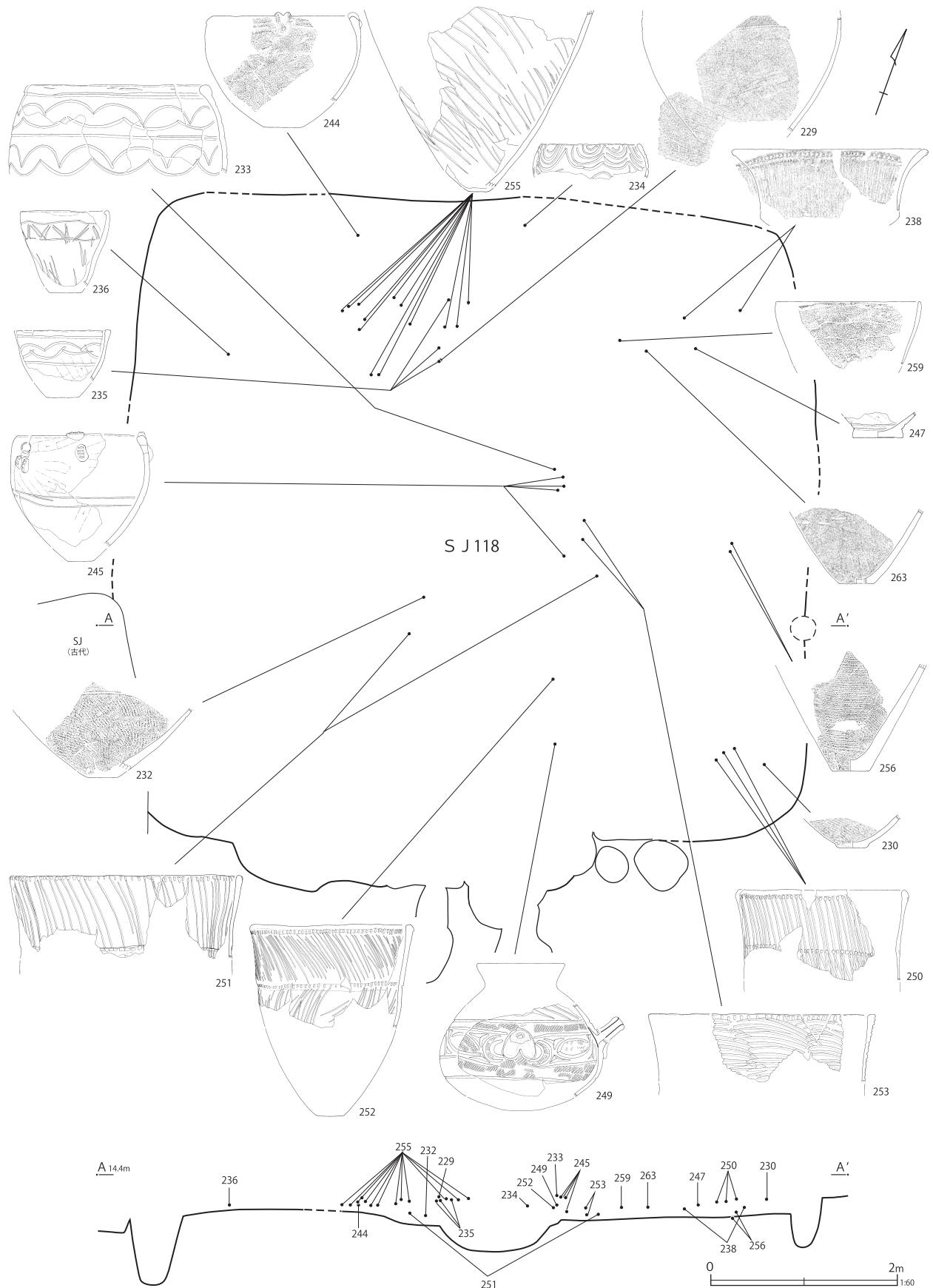
| | | | | |
|---------|----------|-------------------------------------|---------------------------|------------------------------------|
| S J 118 | 1 黒褐色土 | 粘質 炭化物(多) 燃土(中) 骨粉含む しまり(欠) | 25 黒褐色土 | 粘質 ローム小プロック(少) 炭化物(微) 燃土(多) しまり(中) |
| | 2 黒褐色土 | 粘質 炭化物(多) 燃土・骨粉(少) しまり(欠) | 26 暗褐色土 | 粘質 暗褐色土プロック(多) |
| | 3 暗褐色土 | 粘質 ローム粒子・炭化物(多) 燃土(少) しまり(欠) | 27 黒褐色土 | 粘質 炭化物・燃土(多) しまり(欠) 柱痕 |
| | 4 暗褐色土 | 粘質 ローム粒子・炭化物(少) 燃土(多) しまり(欠) | 28 暗褐色土 | 粘質 炭化物(少) 暗褐色土プロック(多) しまり(欠) |
| | 5 暗褐色土 | 粘質 ローム小プロック・炭化物(少) 燃土(微) しまり(良) 貼り床 | 29 暗褐色土 | 粘質 ロームプロック・暗褐色土プロックとの混土 しまり(欠) |
| | 6 暗褐色土 | シルト質 ロームプロック・燃土(多) しまり(良) 貼り床 | 30 暗褐色土 | 暗褐色土プロック(多) しまり(欠) |
| 炉跡 | | | 31 暗褐色土 | 粘質 ロームプロック(多) |
| | 7 黒褐色土 | 粘質 炭化物(多) 燃土(少) 骨粉含む しまり(欠) | 32 黒褐色土 | ローム小プロック(少) 炭化物・燃土(多) しまり(欠) |
| | 8 明灰色土 | 粘質 灰層 燃土(多) 粘性(強) しまり(欠) | 33 暗褐色土 | 粘質 粘質 |
| | 9 明茶褐色土 | シルト質 灰・燃土との混土 明灰色粘土(少) しまり(欠) | 34 黒褐色土 | ロームプロック(少) 炭化物・燃土(多) しまり(欠) |
| | 10 赤褐色土 | シルト質 燃土プロック(多) しまり(良) | 35 黒褐色土 | 炭化物・燃土・暗褐色土プロック(少) しまり(欠) |
| | 11 赤褐色土 | シルト質 被熱赤化面 | 36 暗褐色土 | 暗褐色土プロック(多) しまり(欠) 柱痕 |
| | 12 黄褐色土 | シルト質 被熱範囲 ローム面 | 37 暗黄褐色土 | ロームプロック(多) しまり(欠) |
| 柱穴 | | | 38 暗褐色土 | ロームプロック・炭化物(少) 燃土(多) しまり(欠) |
| | 13 暗褐色土 | 粘質 燃炭化物(多) 燃土(中) 骨粉(少) しまり(欠) | 39 黒褐色土 | 炭化物・燃土(多) 骨粉含む しまり(欠) |
| | 14 暗褐色土 | シルト質 炭化物(少) 暗褐色土プロック(多) しまり(欠) 柱痕 | 40 暗褐色土 | ローム小プロック(多) 炭化物・燃土(少) しまり(欠) |
| | 15 暗黄褐色土 | 粘質 ロームプロック(多) しまり(欠) | 41 暗褐色土 | 暗褐色土プロック(多) しまり(欠) |
| | 16 黒褐色土 | 粘質 炭化物・燃土(少) しまり(欠) | 42 暗褐色土 | ロームプロック(多) しまり(中) |
| | 17 暗黄褐色土 | 粘質 暗褐色土主体 ロームプロック含む しまり(欠) | 43 ローム小プロック・炭化物(少) しまり(欠) | |
| | 18 黑褐色土 | 粘質 ロームプロック(少) 炭化物・燃土(中) しまり(欠) | 44 暗褐色土 | ロームプロック・暗褐色土との混土 しまり(欠) |
| | 19 黑褐色土 | 粘質 炭化物・暗褐色土プロック(少) しまり(欠) | 45 暗黄褐色土 | ロームプロック(多) しまり(欠) |
| | 20 暗褐色土 | 粘質 暗褐色土主体 ロームプロック含む しまり(欠) | 46 暗黄褐色土 | 暗褐色土主体 ロームプロック含む しまり(欠) |
| | 21 暗黄褐色土 | 粘質 ロームプロック(多) しまり(欠) | 47 黑褐色土 | ローム小プロック・骨粉(少) 炭化物・燃土(多) しまり(良) |
| | 22 暗褐色土 | 粘質 炭化物(微) 燃土(多) 灰含む しまり(欠) | 48 黑褐色土 | ロームプロック・炭化物・燃土(少) しまり(欠) |
| | 23 暗褐色土 | 粘質 炭化物(少) 燃土(中) 暗褐色土プロック(多) | 49 暗褐色土 | 暗褐色土主体 ロームプロック(少) しまり(欠) |
| | 24 黑褐色土 | 粘質 炭化物・燃土・暗褐色土プロック(少) しまり(欠) | 50 暗黄褐色土 | ロームプロック(多) しまり(欠) |
| | | | 51 黑褐色土 | 炭化物・燃土(少) しまり(欠) |

第94図 第118号住居跡 (6)

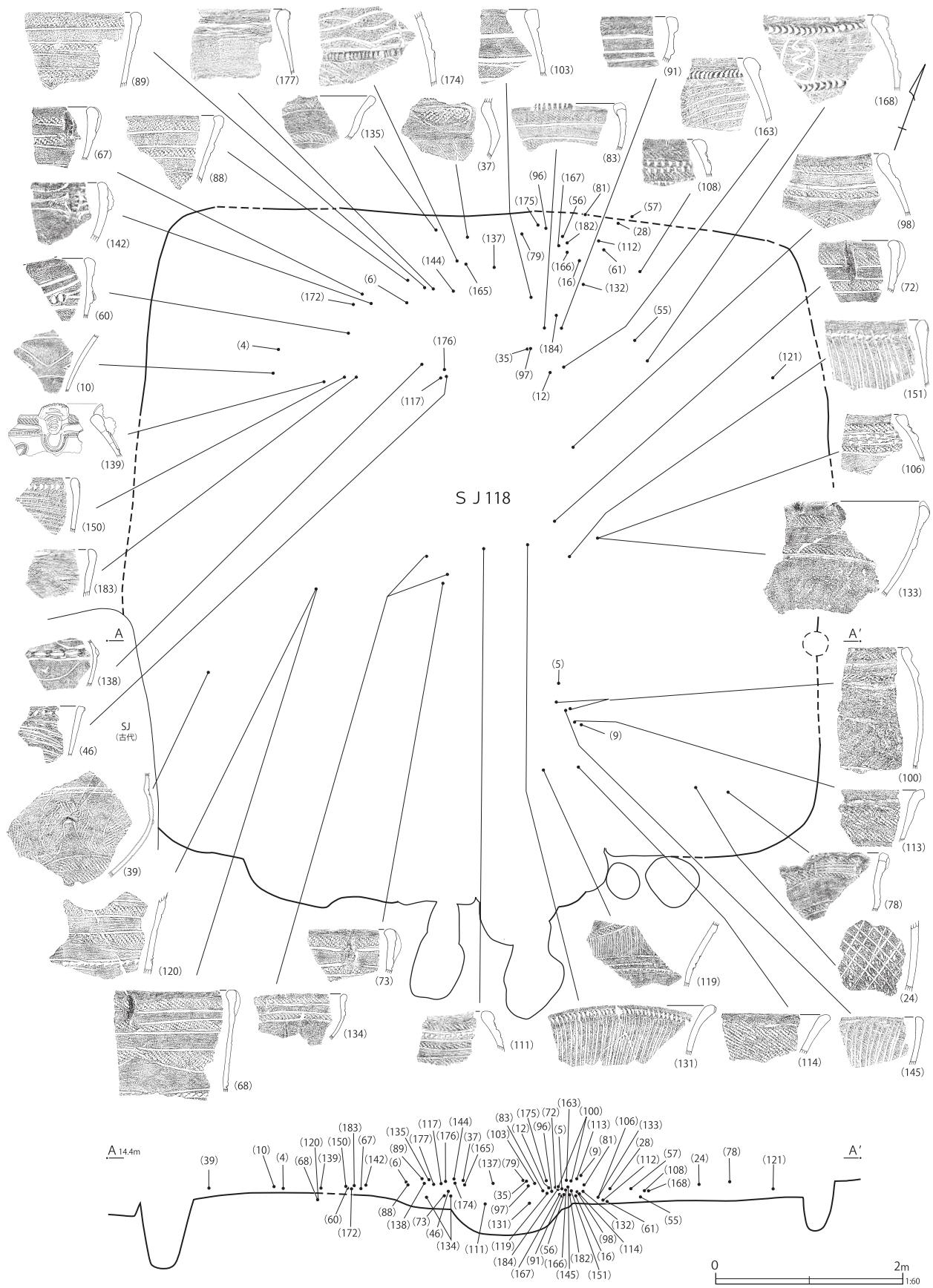


0 2m
1:60

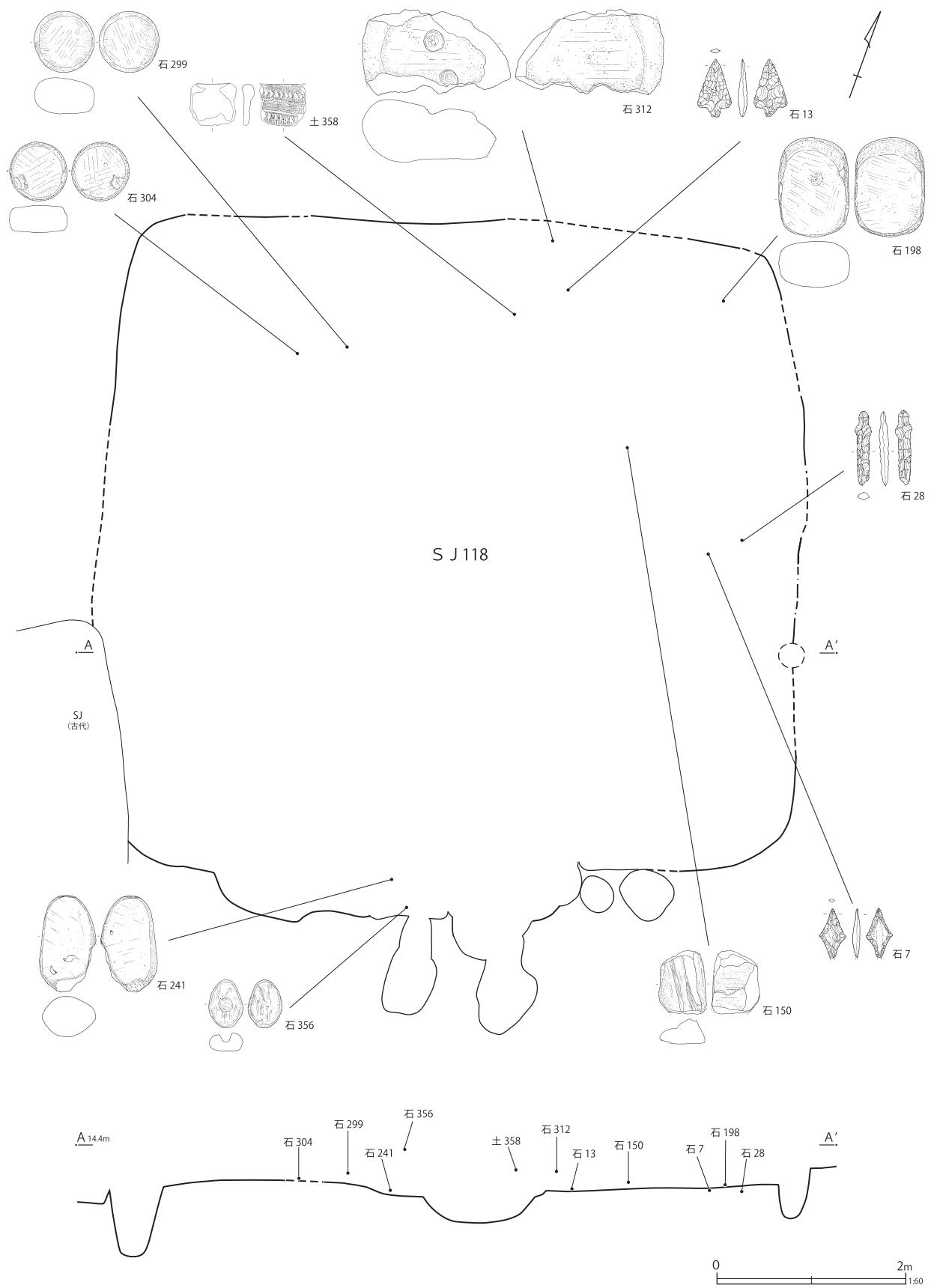
第95図 第118号住居跡遺物出土状況（1）



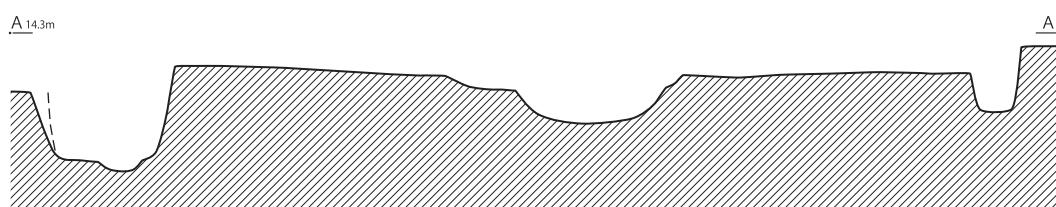
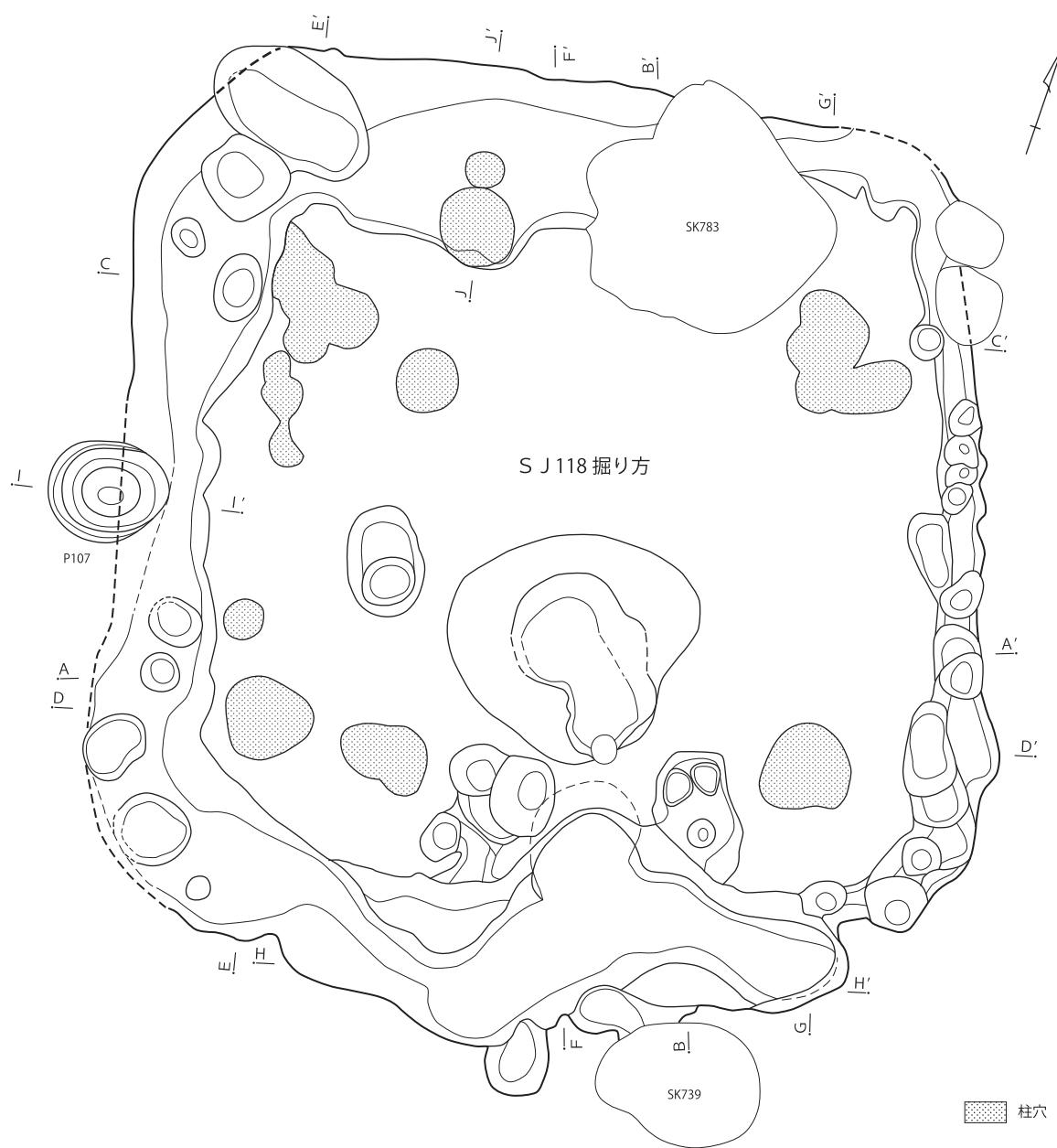
第96図 第118号住居跡遺物出土状況（2）



第97図 第118号住居跡遺物出土状況（3）

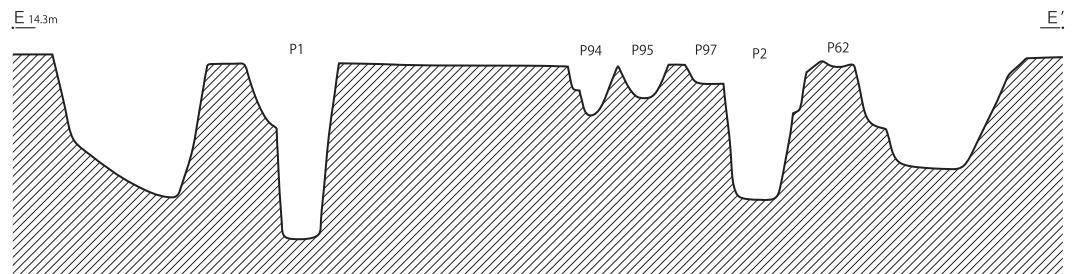
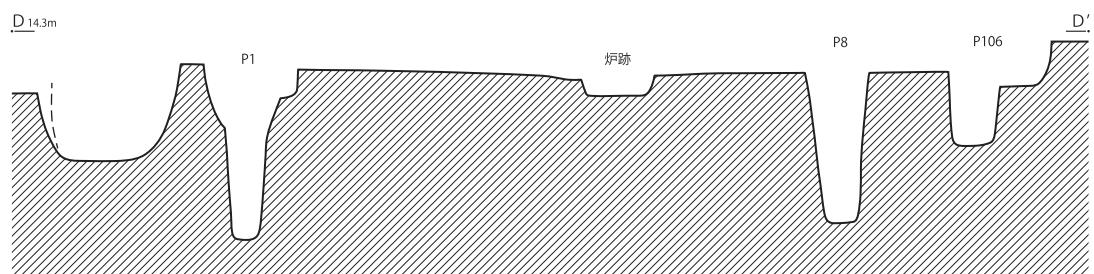
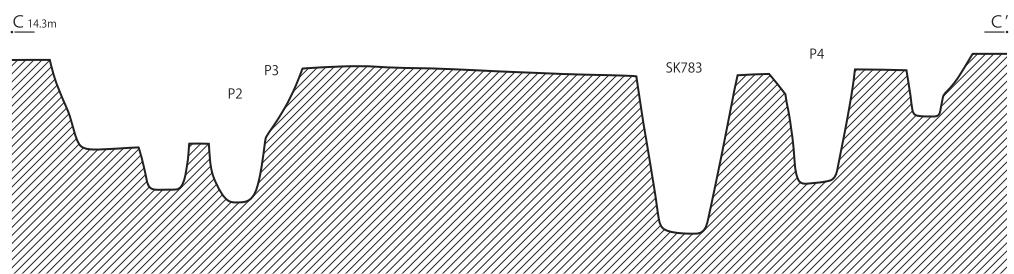
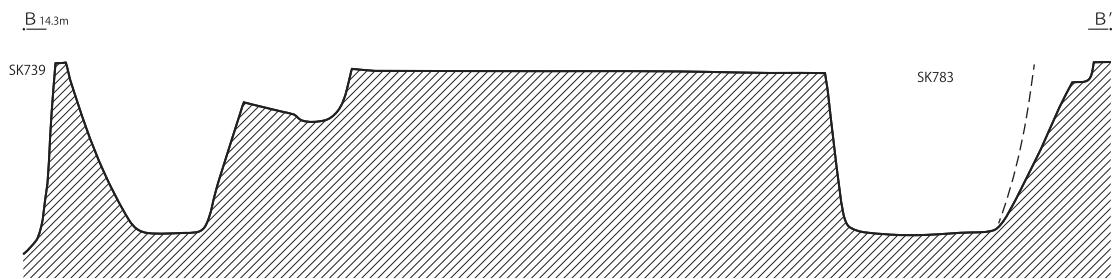


第98図 第118号住居跡遺物出土状況 (4)



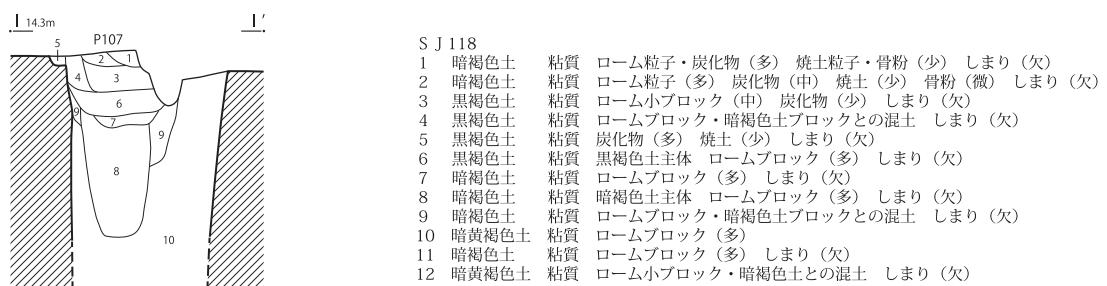
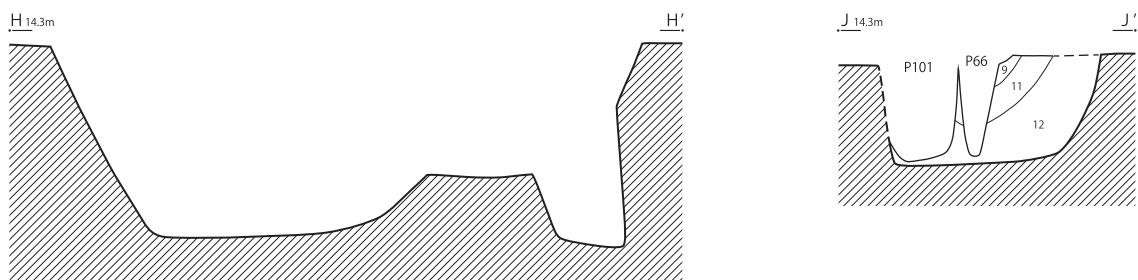
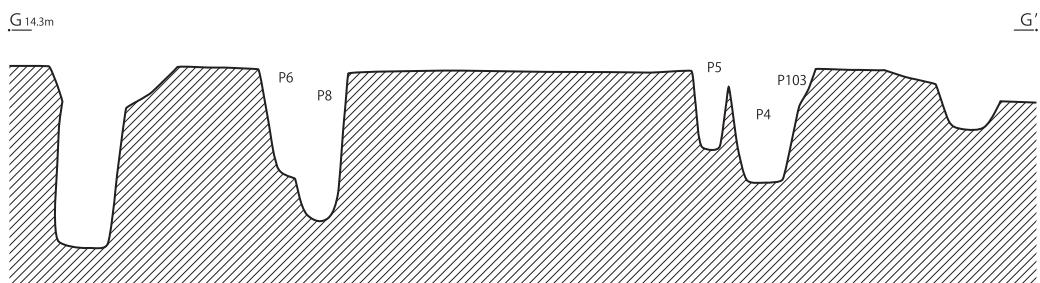
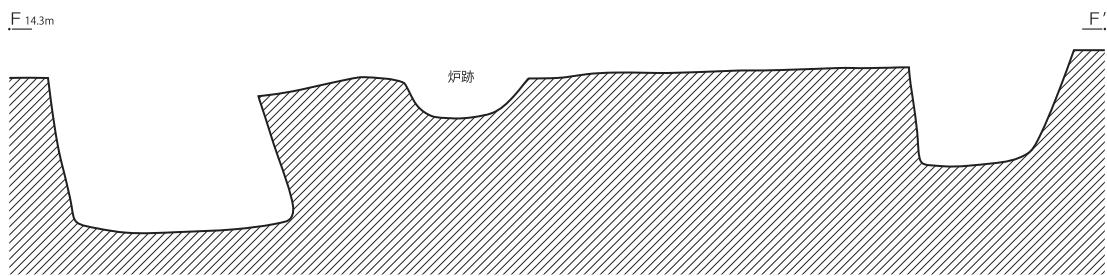
0 2m
1:60

第99図 第118号住居跡掘り方 (1)



0 2m 1:60

第100図 第118号住居跡掘り方 (2)

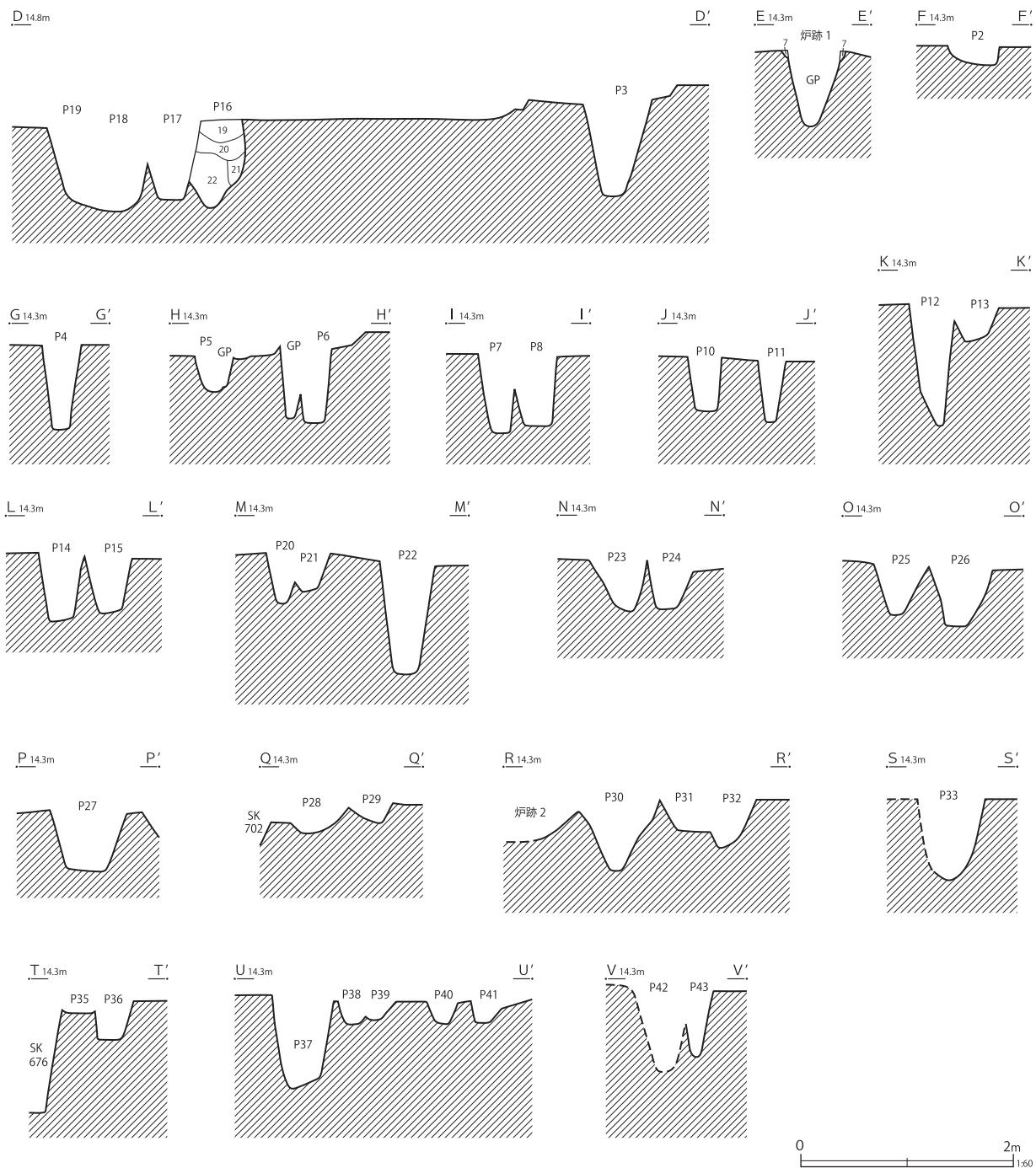


0 2m 1:60

第101図 第118号住居跡掘り方（3）



第102図 第119号住居跡（1）

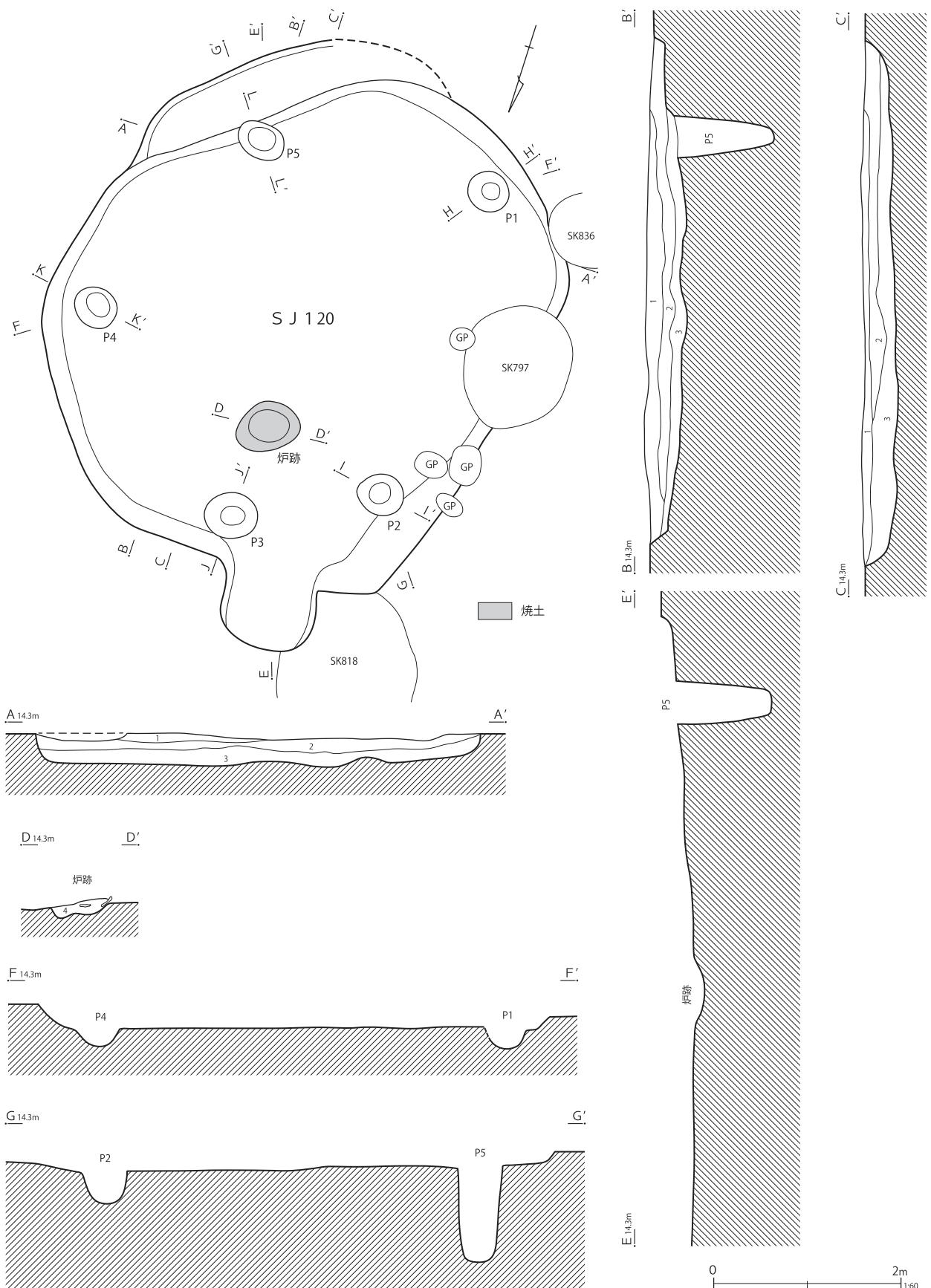


S J 119

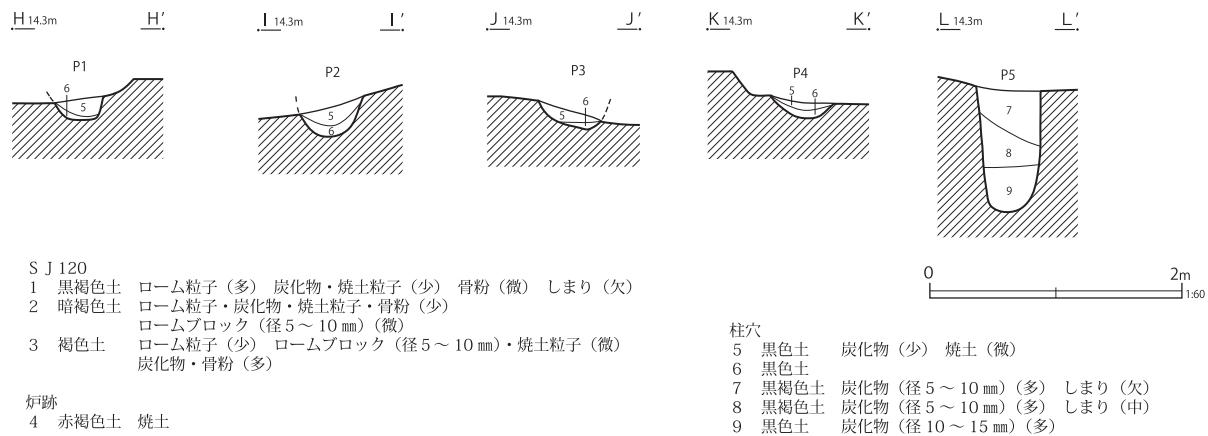
1 褐色土 烧土(微) 粘性(強) しまり(中)
 2 褐色土 黄色土粒子・黄色土ブロック(多) 粘性・しまり(中)
 3 暗褐色土 烧土粒子(少) 粘性(強) しまり(中)
 4 黑褐色土 粘質 ローム粒子・烧土(多) 炭化物(中) 骨粉(少)
 しまり(良) 貼床
 5 暗褐色土 粘質 ローム小ブロック・炭化物・烧土(少) しまり(良)
 6 黑褐色土 粘質 炭化物(少) 烧土(中) しまり(欠)
 7 暗赤褐色土 粘質 ロームブロック・炭化物(少) 烧土ブロック(多)
 しまり(良)
 8 暗褐色土 粘質 ロームブロック・炭化物(少) しまり(欠)
 9 暗褐色土 粘質 ロームブロック・暗褐色土(少) しまり(欠)
 10 暗黄褐色土 粘質 ロームブロック(多) 暗褐色土ブロック(少)
 しまり(良) 埋土
 11 暗褐色土 粘質 暗褐色土ブロック(多) しまり(欠) 柱痕

12 暗黄褐色土 粘質 暗褐色土主体 ローム粒子(多) しまり(欠) 柱痕埋土
 13 暗褐色土 粘質 ローム小ブロック・暗褐色土ブロックとの混土
 しまり(中) 挖り方
 14 暗褐色土 粘質 暗褐色土ブロック(多) しまり(良) 挖り方
 15 黑褐色土 粘質 ローム粒子・炭化物(少) 烧土(微) 骨粉含む
 しまり(欠)
 16 暗褐色土 粘質 ローム粒子(少) 炭化物(微) 暗褐色土ブロック(多)
 しまり(欠)
 17 黑褐色土 粘質 ローム小ブロック・炭化物(中) しまり(欠) 柱痕
 18 暗褐色土 粘質 暗褐色土主体 ロームブロック(多) しまり(中)
 19 暗褐色土 粘質 ロームブロック(多) 炭化物(少) しまり(良)
 20 暗褐色土 粘質 ロームブロック主体 暗褐色土(少) しまり(中)
 21 暗褐色土 粘質 暗褐色土ブロック(多) しまり(欠)
 22 暗褐色土 粘質 ロームブロック・暗褐色土との混土 しまり(欠)

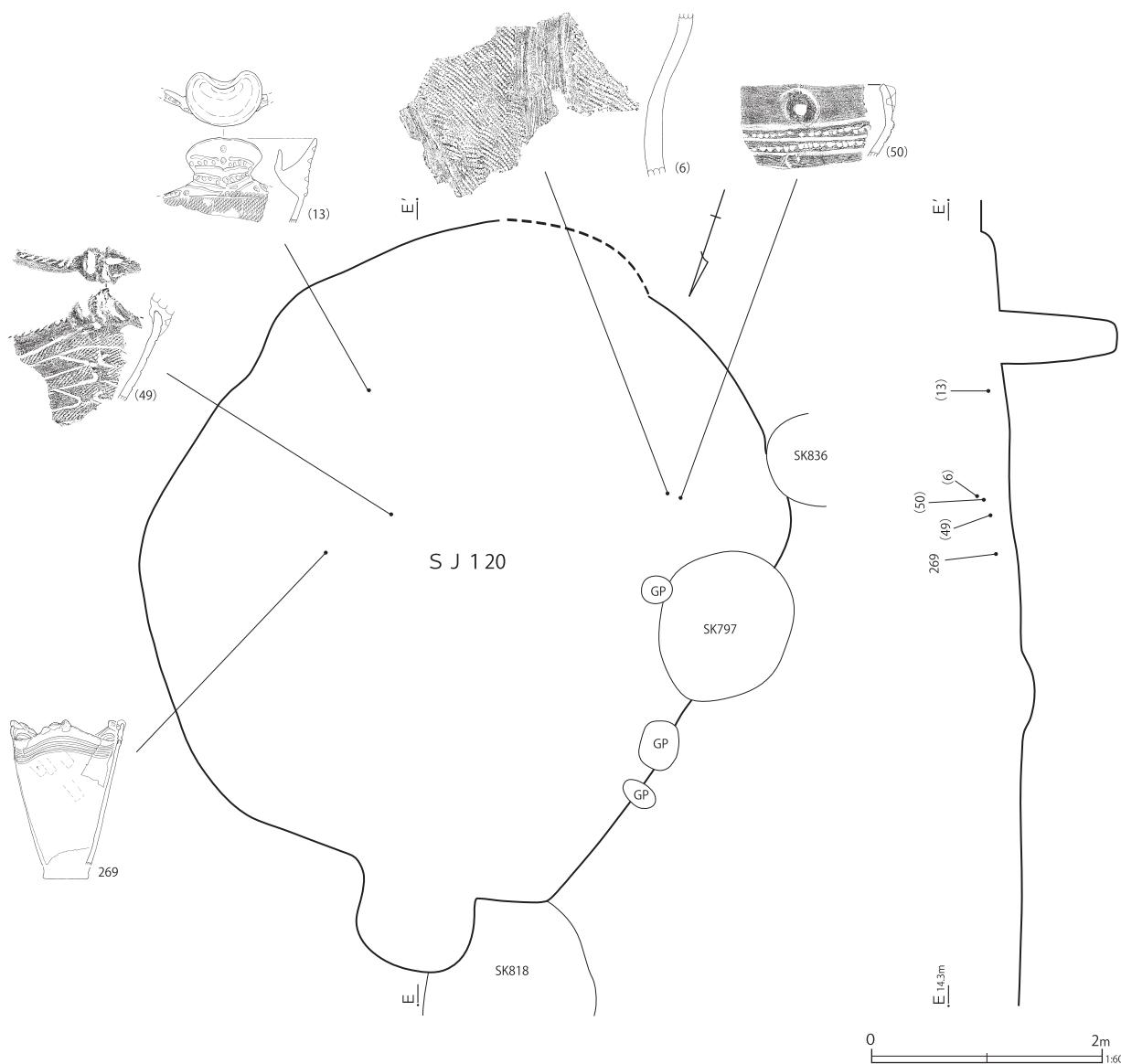
第103図 第119号住居跡 (2)



第104図 第120号住居跡（1）



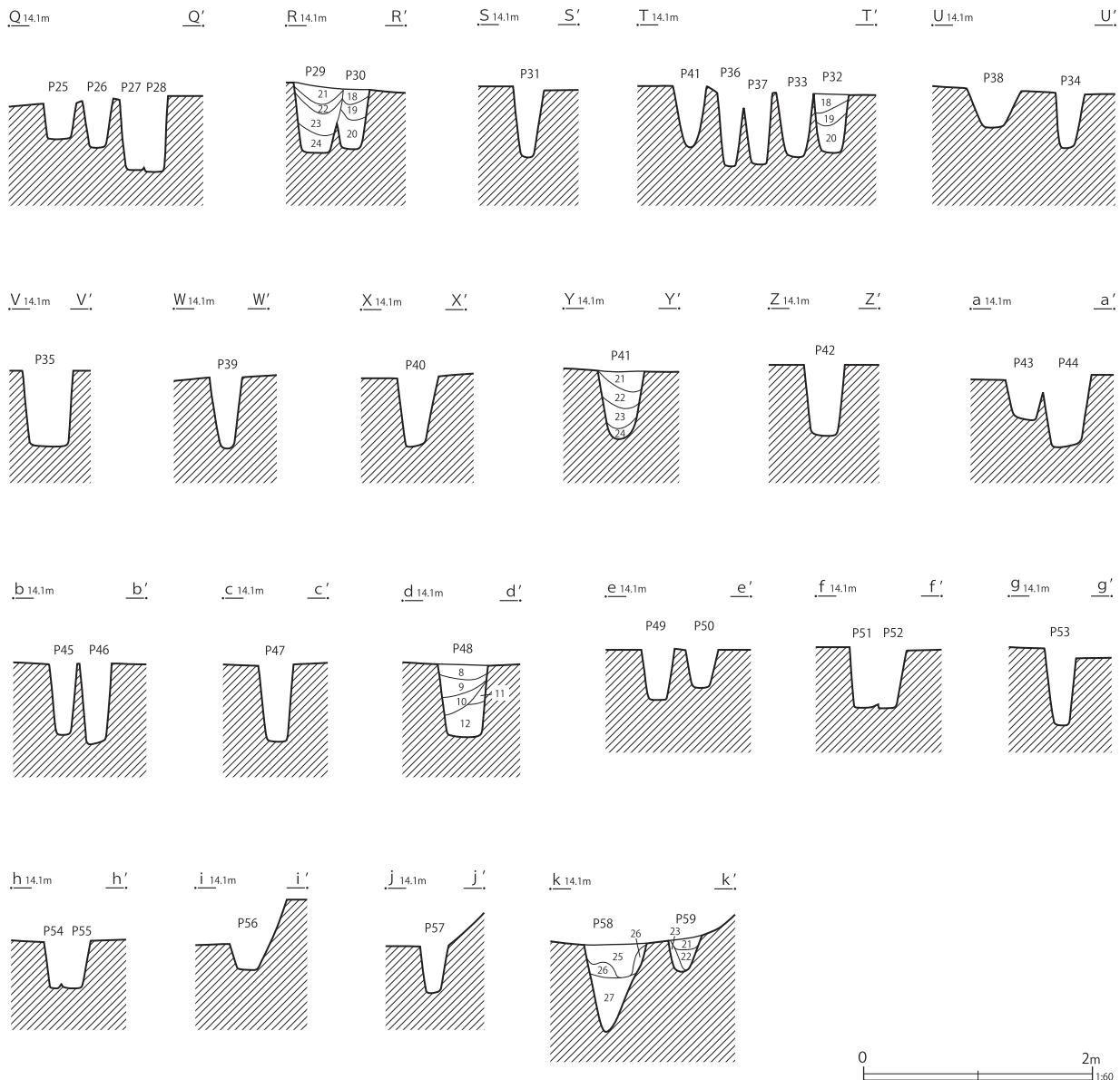
第105図 第120号住居跡（2）



第106図 第120号住居跡遺物出土状況



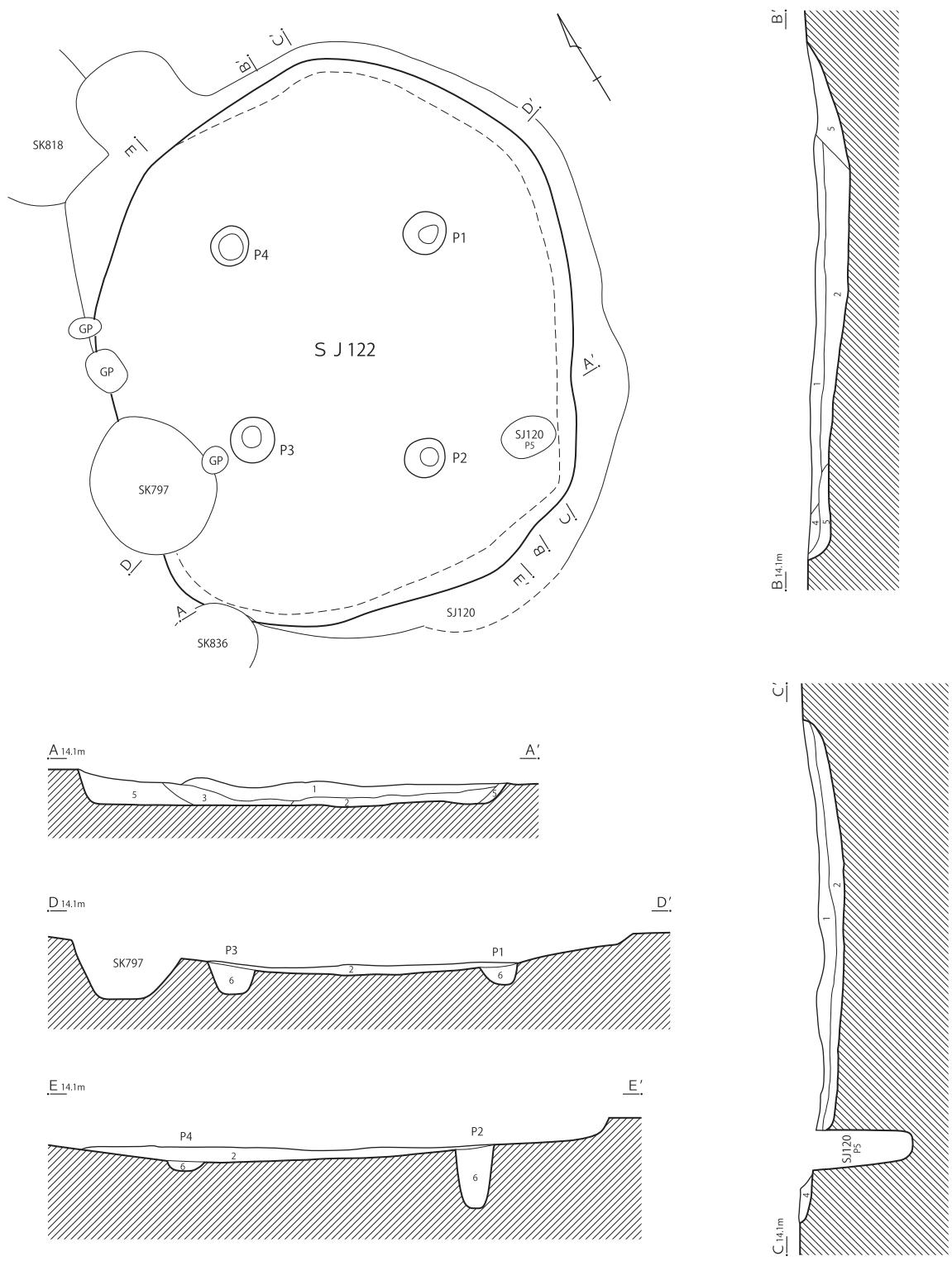
第107図 第121号住居跡（1）



- S J 12.1
- 1 暗褐色土 焼土粒子（少） 黒褐色土含む 粘性・しまり（中）
2 暗褐色土 炭化物・焼土粒子含む 暗黄褐色土（多） 粘性（弱）
3 暗黄褐色土 暗褐色土・黄褐色土ブロック含む 粘性（強） しまり（欠）
- 炉跡
- 4 黒褐色土 炭化物（径5～10mm）・焼土ブロック（多）
黄褐色土ブロック（少） 灰含む 粘性（弱） しまり（欠）
5 暗褐色土 黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック（多）
炭化物粒子・焼土ブロック（径5～10mm）・
小骨片（径10mm）含む 粘性（中） しまり（欠）
- 貼床
- 6 暗褐色土 炭化物（径5～10mm）・焼土粒子（少）
黄褐色土ブロック（径10～20mm）（多）
粘性（弱） しまり（欠）
7 暗褐色土 炭化物・焼土粒子（微） 黄褐色土（径5～10mm）（多）
粘性（弱） しまり（中）
- 柱穴
- 8 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・黄褐色土ブロック（径5～10mm）含む
粘性（弱） しまり（欠）
9 暗褐色土 炭化物ブロック（径10mm）（多）
黄褐色土ブロック（径10～20mm）（少） 粘性（中） しまり（欠）

- 10 暗褐色土 黄褐色土含む 粘性（弱） しまり（欠）
11 暗褐色土 黄褐色土・灰黄褐色土含む 粘性（強） しまり（欠）
12 暗褐色土 焼土粒子（少） 黄褐色土含む 粘性（中） しまり（欠）
炭化物（径1～10mm）（多） 黄褐色土（少） 粘性（強）
しまり（欠） 柱痕
13 暗褐色土 炭化物粒子（少） 黄褐色土含む 粘性（弱） しまり（中）
14 暗褐色土 黄褐色土含む 粘性（強） しまり（欠）
15 暗褐色土 粘性（強） しまり（欠）
16 暗黄褐色土 暗褐色土（多） 粘性（強） しまり（弱）
17 暗黄褐色土 炭化物・焼土粒子（多） 黄褐色土ブロック含む
粘性（弱） しまり（欠）
18 暗褐色土 炭化物粒子（微） 黄褐色土含む 粘性（中） しまり（欠）
19 暗褐色土 黄褐色土含む 粘性（強） しまり（欠）
20 暗褐色土 炭化物粒子（少） 粘性（弱） しまり（良）
21 暗褐色土 黑褐色土含む 黄褐色土ブロック（多） 粘性（弱） しまり（欠）
22 暗褐色土 炭化物粒子（少） 粘性（弱） しまり（良）
23 暗褐色土 炭化物粒子（少） 粘性（強） しまり（欠）
24 暗褐色土 黄褐色土含む 粘性（強） しまり（欠）
25 暗褐色土 炭化物（径5～10mm）（少） 黄褐色土ブロック（径10mm）含む
粘性（弱） しまり（欠）
26 暗褐色土 炭化物粒子（微） 黄褐色土（多） 粘性（強） しまり（良）
27 暗褐色土 黄褐色土（多） 粘性（強） しまり（欠）

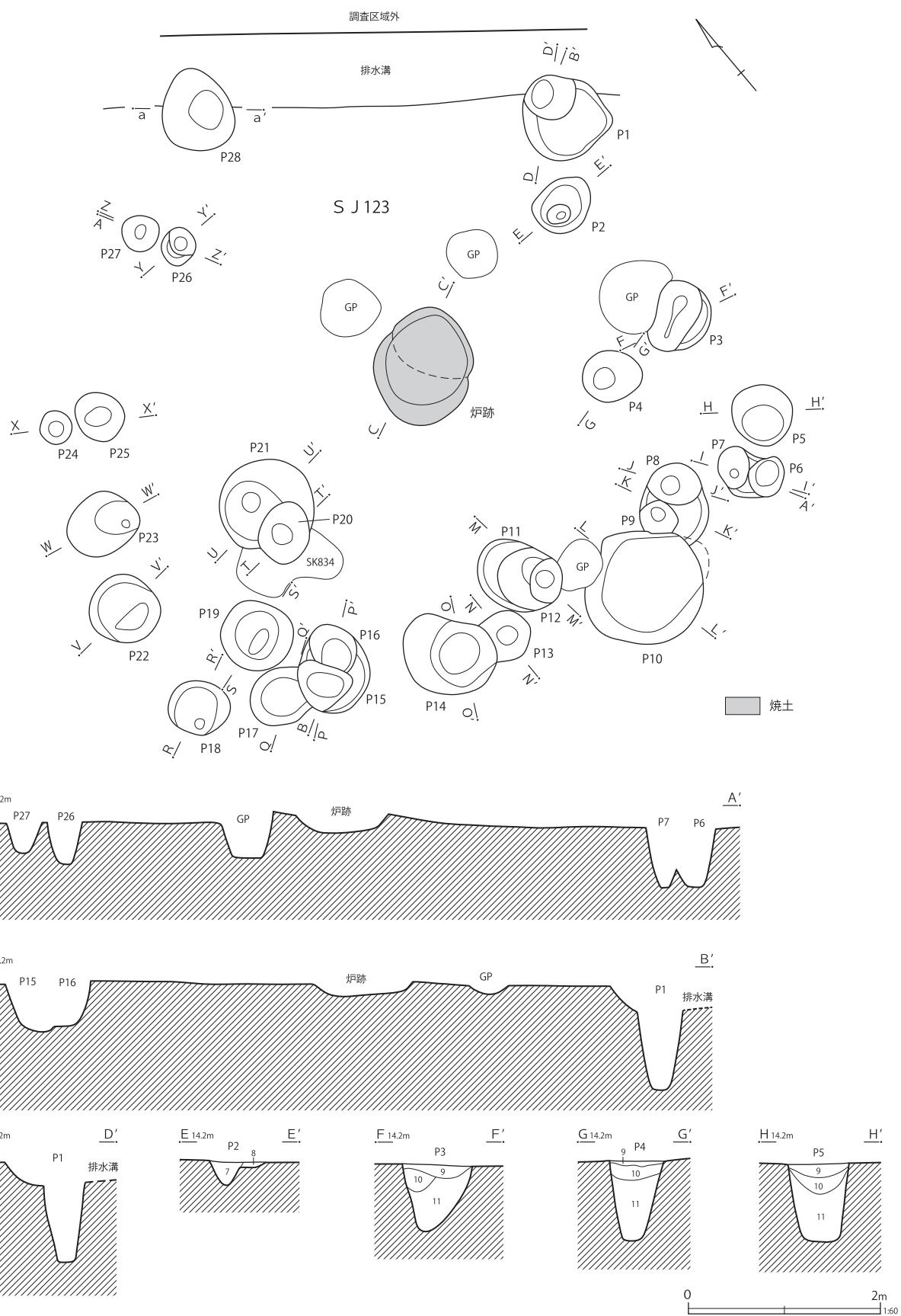
第108図 第121号住居跡（2）



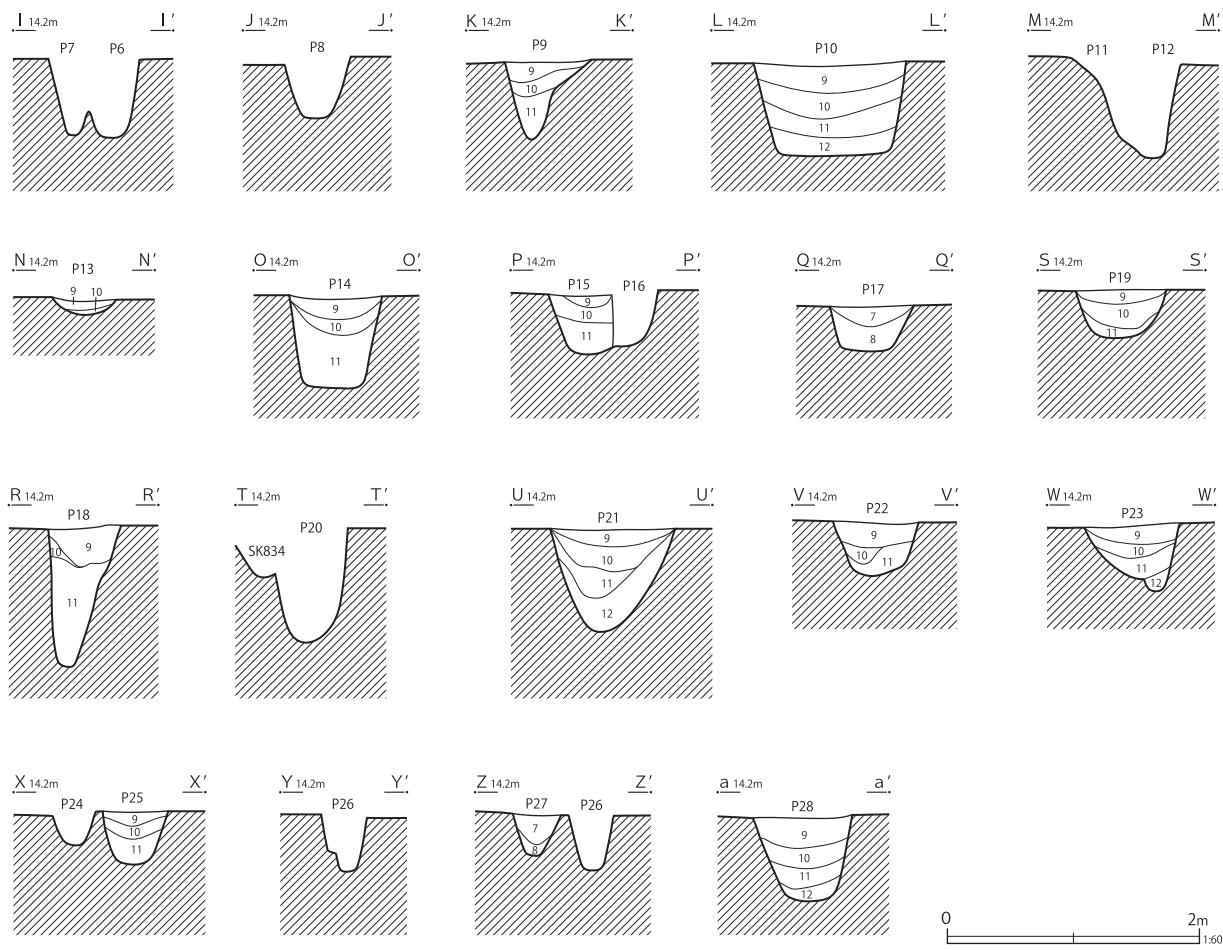
S J 122

1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物（少） 焼土粒子（微） 骨粉（多） しまり（良）
 2 褐色土 ローム粒子・ロームブロック（径 25～30 mm）（少） 粘性（強） しまり（欠）
 3 褐色土 ローム粒子（少） ロームブロック含む 粘性（強）
 4 褐色土 ローム粒子含む ロームブロック（径 25～30 mm）（多） しまり（欠）
 5 褐色土 ローム粒子（多） ロームブロック（径 25～30 mm）（少）
 6 黒褐色土 炭化物（少） しまり（欠）

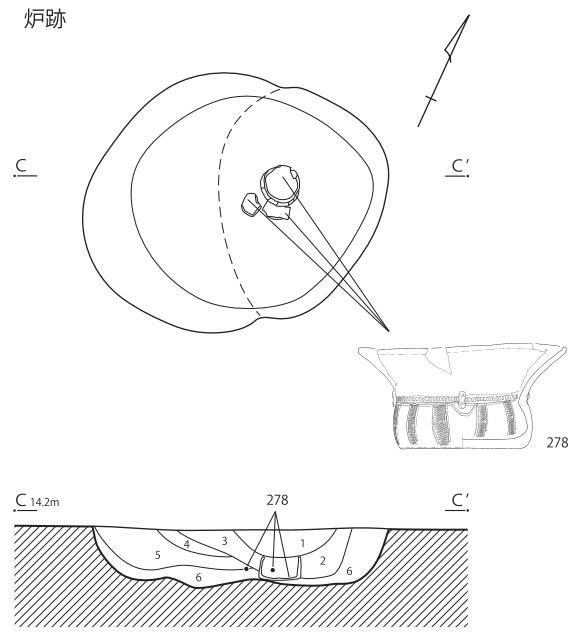
第109図 第122号住居跡



第110図 第123号住居跡 (1)

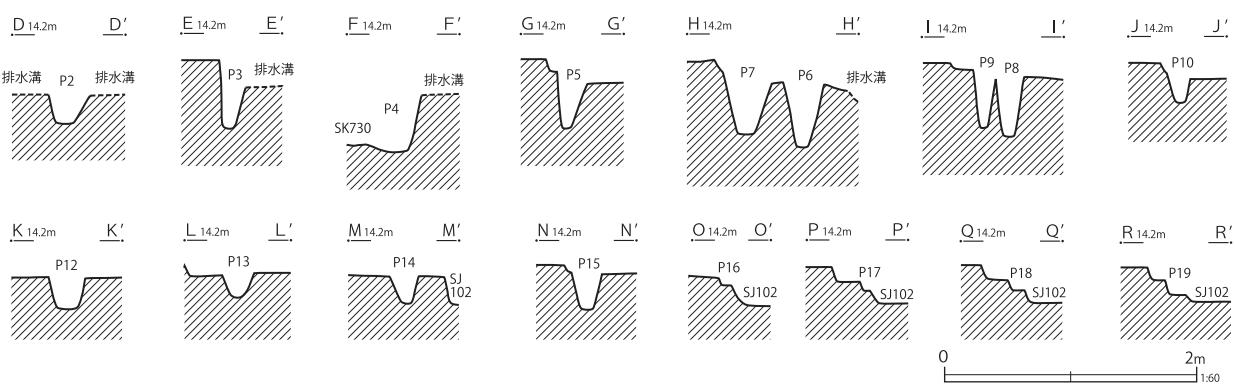
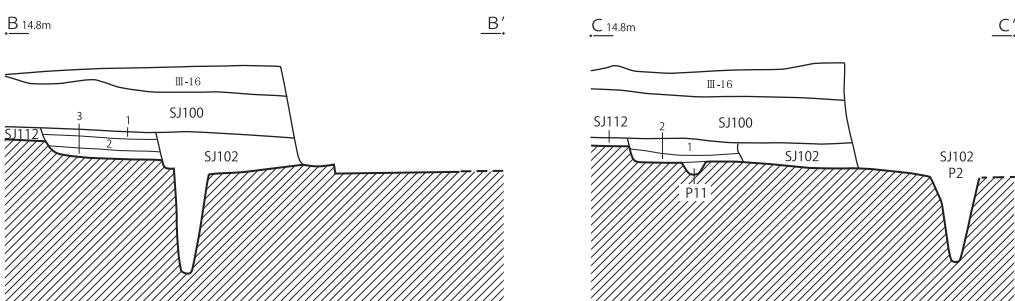
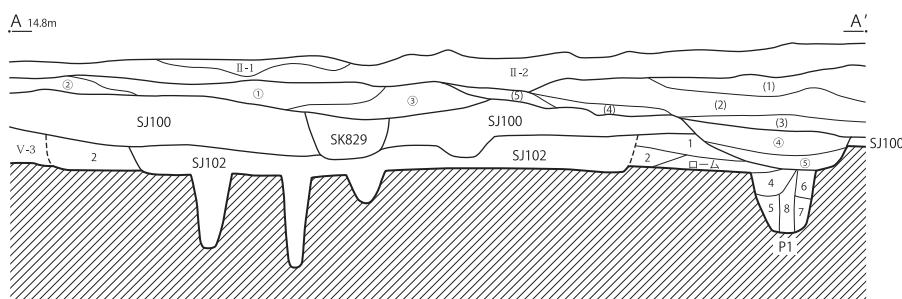
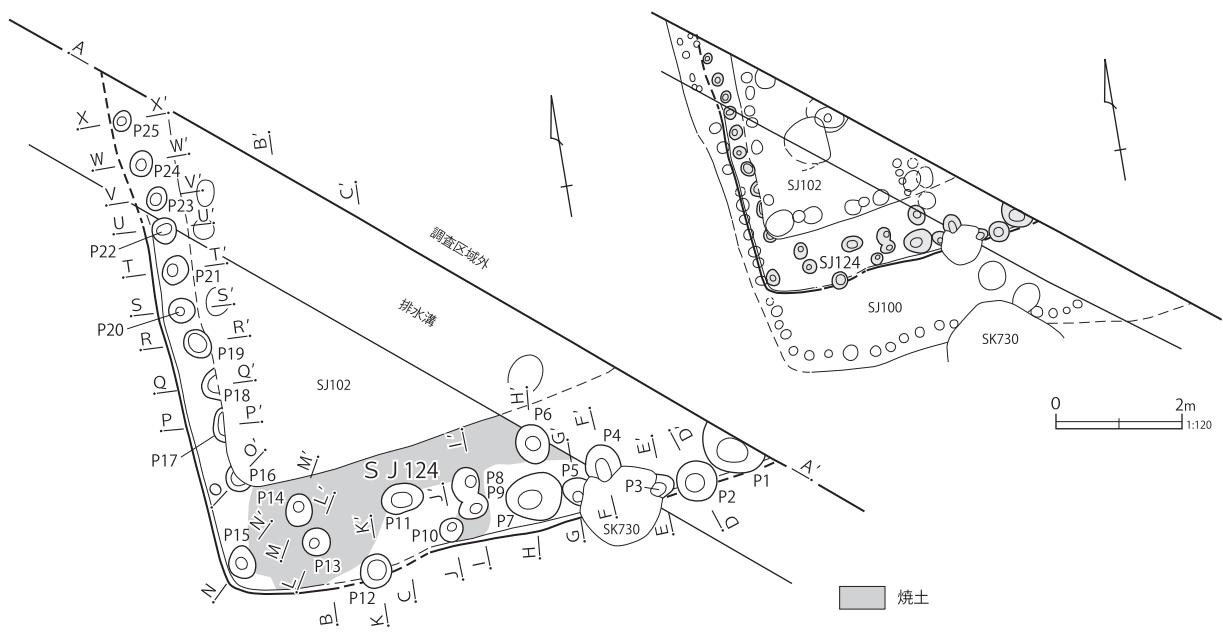


炉跡

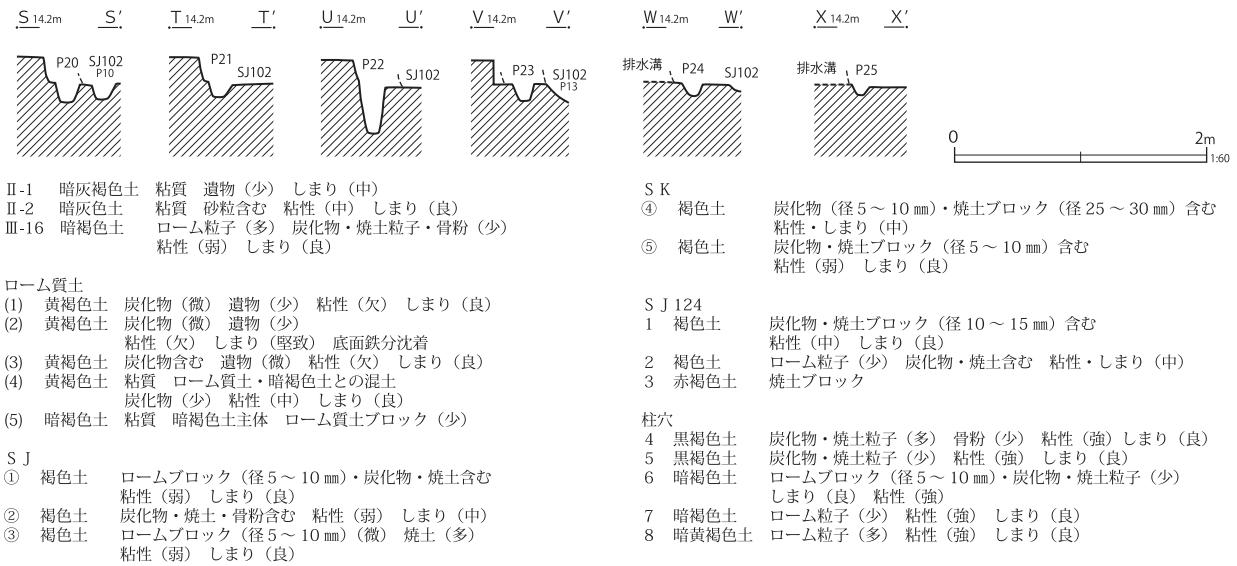


- S J 123 炉跡
- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 暗褐色土 | ロームブロック (径 5 ~ 10 mm)・炭化物・焼土 (少) しまり (欠) |
| 2 | 暗褐色土 | 炭化物・焼土・骨粉 (微) しまり (欠) |
| 3 | 灰褐色土 | 炭化物・骨粉 (微) 焼土 (多) 灰層含む しまり (欠) |
| 4 | 赤褐色土 | 炭化物・骨粉 (微) 焼土 (多) 灰・焼土層との混土 しまり (欠) |
| 5 | 赤褐色土 | 焼土層 |
| 6 | 褐色土 | 焼土 (多) 焼土ブロック (径 10 ~ 15 mm) (少) 火床面 |
- 柱穴
- | | | |
|----|-------|--|
| 7 | 黒褐色土 | ローム粒子・焼土粒子 (少) 炭化物 (径 10 ~ 15 mm) (多) 骨粉含む |
| 8 | 黒褐色土 | ロームブロック (径 5 ~ 10 mm) (少) 炭化物 (径 5 ~ 10 mm) (多) 烧土粒子 (微) |
| 9 | 黒褐色土 | ロームブロック (径 5 ~ 10 mm)・焼土粒子・骨粉 (少) 炭化物 (径 5 ~ 10 mm) (多) |
| 10 | 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物 (径 5 ~ 10 mm)・骨粉 (少) 粘性 (強) |
| 11 | 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック (径 15 ~ 20 mm) (少) ロームブロック (多) |
| 12 | 暗黄褐色土 | |

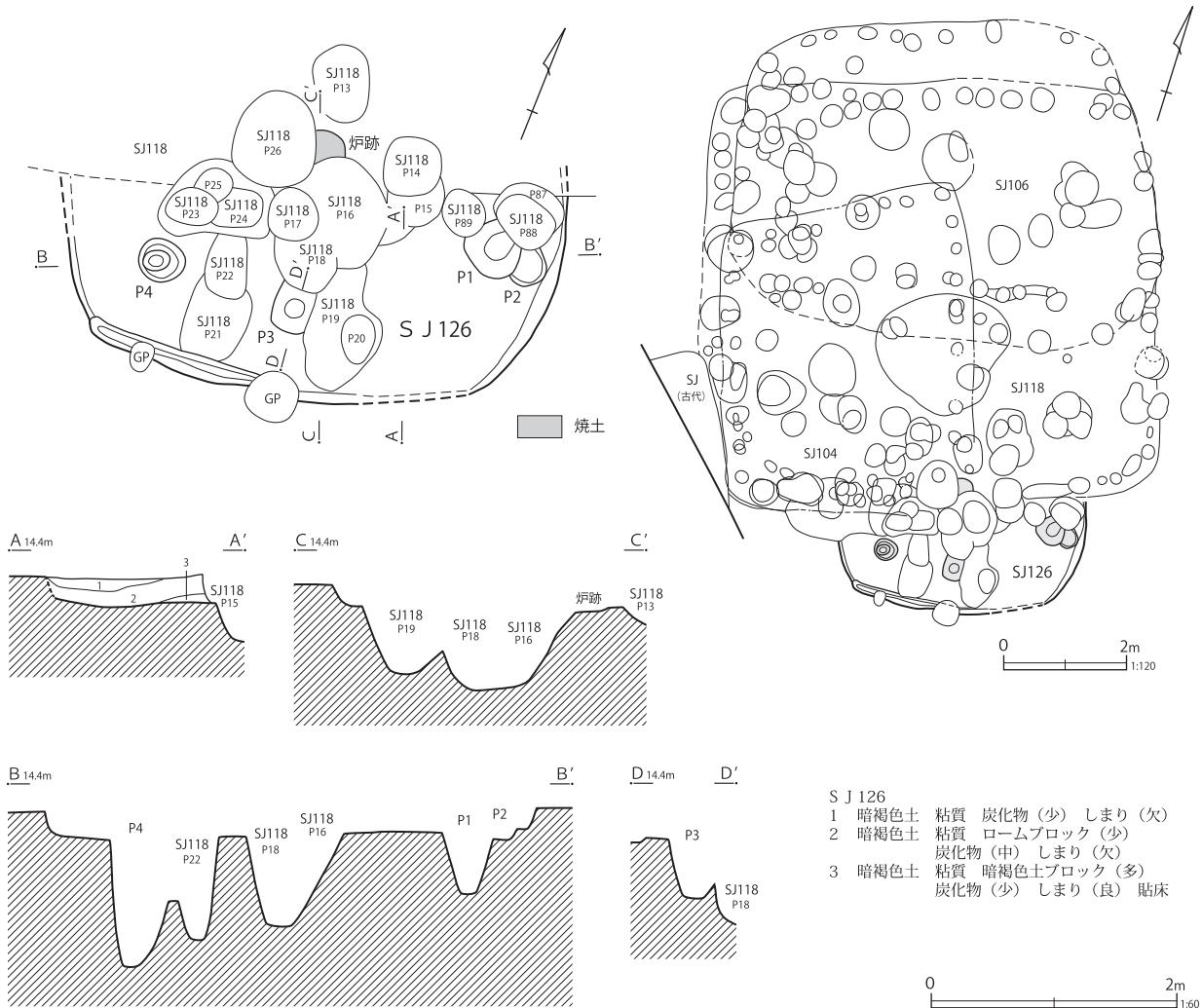
第111図 第123号住居跡 (2)



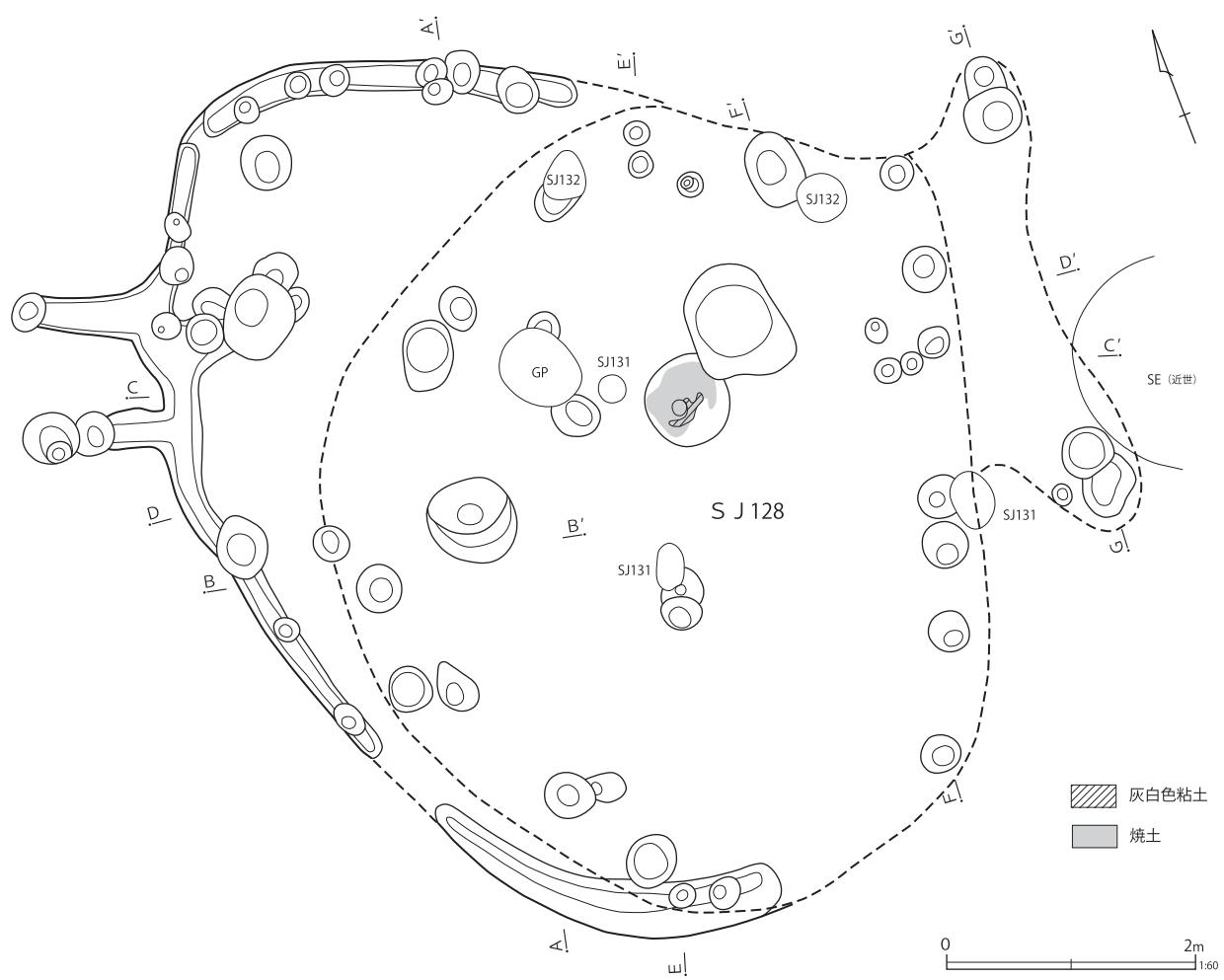
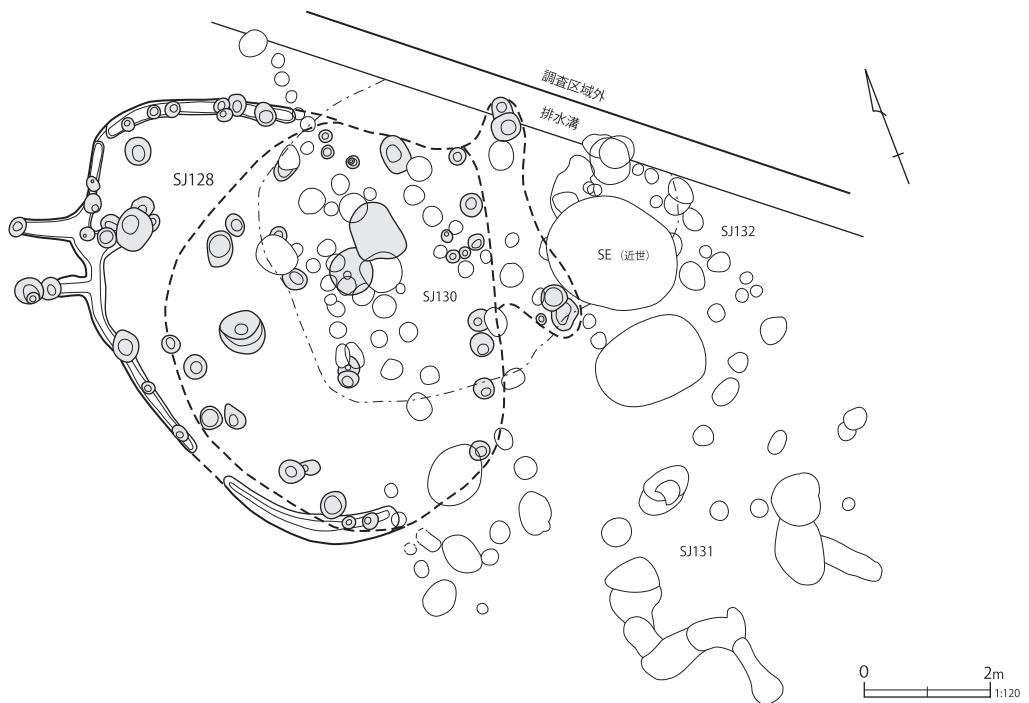
第112図 第124号住居跡（1）



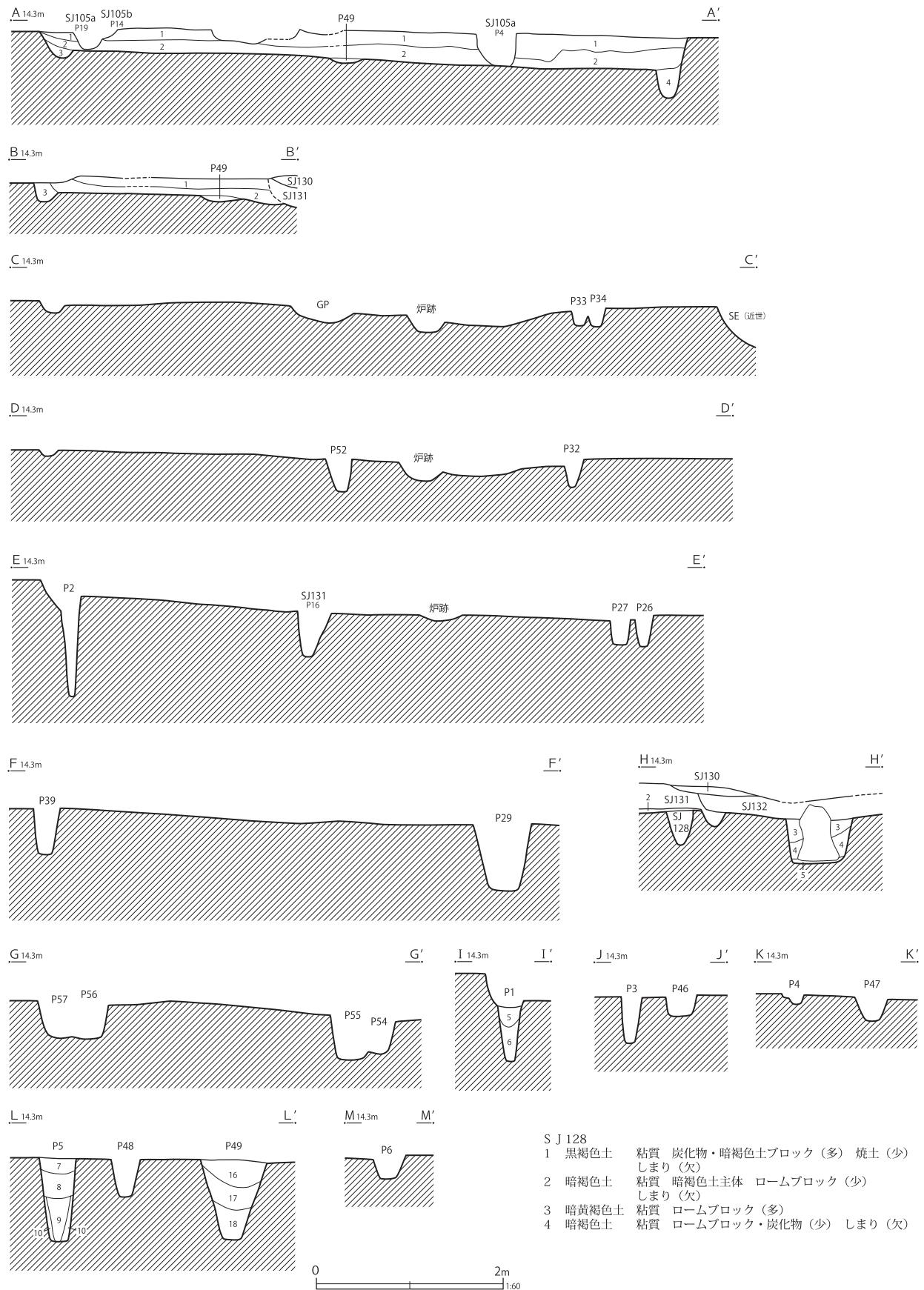
第113図 第124号住居跡（2）



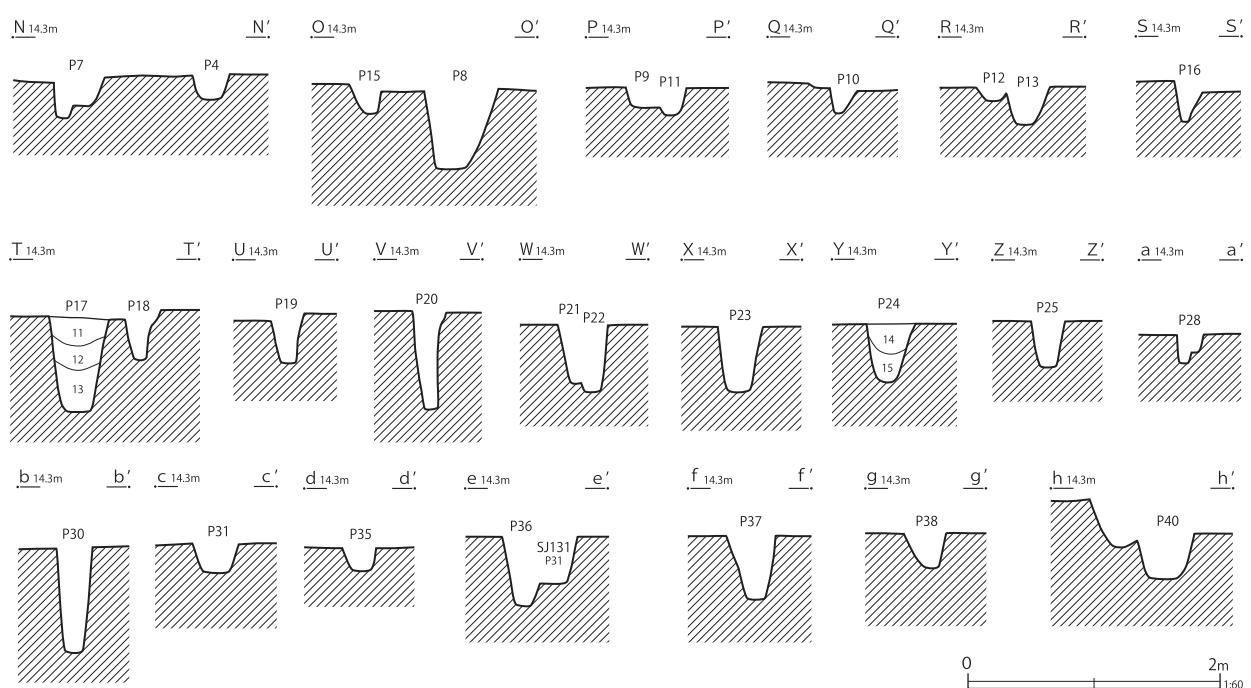
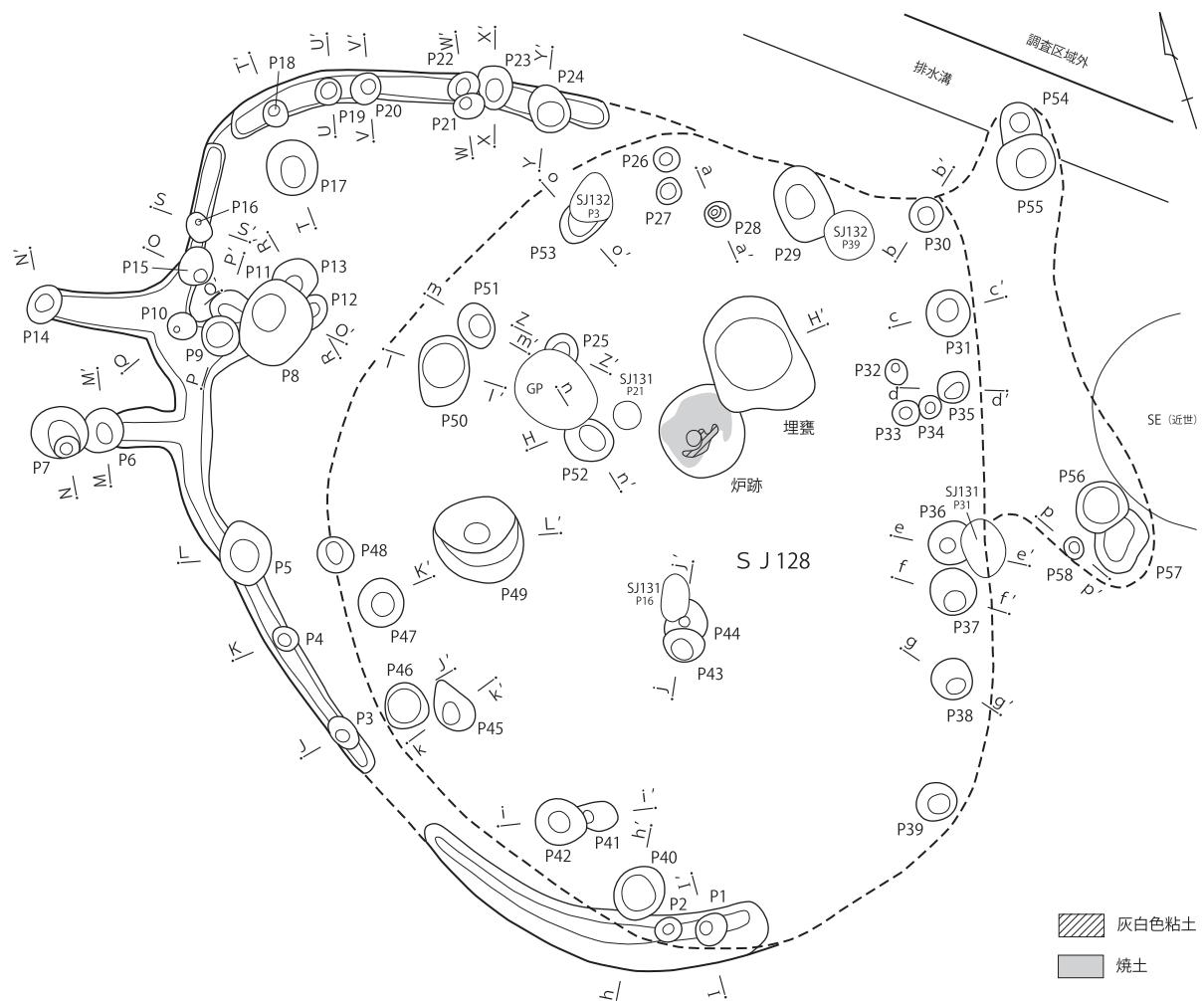
第114図 第126号住居跡



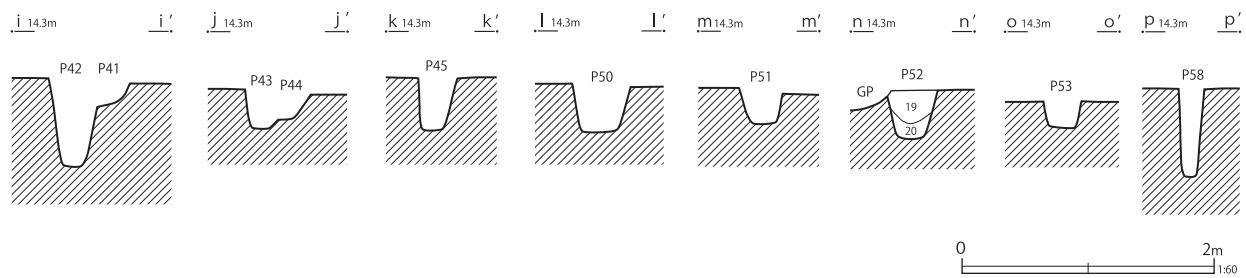
第115図 第128号住居跡（1）



第116図 第128号住居跡（2）



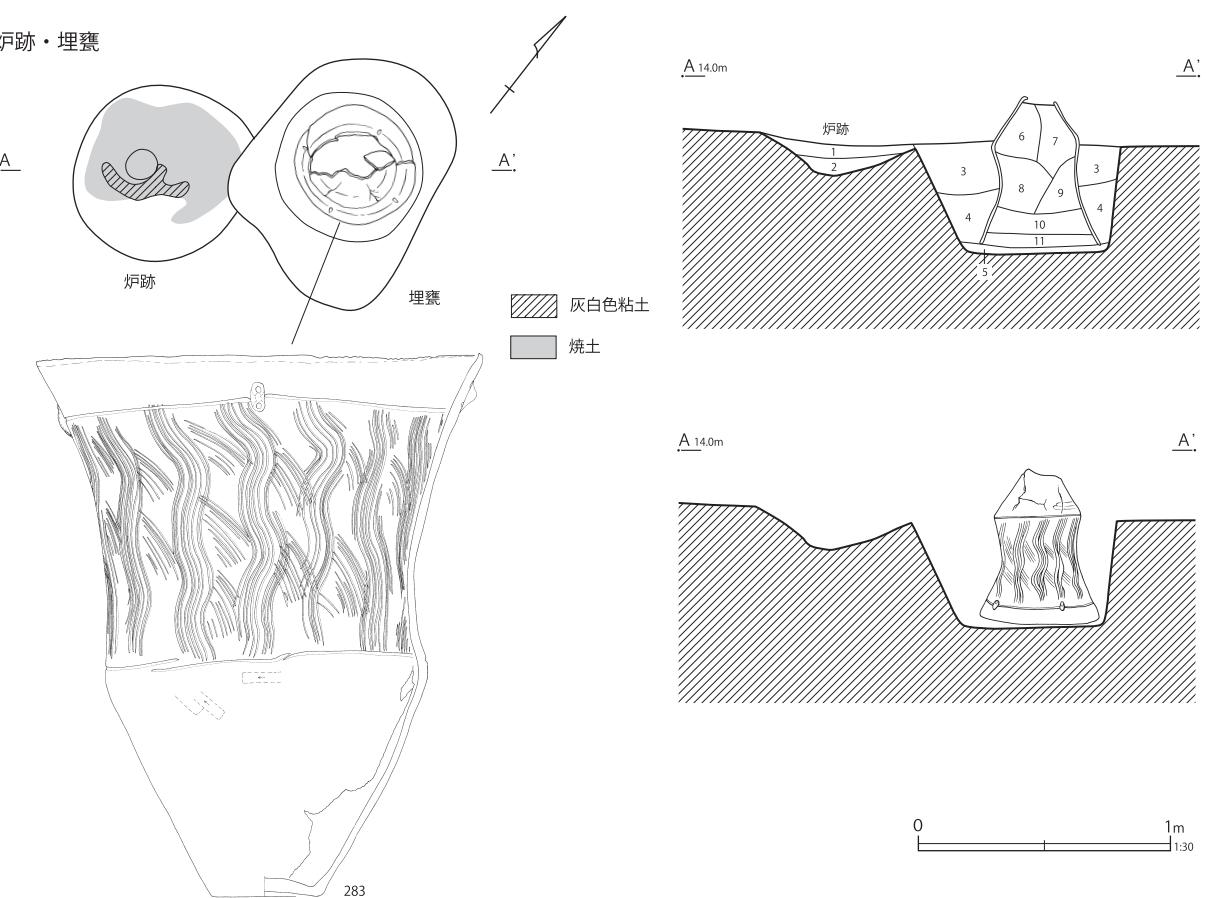
第117図 第128号住居跡 (3)



S J 128 柱穴

| | | | |
|---------|-----------------------------------|---------|--------------------------------|
| 5 暗褐色土 | 炭化物（少） ローム質土との混土 粘性・しまり（中） | 12 褐色土 | 粘性（強） しまり（欠） |
| 6 暗黄褐色土 | ローム主体土 粘性（強） しまり（中） | 13 褐色土 | 炭化物（少） 粘性（強） しまり（欠） |
| 7 黄褐色土 | ロームブロック（多） 炭化物（少） 粘性（中） しまり（欠） | 14 褐色土 | 炭化物（少） 粘性（弱） しまり（中） |
| 8 黄褐色土 | 炭化物含む黄褐色土・ロームとの混土 粘性（強） しまり（欠） | 15 褐色土 | 炭化物（微） 粘性（強） しまり（欠） |
| 9 暗黄褐色土 | 炭化物含む黄褐色土・ロームとの混土 粘性（強） しまり（欠） | 16 褐色土 | ロームブロック（多） 炭化物（中） しまり（欠） |
| 10 黄褐色土 | 炭化物含む黄褐色土・ソフトロームとの混土 粘性（強） しまり（欠） | 17 褐色土 | ロームブロック・炭化物（少） 粘性（強） しまり（欠） |
| 11 褐色土 | 炭化物（少） 炭化物含む黄褐色土主体 粘性（中） しまり（良） | 18 褐色土 | 炭化物（少） ローム土との混土 粘性（強） しまり（欠） |
| | | 19 褐色土 | ロームブロック（少） 炭化物（中） 粘性（中） しまり（欠） |
| | | 20 暗褐色土 | ロームブロック・炭化物（少） 粘性（強） しまり（欠） |

炉跡・埋甕

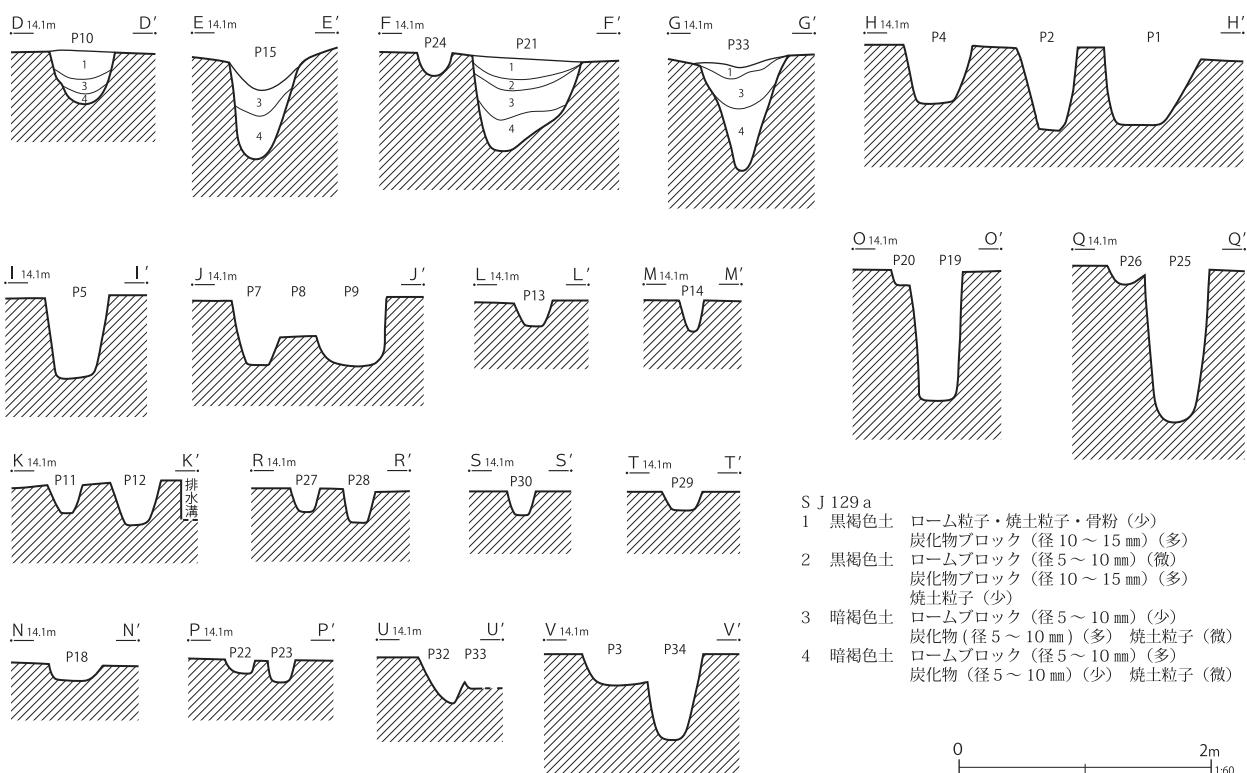
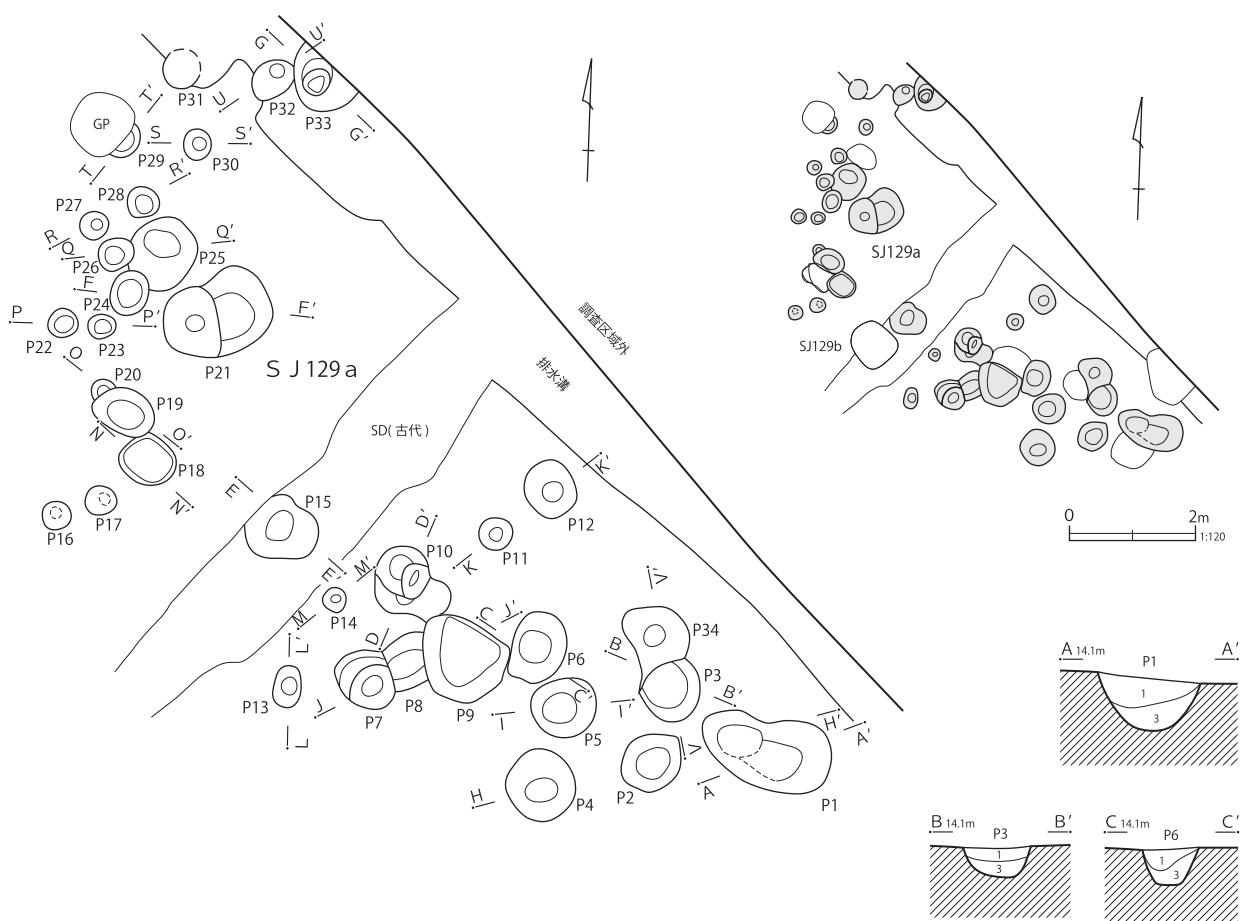


S J 128 炉跡

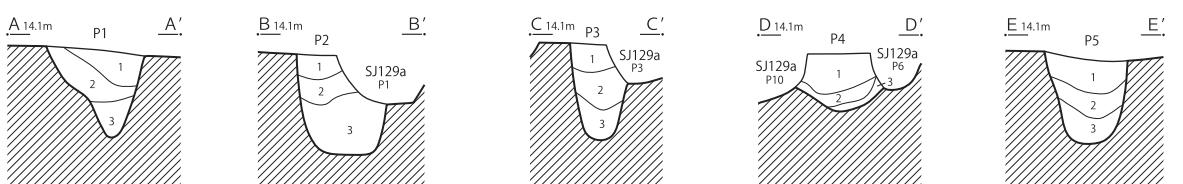
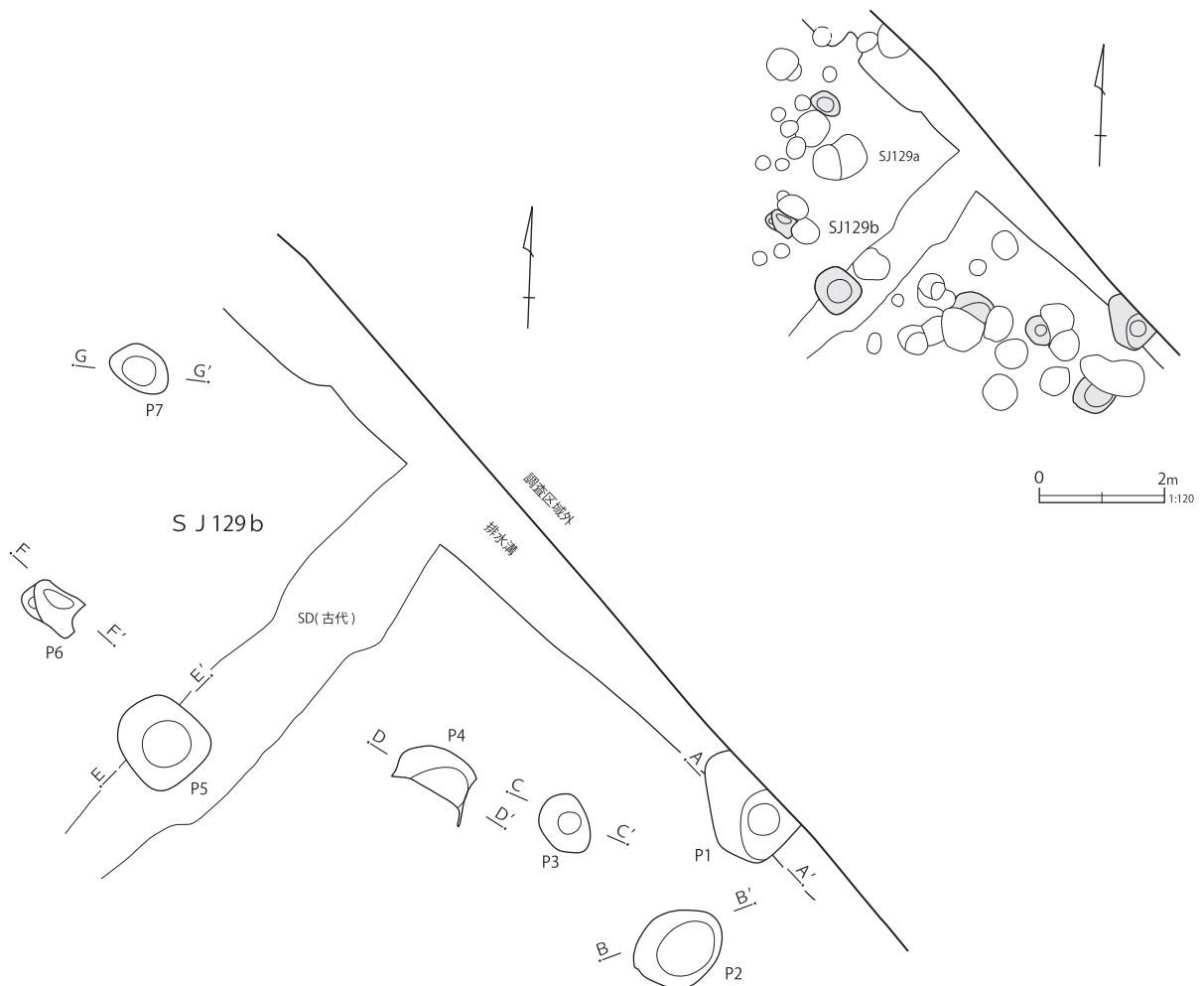
| | |
|---------|--|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子（少） 炭化物粒子（多） 焼土粒子（極多） 粘性（弱） しまり（良） |
| 2 灰白色 | 灰層 粘性（弱） しまり（欠） |
| 埋甕 | |
| 3 暗黄褐色土 | ローム粒子（多） ロームブロック（径5～10mm）（少） 粘性（中） しまり（良） |
| 4 黄褐色土 | ローム粒子（多） ロームブロック（径5～20mm）（少） 粘性（強） しまり（良） |
| 5 黄褐色土 | ローム質土 |

| | |
|---------|--|
| 6 暗褐色土 | ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子（少） しまり（欠） |
| 7 褐色土 | ローム粒子（多） ロームブロック（径10～15mm）・炭化物・ 焼土粒子（少） しまり（欠） |
| 8 暗褐色土 | ローム粒子・ロームブロック（径5～10mm）・ 炭化物（径5～10mm）・焼土粒子（少） しまり（欠） |
| 9 褐色土 | ローム粒子・焼土粒子（少） 炭化物（径5～10mm）（多） しまり（欠） |
| 10 褐色土 | 炭化物層 炭化物（径5～10mm）（多） 骨はみられない |
| 11 黄褐色土 | ローム粒子・ロームブロック（径10～15mm）（多） 炭化物（径5～10mm）（微） |

第118図 第128号住居跡（4）

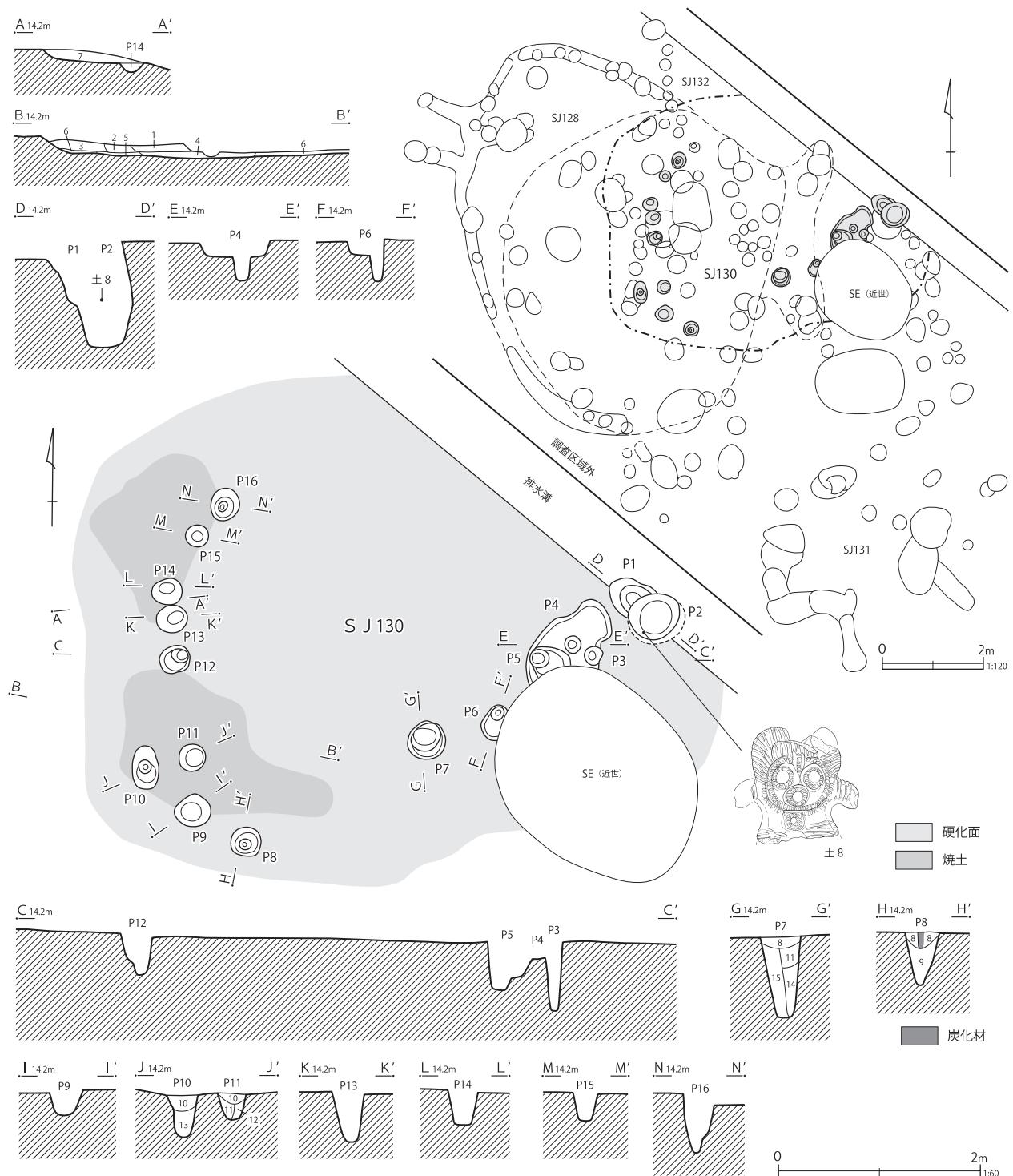


第119図 第129 a号住居跡



- S J 129 b
- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 5 ~ 10 mm) (少) 炭化物 (径 5 ~ 10 mm) (多)
焼土粒子 (微) 骨粉含む
 - 2 暗褐色土 ローム粒子・炭化物 (径 5 ~ 10 mm)・骨粉 (少) 粘性 (強)
 - 3 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (径 15 ~ 20 mm) (少)

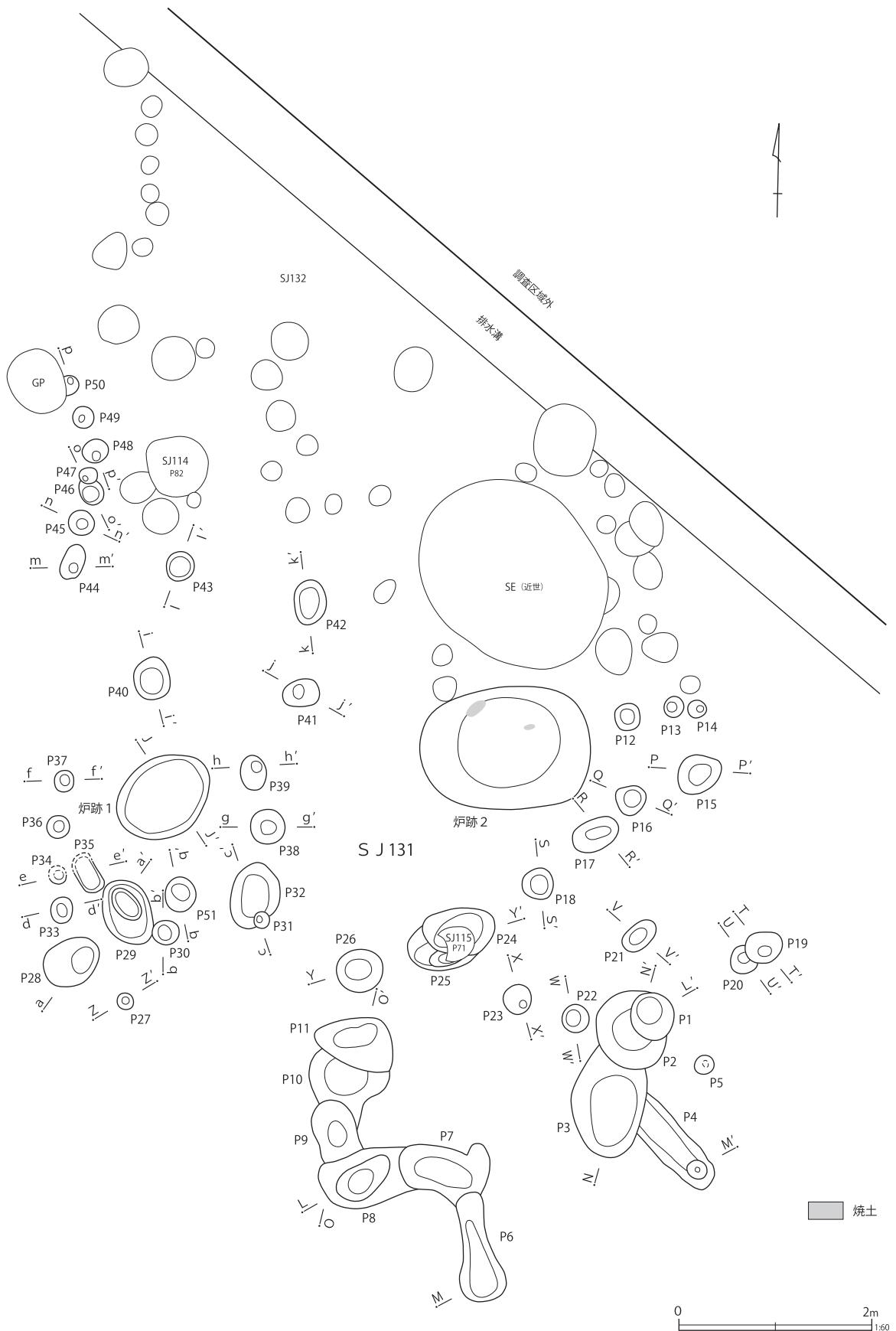
第120図 第129 b号住居跡



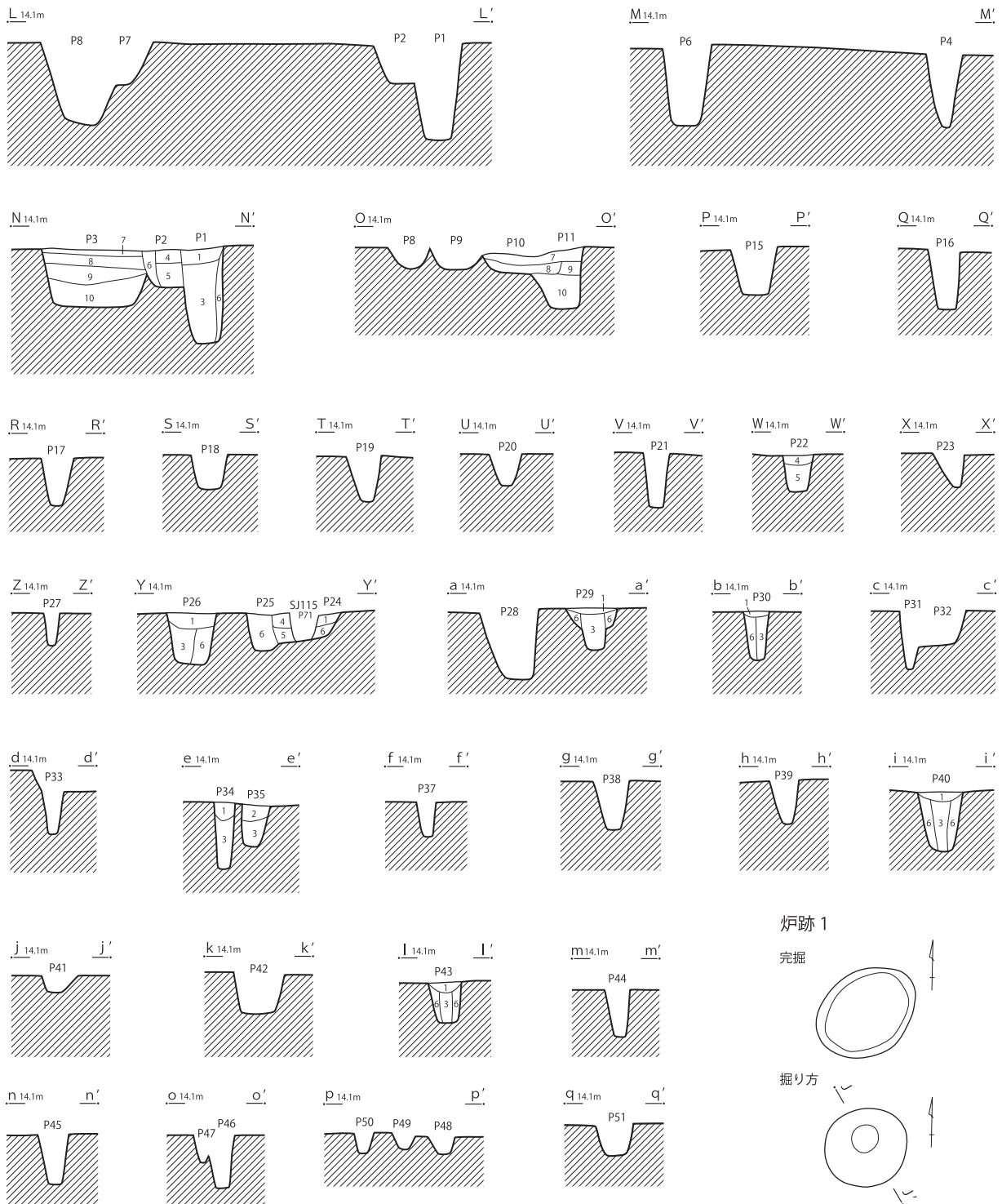
- S J 130
- 1 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多） 骨粉（少）
粘性（弱） しまり（良）
 - 2 暗褐色土 ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子（径 1 ~ 10 mm）（極多）
粘性（弱） しまり（良）
 - 3 黒褐色土 ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子（径 1 ~ 10 mm）（極多）
炭化材（多） 粘性（弱） しまり（良）
 - 4 赤褐色土 焼土層 粘性（弱） しまり（良）
 - 5 黒褐色土 ローム粒子（多） 炭化物・焼土粒子（径 1 ~ 10 mm）（極多）
粘性（弱） しまり（良）
 - 6 暗褐色土 ローム粒子（少） 炭化物・焼土粒子（極多）
粘性（弱） しまり（良）

- 7 黒褐色土 ローム粒子（少） 炭化物粒子・焼土粒子（多）
粘性（弱） しまり（良）
- 8 暗褐色土 ローム粒子（多） 炭化物粒子・焼土粒子（少）
粘性（強） しまり（良）
- 9 暗褐色土 ローム粒子（径 5 ~ 10 mm）（多） 粘性（中） しまり（良）
- 10 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（多） 粘性（中） しまり（良）
- 11 暗褐色土 ローム粒子（多） 炭化物粒子・焼土粒子（少）
粘性（中） しまり（良）
- 12 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少） 粘性（中） しまり（良）
- 13 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（多） 粘性（中） しまり（良）
- 14 黒褐色土 ローム粒子（多） 粘性（中） しまり（良）
- 15 暗褐色土 ロームブロック（径 5 ~ 20 mm）（多） 粘性（中） しまり（良）

第121図 第130号住居跡

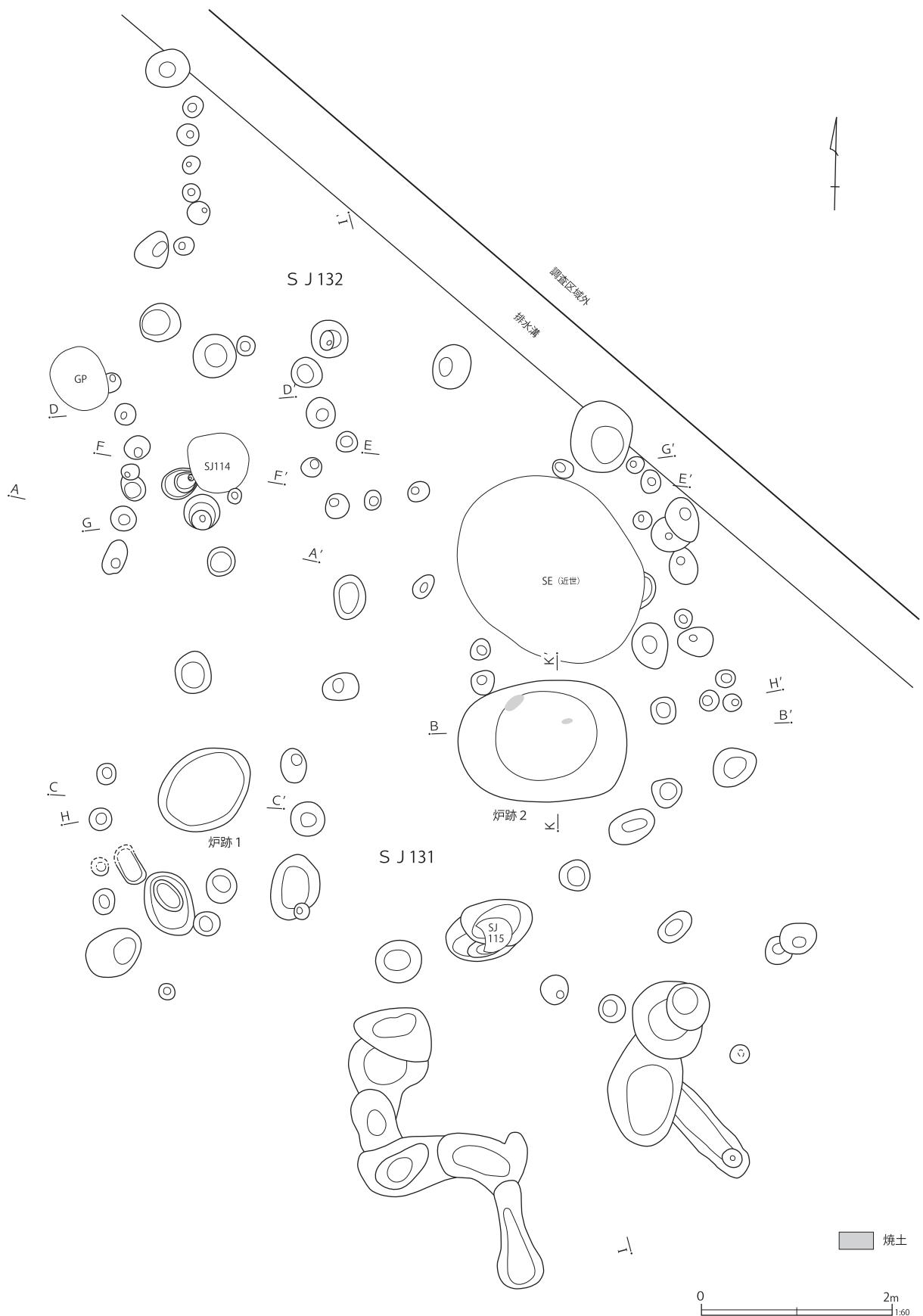


第122図 第131号住居跡（1）

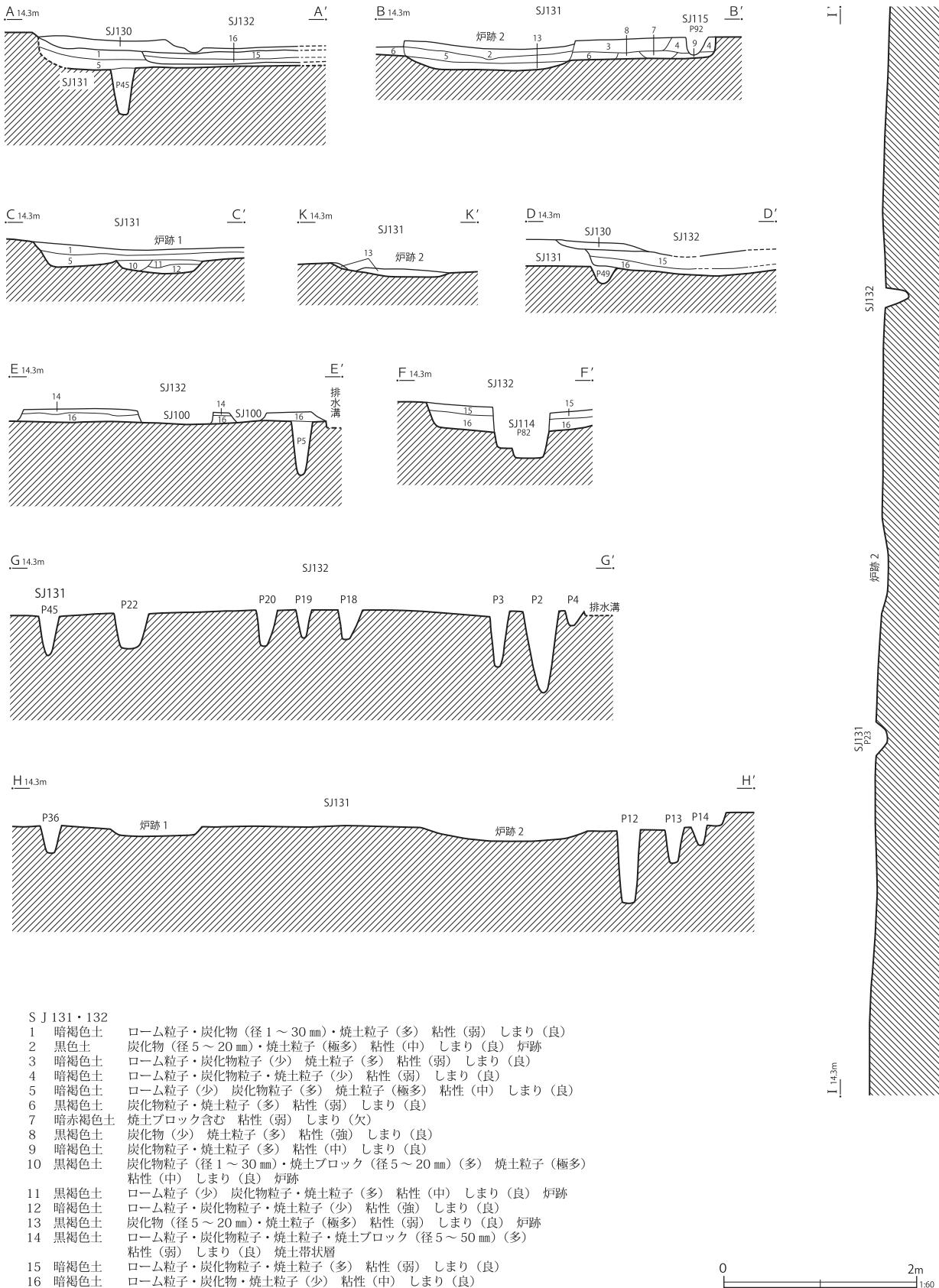


第123図 第131号住居跡 (2)

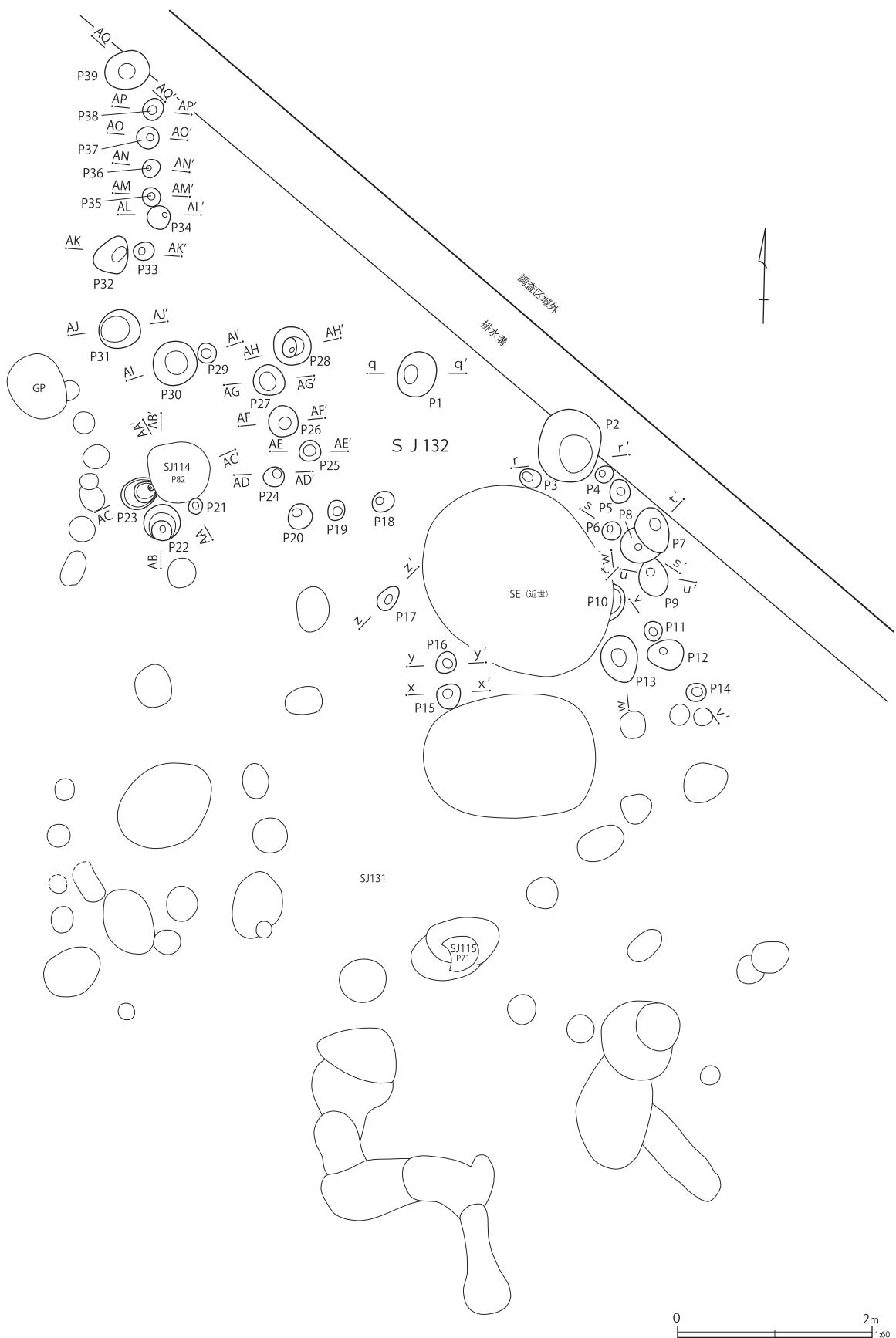
| | | | | | |
|---------|---------|-----------------------|----------------|-----------|----------------|
| S J 131 | 1 黒褐色土 | ローム粒子 (少) | 炭化物粒子・焼土粒子 (多) | 粘性 (弱) | しまり (良) |
| | 2 暗褐色土 | ローム粒子 (少) | 粘性 (中) | しまり (良) | |
| | 3 黒褐色土 | ローム粒子 (少) | 粘性 (中) | しまり (良) | |
| | 4 黒褐色土 | ローム粒子 (少) | 炭化物・焼土粒子 (多) | 粘性 (中) | しまり (良) |
| | 5 黒褐色土 | ローム粒子・炭化物粒子 (少) | 焼土粒子 (多) | 粘性 (強) | しまり (良) |
| | 6 暗褐色土 | ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子 (少) | 粘性 (中) | しまり (良) | |
| | 7 黒褐色土 | ローム粒子 (少) | 炭化物粒子・焼土粒子 (多) | 粘性 (中) | しまり (良) |
| | 8 黒褐色土 | ロームブロック (径 5 ~ 30 mm) | 焼土粒子 (多) | 炭化物粒子 (少) | 粘性 (中) しまり (良) |
| | 9 暗褐色土 | ロームブロック (径 5 ~ 20 mm) | (多) | 粘性 (強) | しまり (良) |
| | 10 黒褐色土 | ロームブロック (径 5 ~ 20 mm) | (少) | 粘性 (強) | しまり (良) |
| | 11 黒褐色土 | 粘質 | 炭化物・焼土 (少) | しまり (欠) | 炉跡 1 挖り方 |



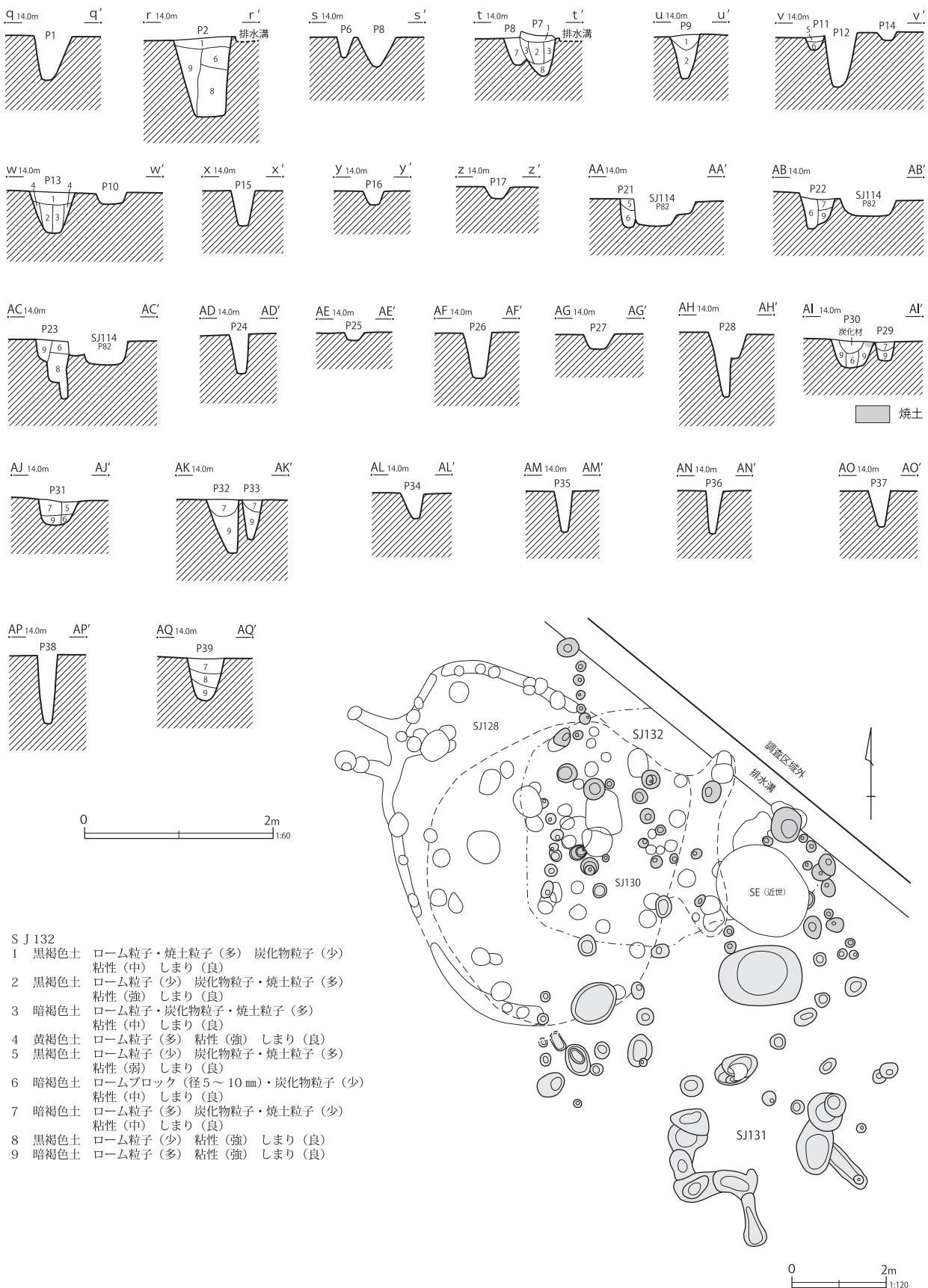
第124図 第131・132号住居跡（1）



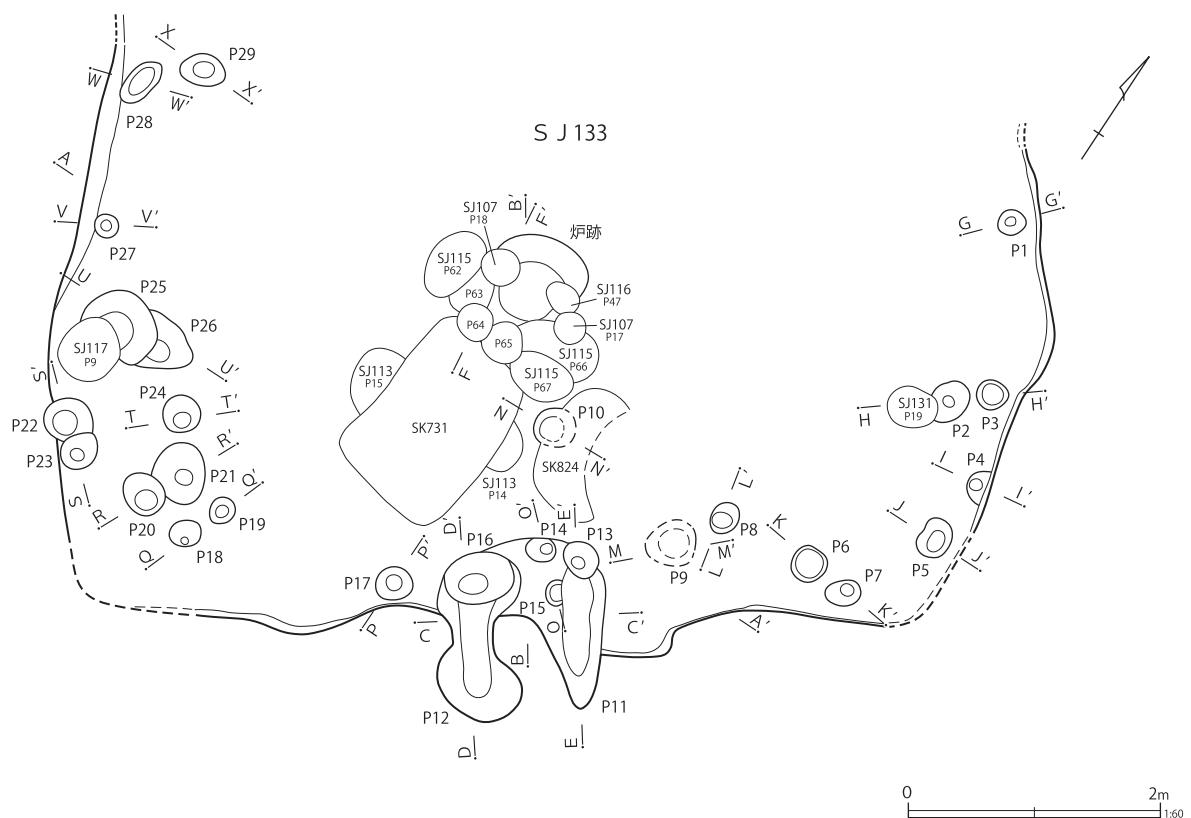
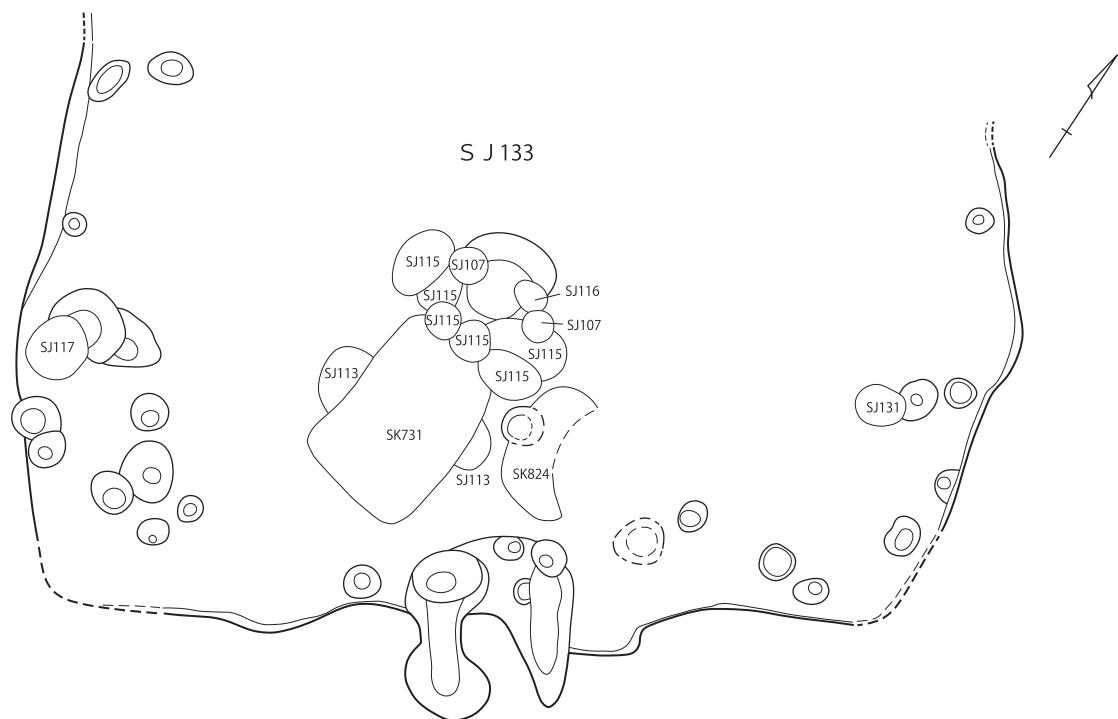
第125図 第131・132号住居跡（2）



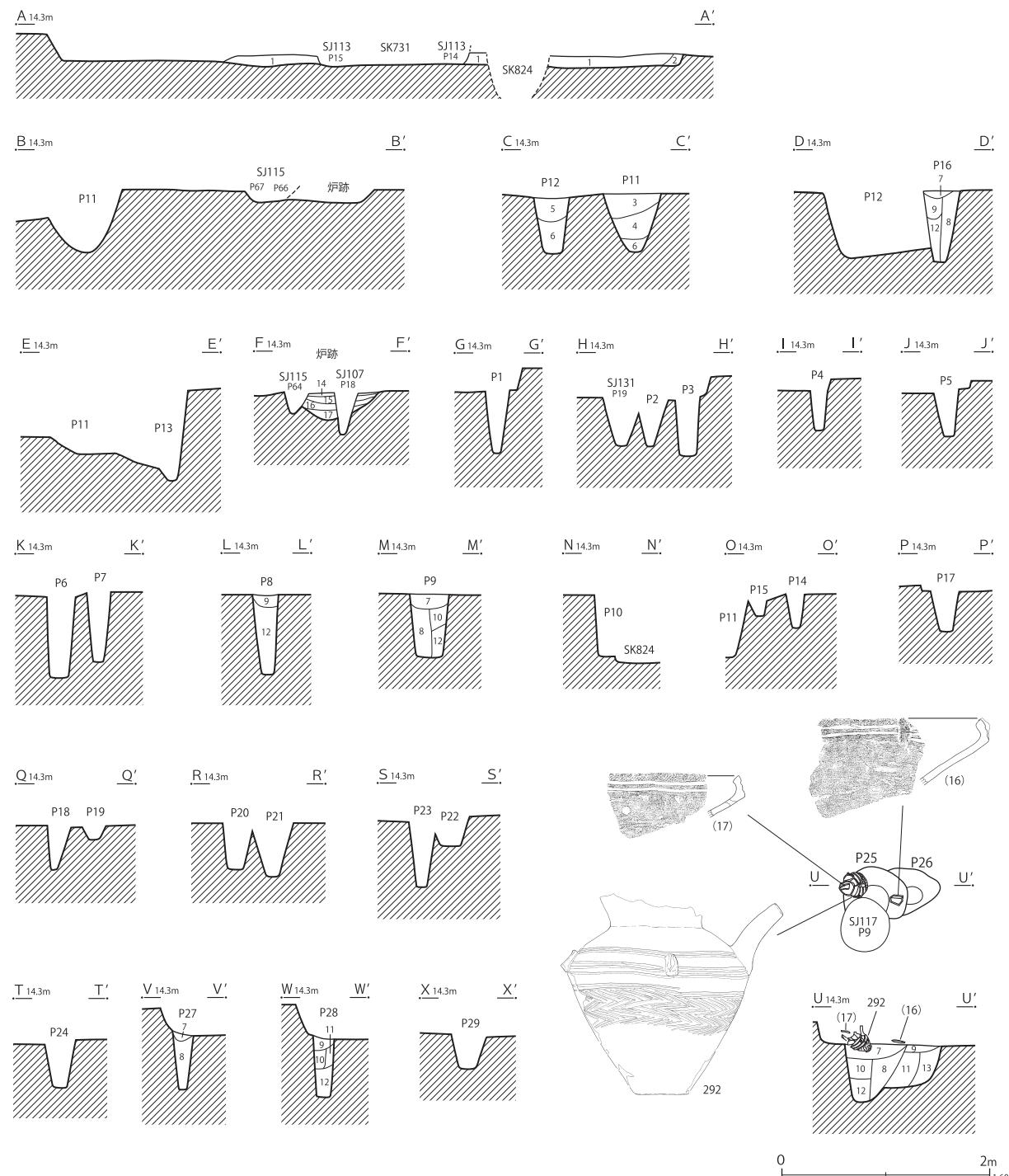
第126図 第132号住居跡（1）



第127図 第132号住居跡 (2)



第128図 第133号住居跡（1）



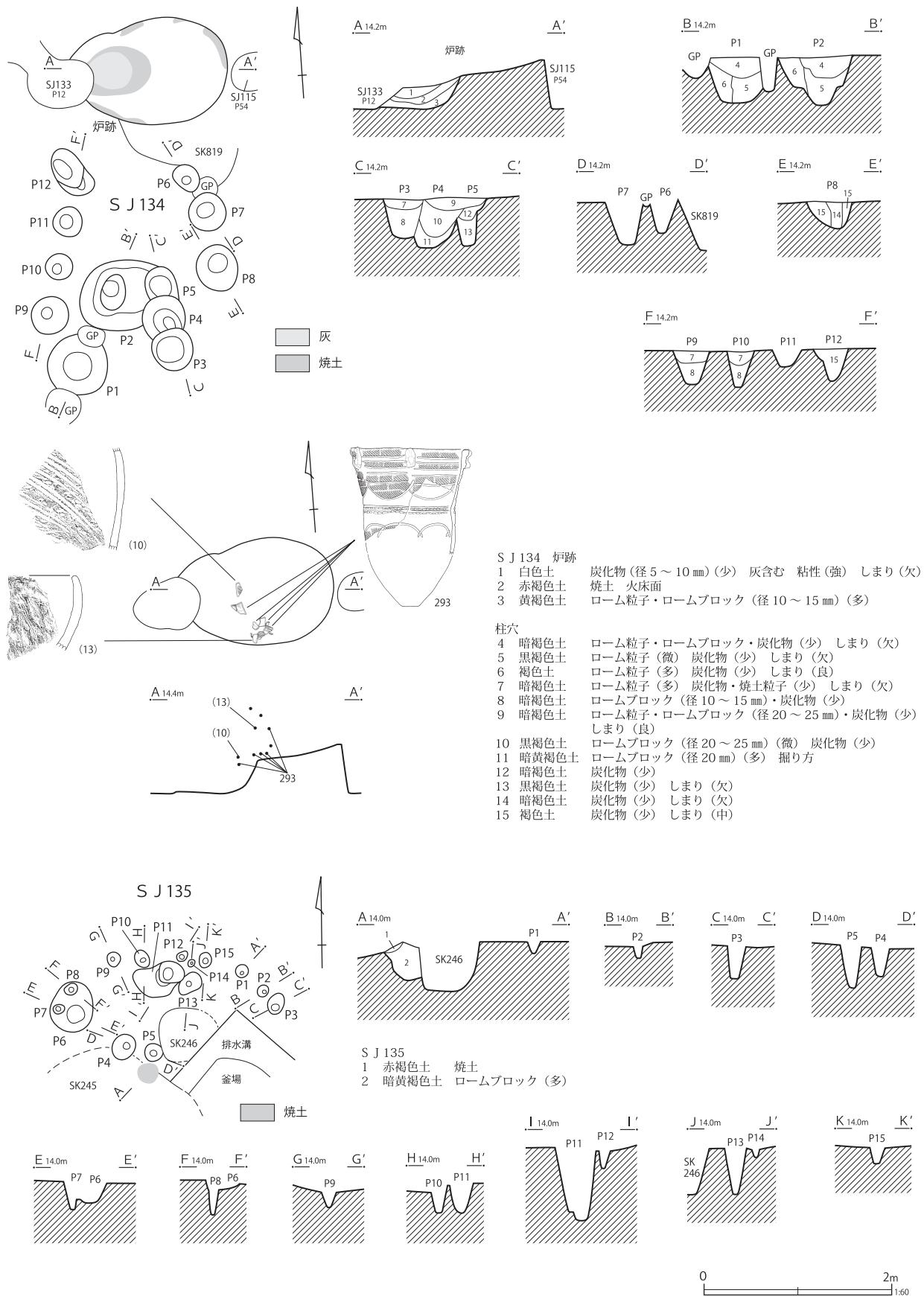
S J 133
 1 黒褐色土 ローム粒子（少）炭化物粒子・焼土粒子（多）
 粘性（中） しまり（良）
 2 暗褐色土 ローム粒子（多）炭化物粒子・焼土粒子（少）
 粘性（弱） しまり（良）

柱穴
 3 暗褐色土 ローム粒子・炭化物（多）焼土粒子（極多）粘性（弱） しまり（良）
 4 黒褐色土 ローム粒子（多）炭化物・焼土粒子（少）粘性（中） しまり（良）
 5 暗褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（多）粘性（中） しまり（良）
 6 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子（少）粘性（強） しまり（良）
 7 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子（少）焼土粒子（多）粘性（中）
 しまり（良）
 8 暗褐色土 ローム粒子（多）粘性（中） しまり（良）
 9 黒褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子（少）粘性（中） しまり（良）

10 暗褐色土 ローム粒子（少）炭化物粒子・焼土粒子（多）
 粘性（中） しまり（良）
 11 黒褐色土 ローム粒子（少）炭化物粒子・焼土粒子（極多）
 粘性（中） しまり（良）
 12 暗褐色土 ローム粒子（少）粘性（強） しまり（良）
 13 暗褐色土 ローム粒子（少）炭化物粒子（多）焼土粒子（極多）
 粘性（中） しまり（良）

炉跡
 14 赤褐色土 焼土ブロック含む 粘性（弱） しまり（欠）
 15 黒褐色土 焼土粒子（極多）粘性（中） しまり（欠）
 16 灰白色土 灰層 所々に黒褐色土を含む 粘性（強） しまり（良）
 17 灰白色土 灰層 粘性（強） しまり（良）

第129図 第133号住居跡（2）



第130図 第134・135号住居跡